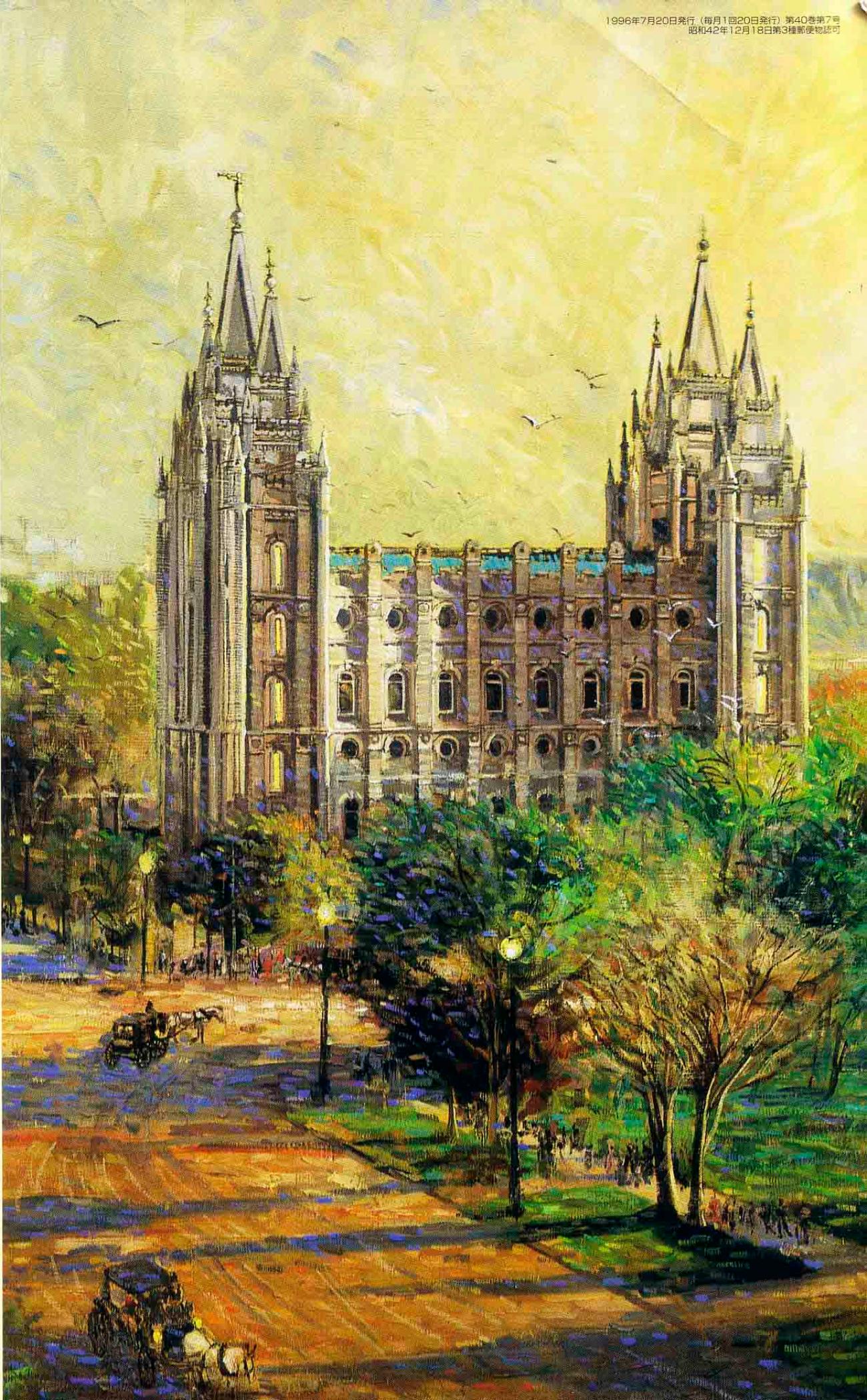


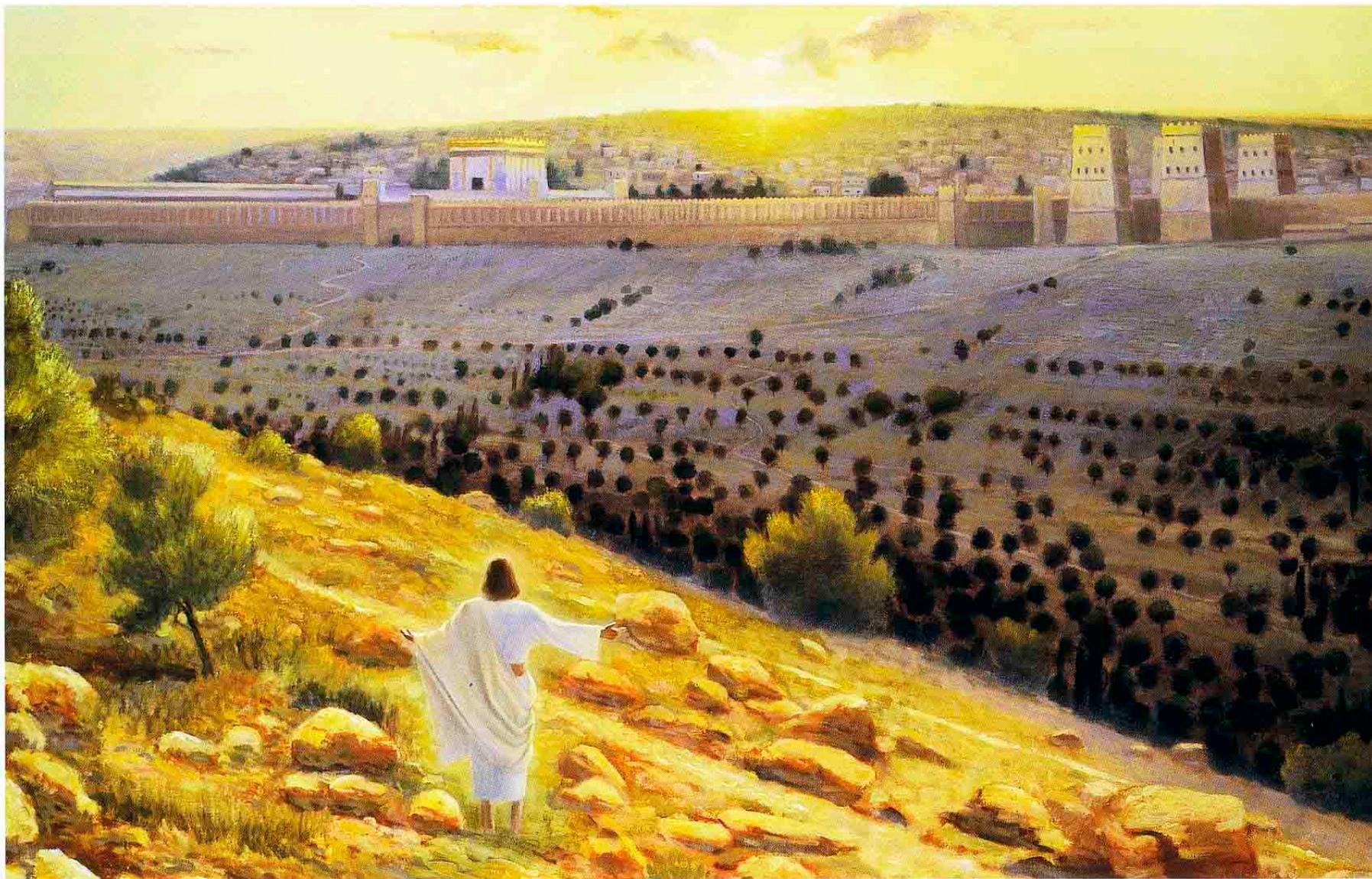
# 聖徒の道

7  
1996

第一六六回年次総大会報告

末日聖徒  
イエスキリスト  
教会





エルサレムを嘆くキリスト    ゲリー・E・スミス画

「おお、エルサレム、エルサレム ……ちょうど、めんどりが翼の下にそのひなを集めるように、  
わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことであろう。  
それなのに、おまえたちは応じようとしなかった。」(マタイ23:37)

# 末日聖徒イエス・キリスト教会 第166回年次総大会報告

1996年4月6, 7の両日,  
ユタ州ソルトレーク・シティー,  
テンブルスクウェアのタバナクルにおいて開かれた  
年次総大会の説教とその模様

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、4月の年次総大会を閉じるに当たり、日曜日午後の部会で教会員に次のように語った。「カートランド神殿の奉献の祈り……の中で預言者〔ジョセフ・スミス〕は主に次のように請い求めました。『おお、主よ、あなたのすべての教会員を……思い起こしてください。それによって、あなたが人手によらずに設けられた王国が、大きな山となって全地に満ちますように。また、あなたの教会が暗黒の荒野から出て来て、月のように美しく、太陽のように輝き、旗を立てた軍勢のように恐ろしいものとなり〔ますように。〕』（教義と聖約109：72-73）

わたしたちはこのすばらしい祈りに対する答えを目の当たりにしています。国の内外で、教会のほんとうの姿に対する認識がますます高まっています。……わたしたちは、永遠の真理で飾った旗を掲げる軍勢が行進するように、前進していきます。わたしたちには、真理と善のために戦うという大義があります。……

この御業においては、どこへ行っても、大変な活力を目にします。この御業が組織されている所には、必ず情熱があります。これは贖い主の御業です。

福音、すなわち喜びのおとずれです。わたしたちが幸せと喜びを得るためのものです。』

日曜日午前の部会の説教でもヒンクレー大管長は同様のテーマで次のように語った。「忠実に信仰の道を歩んでいらっしゃる一人一人の教会員に感謝しています。わたしたち末日聖徒はこの点において、神の御子、世の贖い主であられる主への愛によって結ばれ、皆一つです。わたしたちは、主の神聖な御名を引き受けている契約の民です。』

4月6日土曜日、7日日曜日の2日間にわたった総大会の各部会は、ゴードン・B・ヒンクレー大管長、トーマス・S・モンソン第一副管長、ジェームズ・E・ファウスト第二副管長の司会により行われた。

今大会でのおもな管理上の決定は、土曜日午後の部会で行われた。新たにメリル・J・ベイトマン、ダラス・N・アーチボルド、ディーター・F・ウークトドルフ、ブルース・C・ヘーフェンの4人の各長老が七十人第一定員会の会員として支持された。ベイトマン長老は、昨年11月にブリガム・ヤング大学学長に就任したのに伴い、管理監督を解任となり、七十人第一定員

会に召されていた。アーチボルド長老、ウークトドルフ長老の二人は、これまで七十人第二定員会に所属していた。新たに中央幹部となったヘーフェン長老は、ユタ州オレム出身である。さらに、8人の中央幹部が新たに七十人第二定員会の会員として支持された。アイダホ州ポカテロ出身のL・エドワード・ブラウン、ソルトレーク・シティー出身のシェルドン・F・チャイルド、カリフォルニア州ヒルズバラ出身のクエンティン・L・クック、ユタ州プロボ出身のウィリアム・ロルフ・カー、ネバダ州ラスベガス出身のデニス・E・シモンズ、メキシコのチワワにあるコロニア・デュブラン出身のジェラルド・L・テラー、スペインのマドリッド出身のフランシスコ・J・ビーナス、ソルトレーク・シティー出身のリチャード・B・ワースリンの各長老である。

また、今大会でヒンクレー大管長は、テンブルスクウェアのすぐ北側に「奉献された礼拝用の建物」を建設する決定が中央幹部の間でなされた、と発表した。

総大会の中継ができない教会ユニットには、大会の模様を収録したビデオが送付された。——編集部

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊——イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊——インドネシア語、タイ語、タヒチ語。季刊——チェコ語、ブルガリア語、ハンガリー語、アイスランド語、ロシア語。

大管長会：ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト  
十二使徒定員会：ボイド・K・パッカー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オックス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング

編集長：ジャック・H・ゴーズリンド  
顧問：スペンサー・J・コンディー、L・ライオネル・ケンドリック  
教科課程管理部責任者  
実務部長：ロナルド・L・ナイトン  
企画・編集ディレクター：ブライアン・K・ケリー  
グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイボーク

国際機関誌スタッフ  
編集主幹：マービン・K・ガードナー  
編集主幹補佐：R・バル・ジョンソン  
編集副主幹：デビッド・ミッチェル  
編集補佐／こどものページ：ディエーン・ウォーカー  
工程管理：メアリーアン・マーティンデール  
出版補佐：ベス・デーリー

デザインスタッフ  
機関誌グラフィックスディレクター：M・M・カワサキ  
アートディレクター：スコット・バン・カンペン  
デザイナー：シェリー・クック  
制作主幹：ジェーン・アン・ビーターズ  
制作：レジナルド・J・クリステンセン、デニス・カービー、マシュー・H・マックスウェル

予約購読スタッフ  
ディレクター：ケイ・W・ブリッグス  
配送部長：クリス・クリステンセン  
マーケティング部長：ジョイス・ハンセン  
聖徒の道1996年7月号第40巻第7号  
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会  
〒106東京都港区南麻布5-10-30  
電話 03-3440-2351

印刷所 株式会社 リック  
定価 年間予約／海外予約2,400円(送料共)  
半年予約1,200円(送料共)  
普通号／大会号200円

Copyright©1996 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved. Printed in Japan. 英語版承認—1994年8月 翻訳承認—1994年8月 原題—International Magazines July, 1996. Japanese. 96987 300

●定期購読は、「『聖徒の道』予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて管理本部経理課へご送金いただければ、直接郵送いたします。●『聖徒の道』のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30 管理本部経理課 ☎03-3440-2351 (代表) ●『聖徒の道』の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

The Seto No Michi (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150. Second-class postage paid at Salt Lake City, UT84150, U.S.A. and Canadian subscription is \$9.00 per year. Thirty days' notice required for change of address. When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, Utah 84126-0368, U.S.A. Subscription information telephone number 801-240-2947.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, Utah 84126-0368, U.S.A.

●以下のテーマによる説教が、それぞれ右側のページに掲載されています。このリストは話者が採り上げたテーマを、すべて網羅するものではありません。

- あ 愛 15, 47, 61, 78, 92
- 証 47, 71, 74
- 贖い 15, 35, 38, 42, 61, 65, 68
- アロン神権 42, 45, 47, 51, 55
- 安息 12
- イエス・キリスト 9, 12, 21, 27, 29, 38, 61, 65, 71, 74, 78, 92, 95
- 祈り 17
- 戒め 17, 38, 42, 61, 89
- 永遠の命 38, 42, 68, 92
- 教え 51
- か 改心 85
- 家族 71, 89, 92, 104
- 神 12, 17, 99, 106
- 教育 42, 106
- 教会の建物 74
- 教会歴史 5, 17, 27, 65
- 悔い改め 21, 29, 55
- 決意 33, 78, 85
- 権能 17
- 子供 29, 71, 78, 89
- さ 最後の晩餐 65
- 死 74
- 使徒職 85
- ジョセフ・スミス 81
- 従順 21, 38, 87
- 純潔 17, 106
- 信仰 17, 35, 38, 104
- 神殿活動 29
- 正義 92, 99
- 聖霊 9, 21, 74, 92
- 聖餐 9, 21, 42, 65
- 聖文学習 29, 38, 47, 92
- 聖約 12, 17, 42, 65, 68, 71, 74
- 選択 17, 106
- 選択の自由 29, 87
- 創造 29
- た 知恵の言葉 21

- 伝道活動 5
- 道徳 68
- 友達 45
- は 背教 5
- バプテスマ 106
- 批判 5, 78, 95
- 福音 15, 35
- 復活祭 38, 61, 71, 74
- 奉仕 51, 74
- わ 若人 74, 92
- 今大会の話者(アイウエオ順)の説教が右側のページに掲載されています。

- アイリング、ヘンリー・B 71
- エイシー、カーロス・E 68
- オックス、ダリン・H 81
- 岡崎、チエコ・N 15
- クレーブン、ルロン・G 87
- スコット、リチャード・G 29
- ティンギー、アール・C 12
- ネルソン、ラッセル・M 17
- パーキン、ボニー・D 104
- パッカー、ボイド・K 21
- バラード、M・ラッセル 92
- ハワード、F・バートン 33
- ハンセン、W・ユージン 45
- ピアス、バージニア・H 99
- ヒンクレー、ゴードン・B 55, 74, 95, 106
- ファウスト、ジェームズ・E 5, 24, 47
- ブレスコット、アン 103
- ヘイト、デビッド・B 27
- ヘイルズ、ロバート・D 42
- ベッカム、ジャネット・ヘイルズ 97
- ペリー、L・トム 65
- ポイヤー、カーステン 102
- ホランド、ジェフリー・R 35
- マクマリン、キース・B 9
- マックスウェル、ニール・A 78
- モンソン、トーマス・S 51, 61
- ローズ、アン・マリー 101
- ローレンス、W・マック 85
- ワースリン、ジョセフ・B 38
- ワーナー、スーザン・L 89

# 目次

末日聖徒イエス・キリスト教会第166回年次総大会報告 …1

## 1996年4月6日(土) 午前の部会

預言の声 ジェームズ・E・ファウスト……………5  
「あなたがたは知るであろう」 キース・B・マクマリン……………9  
安息日と日曜日の買い物 アール・C・ティンギー……………12  
かごと瓶 チエコ・N・岡崎……………15  
「あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない」  
ラッセル・M・ネルソン……………17  
知恵の言葉——その原則と約束 ボイド・K・パッカー……………21

## 1996年4月6日(土) 午後の部会

教会役員の支持 ジェームズ・E・ファウスト……………24  
教会監査委員会報告 テッド・E・デービス……………25  
1995年度統計記録 F・マイケル・ワトソン……………26  
この御業は真実です デビッド・B・ヘイト……………27  
人生に喜びを見いだす リチャード・G・スコット……………29  
決意 F・バートン・ハワード……………33  
一握りの粉と少しの油 ジェフリー・R・ホランド……………35  
先祖の信仰 ジョセフ・B・ワースリン……………38

## 1996年4月6日(土) 神権部会

「もし命に入りたいと思うなら、いましめを守りなさい」  
ロバート・D・ヘイルズ……………42  
霊的な羊飼い W・ユージン・ハンセン……………45  
伝道に出る前に息子に知ってほしいこと  
ジェームズ・E・ファウスト……………47  
召しの義務 トーマス・S・モンソン……………51  
「わたしは清く、汚れがありません」  
ゴードン・B・ヒンクレー……………55

## 1996年4月7日(日) 午前の部会

主の道 トーマス・S・モンソン……………61  
主の晩餐の聖餐 L・トム・ペリー……………65  
真理の道に踏みとどまる カーロス・E・エイシー……………68  
証という受け継ぎ ヘンリー・B・アイリング……………71  
栄えあるイースターの朝に ゴードン・B・ヒンクレー……………74

## 1996年4月7日(日) 午後の部会

子供のようになる ニール・A・マックスウェル……………78  
ジョセフ——人として預言者として  
ダリン・H・オックス……………81  
改心と決意 W・マック・ローレンス……………85  
誘惑 ルロン・G・クレーブ……………87  
どのようにして受けたか、また聞いたかを思い起こす  
スーザン・L・ワーナー……………89  
主の食卓に着く M・ラッセル・バラード……………92  
「主よ、あなたのすべての教会員を……思い起こしてください」  
ゴードン・B・ヒンクレー……………95

## 1996年3月30日(土) 中央若い女性集会

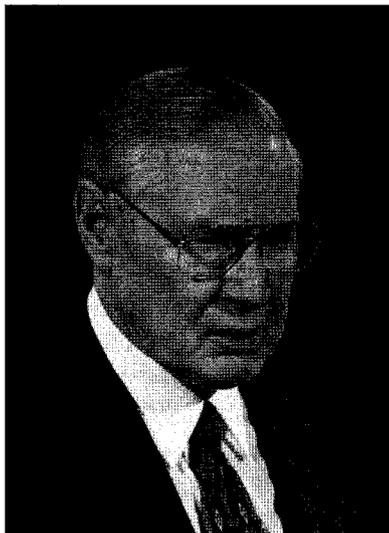
生ける預言者を支持する  
ジャネット・ヘイルズ・ベッカム……………97  
耳を傾けて聞く バージニア・H・ピアス……………99  
試練に樂觀的に取り組む アン・マリー・ローズ……………101  
祈りはこたえられました カースチン・ボイヤー……………102  
主は預言者を与えてくださいました  
アン・プレスコット……………103  
現代に必要な永遠の錨 ボニー・D・パーキン……………104  
誠意を尽くし、忠誠を守る  
ゴードン・B・ヒンクレー……………106  
指導者の言葉……………112  
チャーチニュース……………114  
ローカルニュース……………120

# 預言の声

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

**教会に対する絶えざる啓示と指導は教会の大管長を通して与えられます。  
大管長が聖徒たちを誤った道に導くことは決してありません。**



**愛**する兄弟姉妹の皆さん、歴史的な今大会の冒頭に当たり、わたしが確信をもって申し上げられるのは、大会のどの場面でも主の御言葉が聞けるであろうということです。末日聖徒イエス・キリスト教会は、1830年4月6日、法律に基づいて組織されて以来、今日で166年目を迎えますが、教会の諸事は神の導きを受けてきました。この比較的短い期間に御業の中で起きた事柄は、一つの奇跡です。わたしは幼い時分に、大おじのウィリアム・ウェッツェルが、アメリカの大平原を家族とともにソルトレーク盆地まで歩いて渡った話をしてくれたのを覚えています。その中の苦労や犠牲や信仰の物語は、幼い心に忘れられない印象を残しました。

曾祖父の家族がこの盆地にたどり着いたとき、ほとんどの教会員はデゼレト準州で、規模の小さな、ほこりまみ

れの居留地に住んでいました。大海を渡って合衆国に来た人々が大勢います。彼らはアメリカの大平原や山岳地域の酷暑、酷寒をくぐり抜け、荷車や手車を駆って、平安を求め、神を礼拝するために旅をしました。

当時の教会員たちは、徹底して嫌われ、迫害され、追放されました。しかしそれ以降、「今はわたしの教会が荒野から立ち上がって出て来る始まりであり、わたしの教会は、月のように明るく、太陽のように美し [い]」<sup>1</sup>という、主の御言葉が成就しました。教会が土台とする根本的な預言的真理をまったく知らずには、教会がなぜ、またどのように「暗黒から」<sup>2</sup>立ち上がり、繁栄を迎えたのか、完全に知ることはできません。

何年も前のことですが、わたしが初めて中央幹部に指名されたとき、当時大管長会の一員であったヒュー・B・ブラウン長老に会いに行き、こう尋ねたことがあります。「ブラウン副管長、若くて未熟な中央幹部にどのようなアドバイスを持っていらっしゃるでしょうか。」尊敬すべき聡明なこの男性は、簡明直さいな答えをくれました。「兄弟たちに忠実でいなさい。」兄弟たちとはだれでしょう。地上で神の王国の鍵を携えている人々を指します。それは、全員が預言者であり、使徒である大管長会と十二使徒定員会の方々であり、さらには七十人の方々であり、実務に携わる管理監督会の方々です。

教会がパルマイラからカートランドへ移り、カートランドからノーブーへ、ノーブーから西部へと移り、150か国以上の世界各地へと広がっていったの

は、教会員たちがどこにあっても、中央幹部である兄弟たちに忠実であったからです。数知れぬ男女が神の預言者たちに従ってきました。特に、教会の回復期以来、預言の声に耳を傾けてきたすべての忠実な女性たちに敬意を表したいと思います。女性の天来の賜物と才能は神の御業にきわめて意義の大きな欠くことのできない祝福になってきました。

中央幹部のもとにとどまった人々は、ジョセフ・スミスが神の預言者であり、彼が天から受けた権威を持ってこの時代にイエス・キリストの教会を再び設立した、という確固とした証を持っています。大勢の忠実な会員たちが示す忠誠心の土台にはそのような固い信仰があります。教会歴史を通じ、彼らは現実に絶えず啓示が与えられているという確認の証を受けてきました。そのような啓示は、必要な時々、教会のそれぞれの大管長、副管長、また大管長の指示の下に働く十二使徒定員会から与えられます。

わたしたちが現在生きているこの神権時代には神の真理が回復されていて、以前の神権時代と異なり、背教によって滅びることはありません。これはダニエルの次の預言を成就するものです。「天の神は一つの国を立てられます。これはいつまでも滅びることがなく……他の民にわたされず……。」<sup>3</sup>ジョン・テラー大管長も次のように語って、これを確認しています。「一つの非常に確かなことがある。……それは、人がどのようなことを考え、どのような策略を思い巡らせても、この王国がほかの人々の手に渡ることは決してない。この王国は成長し、広がり、増大するであろう。生存するどのような人間も、その発展を妨げることはできない。」<sup>4</sup>

時の初めから、教会の内外を問わず、地上で神の王国の鍵を持つ人の靈感を受けた宣言に従わないよう、教会員を説得しようとする一部の人が存在します。その中には、確立された教会の秩序とは異なる方法で靈感や特殊な英知を授かったと称して、迷わそうとする人々がいます。特別な権威を授かっ

たと主張する人々への警告として、主は次のことを明らかにされました。「だれか権能を持つ者によって聖任され、そして権能を持っていることと、教会の長たちによって正式に聖任されたことが教会員に知られないかぎり、だれもわたしの福音を宣べ伝えるために出て行くこと、あるいはわたしの教会を築き上げることは許されない。」<sup>5</sup>

教会の回復の当初、オリバー・カウドリは教会の第二の長老になり、ジョセフとともに回復という驚くべき体験にあずかりました。彼は、1829年、神権がこの地上に回復されたとき、預言者ジョセフとともに天の御使いの手によって聖任を受けました。オリバーは筆記者を務め、預言者ジョセフの口から流れるままに『モルモン書』の翻訳を書き写しました。さらには1836年、預言者ジョセフとともに、カートランド神殿で壮大な示現を受け、モーセ、エライアス、エリヤによって鍵が授けられたことの証人となりました。

初期の啓示の中で、主はオリバーに次のように警告されました。「あなたは祝福されており、何ら罪の宣告を受けていない。しかし、あなたは誘惑に陥ることのないように、高慢に気をつけなさい。」<sup>6</sup>オリバーは豊かな知性に恵まれ、驚くべき霊的な祝福にあずかりました。ところが、しばらくして主の警告を忘れ、慢心しました。ブリガム・ヤングは後に彼の高慢に触れ、次のように語りました。「わたしは、この王国に属し自分がいなければこの王国に発展はないと心の底から思っている人々を、見たことがある。今わたしは特にある人を思い出しているが、…その人は非常に自立心と豊かな才能に恵まれていた。その人は、預言者ジョセフにさえ何度も、自分がこの王国を去れば、これ以上の進歩はないだろうと、言わんばかりであった。その人とはオリバー・カウドリである。彼は王国を離れたが、王国は発展し、今なお反対勢力に打ち勝ち、王国に忠実な人々を守り支えてきた。」<sup>7</sup>

オリバー・カウドリは、教会を去ってから10年後の1848年10月、アイオワ州にあった教会本部を訪れ、バプテスマ

を受けて再び教会に加わりたいと、へりくだって嘆願しました。ジョージ・A・スミスはこの忘れられない出来事に触れ、オリバー・カウドリについてこう記しました。「彼はとても肯定的な言葉遣いで証をし……人々にこう語った。正しい道に歩み、教会の進む方向、すなわち主流に従いたいと思うなら、そこには権能がある。」<sup>8</sup>

オリバーは、最後の証で、アロン神権の鍵を携えてバプテスマのヨハネが来たこと、メルキゼデク神権の鍵を携えてペテロ、ヤコブ、ヨハネが来たことを、断言しました。さらにはこう述べました。「神権はその権能とともに、末日聖徒イエス・キリスト教会の中に現在存在し、これからも存在し続けなければならない。これらの神権を受けた長老は祝福された人であり、最後まで忠実である人はその3倍祝福された聖い人である。」<sup>9</sup>

長年の間には、中央幹部である兄弟たちに従わなかった分派、支流グループが多くいます。これは今に始まった現象ではありません。救い主が十字架にかけられた後、ペテロと使徒たちは敵意ある聴衆に教を説きました。律法の教養を積んだガマリエルは彼らが説教する権利を擁護しました。彼は過去の異なった二つのグループが人々を連れ去った悲惨な結末を持ち出し、真理を試す確実な方法を紹介しました。すなわちそれが「人間から出たものなら、自滅するだろう。」

しかし、もし神から出たものなら、あの人たちを滅ぼすことはできません。まかり違えば、諸君は神を敵にまわすことになるかも知れない。」<sup>10</sup>

救い主はあのすばらしい山上の垂訓の中で、鋭い質問をしていらっしゃいます。「茨からぶどうを、あざみからいちじくを集める者があろうか。」そしてこう続けておられます。「良い木が悪い実をならせることはないし、悪い木が良い実をならせることはできない。……このように、あなたがたはその実によって彼らを見わけるのである。」<sup>11</sup>この御業の良い実は、今日、世界中に知られるようになりました。

主は権能を持つ人々を支持するため

に、次のようにも言われました。「すべてのことは、大いなる祈りと信仰によって、教会員の同意を得て行わなければならない。」<sup>12</sup>しかし、こうも言っておられます。「すべての人が……救い主の名によって語るため……。」<sup>13</sup>これはどのように行われるのでしょうか。救い主の教えに従って生活する教会のすべての成人男性と若い男性は、神権の聖任を受けます。しかしこの力の行使には制限が伴います。すべての父親は自分の家族にとって族長であり、すべての母親もその親としての固有の役割の中で同等の責任を負う族長です。会員は男女のいずれも、聖霊の賜物によって、自らの生活と責任の範囲において靈感を受けることができます。

地上で神の王国のすべての鍵を行使できるのは、預言者である大管長だけであり、ほかにはだれもいません。この時代にあつて、それはゴードン・B・ヒンクレイ大管長です。大管長と副管長ならびに十二使徒定員会は、特定の権能と責任をほかの中央幹部や地元の神権指導者、補助組織の指導者にそれぞれ委任します。

教会が組織された当初、主は会員たちにこう言われました。「あなたはあなたの長であり、教会の長である者に命じてはならない。」<sup>14</sup>

「自分の良心を他人に従わせるなんて、わたしの誠意が許さない」と言う人々がいます。明らかな良心は、それが聖霊によって導かれるなら、きわめて貴い天賦の霊的な能力です。最終的には、道徳的な決断を自ら下す責任がすべての人にあります。しかし、預言者ジョセフ・スミスは、こう述べています。「どのような教会員であれ、…自分より高位の権能を持つ人のために指示を受けるのは、神の摂理に反している。」<sup>15</sup>

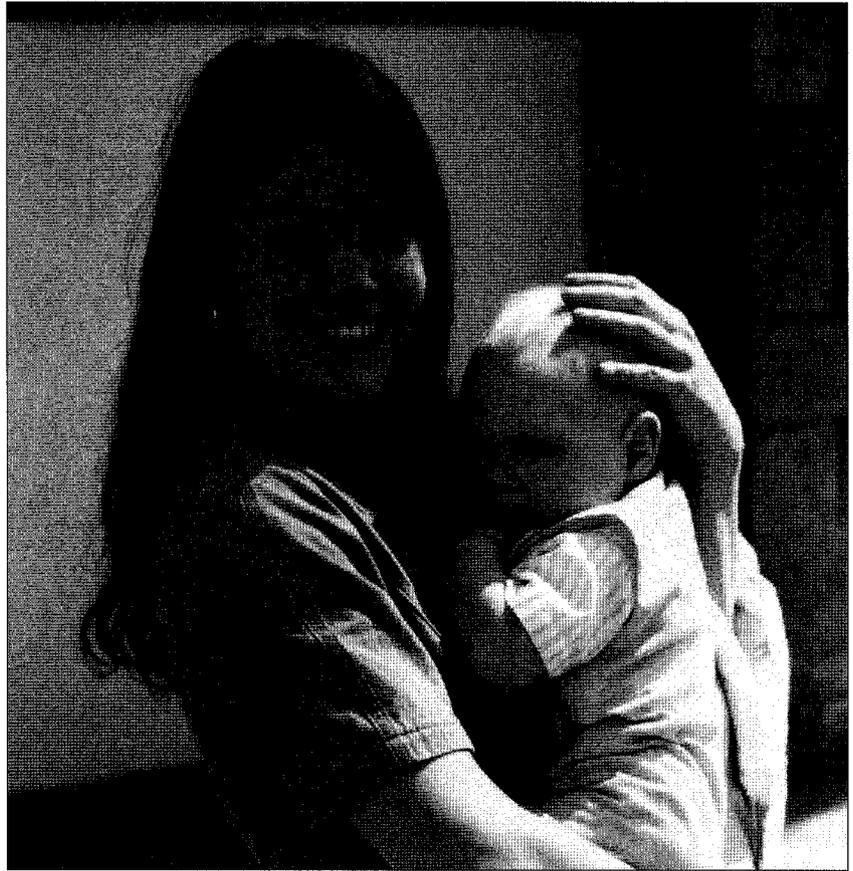
これ以外にも、すでに確立された教会の神権の権能とかかわりなく、より高い権能や賜物を授かったと主張する人々もいます。彼らは、福音の諸原則や儀式を信じ、教会の大管長をその合法的な管理者として受け入れると言いながら、自分は大管長の受けていない

もっと高度な命令を授かっている、と主張します。これは、教会の教義にそぐわない行動を正当化するときによく行われます。しかし高度な命令など、あるはずがないのです。地上における神の王国のすべての鍵を保持し、行使するのは、教会の大管長だからです。主は教会の大管長について、こう言われました。「彼によらずに、[戒めや啓示] 受けるように任命される者はほかにだれもない。』<sup>16</sup>

預言者ジョセフの良き同僚に、トーマス・B・マーシュもいました。1984年4月の総大会で、ヒンクレー大管長はこの壇上から次のように指摘しました。マーシュ兄弟は十二使徒定員会の会長を務めていたとき、わずかな牛乳のことで自分の妻と別の女性との間に起きた言い争いに関し、大管長会やそのほかの教会指導者の決定を無視しました。<sup>17</sup>

マーシュ兄弟は、さながら放蕩息子のように「本心に立ちかえっ」<sup>18</sup>て、かつて十二使徒定員会の同僚であったヒーバー・C・キンボールに、次のような手紙を送りました。「わたしは妻を失ってから3年間、自分の置かれた状況が分かり始めました。……わたしは罪を犯しました。天に対しても、あなたの目から見ても、そうです。兄弟たちの信頼を裏切り、天の家族の一員となる資格を失いました。……教会の中で最も低い立場の会員でいる資格さえありません。しかしわたしは、十二使徒ならびにわたしが傷つけた教会と和解せずに、このまま長く生きることができません。」そして、彼は反抗に費やした歳月で学んだ教訓を、次のように述べています。「わたしがいなくても主は大丈夫であり、わたしがかつての地位から脱落したからといって何を失われたわけでもありませんでした。ところがわたしの失ったものは、何と大きかったことでしょう。全世界、あるいはこの地球のような諸惑星さえも支え切れないほどの大きな富を失ったのです。」彼は兄弟たちに、慰めと平安と笑みをもって迎えてくれるように懇願しました。<sup>19</sup>

トーマスは、再度バプテスマを受け



た後、ソルトレーク・シティーにやって来て、当時は教会の大管長であったブリガム・ヤングに、赦しを求めました。彼はヤング大管長から日曜日の集会で話をするように要請され、聴衆に向かって次のような忠告を残しました。「もしこの民の中に背教して、わたしがしたようなことを行っている人がいるなら、そして自分が主に愛されている人間だと思ふなら、背中を存分に鞭で打たれる覚悟を決めてください。しかしそれよりもわたしの忠告を聞き入れる方を取るなら、権能を持つ人々を支持してください。』<sup>20</sup>

預言者ジョセフは、1832年から翌年の33年にわたる冬に、次のように説明しました。「神のまことの天使が人を聖任するためにやって来ることは二度とないだろう。なぜなら、天使は神権を確立するためにすでに一度遣わされて来て、わたしを聖任したからである。……ほかの人を聖任する権能を伴うこの神権が地上に回復された今、天使が再び訪れて、聖任という形でその権能に再び介入することはあり得ない。…

…知っておいてほしいことがある。今後、もし天使によって聖任されたと言言する人が出てくるならば、その人はうそつきか、あるいは天使を装った悪魔に欺かれているかのいずれかである。神権が教会から取り去られることは二度とないからである。』<sup>21</sup>

ここで教会について預言された、5つの根本的な真理について述べてみたいと思います。

第1に、神の鍵と権能は、神御自身によってジョセフ・スミスに授けられ、教会の大管長と呼ばれるその後継者一人一人に授けられてきました。

第2に、それらの鍵と権能は決してほかの人に授けられることはなく、その権能を持つ人は教会員に知られています。

第3に、教会に対する絶えざる啓示と指導は教会の大管長を通して与えられます。大管長が聖徒たちを誤った道に導くことは決してありません。

第4に、個々の教会員は、自分の召しや責任範囲、また自分の家族について啓示を受けることができます。しか



テンブルスクウェアの東側にある教会本部ブロックに据えられた像『喜びのとき』。「見よ、子供たちは神から賜った嗣業であ……る」(詩篇127:3)という副題が付いている。

し、自分より高い権能を持つ人のために霊的な指示を受けることはありません。

第5に、すでに確立された神権の秩序または系統を無視して、教会のために神から直接啓示を受けたと主張する人は、誤ったところから導きを受けています。またそのような人に従う人々にも、同じことが当てはまります。

もし自分がそうした立場にいると思う人がいれば、どうかこのことを知っていただきたいと思います。教会の神

権者や姉妹たちとの完全な交わりを取り戻したいと願う人には、教会の扉は常に開かれています。両手を広げて迎え入れられるでしょう。

主イエス・キリストの代表者である管理役員としての中央幹部の召しが神からのものである、という証はわたしの心の最も深い泉からわき出るものです。わたしは長年にわたり、神からもたらされた絶えざる啓示が鍵や権能を通じ、教会の大管長の指示の下に、与

えられる過程を見てきました。1830年4月6日以来、この御業が啓示の力によって導かれていることを証します。この確信はわたしの持つ最も大きな知識の源になっています。現代の世に神の御言葉を明らかにする、この教会の終わりのない預言の声にすべての人々が心を留めるようにお勧めし、またお祈りします。それらの声は現代の世に神の御言葉を明らかにしています。この証を、イエス・キリストの御名により申し上げます。アーメン。

#### 注

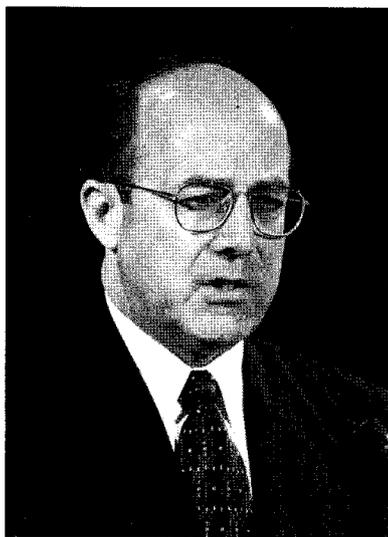
1. 教義と聖約5:14
2. 教義と聖約1:30
3. ダニエル2:44。教義と聖約138:44も参照
4. *Journal of Discourses* 『説教集』25:348。14:367も参照
5. 教義と聖約42:11
6. 教義と聖約23:1
7. 『説教集』11:252
8. ジョージ・A・スミスからオーソン・プラットへの1848年10月20日付け書簡。*Millennial Star* 『ミレニアル・スター』1849年1月1日付け、p.14
9. オリバー・カウドリからサミュエル・W・リチャーズへの1849年1月14日付け書簡。*Deseret News* 『デゼレトニュース』1884年3月26日付け、p.153
10. 使徒5:38-39
11. マタイ7:16-20
12. 教義と聖約26:2
13. 教義と聖約1:20
14. 教義と聖約28:6
15. *Teachings of the Prophet Joseph Smith* 『預言者ジョセフ・スミスの教え』ジョセフ・フィールディング・スミス編、p.21。教義と聖約28:12も参照
16. 教義と聖約43:4
17. *Conference Report* 『大会報告』1984年4月、pp.110-111
18. ルカ15:17
19. トーマス・B・マーシュからヒーバー・C・キンボールへの1857年5月5日付け書簡。プリガム・ヤング・コレクション、教会歴史部所蔵
20. 『説教集』5:206
21. 『ミレニアル・スター』1846年11月20日付け、p.139

# 「あなたがたは知るであろう」

管理監督会第二副監督

キース・B・マクマリン

天父はわたしたちがそれぞれの相違を乗り越えられる方法を、すなわち「わたしたち一人一人が知るようになる」ための方法を備えてくださいました。それは聖霊の力と確かな証を通してもたらされます。



りくんだり、感謝を込めて、わたしは今、神の御言葉と御業について証するために皆さんの前に立っています。道を備えるために先立って行く者の精神を感じています。この務めは主からもたらされたものです。わたしの心からの願いは、人が主の再臨に備え、主のみもとに住まい、主のみがお与えになることのできる賜物と恵みを楽しむよう助けることです。

この度の大会でも、主の御業と天父の御心について多くのことが語られることでしょう。これらは神聖な事柄です。その宣言に当たって、話者が単独で語ってはいないことに留意していただきたいと思います。彼らの証とともに、わたしももう一人の証人として声

を上げたいと思います。このような過程は「証人の律法」と呼ばれています。

この律法は神の子供たちの心に真理を紹介し、確認し、結び固めるために確立されました。世に神の御言葉を携え行くに当たって、人が独りで遣わされることは決してありません。モーセは預言者としてイスラエルの民を導くよう召されましたが、彼も独りではありませんでした。主はモーセに、兄アロンを代弁者としてだけでなく、アブラハムの神の御言葉についてモーセとともに証する者として遣わされたのです。

この証人の律法はキリストの誕生と生涯、使命の先駆けとなりました。聖なる天使、バプテスマのヨハネ、預言者、使徒、聖霊、救い主御自身そして父なる神がこぞって主の神性を宣言されたのです。

この同じ方式が、末日におけるイエス・キリストの福音回復の各段階においても常に見られました。信頼の置ける複数の証人が、その耳で聞き、目で見、心で悟ったことを記し、語ったのです。どの神権時代にあっても、二人以上の証人が声を合わせてそのような宣言をしてきました。これは天の方式です。使徒パウロは言っています。「すべての事がらは、ふたりか三人の証人の証言によって確定する。」(2コリント13:1)

わたしは、証の本質について痛感したことがあります。数年前、ある男性

に奥さんと子供たちがバプテスマを受けることを承諾してもらおうとしたときのことです。それまで宣教師たちはこの家族をずっと教えてきました。つまり、キリストの神性や、1820年に父なる神とその愛子が預言者ジョセフ・スミスに御姿を現されたこと、それに続いて地上に真の教会が回復されたことについてです。要所要所で宣教師たちは真剣に証し、聖霊が母親と子供たちにその真実性の確認を与えました。彼らはバプテスマを受けたいと願いました。

しかし父親は懐疑的でした。彼には奥さんたちのような霊的な確信がありませんでした。長年奉じてきた自分の宗派への信仰と慣習が彼の心を疑念でいっぱいにしていました。わたしはご主人と会って、彼の疑念について、また、奥さんたちのバプテスマについて話し合いました。彼は、妻子の選択の自由を奪いたくないものの、自分の信仰と慣習、そして回復のメッセージのはざまで大いに葛藤していました。話が核心に迫ったとき、わたしは証を述べました。宣教師が教えた事柄に対するわたし自身の証です。この教会の神聖さについて説明していると、『教義と聖約』に記された主の御言葉が心に浮かんできました。そこでこう証しました。「これは全地の面にある唯一まことの生ける教会です。」(教義と聖約1:30参照)

彼は驚いた様子でした。この宣言が彼を狼狽させたのでしょうか。疑念を込めて彼は言いました。「どうしてそんなふうには主張できるんですか。うちの教会にはあなたがたの教会よりはるかに多くの会員がいます。教会の規模も影響力もうちの方がはるかに上です。そのうえ、教会の歴史と伝統だって、ジョセフ・スミスの時代よりずっと昔にさかのぼるんです。それなのにどうして、お宅の教会が唯一まことの教会だなんて主張できるんですか。」

彼の反応は、そのような証を初めて耳にした人の多くが示す反応と類似しています。この大会の説教を耳にする人々の中にもそのような反応をされる方がいるかもしれません。このような

過程で、その場にいる人々は、祈りや言葉、音楽を通じ、自分たちが真実だと知っている事柄について証をしていきます。彼らの証とは次のようなものです。

●神の實在、神の愛子の神性、そしてキリストの教義。

●預言者、聖見者、啓示者の神聖な召し。時満ちる神権時代の最初の預言者ジョセフ・スミスと現代の主の預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長に主が示された特別な強調点。

またこれらの証により以下のことが伝えられます。

●啓示された人生の目的、前世と来世について。

●聖文、とりわけイエス・キリストについてのもう一つの証である『モルモン書』について。

人によっては、これらの証が自分たちの考えや信仰と異なるため、戸惑います。そしてこう尋ねるのです。「どうしてそんなふうに、主張できるのですか。どうしてそんなことが分かるのですか」

そのような質問にわたしならこう答えます。「反論したり、心を閉じたり、あら探しをしたりする前に、どうか靈感に満ちた次の言葉についてよく耳を

傾け、熟考してください」と。「言葉が意味を伝えるのではありません。言葉は意味を生ぜしめるのです。わたしは自分の経験したことに基づいて語り、皆さんも自分の経験に基づいて聞きます。これが意思疎通の難しさのゆえんです。」(デビッド・O・マッケイ。ローウェル・L・ベニオンによる引用、*Improvement Era* 『インブルーブメント・エラ』1968年4月号、p.94)

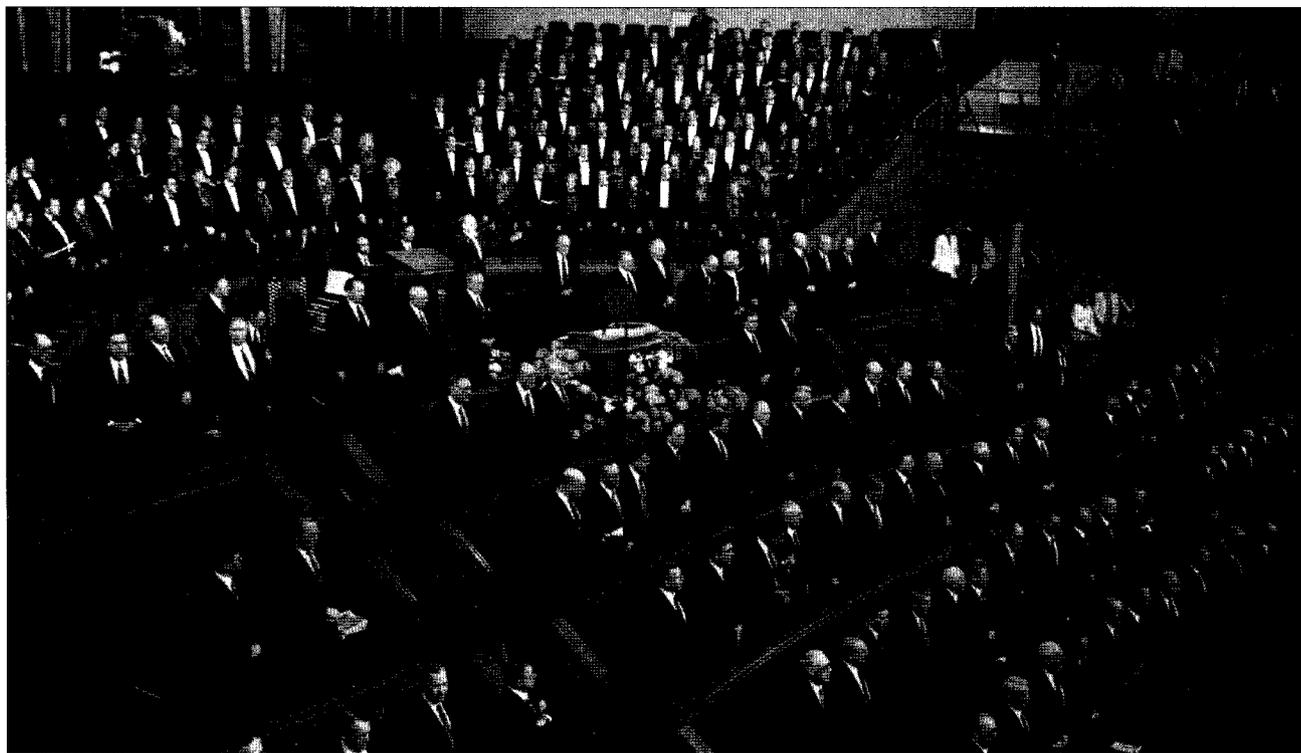
これは現世特有の現象であり、疑念が起る根本原因となっています。しかし、霊的事柄への異なる見解のただ中であって、聖文には、すばらしい慰めとなる約束が記されています。「あなたがたは知るであろう」と。この世での背景は違いますが、わたしたちは皆、同じ天父の子供です。天父はわたしたちがそれぞれの相違を乗り越えられる方法を、すなわち「わたしたち一人一人が知るようになる」ための方法を備えてくださいました。それは聖霊の力と確かな証を通してもたらされます。

聖霊は神会の3番目の御方で、すべての必要なことを明らかにするため、神より遣わされました。聖霊は神聖な力により明瞭に説き教え、証されます。

聖霊の証に人々は耳を傾け、聞き従おうとしないかもしれませんが、無視して拒むかもしれません。しかし、聖霊の証は決して誤解されることがありません。「聖霊は啓示者なのです。」(*Teachings of the Prophet Joseph Smith* 『預言者ジョセフ・スミスの教え』ジョセフ・フィールディング・スミス編、p.328) 聖霊によって受けた証は、ほかのどんな方法で受けたどんな印象よりも人の心に力強い影響を及ぼします。1,000年の間、視覚、聴覚、触覚、味覚、臭覚、そして宇宙のどんな力を通じてした経験も、聖霊の影響力の下で得られるつかの間の、壮厳で完全な経験に勝ることはありません。

聖霊は霊の御方です。聖霊は、老若男女すべての人の心に語りかける力を有していっぱいいます。聖霊のメッセージは絶対的な確信を伴って伝えられます。この啓示された知識により、個人的な証や真理に対する証は築かれるのです(ブルース・R・マッコネー、*Doctrinal New Testament Commentary* 『新約聖書注解』1:756参照)。

主は預言者ジョセフ・スミスを通して言われました。



「まことに見よ、あなたに降ってあなたの心の中にとどまる聖霊によって、わたしはあなたの思いとあなたの心に告げよう。

さて見よ、これは啓示の霊である。」  
(教義と聖約8：2-3、下線付加)

何と完全で、たぐいまれな、すばらしい約束でしょうか。

生活や背景は人それぞれに違います、一人一人に同じ確かな錨、すなわち神よりの真理がもたらされるのです。それは絶対的で、無限であり、だれもが得られるものです。イエスは言われました。

「主の言葉は真理であり、また真理であるものはすべて光であり、光であるものはすべて御霊、すなわちイエス・キリストの御霊だからである。

御霊は世に来るすべての人に光を与え、また御霊はその声を聴く全世界のすべての人を照らす。」(教義と聖約84：45-46)

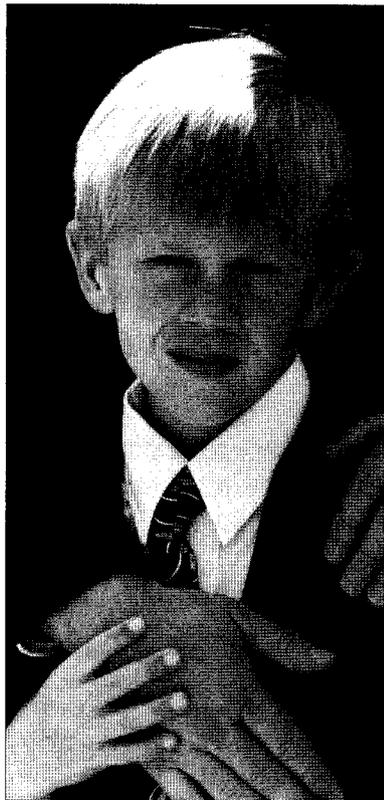
主はさらにこう説いていらっしゃいます。「真理とは、現在あるとおりの、過去にあったとおりの、また未来にあるとおりの、物事についての知識である。……真理の御霊は神から出ている。」(教義と聖約93：24, 26)

そして最後にこう勧めておられます。「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。」(ジョセフ・スミス訳マタイ7：7)

ここで、先の話に戻りましょう。父親がこう尋ねたところまで話しました。「どうしてそんなふう主張できるんですか。どうして、お宅の教会が唯一まことの教会だなんて主張できるんですか。」

その答えは、わたしからではなく、わたしを通して与えられました。わたしはこう告げました。「自分の考えを主張しているのではありません。ただ引用しているだけです。イエス・キリストがそう言われたのです。わたしと論議しても始まりません。異議を唱えたいとお望みなら、この件について天父に祈り、尋ねてみてください。」

話し合いはそこで終わり、彼は妻子のバプテスマを許可してくれました。こうしてわたしたちは別れました。



数週間後、わたしがステーキ大会の会場から出ようとしていると、二人の男性が人々を押し分けてわたしの方に近づいて来ました。一人は先日話合った例の父親でした。最初に頭をよぎったのは、「参ったな、また言い争いになる」という思いでした。

彼は近づいて来て、わたしに手を差し出すと、こう尋ねました。「わたしを覚えていらっしゃいますか。」

「もちろんですよ。そしてわたしはあなたに、この教会が依然として唯一まことの生ける教会であると知っていただきたいと願っています。」

さらに話そうとすると、彼は握手した手をしっかりと握り、こう言ったのです。「分わかっています。あなたが言われたように祈ってみたのです。すると主は、聖霊の力によって、それらはすべて真実であると教えてくださいました。わたしは先週末にバプテスマを受け、祭司に聖任されました。そして今日わたしはここにいる友人にバプテスマを施すのです。彼もそれが真実であると知っているからです。」

これこそ証人の目的であり、聖霊の力であり、真理の揺るぎない錨と言え

ましょう。大勢の人がこれまで証してきたことであり、これからも証していくことですが、わたしもここで自分自身の証を付け加えたいと思います。「あなたがたは知るようになります。神は生きておられます。わたしたちは神の子供であり、神に愛されています。イエス・キリストは神の愛子であり、わたしたちの贖い主にして世の救い主です。御父と御子は預言者ジョセフ・スミスに御姿を現され、ジョセフの祈りにこたえ、指示をお与えになりました。その後ほかの天の使いたちがジョセフのもとを訪れ、失われたものを回復しました。その中には、『モルモン書』を世にもたらしたモロナイ、アロン神権を回復したバプテスマのヨハネ、大神権と聖なる使徒職をジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに授けたペテロ、ヤコブ、ヨハネ、イスラエルの集合の鍵を持つモーセ、アブラハムの福音を持つエライアス、両親と子供たちを永遠の家族として結び固める権能を有するエリヤがいます。こうして、主の福音は回復され、主の地上での王国が再組織され、それは主によって、末日聖徒イエス・キリスト教会と名付けられました(教義と聖約115：3-4；3ニーファイ27：7-8参照)。

もし皆さんの中に、これらのことについて、あるいは今大会で語られた何らかの言葉に疑念を感じた方がいらっしゃれば、どうぞ天父に祈りを通して尋ねてみてください。

「ただ、疑わないで、信仰をもって願い求め〔てくだ〕さい。」(ヤコブの手紙1：6)そして、「もしキリストを信じながら、誠心誠意問うならば、神はこれが真実であることを、聖霊の力によってあなたがたに明らかにしてください。」

「そして聖霊の力によって、あなたがたはすべてのことの真理を知るでしょう。(モロナイ10：4-5、下線付加)。

これがわたしの証です。これらはすべて真実です。イエス・キリストの御名により、アーメン。

# 安息日と日曜日の買い物

七十人

アール・C・ティンギー

**安息日を守ることは、わたしたち自身の改宗の深さと、神聖な聖約を進んで守る気持ちを表す指標なのです。**



**兄** 弟姉妹の皆さん、おはようございます。わたしのテーマは安息日、特に日曜日の買い物に関するものです。

時の始めから預言者たちは、聖約の民に安息日を守ることを教えるように神から命じられてきました。神御自身が7日目に創造の業を休まれました。この日は聖日として祝福され、聖別されたのです。

モーセに与えられた4番目の戒めは、「安息日を覚えて、これを聖とせよ」でした。<sup>2</sup>

ブルース・R・マッコンキー長老は次のように教えています。「安息日を守ることは、古代イスラエルの民と神との間のしるしであり、それによって選民を識別することができた。」<sup>3</sup>

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は、日曜日を次のように理解しています。すなわち、この日はキリストが

墓からよみがえられた事実を記念する安息日であり、使徒たちはその後、週の始めの日に集会を開くようになりました。<sup>4</sup>

1831年8月7日の日曜日、主は預言者ジョセフ・スミスに次のように啓示されました。

「また、あなたは、世の汚れに染まらずに自らをさらに十分に清く保つために、わたしの聖日に祈りの家に行つて、聖式をささげなければならない。

まことに、この日は、あなたがたの労苦を解かれて休み、いと高き方に礼拝をささげるように定められた日だからである。

それでも、あなたの誓言は、毎日、また常に、義をもってささげなければならない。

しかし、この主の日に、あなたはいと高き方にあなたの供え物と聖式をささげ、また兄弟たちと主の前にあなたの罪を告白しなければならないことを覚えておきなさい。

また、この日には、あなたはほかに何事もしないようにしなければならない。ただ、あなたの食物を真心を込めて準備して、あなたの断食が完全になるように、言い換えれば、あなたの喜びが満たされるようにするだけである。」<sup>5</sup>

最近開かれた神権指導者のための地区訓練集会において、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は、教会員の中に世の中の方法を取り入れる傾向があることを心配して、こう語っています。「残念なことに、わたしたちは世の中の方法をすぐにではありませんが、徐々に取り入れています。安息日を守

るように教会全体を改宗する力がわたしにあればと思います。わたしたちの民は、もし安息日を守って忠実に歩むならば、さらに豊かに祝福を受けることでしょう。」<sup>6</sup>

安息日を正しく守るうえで非常に大切な一面は、日曜日の買い物に関するものです。残念なことに、多くの商店や商業施設が日曜日に営業しています。世の人々は日曜日の買い物に何ら異論はないようです。しかし、わたしたち教会員は預言者たちから「世の汚れに染まら」ないように勧告され、教えられてきました。<sup>7</sup>わたしたちは日曜日に買い物をすべきではありません。

ヒンクレイ大管長は続けて、神権指導者に次のように指示しています。

「この教会には、日曜日に家具を買わなければならない人は一人もいません。ほんとうにいません。日曜日に新しい車を買わなければならない人も、この教会には一人もいませんね。そのとおりです。十分な配慮と計画をしないために、日曜日に食料品を買わなければならない人も、この教会にはいません。いないのです。……日曜日にアイスクリームを買う必要はありません。……日曜日を買い物の日にする必要はないのです。わたしは、安息日に通常の商業施設を利用する必要があるとは思いません。どうして店を開けるのでしょうか。客がいるからです。だれが客でしょうか。それは教会外の人ばかりではありません。皆さんもわたしも、よく知っていることです。」<sup>8</sup>

『旧約聖書』のネヘミヤ書の中で、主の民は安息日を守ることについて、次のように教えられました。「またこの地の民らがたとい品物または穀物を安息日に携えて来て売ろうとしても、われわれは安息日または聖日にはそれを買わない。」<sup>9</sup>

十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老は、こう教えています。「現代の預言者たちは、日曜日に買い物をしないように勧めてきました。安息日に買い物をする人は、日曜日に営業することを奨励している責任から逃れることはできません。日曜日であっても、どうしても提供されなければならない

サービスもあります。しかし、安息日に行われる営業は、商人や消費者がきっぱりと決心して、主の日に営業するのを避けるようにしたら、行わなくて済むものがほとんどです。』<sup>10</sup>

兄弟姉妹の皆さん、日曜日の買い物をやめましょう。そのための一つの方法は、前もって計画することです。土曜日にガソリンを入れてください。土曜日に2日分の食料品を買いましょう。皆さんが店を利用するという理由で、だれかを日曜日に働かせるようなことがあってはなりません。もちろん、日曜日に働かなければならない重要な仕事もあります。救急機関、医療施設、交通機関、そして消防や警察のように人々の生活を守る組織がそれに当たります。これら欠くことのできない公共施設で働いて、わたしたちを守り助けてくださる方々に心から感謝します。

世界の多くの国々や合衆国の多くの州では、日曜日の買い物が行われていないか、法律で禁じられています。わたしたちは聖徒の共同体として、市民の人々に日曜日の買い物をやめるように、積極的な方法で働きかけるべきです。まず、わたしたち自身から始めましょう。わたしたちが日曜日に買い物をするのをやめれば、その日に営業しても利益がないので、今後は店を開ける理由はなくなります。実に簡単なことです。

わたしはよく日曜日の午後に、ステーク大会の割り当てを終えて家に帰る途中、ユタの小さな農村を車で走ります。ほとんどいつも、トラクターが放置され、畑にはだれもいません。わたしは謙遜な農家の人々の信仰に感謝しています。ところが町に入ると、日曜日なのに多くの駐車場は車であふれています。わたしはそれを見て、主の律法が破られていることに悲しみを感ずました。そのような店の所有者や経営者が日曜日の営業を正当化するためにしばしば口にする理由は、競争に勝つため、組合の規則に従うため、などです。

わたしは、かつてスペンサー・W・キンボール大管長が忠実な教会員と面接したときの話をよく覚えています。

それは次のような面接でした。

『どのような仕事をしていますか。』

『ガソリンスタンドを経営しています。』

『日曜日に営業していますか。』

『いいえ、しません。』

『でも、やっていけますか。ほとんどのガソリンスタンドは、日曜日に開けているようですが。』

『やっていけます。主が助けてくださいますから。』

『競争相手はいないのですか。』

『もちろん、います。通りの反対側に日曜日に営業しているスタンドがあります。』

『それでも、あなたは店を開けないのですか。』

『開けません。感謝しているんです。主の恵みがあって、必要なものは十分ありますから。』<sup>11</sup>

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は、聖約の民です。わたしたちは、世にあって世のものとならないように教えられています。聖約の民であった古代イスラエル人のように、わたしたちは日曜日の買い物を避けることにより、安息日を正しく守ることを奨励すべきです。これを神とのしるしにし、それによって人々に知られるようにしましょう。

これは受け継がれてきたものです。この神権時代において、わたしたちの先祖の開拓者の時代から、そのように教えられてきました。数年前のヒンクレー大管長の話が思い出されます。「今から142年前に戻りましょう。もちろん、タバナクルも、神殿も、テンプルスクウェアも存在しません。1847年7月24日、開拓者の一行がこの盆地に到着しました。先頭のグループは、1日か2日早く着いていました。プリガム・ヤングが着いたのは土曜日でした。その翌日、安息日の礼拝が午前と午後に行われました。集会を開くようなホールはありません。恐らく、7月の日曜日の焼けつくような日差しの中で、聖徒たちは荷車の長柄に座り、車輪にもたれて、指導者の話を聞いたことでしょう。季節的に遅れていたのです。翌年のために作物を育てるつもりなら

ば、今すぐに大がかりな作業を始めなければなりません。しかし、ヤング大管長はそのときに、あるいはその後も、安息日を破らないよう聖徒たちに訴えたのです。』<sup>12</sup>

先祖の開拓者にとって、安息日を破るという誘惑がどれほど大きなものであったか想像できるでしょうか。彼らの命は、育てて刈り入れる作物にかかっていました。しかし、指導者たちは、主の約束を信じて安息日を守るように勧告したのです。

日曜日に買い物をしないで安息日を守る人は、主からどのような約束と祝福を受けるでしょうか。教義と聖約第59章と『旧約聖書』のレビ記第26章には、同じような約束が与えられています。「地に満ちているものは……あなたがたのものとなり、地は雨に恵まれて収穫は増え、国に平和が与えられ、神は忠実な民を顧みて大いなる者とし、彼らと結んだ聖約を固められる。』<sup>13</sup>

もう一つの祝福あるいは警告は、ジョージ・アルバート・スミス大管長の次の勧告にあると思います。「人類の



受ける多くの悲しみと苦悩は、安息日を聖とするようにという〔神の〕訓戒を無視したことに端を発する。』<sup>14</sup>

要するに、この美しいイースターの季節にふさわしく、安息日を守ることは、わたしたち自身の改宗の深さと、神聖な聖約を進んで守る気持ちを表す指標なのです。マーク・E・ピーターセン長老はこう言いました。「安息日を守るか、守らないかは、主御自身に対する、そしてゲツセマネでの主の苦難と十字架での死、墓からの復活に対する、わたしたちの態度を間違いなく表している。それはわたしたちが真の意味でクリスチャンかどうかを表し、主の贖いの犠牲の記念が無意味になるほど改宗が浅いかどうかを表するしである。』<sup>15</sup>

わたしはへりくだって、安息日が聖別された日であり、日曜日に買い物をしていないという決意が必要であることを証します。それはわたしたちの信仰の一部であり、永遠の原則に対する従順の

表れです。また、神と選ばれた民との間のしるしです。そして、神の真の律法であり戒めです。イエス・キリストの御名により証します。アーメン。

注

1. モーセ3：3；創世2：2-3参照
2. 出エジプト20：8
3. ブルース・R・マッコンキー、*Mormon Doctrine*『モルモン教の教義』p.658。ネヘミヤ13：15-22；イザヤ56：1-8；エレミヤ17：19-27；エゼキエル46：1-7；出エジプト31：12-17も参照
4. ヨハネ20：1-6；ルカ24：1；マルコ16：1；マタイ28：1；使徒20：7
5. 教義と聖約59：9-13
6. ユタ州ヒーバーシティ／スプリングビル合同地区大会、神権指導者会、1995年5月13日

7. 教義と聖約59：9；ヤコブの手紙1：27
8. ユタ州ヒーバーシティ／スプリングビル合同地区大会、神権指導者会、1995年5月13日
9. ネヘミヤ10：31
10. 「弟の番人」『聖徒の道』1987年1月号、p.24
11. *Teachings of Spencer W. Kimball* 『スペンサー・W・キンボールの教え』エドワード・L・キンボール編、p.227
12. *Ensign* 『エンサイン』1989年11月号、p.51
13. 教義と聖約59：16-19；レビ26：2-6、9参照
14. *Conference Report* 『大会報告』1935年10月、p.120；エズラ・タフト・ベンソンによる引用、『エンサイン』1971年5月号、p.7
15. 『大会報告』1975年4月、p.72；または『エンサイン』1975年5月号、p.49



# かごと瓶

中央扶助協会第一副会長  
チエコ・N・岡崎

神はわたしたちに多くの才能、多様性や個性を与えてくださいましたが、最も大切な点はわたしたちがお互いについて知っていること、すなわちわたしたちは皆、神の子供であるということです。



**親**愛なる兄弟姉妹の皆さん、アロハ。2月に、アメリカ合衆国以外の地域の会員数が国内の会員数をわずかに上回ったという報告を聞いて、わたしもうれしく思いました。このわずかな変化は、教会の国際性を示す重要な象徴です。パウロがガラテヤ人へ語った言葉を思い出しました。「もはや、ユダヤ人もギリシャ人もなく、奴隷も自由人もなく、男も女もない。あなたがたは皆、キリスト・イエスにあって一つだからである。」(ガラテヤ3:28) 今週、わたしは54回目のバプテスマ記念日を祝いますが、改宗者であるわたしのような人々は、次のパウロの約束を知っています。「なぜなら、わたしたちは皆……一つの御霊によって、一つのからだとなるようにバプテスマを受け[た]からである。」(1コリント12:13)

兄弟姉妹の皆さん、今日わたしは福音を通じて得られる美しい一致についてお話ししたいと思います。3週間前、わたしはスーザン・ワーナー姉妹と一緒に指導者訓練に参加し、フィリピン、オーストラリア、ニュージーランド、トンガ、フィジーの旅から帰って来ました。さらにその前には責任を受けてわたしは、メキシコ、ホンジュラス、グアテマラ、サモア、韓国、日本へも行って来ました。

どこへ行っても、わたしたちは一生懸命に長時間働きました。「とてもお疲れになったでしょう」と言われましたが、疲れるどころか「わしの翼に乗せるように」支えられているのを感じました(教義と聖約124:18)。なぜなら、福音の良きおとずれに対してシオンの娘たちが、「目を覚まして地から立ち上がり……美しい衣を着るのを見たからです(モロナイ10:31)。わたしたちは教えてきましたが、強調したいのは、わたしたちも学んだということです。

最も大切な教訓は、ほんとうにわたしたちは皆、キリスト・イエスにあって一つだということです。わたしたちは救い主への愛において一つであり、福音の証において、信仰と希望と愛において、『モルモン書』が神から靈感を受けて書かれた御言葉であるという確信において一つです。また、ヒンクレー大管長とそのほかの中央幹部を支持し、愛し合うことにおいて一つです。

これらのいずれを取っても、わたしたちは完全でしょうか。いいえ、完全ではありません。学ぶべきことがたく

さんあります。また、これらのいずれにおいても、わたしたちは同じでしょうか。いいえ、わたしたちは皆、天父のみもとへ戻る道のりのそれぞれ異なる地点にいるのです。パウロはガラテヤ人への書簡の中で、ユダヤ人やギリシャ人へあてて手紙を書いています。彼らはバプテスマを受けたとき、ユダヤ人やギリシャ人であることをやめたでしょうか。男の人は男性であることを、女の人は女性であることをやめたでしょうか。いいえ、そうではありません。でも、彼らは皆、「キリストに合うバプテスマを受けた」のであり、「キリストを着た」のです(ガラテヤ3:27)。

ニーファイはこの同じ原則を、次のように説明しています。「主は、御自分のもとに来て主の慈しみにあずかるように、すべての人を招かれる。したがって主は、黒人も白人も、束縛された者も自由な者も、男も女も、主のもとに来る者を決して拒まれない。……すべての人が神にとって等しい存在なのである。」(2ニーファイ26:33)

神はわたしたちに多くの才能、多様性や個性を与えてくださいましたが、最も大切な点はわたしたちがお互いについて知っていること、すなわちわたしたちは皆、神の子供であるということです。教会員としてのわたしたちのチャレンジは、皆愛し合い、ともに成長できるように、皆が学び合うことです。

福音の教義はなくてはならないものです。教義は不可欠なものですが、それをどのように応用するかはそれぞれ異なります。教会の教義とそれぞれの文化における応用の違いを示す簡単な例を挙げましょう。これは、あるユタ州の主婦が冬の間の家族の食糧として作ったユタの「桃」の瓶詰めです。ところで、ハワイの主婦は果物を瓶詰めにはせず、2、3日分の果物をとり、このようにかごに入れて家族のために保存します。このかごには、マンゴーやバナナ、パイナップルやパパイヤが入っています。これらの果物はソルトレーク・シティーのスーパーマーケットで買ったものですが、もし業者が採

取しなかったら、果物が一年中なる気候の地でポリネシアの主婦が家族に食べさせるためにもいadakamoshitemasen.

かごと瓶は入れ物としては異なりますが、中身は同じです。家族のための果物です。瓶が正しく、かごは間違いでしょうか。いいえ、両方とも正しいのです。それぞれの文化と人々の必要に合った入れ物です。そして、果物を入れる入れ物として、どちらも適切です。

さて、果物とは何でしょう。パウロはこのように述べています。「御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制であ[る。]」(ガラテヤ5:22-23) 扶助協会で姉妹たちと交わるとき、神権定員会で兄弟たちと交流するとき、また敬虔な気持ちとともに聖餐を受けるとき、御霊の実はわたしたちを愛と喜び、平和のきずなで結びます。扶助協会の場所が台北であろうとトンガであろうと、神権定員会の場所がモンタナであろうとメキシコであろうと、また聖餐会がフィジーで行われようとフィリピンで行われようと、どこでも変わりありません。

世界中で、福音における兄弟姉妹として、わたしたちは互いに学び、ともに成長し、愛を深めることができます。わたしたちの一致は、わたしたちが世界中で共通に持っているものから始まります。それは、福音の教義と儀式であり、救い主に対する信仰、聖文に対する証、生ける預言者から受ける導き

に対する感謝、聖徒になろうと努力する者としての自覚です。つまり、福音の原則です。

不変の力強い福音の中心的な原則に対して心を向けましょう。それが最も大切なものであることを理解しましょう。これらの原則の上に堅固な土台を築きましょう。そうすれば、雨が降り、洪水が押し寄せても、わたしたちの家は「岩を土台としている」ので(マタイ7:25)、倒れることはないのです。

次に、そのような堅固な土台の上に家を建てたなら、互いに喜びを分かち、互いに耳を傾け、学び、それぞれが置かれた環境や文化、世代や住んでいる場所が異なっている、これらの原則に添って生活するように助け合いました。

これまで6年間、わたしは教会の扶助協会の姉妹たちの話に耳を傾けてきました。皆さんから学んできました。独りで苦勞して子供を育てている、離婚した母親たちから学んできました。結婚したいと望んでいながら結婚していない姉妹たち、子供を産みたいと望んでいながら子供ができない姉妹たち、家庭で情緒的、肉体的な虐待の危険にさらされている姉妹たちからも学んできました。家で働く姉妹、家の外で働く姉妹、薬物依存や子供時代に受けた性的な虐待、慢性病に耐える姉妹たちからも学んできました。

これらの姉妹たちの多くは、わたしに贈り物をしているとは思わなかったでしょう。彼女たちの大部分は、自分が助けを求めていると思っていまし

た。しかし、彼女たちの話に耳を傾け、彼女たちから学ぶときに、どの姉妹たちもわたしに祝福を与えてくれたのです。

6年前のこの月に、中央扶助協会会長に召されたとき、ヒンクレー大管長はわたしにこのような勧告を与えてくれました。「あなたはこの会長会で独特の個性を生かしてください。あなたはアメリカ合衆国とカナダの国境を越え、世界中に散らばる非常に多くの国々の教会員を代表する者として認識されるでしょう。あなたの姿は、教会は一つであるということをもつて表すでしょう。」大管長は、人々に向かって話すときわたしの舌が緩まるように祝福してくれました。

ヒンクレー大管長、わたしはあなたとこの会衆の前で、あなたの勧告と祝福が文字どおり成就されたことを、主に証したいと思います。

わたしは韓国語やスペイン語、トンガ語を話しませんが、これらの言語が話される国へ行き、扶助協会の姉妹たちや神権指導者たちと働くように割り当てを受けたとき、彼らの言葉で話したいという強い願いに満たされました。ヒンクレー大管長の慰めの言葉と祝福に力づけられ、また教会の翻訳部や、何時間もかけてわたしを助けてくれた優れたコーチのおかげで、スペインや韓国、トンガの人々に彼らの言葉で話をする祝福にあずかりました。御霊がわたしの言葉を彼らの心に届けてくれたのだと思います。また、「御霊の実は」(ガラテヤ5:22)が彼らの愛と喜び、信仰を、わたしの心に届けてくれたと感じます。御霊がわたしたちを一つに結びつけてくれたのです。

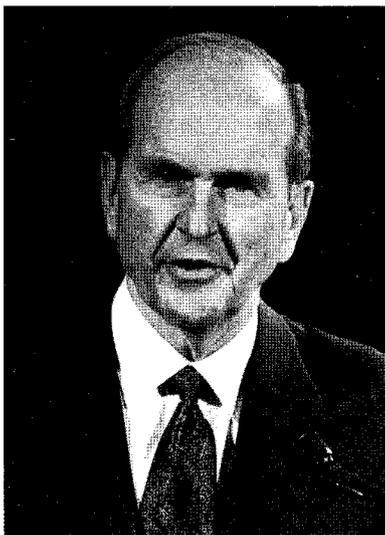
兄弟姉妹の皆さん、皆さんの持っている果物が、桃であろうとパパイヤであろうと、またそれを瓶詰めにしようと、かごに入れようと、愛の気持ちでささげてくださいることを感謝しています。天のお父様、どうかわたしたちが一つになり、あなたのもとなりますように(教義と聖約38:27参照)、救い主イエス・キリストの御名によりお祈りいたします。アーメン。



# 「あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない」

十二使徒定員会会員  
ラッセル・M・ネルソン

優先順位を決めるうえで規準となるのが、神の戒めです。中でも、十戒の中の第一の戒めに対してどういう態度をとるかが、ほかの戒めに対するわたしたちの気持ちを決めてしまいます。



この総大会で皆さんと顔を合わせるとき、わたしは自分にゆだねられている責任のを感じます。同じように皆さんも、中央幹部やほかの教会役員と顔を合わせるとき、責任を感じることでしょう。わたしたちは皆、教えられた真理を実践するという責任を負っているのです。

皆さんと顔を合わせていますと、昔軍隊にいたときに聞いたわたしたちの隊の軍曹の声を思い出します。「気をつけ！」「右向け、右！」「左向け、左！」「回れ、右！」わたしたちはその命令に素早く正確に応じることを教

わりました。しかし思い返してみますと、「上を向け！」という命令は受けた覚えがありません。ところが聖文には、「〔天におられる〕神に頼って生きるようにしなさい」と書いてあります。

わたしの今日のテーマは、主の十戒の第一の戒めである「あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない」についてです。この戒めはよく知られている割にはあまり守られていません。この戒めにどれだけ忠実に従っているかを試す良い方法を見つけましたのでご紹介しましょう。難しい選択に迫られたときに、こう自問するのは、「どちらに顔を向けるのか。」

## 神に頼らない人生

悲しいことですが、大勢の人が神をどこで見いだすかが分からずに、神を締め出した生活をしています。そして霊的な問題が出てくると、右を見たり、左を見たり、回れ右をしったりするだけです。しかし、同じレベルの人を見て頼ったところで、霊的な飢えを満たすことはできません。わたしたちの不滅の霊が飢えを覚えるとき、その飢えはそれを満たしてくれるものを求め続けます。たとえ物質的に成功したとしても、そこにふさわしい生活というものがないければ、空虚な痛みが残るだけで

す。霊性を奪うような豊かさの中に心の安らぎは見いだせないのです。

## 主のみもとに来よとの招き

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は、すべての人をキリストのみもとに来て、キリストの福音がもたらす霊の糧を味わうように招きます。聖徒たちは、人生を通して自分たちを支えてくれる甘美な霊の食物を味わうのです。この食物は、主の御名を身に受けて主の教えに従うという聖約を交わすことによってもたらされます。そして霊的な強さは、不死不滅と永遠の命を受ける機会という主からの賜物について認識し、感謝の気持ちを抱くときに得られるのです。

## 忠実な市民

この賜物はすべての人に授けられませんが、現在、多くの国々の市民が教会の会員となっています。国旗や政治形態の違いを問わず、彼らは、主に忠実であることが忠実な市民となることを妨げるものではないことを知っています。神への忠誠心はかえって愛国心を植え付け、人々をさらに良い市民にしてくれることでしょう。

教会員はそれぞれの国の市民であるばかりでなく、神の王国の市民でもあります。<sup>3</sup>しかし、王国に対する気持ちの強さは人によってまちまちです。多くの人は「まず、神の王国を築き、神の義を打ち立てる」<sup>4</sup>ことを求めています。中には、神と神の王国への忠誠心を、この世のほかの興味の下に置き去りにしている人もいます。そのような人は、顔をどちらに向けるべきかまだ決めていないのです。<sup>5</sup>

## 主を代表する者

わたしはそうした混乱を一人の新聞記者の中に見て取りました。彼は教会の指導者の一人に、どこそこの国の代表であるあの人はいつあなたの教会の幹部になるのですか、と聞いてきたのです。その指導者が質問に答えている

間、わたしはアジアやヨーロッパ、北米ならびに中南米、それに多くの海の島々に生を受けた愛する中央幹部の皆さんのことを思い浮かべました。彼らはたくさんの国々から来ているいろいろな言語を話しますが、一人として国を代表するために召されている人はいません。教会の管理定員会はそのような代表者の集まりではないのです。それぞれの指導者は、主の代表者として民に顔を向けるために召されているのです。国を代表するためではありません。

中央幹部は「預言によって、また権能を持つ者による<sup>あかしめ</sup>接手によって、神から召され<sup>あかし</sup>ています。彼らは、主イエス・キリストについて教え、証<sup>あかし</sup>するために召された、<sup>あかし</sup>7全世界の人々への「特別な証人」<sup>あかし</sup>なのです。

### 主の戒めに従う

わたしたちはだれでも、どこに住んでいてどんな責任にあっても、どちらの方向に顔を向けるかを決めなければなりません。その優先順位を決めるうえで規準となるのが、神の戒めです。中でも、十戒の中の第一の戒めに対してどういう態度をとるかが、ほかの戒めに対するわたしたちの気持ちを決めてしまいます。例として、安息日を聖く守るといふ戒めについて考えてみましょう。<sup>あかし</sup>わたしたちが生活している現代は、大勢の人々が安息日に対する忠誠心を礼拝の場から娯楽の場に移してしまっている時代です。もう一度尋ねます。「わたしたちはどちらに顔を向けているでしょうか。」<sup>あかし</sup>10

聖文はわたしたちに、正しいことを行うように勧めてくれます。「わが聖日にあなたの楽しみをなさず、安息日を喜びの日と呼び、主の聖日を尊ぶべき日となえ、これを尊んで、おのが道を行わず、おのが楽しみを求め……ないならば、

その時あなたは主によって喜びを得る。」<sup>あかし</sup>11

自尊心もまた、貞潔に関する神の律法に従うことにより得ることができます。<sup>あかし</sup>12しかし現代において、こうした戒めは攻撃の対象となり、人々から軽

んじられています。適切な節制や抑制による自己管理の倫理観は、今や「不健康、非人間的という言葉で片付けられるのが常」です。しかし真実は、「自己の欲望だけで自らを定義することの方がよほど非人間的」<sup>あかし</sup>13なのです。人は皆神の子です。神にかたどって、生まれながらの欲望をコントロールできる存在として創造されたのです。

もし十戒の第一の戒めを破れば、罰は避けられません。神への忠誠心よりも先にほかの人間や思想を置くようなことがあれば、つらい結果を刈り取ることになるでしょう。パウロは「彼らの神はその腹（わたしはこれにあらゆる肉体的欲求を含めたいと思います）」<sup>あかし</sup>14である者は滅びることを予見しました。「創造者の代りに被造物」<sup>あかし</sup>15に仕える方を選ぶ人はだれでも、霊的な恵みを奪われてしまうのです。

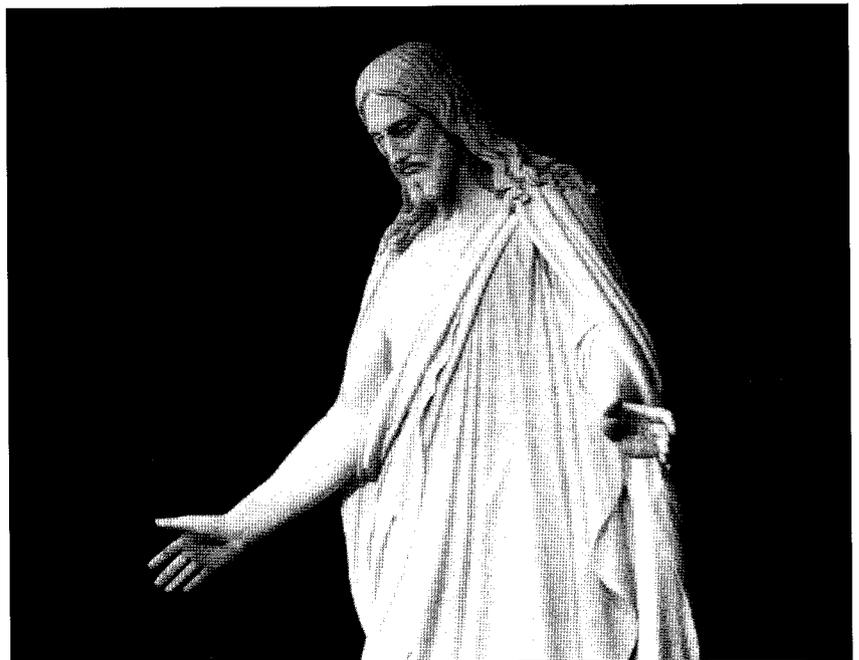
このように、わたしたちの優先順位が適切なものかどうかは、この十戒の第一の戒めに従っているかを正直に吟味して評価すべきです。方向転換が必要であれば、自分で自分に「回れ、右」と命令してもよいでしょう。そうすれば、「あなたがたは悔いて、あなたがたの偶像を捨てよ。あなたがたの顔を、そのすべての憎むべきものからそむけよ」<sup>あかし</sup>16と言われた主に喜んでいただけ

ることでしょう。

木は生長の過程で光に向かって伸びていきます。わたしたちも天の両親の息子、娘として、同じように光に向かいます。顔を上に向ければ、右や左に向けるよりも高い見通しが得られます。聖さを求めて仰ぎ見ることにより、わたしたちは神の弟子としての力と威厳を授かるのです。<sup>あかし</sup>17

### 家族に顔を向ける

天を仰ぎ見ることは、子供を上手に育てるうえで不可欠なことです。家族は天からの導きを受けるにふさわしい存在です。親というものは、自分だけの経験や恐れ、同情<sup>あかし</sup>18からだけでは十分に子供を教えることはできません。そうではなく、自分たちに命を授けてくださった創造主がなさるように子供に接すれば、自分の力を超えた知恵を授かることでしょう。賢明な母親や父親は子供たちに、神の律法<sup>あかし</sup>19に基づいて自分で判断する方法を教えます。彼らは「現世は人が神にお会いする用意をする時期である」<sup>あかし</sup>20ことを教えます。また彼らは、善悪にかかわる判断や霊的な判断は、神に対して責任を負うことなしに自由に選択<sup>あかし</sup>21できるものではないことを教えるでしょう。これらの



テンプルスクウェアの北訪問者センターにある Kristus 像

ことを理解する両親と子供たちは、強い人格と心の平安、喜びを得るとともに、子孫であっても喜びを得ることができるのです。<sup>22</sup>

## 隣人に顔を向ける

同じように、「キリストの純粋な愛」<sup>23</sup>をもって隣人や友人、職場の仲間と接するとき、彼らとの関係が深まります。わたしたちに主のようになろうという気持ちがあれば、それは善に向けての強力な動機づけになります。また、人を思いやる気持ちがあれば、わたしたちは黄金律<sup>24</sup>に基づいて行動するようになります。このようにしてわたしたちは、貧しい人に食物を与え、裸でいる人に衣服を着せ、価値ある奉仕の業に携ることに喜びを見いだすことでしよう。

隣人への奉仕は、まず神を仰ぎ見ることによって新たな展開が得られます。教会において神権指導者や補助組織指導者が、主がなさるように一般の会員や定員会、クラスの生徒に顔を向けるならば、彼らは、大切なのはどの地位で奉仕するかではなく、いかに奉仕するかであると悟るでしょう。教会にあって人を高めるのは地位ではありません。忠実さです。人から注目を浴びる地位に昇ることを求め、僕よりも主人になることを望む人は、奉仕する人の士気を損なうのみならず、御業の精神をも台なしにしてしまうのです。

時として、僕と主人について混乱が起きます。「聖書」には弟子たちが「だれが一ばん偉いかと、互に論じ合っていた」とあります。イエスは言われました。「だれでも一ばん先になろうと思うならば、一ばんあとになり、みんなに仕える者とならねばならない。」<sup>25</sup>

ということは、イエスは弟子たちに、不特定多数の人々からの様々な要求にすべて応じるように、つまり食卓を用意する給仕<sup>26</sup>のようになれと言われたのでしょうか。違います。主は、主の方法で奉仕するように言われたのです。弟子たちの主人は人々ではありません。主が彼らの主人なのです。

人々に奉仕するとき、わたしたちはどちらに顔を向けるべきでしょうか。左右に向けても引いたり押ししたりしかできません。人を引き上げるには自分が高い所にいないとできないのです。高い所に行くには、横を見るのではなく、わたしたちの主を仰ぎ見なければなりません。主に頼り、主を仰ぎ見るにより良い人生を送れるように、良い奉仕をするにも主を仰ぎ見る必要があるのです。

## 立派な弟子となるための態度

指導者としての地位に召された人は、その地位にあってどのような行動を取るかについて、救い主に対して責任を負います。そしてその行動はわたしたちの態度によって形成され、態度は、謙遜な祈りの中で頭を垂れることにより高められるのです。「み前にぬかすき」という賛美歌の中にも同じような歌詞があります。

「わがたま、見守り  
わがかせ、解きたまえ  
救わるわが霊  
み前に受けたまえ  
再びみ前に  
進み行くときに  
愛もて導き  
身近に居りたまえ」<sup>27</sup>

祈りは、人生の試練に正面から立ち向かえるように、わたしたちを助けてくれます。また祈りは、わたしたちの態度を最も大切なものに集中させてくれます。祈りによるこの集中を通して、わたしたちは誘惑というわなの仕掛けられた所でも、右往左往することはないでしょう。弟子というものは、災難と隣り合わせの切り立ったがけの淵で、その危険な状態をもてあそぶようなことはしません。経験豊かな登山家は危険ながけから身を乗り出すようなことはせず、ロープやほかの安全具を使って自分の体を信頼できる人の体につなぎ、より安全な方向へと移動していきます。わたしたちも同じです。難問の山積した人生という山に登ると

き、わたしたちは主に身を寄せて主につながらなければなりません。そして福音の鉄の棒や家族、信頼できる友人にしっかりとつかまるのです。

デビッド・O・マッケイ大管長は、そのがけについてこう教えています。「わたしたちの多くがその利己心のために、自然の法則によりすべてを自己中心的に行うことを要求される、獣のジャングルと隣り合わせの所をさまよっている。」<sup>28</sup>

主は言われました。「あらゆる思いの中でわたしを仰ぎ見なさい。疑ってはならない。恐れてはならない。」<sup>29</sup>わたしはそのような信仰がわたしたちを解放する力を与えてくれることを知りました。神を仰ぎ見ることにより、わたしたちはまず何をしないかをしっかりと決めます。そしてその後は、自分がすべきことを自由に追求していくのです。

最近、ゴードン・B・ヒンクレー大管長が次のように話しました。「神への愛はあらゆる徳、あらゆる善、あらゆる人格的な強さ、正義を守り通そうとするあらゆる努力の根本です。主なるあなたの神を愛し、その御子を愛してください。そして御二方のわたしたちへの愛に心から感謝してください。たとえほかの愛が消えようとも、神のわたしたち一人一人への輝ける、何ものをも貫き通す、永遠に続く愛と、わたしたちのために命をささげくださった御子の愛はいつまでも続くのです。」<sup>30</sup>

兄弟姉妹の皆さん、人種や国籍、職業、そのほかの事柄は問題ではありません。だれでも主を仰ぎ見ることができます。だれもが主を人生において第一に置くことができます。そのようにして、しかも忠実であり続ける人は、主の最高の約束<sup>31</sup>を得ることができるのです。「自分の罪を捨て、わたしのもとに来て、わたしの名を呼び、わたしの声に従い、わたしの戒めを守る者は皆、わたしの顔を見て、わたしがいることを知るであろう。」<sup>32</sup>この栄光ある行く末がわたしたちのものとなりますように。イエス・キリストの御名により証します。アーメン。

注

1. アルマ37:47。詩篇5:3;アルマ5:19;37:37も参照
2. 出エジプト20:3。教義と聖約20:17-19も参照
3. エペソ2:19参照
4. ジョセフ・スミス訳マタイ6:38
5. ヨエル3:14参照
6. 信仰箇条1:5
7. 「聖霊に感じて」語ることは、主の心となり、主の思いとなり、主の言葉となる(教義と聖約68:4)。
8. 教義と聖約107:25
9. たくさんある中で例としては、出エジプト20:8;31:15;35:2;レビ23:3;ジェロム1:5;モーサヤ13:16;18:23;教義と聖約68:29参照
10. 列王上18:21参照
11. イザヤ58:13-14
12. たくさんある中で例としては、出エジプト20:14;レビ18:22;マタイ5:28;1コリント6:9;3ニエファイ12:28;教義と聖約42:24;59:6
13. ラムゼー・コロキアム(ラムゼーの非公式な会談)からのレポート、*Wall Street Journal* 『ウォールストリート・ジャーナル』1994年2月24日付け、p.A-18
14. ピリピ3:19
15. ローマ1:25
16. エゼキエル14:6
17. 主に頼り、主を仰ぎ見ることの重要性は、1836年1月21日付けの預言者ジョセフ・スミスへの示現の中でも強調されている。  
「わたしは小羊の十二使徒を見た。彼らは今地上において、神の教えを説く最後の務めの鍵を持ち、見知らぬ国で、円陣を作って立っている。彼らは疲れ果て、その衣服は汚れ、足ははれている。彼らはうつむいて、彼らの真ん中に立っておられる主を見ようとしな。救い主は彼らを見て涙を流された。」(*Teachings of the Prophet Joseph Smith* 『預言者ジョセフ・スミスの教え』ジョセフ・フィールディング・スミス編、p.107)



しかし、この十二使徒が後にその働きを評価されたことは、預言者ジョセフの記録をさらに読み進めることによって明らかになる。「そしてわたしは最後に、この十二使徒が日の栄えの王国で神とともにいるのを見た。また、わたしはシオンの贖いや言葉では完全には表現できない多くのことを目撃した。」(『預言者ジョセフ・スミスの教え』p.108)

18. 箴言3:5参照
19. 教義と聖約130:20-21参照。この聖句は、神からのすべての祝福はその祝福について定めた律法を守ることによって得られることを教えている。
20. アルマ34:32参照
21. 教義と聖約101:78参照
22. ジョセフ・スミス訳創世9:22には以下の見解が加えられている。「あなたの子孫が真理を受け入れて仰ぎ見るとき、シオンは見下ろすであろう。そして、諸天は歓喜に揺れ動き、地は喜びで震えるであろう。」
23. モロナイ7:47
24. 「だから、何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりさせよ。」(マタイ7:12)

25. マルコ9:34-35、下線付加。別の福音書作者は、この真理を類似した表現で紹介している。「あなたがたのうちでいちばん偉い者は、仕える人でなければならない。」(マタイ23:11)これらの聖句の中の「仕える者(人)」という言葉はギリシャ語ではdiakonosという名詞で、「人、特に主人からの命令を遂行する者」という意味になる。英語のdeacon(執事)という言葉の語源はこのdiakonosである。
26. 使徒6:2参照
27. 『賛美歌』89番
28. *Improvement Era* 『インブループメント・エラ』1957年6月号、p.390。ジェームズ・E・ファウスト副管長が次のような厳かな警告を発している。「際どく生きるという言葉には、危険な『底なし穴』の淵のすぐ近くにいるという意味もあるかもしれません。……  
皆さんの中には、際どい生き方によって、自分の強さや能力を発見できている人がいるかもしれませんが。……自分からわざわざ求めなくても、いつも自然にたくさんの危険がやって来るはずです。」(『聖徒の道』1996年1月号、p.51)
29. 教義と聖約6:36
30. リックスカレッジ地区大会、1995年10月29日、*Church News* 『チャーチニュース』1996年3月2日付け、p.2に掲載
31. 主はこのほかにもたくさんの約束をしておられる。例えば次のようなものである。  
●「あなたがたは……幸いである。なぜなら、今わたしを見て、わたしがいることを知っているように、あなたがたはわたしのもとに来て、生き[る。]」(教義と聖約45:46)  
●「わたしはあなたがたに先立って行こう。わたしはあなたがたの右にあり、また左にいる。わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。また、わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支えるであろう。」(教義と聖約84:88)
32. 教義と聖約93:1

# 知恵の言葉

## その原則と約束

十二使徒定員会会長代理  
ポイド・K・パッカー

知恵の言葉は絶対の従順を求めますが、その報いとして、健康や大いなる知識の宝、そして……神の小羊によってもたらされた贖罪しよくざいを約束します。



この聖歌隊のすばらしい若人の皆さんは、わたしたちが世界中の教会で出会う典型的な若者です。どんなに皆さんを愛していることでしょうか。若人の皆さんにどんなに感謝していることでしょうか。子供たちや青少年以上に貴重な存在はありません。わたしはそのような若人の皆さんにお話ししたいと思います。数年前、わたしはアフリカで、姿の見えないわががいかに危険が学びました。そして、若人の皆さんを滅ぼそうと待ち受けている霊のわががについて警告しました。

こうした目に見えない危険は、その数を大いに増し、今や多くの種類に及んでいます。

中には、皆さんが成長する過程で通らなければならぬ草原に隠された地

雷のようなものもあります。かつては安全だった隣近所や学校も、もはや安心できません。幸いなことに、皆さんの中には、地雷探知機のような霊的な力があります。それは目に見えないわがが地雷の存在を警告してくれるので、その使い方が分かれば、問題を避けることができます。

教会が組織されてから3年後に一つの啓示が与えられ、わたしたちの時代について預言の言葉が示されました。「見よ、まことに、主はあなたがたにこのように言う。終わりの時に陰謀を企てる人々の心の中に今あり、また将来もある悪ともくろみのゆえに、わたしはあなたがたに警告を与えており、また、啓示によりこの知恵の言葉を与えることによって、あなたがたにあらかじめ警告するものである。」(教義と聖約89：4)

知恵の言葉は、教会の会員に制限を加えています。今日では、これらの規則はすべての会員と、教会に入ろうとするすべての人に適用されます。それは非常に大切なので、まず守ることに同意しなければ、だれもバプテスマを受けて教会員になれません。それを受け入れなければ、だれも教師や指導者には召されません。神殿に入ろうとするとき、皆さんは知恵の言葉を守っているかどうか尋ねられます。もし守っていないならば、完全にふさわしくなるまで、主の宮に行くことはできないのです。

若人は一般に制限されるのを嫌うも

のです。ほんとうとは思えないかもしれませんが、わたしたちもかつては若者であり、それを覚えているのです。

人の行動を規制するものへの反発は、ほとんど社会全般に見られます。社会全体の秩序は、人々が責任の伴わない自由に取りつかれているとき、自ら崩壊していきます。そこでは、選択がその結果からどういうわけか切り離して考えられています。

若人の皆さん、知恵の言葉による制限が正当であることを示す重要な証拠があることを理解しなければなりません。

この啓示は最初、「戒めや強制」としてではなく、「あいさつ」としてもたらされました(教義と聖約89：2)。しかし、教会員にこの啓示の意味を教える機会に、後の大管長たちは、それが戒めであると宣言しました。そして教会ではそのように受け入れられています。

知恵の言葉は「約束を伴う原則として与えられ」ました(教義と聖約89：3)。この啓示の中の「原則」という言葉は、非常に重要です。原則は永続する真理、律法、規則であり、決断をする際の指針となるものです。一般に原則は詳しくは説明されていません。皆さんが永続する真理や原則をよりどころとして、自ら道を見いだす自由があるのです。

会員たちから手紙で、これやあれは知恵の言葉に反しますか、と聞かれることがあります。よく知られているように、お茶やコーヒー、酒、たばこは反しています。それ以上詳しくは説明されていません。むしろ、わたしたちはその原則を約束された祝福とともに教えます。人々は肉体と霊を損なう多くの習慣性のあるものを飲んだり、かんだり、吸ったり、注射したりしますが、それらは啓示の中に記されていません。

有害なものがすべて列挙されているのではないのです。例えばヒ素です。明らかに有毒ですが、習慣になるはずがありません。主が言われるように、すべてのことを命じられなければならない人は「怠惰であって、賢い僕では

ない]のです(教義と聖約58:26)。

ある文化圏地方では、地元の飲み物が啓示の中に明記されていないので害はないと主張されています。しかし、そのような飲み物があるために、会員たち、特に男性は、家族から離れて、明らかにこの原則に反するようなパーティーに引き寄せられてしまうのです。啓示の中でなされた約束は、不注意な人や思慮分別を欠く人には及ばないのです。

勧告に従順であれば、人生の安全な側にいることができます。

ある王様が馬車の御車を二人の中から選ぶ話があります。彼は二人の候補者ががけに沿って曲がりくねった急な道を馬車で走るように命じました。

最初の御車はゆっくりとがけから離れて壁際を走らせました。2番目の御車は見事な腕前を披露しました。彼は猛スピードでがけすれすれに下り、時には車輪の幅の半分ががけの方に出ていました。

思慮深い王様は、最初の人を自分の御車に選びました。何事においても安全な側にいるのが一番なのです。

知恵の言葉は「聖徒の中の弱い者および最も弱い者の能力に適するもの」です(教義と聖約89:3)。それはほかの聖句からも明らかです。次のように教えられています。地の良さもは「人の益と利用のため……に造られて

いる。まことに、食物のため、また衣服のため、味のため、また香りのため、体を強くするため、また霊を活気づけるために造られている。……思慮分別をもって、度を越さず、貪欲どんよくに取ることなく使うように造られたからである。」(教義と聖約59:18-20)

若人の皆さん、健康、栄養、特に薬の面で、節度と常識を用いるようにしてください。極端なことや狂信的なこと、一時的な流行を追い求めることは避けてください。

例えば、知恵の言葉は、肉を「控えめに用い[る]」(教義と聖約89:12)よう勧告しています。極端に走る人がないように、別の啓示の中ではこう告げられています。「肉を食べてはならないとして禁じる者は、神から聖任されていない。」(教義と聖約49:18)<sup>1</sup>

さらに聖文にはこうあります。「怠惰であるのをやめなさい。不純であるのをやめなさい。……必要以上に長く眠るのをやめなさい。疲れることのないように、早く床に就きなさい。あなたがたの体と精神が活気づけられるように、早起きをしなさい。」(教義と聖約88:124)

知恵の言葉の原則を遵守すれば、約束された祝福を受けるでしょう。「これらの言葉を守って行うことを覚え、数々の戒めに従順に歩むすべての聖徒たちは、そのへそに健康を受け、その

骨に髓を受け……走っても疲れることがなく、歩いても弱ることはない」と約束されるのです(教義と聖約89:18, 20)。

知恵の言葉は、完全な健康を約束しているのではなく、皆さんの持って生まれた体を最も良い状態みなまに保ち、皆さんの心が御霊みたまの微妙なささやきに反応できるようにする方法を教えてください。

わたしは軍隊にいたときに受けた祝福を忘れることができません。その祝福にはすべての若人のためになる次のような助言が含まれていました。

「あなたは、内なる霊が働けるように、均整の取れた健康な肉体を与えられています。これを大いなる受け継ぎとして大切にしなさい。保護し、守りなさい。体は神聖ですから、その組織を損なうものは何であれ取ってはなりません。体はあなたの心を納める器であり、人格の基です。」この助言はわたしに大きな影響を与えました。

啓示された標準に従う人に与えられる健康の約束は、教会員だけに限定されません。教会外の友人に知恵の言葉について話し、それを守るように勧めてください。

知恵の言葉にはさらに大いなる祝福が約束されています。すなわち、「知恵と、知識の大いなる宝、すなわち隠された宝さえ見いだす」のです(教義と聖約89:19)。これは個人的な啓示であり、それによって、姿の見えないわにや隠された地雷、そのほかの危険なものを知ることができます。

皆さんは教会員に確認されたとき、聖霊たまものの賜物を授かりました。パウロはこう記しています。「あなたがたは知らないのか。自分のからだは……自分の内に宿っている聖霊の宮で……ある。」(1コリント6:19)

主はこう言われました。「助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう。」(ヨハネ14:26)

この啓示には、最後の約束が記されています。主は従う人についてさらに



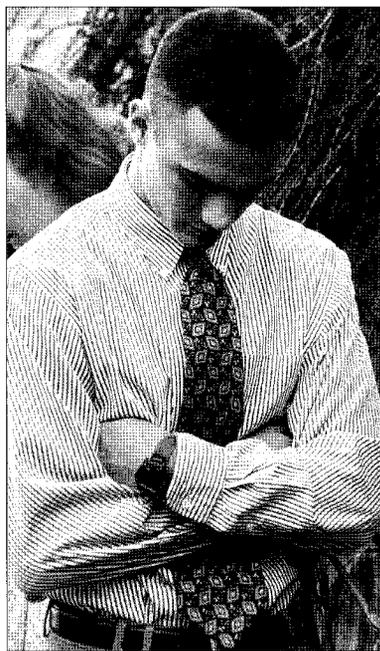
こう言われました。「一つの約束を与える。すなわち、滅ぼす天使はイスラエルの子らを過ぎ越したように彼らを過ぎ越して、彼らを殺すことはない。」(教義と聖約89：21) これはすばらしい約束です。

理解を深めるためには、モーセの時代に戻らなければなりません。イスラエルの民は400年間奴隷の状態にありました。そこにモーセが解放者として現れました。彼はエジプトに様々な災いを呼び寄せました。パロはその度に、イスラエルの民が出て行くのに同意しますが、すぐに約束を翻しました。ついに、主はモーセに言われました。「わたしは、なお一つの災を、パロとエジプトの上にくだし、その後、彼はあなたがたをここから去らせるであろう。……エジプトの国のうちのういごは……みな死ぬであろう。」(出エジプト11：1，5)

モーセはイスラエルの民にこう告げました。「小羊を取らなければならない。……小羊は傷のない……1歳の雄で……その骨を折ってはならない。」(出エジプト12：3，5，46。ヨハネ19：33も参照)

主はさらに言われました。主の祭りの子羊を用意し、「その血を取り……家の入口の二つの柱と、かもいにそれを塗らなければならない。……その夜わたしはエジプトの国を巡って、エジプトの国におる……すべてのういごを打〔つ〕であろう。……わたしはその血を見て、あなたがたの所を過ぎ越すであろう。……災が臨んで、あなたがたを滅ぼすことはないであろう。この日は……代々、永久の定めとしてこれを守らなければならない。」(出エジプト12：7，12-14)「もし、あなたがたの子供たちが『この儀式はどんな意味ですか』と問うならば、あなたがたは言いなさい、『これは主の過越の犠牲である。』」(出エジプト12：26-27)

若人の皆さん、過越における預言的な象徴が分かると思います。キリストは、傷のない初子、「神の小羊」でした(ヨハネ1：29，36)。兵士たちがその場にいたにもかかわらず、骨を折られることなく、殺されました。



しかし、これらの戒めに従順に歩むわたしたちが、そのような過越において免れるのは、肉体の死ではありません。すべての人はいつか死ぬからです。皆さんが受ける必要がないのは、霊の死です。もし従順であるなら、霊の死は皆さんを過ぎ越すでしょう。啓示が教えているように、「過越の小羊であるキリストは、すでにほふられた」からです(1コリント5：7)。

知恵の言葉は絶対の従順を求めますが、その報いとして、健康や大いなる知識の宝、そしてわたしたちを贖うためにほふられた神の小羊によってもたらされた贖罪を約束します。

犠牲の律法は、十字架の死により成就されました。主はその代わりに聖餐を定められました。それはわたしたちが永遠に守るべき儀式です。若人の皆さん、聖餐会に出席して、聖餐を取ってください。

確かに知恵の言葉は、皆さんの繊細で敏感な霊的機能を正しく反応する状態に保つために与えられました。心に感じるものを「聞く」ようにしてください。そうすれば皆さんは導きや警告、教え、祝福を受けます。

たとえ皆さんの生活がいつも不確かなもので満ちていても、若人の皆さん、将来を恐れてはなりません。

若人の夢は実現できるのです。肉体

や感情の求めるふさわしい自然な望みは、すべて満たされます。やがて伴侶を見つけて、皆さんは、常用癖や鎮静剤、刺激物とは縁のない体と、霊的な導きに敏感な心とをささげることができるようでしょう。

そして、この世から永遠にわたって結び固められ、命と子供、家族、幸福をもたらす目的で、互いの愛を自由に表現するでしょう。

もし道を外れてさまよっている人がいるなら、今こそ戻るときです。必ずできます。若人の皆さん、信仰をもって進みましょう。ニーファイのように「前もって自分のなすべきことを知らないまま」(1ニーファイ4：6)御霊に導かれて行くことでしょう。

知恵の言葉を守り、ふさわしい伴侶を探してください。忠実に教会に出席しましょう。毎日、祈りを通して助けを求めるのを怠らないでください。わたしは約束します。この道は歩みやすくなり、皆さんは平静な心と、人生や将来に対する自信とを得るでしょう。また、聖なる御霊のささやきを通して危険に対する警告を受け、必要な導きを受けるでしょう。

この啓示は、教会のすべての会員、特に教会の青少年の皆さんが、非常に多くの問題や危険、疑いに直面するとき、力強い守りになることを証します。しかし、教会の若人の皆さん、信仰を持ってください。主は皆さんとともにいて、導いてくださるでしょう。わたしは主とその犠牲と贖罪について証します。また、主が皆さんを愛しておられることをイエス・キリストの御名により証します。アーメン。

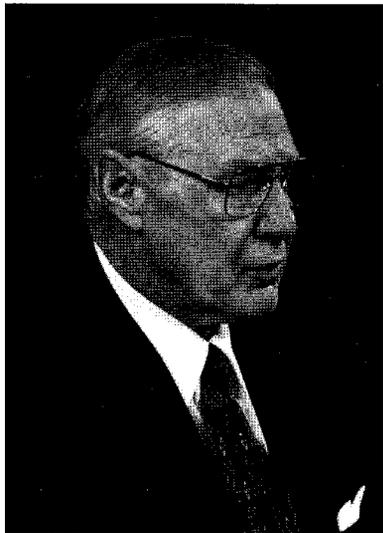
注

1. 18節は次の19節と関連している。「見よ、野の獣と空の鳥……は、食物として……人が使うように……定められているからである。」第49章は、キリスト再出現信者連合会(シーカー派)の教徒に向けて、彼らの誤った教義の幾つかを正すために与えられた。彼らの信条の一つに、生肉あるいは肉を食べないことがあった。

# 教会役員の指示

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト



**愛**する兄弟姉妹の皆さん、ヒンクレー大管長からの指示により、これから中央幹部ならびに教会の中央補助組織会長会の方々の名前を提議しますので、皆さんに賛意の表明をしていただきたいと預言者、聖見者、啓示者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてゴードン・ピトナー・ヒンクレーを支持して下さるよう、また、大管長会第一副管長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、大管長会第二副管長としてジェームズ・エストラス・ファウストを支持して下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方はその意を表してください。

十二使徒定員会会長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、十二使徒定員会会長代理としてボイド・ケネス・パッカーを、また十二使徒定員会会員としてボイド・K・パッカー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ハイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・

H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホルランド、ヘンリー・B・アイリングを支持して下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方がいれば、その意を表してください。

大管長会の副管長、十二使徒を預言者、聖見者、啓示者として支持して下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方がいれば同じようにその意を表してください。

メリル・J・ベイトマン監督はブリガム・ヤング大学学長に就任したため、管理監督の責任から榮譽の解任をし、これに伴い副監督を務めてきたH・デビッド・バートン、リチャード・C・エッジリー両副監督を同様にその責任から解任するよう提議いたします。この感謝を表明して下さる方はその意を表してください。

わたしたちはメリル・J・ベイトマン、ダラス・N・アーチボルド、ディーター・F・ウークトドルフ、そしてブルース・C・ヘーフェンを新しく七十人第一定員会の会員として支持して

下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方もその意を表してください。

またL・エドワード・ブラウン、シエルドン・F・チャイルド、クエンティン・L・クック、ウィリアム・ロルフ・カー、デニス・E・シモンズ、ジェラルド・L・テラー、フランシスコ・ビーナス、そしてリチャード・B・ワースリンを新しく七十人第二定員会の会員として指示して下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方があれば同じようにその意を表してください。

わたしたちはH・デビッド・バートンを管理監督として、リチャード・C・エッジリーを第一副監督として、キース・B・マクマリンを第二副監督として支持して下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方もその意を表してください。

わたしたちは、そのほかの中央幹部、中央補助組織会長会を現状のまま支持して下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。もし反対の方がいれば、その意を表してください。

提議は全員一致で賛意の表明が得られたようです。それでは、新しく召された七十人の方々を、壇上の席にお招きしたいと思います。

兄弟姉妹の皆さんが変わらぬ愛と祈りを込めて支持して下さることに感謝いたします。



# 教会監査委員会報告

教会監査委員会

テッド・E・デービス提出

## 末日聖徒イエス・キリスト教会大管長会への報告

**教**会監査委員会は、教会監査部を含め、教会のあらゆる役員、職員、業務、部署から独立しており、大管長会に直接報告することになっています。当委員会では、託された責任を遂行するうえで必要なあらゆる記録類、および教会職員からすべての情報を入手しました。そして、教会基金の収支管理の方針と方法について、また、教会とその管理下にある組織の資産管理の方針と方法について検討いたしました。その中には、予算編成、会計、報告および監査方式、また、それに関連した1995年12月31日現在の教会の年次財政報告書が含まれています。

年度内の教会基金の支出は、定められた方針にのっとり、<sup>じゅうきん</sup>什分の一の配分評議会で承認されました。同評議会は、

啓示によって規定されたとおり、大管長会、十二使徒定員会および管理監督会で構成されています。承認された予算の管理は、予算承認委員会の管理の下、教会予算部によって管理されています。

教会監査部は、教会監査委員会から独立しており、教会とその関連会社の1995年12月31日までの財政監査を、認可された専門の監査基準に従って管理しています。また、教会の運営全般にかかわる財政監査や運営監査、コンピューターを導入した情報システムの監査を行っています。監査部職員は、公認会計士などの資格ある会計監査役員で構成されています。教会監査部は、教会のほかのあらゆる運営と部門から独立しており、監査結果を直接大管長

会に報告しています。教会が所有または管理する会社は、標準的な実務処理方式に従って、個々に会計ならびに報告の制度を設けています。そして、教会監査部および独立した公認会計事務所、あるいはそのいずれかから監査を受けています。ブリガム・ヤング大学および教会運営のそのほかの高等教育機関は独立した公認会計事務所から監査を受けています。さらに教会監査部は、地域の教会ユニットでの監査手続きを定め、地元ユニットの監査結果と支出状況を監督しています。

財務運営の方針ならびに方法、1995年中に提出された監査報告書やそのほかの回答を検討した結果、教会監査委員会では1995年12月31日現在の教会基金の収支に関するすべての事柄は、定められた教会の方針と手続きに従って運営され、会計処理されているという見解に達しました。

以上、謹んでご報告申し上げます。

教会監査委員会

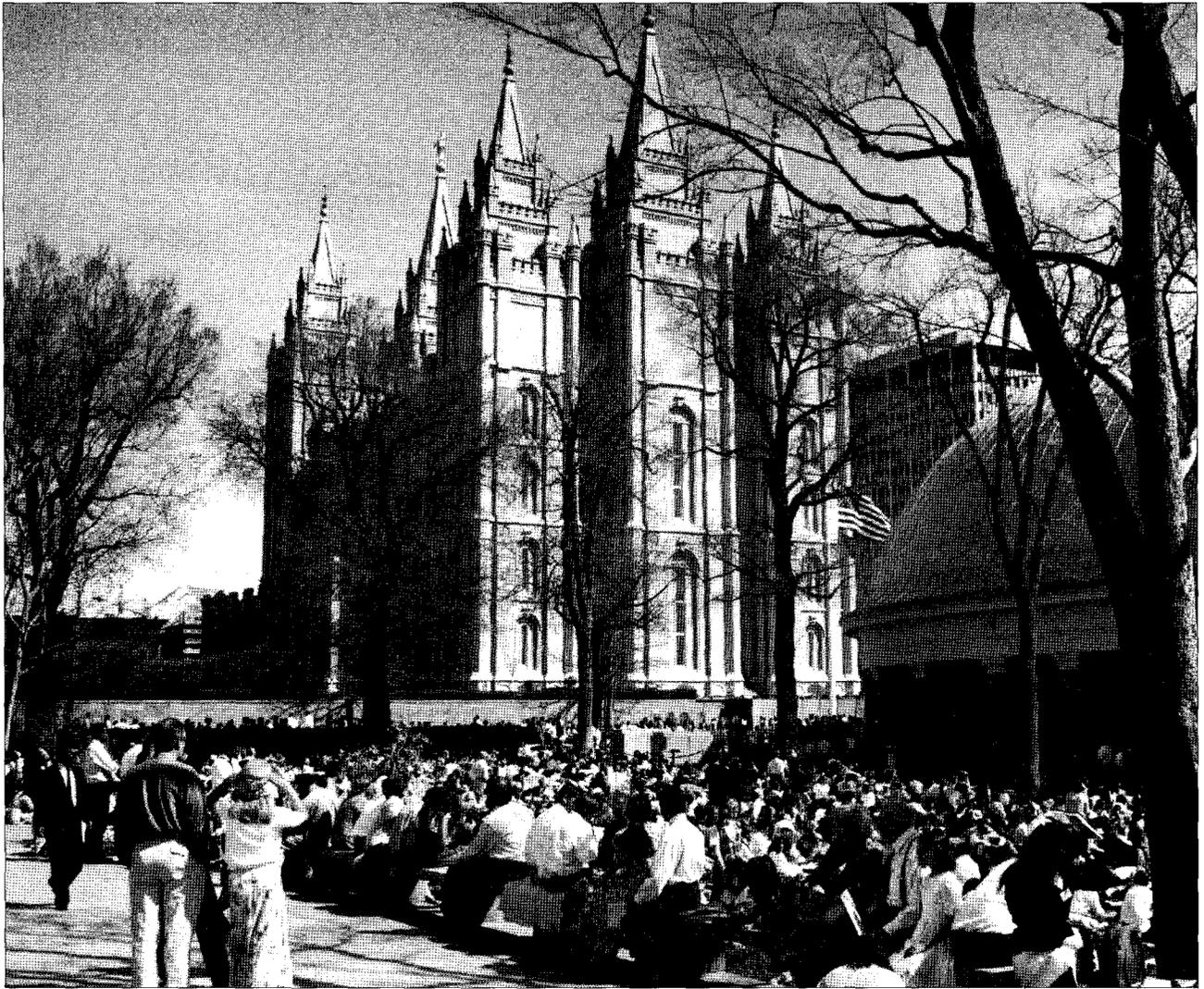
テッド・E・デービス (委員長)

ドナルド・D・サルモン

ジェームズ・B・ヤコブソン



大会前のひとときを和やかに語り合う大管長会。左から、トーマス・S・モンソン第一副管長、ゴードン・B・ヒンクレー大管長、ジェームズ・E・ファウスト第二副管長。



# 1995年度統計記録

大管長会秘書

F・マイケル・ワトソン提出

**教**管長会は、教会員の参考のため  
に、1995年12月31日現在の教会の成長と現況を示す以下のような統計記録を発表しました。

## 教会ユニット

ステーク数	2,150
地方部数	699
伝道部数	307
ワード数と支部数の合計	22,697

ワード／支部が組織されている  
独立国、属領地 159

## 教会員数

総会員数	9,340,898
1995年にバプテスマを受けた	
記録上の子供	71,139
改宗者	304,330

## 宣教師数

専任宣教師	48,631
-------	--------

## 1995年4月以降に他界した著名な教会員

ビクター・L・ブラウン名誉中央幹部、ドリス・T・シル姉妹（スターリング・W・シル名誉中央幹部の夫人）、ウェンデル・J・アシュトン元教会広報部実務ディレクター、元デゼレト日曜学校協会中央幹部書記、マーク・B・ガーフ元教会建築委員会委員長、レックス・E・リー前ブリガム・ヤング大学学長、元合衆国訟務長官、ジョージ・W・ロムニー元合衆国住宅・都市開発長官。

\*

# この御業は真実です

十二使徒定員会会員  
デビッド・B・ヘイト

かつて〔ピーター・ホイットマーの〕農家に集まった人たちが……1830年4月6日以来、あの小さな組織がどのように発展してきたかをもし彼らが目にできたなら、きっと「ただ驚く」に違いないでしょう。



**教**会の発展状況を示すこれらの統計報告を耳にした皆さんは、心に感動と燃えるものを覚えられたと思います。今日は、この教会が166年前ニューヨーク州フェイエットのピーター・ホイットマーの農家で組織された記念日に当たります。そのとき以来、どのようなことが起こったかをしばし考えていただきたいと思います。先ほど、「主イエスの愛に」(『賛美歌』109番)を歌いながら、わたしはあの農家に集まった人たちのことを考えていました。1830年4月6日以来、あの小さな組織がどのように発展してきたかをもし彼らが目にできたなら、きっと「ただ驚く」に違いないでしょう。(また、世の人々もこの教会の発展を知れば「ただ驚く」に違いないでしょう。) 開会の賛美歌が「夜明けだ、朝明けだ」(『賛美歌』1番)だったことをう

れしく思います。この歌詞はパーリー・P・ブラットが書いたものです。預言者ジョセフ・スミスから派遣された宣教師の第一陣がイギリスに到着したときに、リバプールで発行された『ミレニアル・スター (Millennial Star)』の創刊号に掲載されたものです。パーリー・P・ブラットは作詞に当たって、世の人々がこの曲から自分が何者かを多少なりとも理解できるようにとの願いを込めて、慎重に言葉を選びました。わたしたちは「夜明けだ、朝明けだ シオンの旗掲げよ」と歌うときに、風になびき、旗竿に翻るシオンの旗を心に描くことができます。わたしたちはこの自由の旗が、世界中の人々に福音の回復を宣言しているように思われてならないのです。教会が組織されてこのかた166年の間に、世界中に福音がどのように広まって行ったかを考えてみるのは、すばらしいことだと思います。

## 第8世代

F・マイケル・ワトソン兄弟が先ほど統計報告をしてくれました。わたしはその報告に付け加えたいことがあります。30分ばかり前にわたしにとってひ孫に当たる女の子が生まれました。ですから、マイケル、数を一人、増やしてください。

リグランド・リチャーズ長老が著わした『奇しきみわざ』という書物は、これまで世界中の宣教師が伝道に役立ててきました。この本の中に、ニューヨークのコネル大学の元学長で、後

にドイツでアメリカ大使を務めたアンドレ・D・ホワイト博士が経験した一つの出来事が書かれています。アメリカ大使としてドイツにいた1892年に、博士は当時、同じくドイツでロシア大使を務めていたレオ・トルストイ伯爵とひとときを過ごす機会がありました。レオ・トルストイはロシアの政治家、歴史家、作家、外交官であり、社会改革者でした。(特に皆さんに覚えておいていただきたいことは、社会改革者だったということです。トルストイは帝政ロシアで育ち、国や民衆が抑圧されることについて、ある程度の知識を持っていました。) 話し合いの中で、レオ・トルストイはホワイト博士に「アメリカの宗教について話してほしいのですが」と言いました。ホワイト博士はアメリカには多くの宗教があることを説明しました。これに対してトルストイ伯爵は「わたしが知りたいのはアメリカの宗教についてです。……世間で普通モルモン教会と言われている教会について……知りたいのです」と言いました。すると、ホワイト博士は「その教会についてはほとんど何も知りません」と答えたのです。それに対して、トルストイ伯爵は「それは驚きました、ホワイト博士。……モルモンの人たちは天国とその栄光を人人に教えているだけでなく、正しい基盤の上に互いの社会的な関係や経済的な関係を築くにはどのように毎日を送ったらよいかを教えてください。……もしモルモンの教えが変わることなく、第3世代、第4世代まで続くとすれば、世界がかつて見たこともない大きな力ある存在となるでしょう。」(『奇しきみわざ』 pp.372-373参照)

ここに集まっている皆さんに申し上げたいのですが、今日わたしたちの家族に生まれたひ孫は、正しく真実であると宣言するこの福音を信じ、受け入れた我が家の先祖から数えて8世代目に当たります。

## 召しに伴う祝福

ほんの少し前ですが、わたしは家族とともに孫娘の夫が赤ん坊のマークに

祝福する親族の輪に加わりました。父親は祝福の中で、マークがいつの日か伝道に行き、そして帰還した後に若くて魅力的な伴侶を見つけて、神殿で結び固められるように祈りました。これらの祝福が与えられているとき、わたしは自分の人生にもたらされた幾つかの霊的な祝福を、いつかマークと分かち合いたいと思いました。そしてマークの人生もまた霊的体験に満ちたものになるようにと願いました。わたしが26年前の今日、十二使徒定員会補助に召されたときに感じたと同じような祝福の喜びを、マークにも感じてほしいと思いました。その同じ日、ボイド・K・バッカー長老が十二使徒定員会に召されました。

わたしは自分が召されたそのときのことをよく覚えています。わたしはジョセフ・フィールディング・スミス大管長の事務所に呼ばれました。今日、わたしたちがピンクレー大管長を支持したように、その翌日に新しい大管長としてまた神の預言者としてスミス大管長の名前が提示され、支持されることになっていました。ハロルド・B・リーが第一副管長に、N・エルドン・タナーが第二副管長に支持されることになっていました。3人はわたしに少しの間話をした後、わたしを召しました。そして翌日の朝の大会でわたしの名前が読み上げられると言われました。こうして召しを与えられてから、あの教会執務ビルのみかげ石の階段を

下りて来ましたが、心は驚異の念でいっぱいでした。どうしてこのようなことが、どうしてこの召しがわたしなどに来たのだろうか。歩きながら、わたしの人生はこれからどのように変わるのだろうかと考えました。どのようにしたらこの責任にふさわしい働きができるだろうか。世界に出て行ってこの偉大にして栄えある団体を代表するにはどうすればよいのだろうか。心は召しのことでいっぱい、歩いている間も、今は知っている人とは顔を合わせたくないという気持ちでした。一刻も早く妻のルビーに会って、召しのことを話したいと思いました。わたしはホテル・ユタの9階に足を向けました。妻がそこである家族と会っていたからです。ドアをノックしてから、数センチだけドアを開いて、外へ出て来るように妻に手招きしたことを覚えています。言うまでもなく、妻はいぶかしげな顔をして廊下に出て来ました。

わたしは妻の手を取り、廊下を歩いたのですが、できたことと言えば妻の手をぎゅっと強く握り締めることだけでした。わたしは自分の身に起こった出来事にすっかり圧倒されて、妻に話そうにも言葉が出てきませんでした。すると妻はついに足を止めて「ねえ、何かおっしゃったら」と言いました。そこでわたしは妻をじっと見て、両腕を妻の肩に回し、何が起こったかを話したのです。すると妻は泣きだしました。わたしたちはそこで抱き合っ

ました。廊下を行き来する人たちは、泣きながら抱き合っているこの二人のおばかさんは一体だれなんだろうと思ったに違いないはずで。しかし周りのことは少しも気になりませんでした。なぜなら、二人にとってきわめて大切なことが起こっていたからです。わたしたちの人生は変わったのです。

翌日、それはちょうど今日のような日でしたが、支持を受けるためにわたしの名前が提示されました。そして壇上に来て赤いすに座るように言われました。わたしはうろたえながらも席に着きました。その後で、タバナクル合唱団が「おお、聖き贖い主 (O Divine Redeemer)」を歌いました。その歌詞の中の「おお主よ、わが罪を覚えたもうな、覚えたもうな」という歌詞まできたとき、まさにわたしの気持ちを歌っているその嘆願の言葉に、胸が張り裂ける思いでした。

#### 証

いつの日かひ孫に当たるマークやそのほかのわたしの子孫が同じような霊的体験をし、この福音の力や影響力をその身に感じることができると願っています。神権に関する啓示をスペンサー・W・キンボール大管長が受けたときに神殿でわたしが恵まれたような霊的な体験の機会が、マークやそのほかの子孫に与えられるように願っています。当時、わたしは十二使徒定員会の末席に名を連ねていました。わたしは、御霊が強く注がれたその部屋にいたのです。注がれた御霊の力がほんとうに強かったので、啓示を受けた後、わたしたちはだれ一人として言葉を出すことができず、ただ静かに退席して、それぞれの事務室に帰ったのです。天よりの霊的体験を力強く受けたわたしたちはだれ一人として言葉を発することができませんでした。

記者会見が終わって数時間後、わたしはミシガン州デトロイトのあるステーク大会を訪問する割り当てを受けました。シカゴ空港の新聞売場で、『シカゴ・トリビューン (Chicago Tribune)』紙に目が留まりました。



訪問者は、大会のメッセージを母国語で聞くことができる。大会の各説教は、34か国語で同時通訳されている。

「モルモン、黒人に神権を付与する」と大きく見出しに書かれていました。そして副題には「キンボール大管長、啓示を受けたと主張する」とありました。わたしはその新聞を買い求めましたが、副題の中の「主張」という言葉をじっと見詰めました。その言葉だけが赤い蛍光インクで印刷されていて、飛び出してくるかのようでした。接続便に乗る通路を歩きながら思いました。わたしは今、シカゴにいて人々と混雑した空港を歩いている。しかし、わたしはこの啓示の証人なのだ。わたしはその場において啓示が与えられるのを目の当たりにしたのだ。わたしは確かに天よりの力を感じたのだ。わたしは啓示を受けたそのグループの一員なのだ。あの新聞の編集者が「……啓示を受けたと主張する」と書いたとき、啓示が真実であることを知らなかったし、また印刷係も、印刷機にインクを注いだ人も、あるいは新聞を配達した人も知りませんでした。彼らはそれが真実、神よりの啓示であったことをほとんど知らないのです。彼らは、わたしがその場において知っていたことを知らないのです。

神は生きておられ、わたしたちの御父です。わたしたちは御父の子供であり、神はわたしたちを愛していらっしゃいます。イエスはキリストであり、肉における御父の独り子です。そしてわたしたちの救い主であり、贖い主です。御父に対するわたしたちの仲保者です。そしてわたしたちのために苦しみと大きな屈辱と大きな苦痛とを受けて死んでくださったのです。福音が回復されたことは真実です。いつの日かわたしたちは預言者ジョセフ・スミスの偉大さを知るでしょう。この御業はすべてが真実です。皆さんにわたしの愛と証をお伝えます。また、全世界に希望と救いのメッセージを携えて行くに当たって、必要とされる偉大な軍勢の一員に加えられるような家族を、日々育てられるようお祈りします。わたしの愛と証をイエス・キリストの御名により皆さんにお伝えます。アーメン。

# 人生に喜びを見いだす

十二使徒定員会会員

リチャード・G・スコット

**主は皆さんの個人的な進歩成長を望んでいらっしゃいます。この進歩は、皆さんが成長のための経験を前にする度に、進んで主の導きを求めていくならいっそう速められるでしょう。**



**最**近、わたしは美しい太平洋の島の北岸にたたずみ、夜明けの海に入っていました。大波が絶え間なく岸辺に打ちつける、規則性に魅了されていたのです。それは主の計画の不変性と、そこに付随する確固とした永遠の律法、不朽の正義による安心感、憐れみに満ちた優しさを、わたしに連想させます。やがてわたしは、一つ一つの波が水平線のあちこちで波頭を立て、独自の道をたどって岸に寄せることに気づきました。波によっては、岩の上に滝のように覆いかぶさり、白いしぶきを残していきます。ほかの波も、それぞれが独自のパターンで、岸に打ちつけています。波はしぶきとともに、ぬれた砂浜に打ち寄せては渦を巻き、引いていきます。

わたしは、主が備えてくださった尽きることのない様々な可能性について

思いをはせました。わたしたちにはたくさんの自由があり、自分の個性や才能、賜物を伸ばしていく多くの機会が与えられています。このように雄大な海を目にする機会はもうないと思いつつ、わたしは輝く太陽がしばらく後につくり出す、栄光に満ちた美しい光景を想像してみました。畏敬の念を込めてその壮大な景観を眺めていると、昇る朝日のきらきらした光が、よどんだ空の雲間から差し込み、万物に輝きと光彩、生命を吹き込んでいきます。あたかも主がさらなる祝福、すなわち福音の光を与え、それに触れる万人に輝きと希望を与えようとしていらっしゃるかのようです。わたしたちの暮らすこのすばらしい世界、天父が万人に惜しみなく与えられたこのたぐいまれな美しい世界を思うと、わたしの目に涙が込み上げてきました。まことに人生とは美しいものです。

皆さんは毎日時間を割いて、身の回りの美に目を向けていらっしゃるか。最後に日没の美しさを見てから、どのくらいたつでしょうか。薄らぐ光は、雲や木々、丘や谷を暗闇の中に残して消えていきます。日は、時に静かに、時に赤々とした夕焼けを伴って、たそがれていきます。皆さんは雲一つない夜の美しさに見入ったことがあるでしょうか。主が天の神秘のとばりを取り除かれ、わたしたちはまばたく星々や月の光を見て、主の偉大さと栄光に思いをはせるのです。肥沃な土壌に植えられた種が発芽し、力を結集してちっぽけな芽をはぐくんでいくさまは、感動的です。そして少しずつ

生長し、主に授かった遺伝情報に従い、本来の姿に生長していきます。大切に育ててやれば、確かにその本来の花を咲かせます。ゆり、はっか、桃、アボカド、それぞれが美しく見事で、かぐわしい花を咲かせます。小さなばらのつぼみができるのを、最後に見たのはいつでしょうか。ばらは日ごとに新しく、感動的な姿へと生長し、華麗なばらの花を咲かせます。皆さんも神の麗しい被造物の一つです。主は皆さんの人生がどのような環境にあっても、栄光に満ちたすばらしい者となるよう望んでいらっしゃいます。皆さんが感謝で心を満たし、従順であれば、神の御心にかなう人になれるでしょう。

悲しみや失望、苦難は人生の中の「事件」であって、人生そのものではありません。わたしはこうした事件の厳しさを軽視するつもりはありません。これらは長期間続く場合もありますが、そのために人生そのものが縛られてはなりません。主はリーハイに次のような基本的な真理を説くよう、靈感を与えられました。「人が存在するのは喜びを得るためである。」この喜びは人がある条件に従うときに得られるものです。主はわたしたち一人一人が喜びを得るよう願っていらっしゃいます。戒めに従い、主に信仰を持ち、地上で喜びを得るために必要なことを行ってください。

人生で喜びが得られるかどうかは皆さんが天父と御子をどれだけ信頼しているかにかかっています。また、神の幸福の計画が喜びをもたらすことを、どれだけ確信しているかにかかっています。神の教えに思いを巡らすなら、自然の美を楽しみ、人々との関係をより豊かにできるでしょう。天父への祈りから生じる慰めに満ちた、力あふれる経験をし、神が与えてくださる答えへと導かれるでしょう。

目の前の小石は巨大な障害物に思えるものです。しかし大地に目をやれば、ほんとうの姿をとらえることができます。同様に人生の問題や試練も、聖文の教えに照らして永遠の見地で見ることがあります。そうでないと、わたしたちはその問題しか目に入らないよう



になり、そのことに力を出し尽くしてしまい、主が地上でわたしたちに意図されておられる喜びを感じられなくなってしまいます。問題という海の中に投げ込まれた岩のような人々がいます。彼らは自ら問題の中に沈んでしまいます。コルクのようであってください。問題におぼれそうになったら、自由を目指して浮き上がるまで戦い、再び幸福な気持ちで奉仕できるようになってください。

皆さんは神聖な目的のために地上に來ています。際限なく楽しみ、飽くことなく娯楽を追求するためではありません。神が用意された、さらなる祝福を受けられるよう、試され、自分自身を証明するために存在しているのです。<sup>2</sup>忍耐力も要求されます。<sup>3</sup>この世で与えられる祝福もあれば、来世でもたらされる祝福もあるからです。主は皆さんの個人的な進歩成長を望んでいらっしゃいます。この進歩は、皆さんが成長のための経験を前にする度に、最初から好き嫌いを言わず、進んで主の導きを求めていくならいっそう速められるでしょう。主を信頼し、主の御心に心と思いを進んで向け、御心を行え

るよう御霊の導きを求めるなら、皆さんは道を進みながら最大の幸福を得、現世の生涯で最もすばらしい達成感を味わえるでしょう。逆に、求められていることすべてに疑念を抱き、難しいチャレンジをすべて拒んでいくなら、主の祝福を自ら遠ざけることになりま

す。<sup>4</sup> 選択の自由、つまり選び取る権利は、欲しいものを手に入れるために与えられているものではありません。この神聖な賜物は、天父が皆さんに望まれる事柄を選べるようにするために与えられています。それによって、皆さんは主に導かれ、主の御心にかなう人物となれます。<sup>5</sup>この道が栄光に満ちた喜びと幸福に皆さんを導いてくれます。

チャレンジを受け入れ、逆境にあっても喜びをもって生活している立派な人々から学んでください。ある美しい若い女性が進行性の病気にかかって余命いくばくもない状態でしたが、人生に喜びを見いだしました。彼女は幸福の計画を理解し、神殿の儀式を受け、約束された祝福にふさわしくあろうと最善を尽くしていました。彼女の日記を紹介しましょう。「今日はすばらし

い秋日和。郵便を取りに行き、揺りいすに腰かけた。暖かいお日様、自然や木々のすてきな香りがとてもうれしかった。この美しい地上にまだ生きていられることを心からうれしく思った。……主はわたしにほんとうによくしてくださる。まだ生きていられること、こんなに気分がいいことを、主にどう感謝したらいいかしら。うれしくて、うれしくて、叫びたくなる。大きな窓から降り注ぐお日様を感じながら、家中を踊り回りたい気分。わたし、生きることが大好き。』

体力を奪う病氣と果敢に闘っているある母親は、計り知れないほどの時間を費やした苦勞の末、大きな刺しゅうを完成させました。それは試練に直面している夫婦への贈り物でした。その夫婦にとってこの刺しゅうは貴重な宝物になりました。それは逆境に直面しても負けない不屈の努力の結実であり、純粹な愛と献身の精神を伝える不朽のメッセージでした。

子供たちは困難な状況の下でさえ喜びを見いだすすべを知っています。子供たちは、自分にはないものにこだわって落胆することがありません。彼らは自分にあるものに喜びを見いだすからです。わたしは、川辺で遊んでいたある幼い男の子のことを覚えています。この男の子は2本のジュースの空缶に、釣り糸の両端をそれぞれくりつけ、一方の缶を放り投げて木の枝の上に通してから、その缶に川の水をいっぱい満たしました。次にもう一方の缶をたぐり寄せ、手を離します。すると、最初の缶の重みで二つ目の缶が引っぱり上げられました。男の子は大喜びで飛び跳ねていました。

わたしたちの周りにはたやすく楽しい気分させてくれる経験がたくさんあります。こうした経験は緊張を解きほぐし、精神を活気づける安全弁の役割を果たすときがあります。自分にはないものや失ってしまったものにこだわらないようにしましょう。主は従順な人には、主がお持ちのすべてのものを与えると約束されました。この世では一時的に何かに恵まれないかもしれませんが、しかし忠実な生活により、ふさ

わしさを証明するなら、来世では完全な恵みを受けられるでしょう。

主の知恵により、皆さんのとても必要としているものを主が取り上げられたときには、その代わりとして主がどんな祝福を授けてくださったか考えてみてください。視力や聴力を失った人のために、主はほかの感覚を研ぎ澄ましてくださいます。病にある人には忍耐と思いやり、人の親切に感謝する心を与えてくださいます。愛する人に先立たれた人には、愛のきずなを強め、豊かな思い出を授け、将来の再会に希望の光をともしてください。主の御心を喜んで受け入れ、主への信仰を行使するなら、このような補うために与えられた祝福に気づくでしょう。』

苦しめられていたアルマの民に主はこう言われました。『「またわたしは、あなたがたの肩に負わされる荷を軽くし……あなたがたの背にその荷が感じられないほどにしよう。わたしがこのようにするのは、あなたがたがその後、わたしのために証人になれるようになるため、また主なる神であるわたしが、苦難の中にある自分の民を訪れるということ、あなたがたが確かに知ることができるようにするためである。』

そこで、……負わされた重荷は軽くなった。まことに、主は、彼らが容易に重荷に耐えられるように彼らを強くされた。そこで彼らは心楽しく忍耐して、主の御心にすべて従った。』(モーサヤ24：14-15)

皆さんの創造性を発揮してください。そこには喜びがあります。カミラ・キンボール姉妹、アメリア・マッコンキー姉妹、ヘレン・リチャーズ姉妹は、彼女たちの高潔な夫が天に召されてから、油絵を学びました。彼女たちは美しい絵を残すだけではありません。日没の風景も人物画も、木の絵も描く度に違うとらえ方をします。今、彼女たちは微妙な色合いや形状を描き、身の回りの美に喜びを見いだしています。音楽、ダンス、彫刻、詩などに目を向けてください。創造性を発揮することで人生は楽しくなります。感謝の心が増します。隠れた才能が引き出され、思考力や行動力が高められ、人生の目

的への理解を深めることができます。また、孤独や心痛は消散し、気分転換になり、意欲、生きがいもたらされます。

率先して人に奉仕することは、永続する幸福を得る鍵です。キンボール大管長は次のように言いました。「神はわたしたちを心にかけ、わたしたちを見守っていらっしゃる。しかし普通の場合、神は人を通してわたしたちの必要にこたえられる。』わたしの知人で、喜びに輝くばかりの幸福な女性がいました。彼女は毎朝、天父に「今日、わたしが助けられる人のもとに、わたしを導いてください」と祈り求めました。その心からの祈りは繰り返されませんでした。彼女のおかげで多くの人の重荷が軽くされ、生活に輝きを取り戻しました。このように主に導かれた器となることで、彼女は絶えず祝福を受けてきたのです。

人生で直面するすべての困難は、たとえそれが自分の不注意や背きによりもたらされたものでも、主によって成長のための経験、神に近づく階段に変えることができます。わたしは背きを、成長のステップとして推薦しているわけでは決してありません。背きは心痛と困難を伴う、まったく必要のないものです。正しい道を歩む方ははるかに賢明で容易です。しかし正しい悔い改めと主イエス・キリストへの信仰、戒めへの従順さを通して、背きのもたらす落胆から幸福を取り戻すことができます。

以下のような幸福を得るためのリストを作ってみてください。

●主の幸福の計画を理解するために、聖文について深く考える。

●イエス・キリストを信じる信仰をもって祈る。

●人を愛し、人に仕える。

●神殿の儀式を受け、死者に祝福をもたらす。

●預言者の言葉に耳を傾け、その勧告に従う

●自分に与えられているものに感謝する。

●ほほえみを絶やさない。

このようなリストは、満足と喜びを

もたらす<sup>かぎ</sup>鍵となります。

有名なブラジルの歌には、大勢の人が信じている次のような偽りの歌詞があります。「悲しみは尽きず、幸せは短い。」わたしは救い主への信仰を込めて、また主の教えに照らして証します。「幸福は決して尽きず、悲しみは終わります。」

皆さんや皆さんの愛する人々がどんな困難に遭遇しても、打ち負かされたり、それだけに心を奪われたりしてはなりません。チャレンジは成長につながる経験です。苦難は幸福な生涯の中で一過性のものにすぎません。一つのことだけで頭がいっぱいになり、ほかに何も考えられなくなったり、自分のことも、頼ってくる人のこともできなくなったりするようではいけません。ちょうど体を治すときと同じように、霊的、情緒的な問題を克服するにも時間が必要なことを忘れないでください。

主はこう言われました。「苦難の中で忍耐強くありなさい。あなたは多くの苦難を受けるからである。しかし、そ

れに耐えなさい。見よ、わたしはあなたの生涯の最後まで、あなたとともにいるからである。」<sup>9</sup>忍耐強くあれば「わたしはあなたとともにいる」という御言葉の意味が分かるようになるでしょう。神の愛は平安と喜びをもたらします。

イエス・キリストを信じる信仰によって人生に不変の意義が生じます。皆さんは永遠の命を目指す旅路にいることを覚えておく必要があります。時折、人と比べて不遇な経験をするかもしれませんが。しかしすべてのことには、主の目的があります。<sup>10</sup>

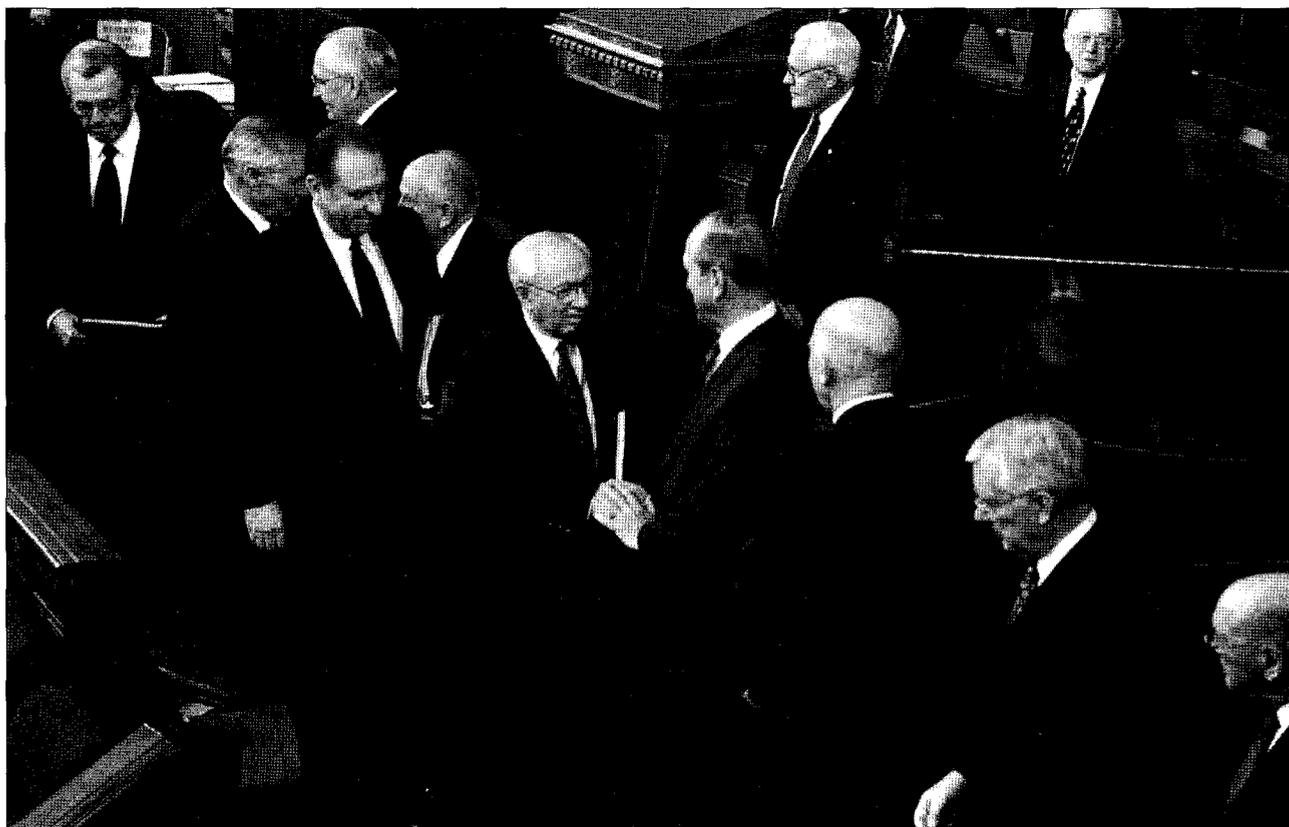
救い主の証人としてお勧めします。自分を傷つけた人を赦してください。自分に背きのある場合は、悔い改めて、主から癒しを受けてください。

天父と御子が幸福の計画とそれに基づいた福音の原則を与えてくださったことに感謝しましょう。神と御子が備えてくださった儀式と聖約に感謝しましょう。御二方には人の生活に平安と喜び、目的と意義を与える力を備えておられることを、わたしは厳粛に証い

たします。悲しみと落胆は一時的なものです。しかし幸福はイエス・キリストにより永遠に続きます。主が生きておられ、皆さんを愛し、助けてくださることを証します。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

1. 2ニーファイ2:25
2. アブラハム3:25参照
3. モーサヤ3:19参照
4. 1ニーファイ3:7参照
5. 教義と聖約58:26-32参照
6. オーソン・F・ホイットニー (スペンサー・W・キンボール、*Faith Precedes the Miracle* 『奇跡に先駆ける信仰』p.98に引用)
7. 「人生には目的がある」『聖徒の道』1975年8月号、p.339
8. イザヤ40:31参照
9. 教義と聖約24:8
10. ジョセフ・F・スミス『福音の教義』(第5版、1939年、英文) p. 177参照



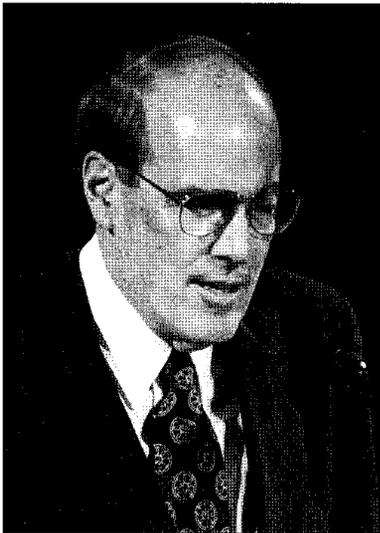
部会終了後、十二使徒定員会会員たちとあいさつを交わす、ファウスト副管長、モンソン副管長、ヒンクレー大管長。

# 決意

七十人

F・バートン・ハワード

わたしたちは主に心をささげるまでは、また、約束を履行する態度を身に付けるまでは、真の平安を感じるなどできないのです。



**妻**とわたしが結婚した当初、わたしの両親はよその州に住んでいました。そこで大学の休みを利用して、夫婦で両親を訪ねることにしました。

サンドイッチを作り、荷物を車に詰め、後部座席にはベッドを用意して、幼い息子が10時間の長旅の間休めるようにしました。車内での丸1日が過ぎるころには、妻もわたしもいらいらし始めていました。学齢前の息子が、眠るところか一日中騒ぎ続けていたからです。ほんの少しでも目を閉じて、静かにしてくれれば、彼はすぐに眠りに落ちたことでしょう。

日が暮れ、到着まであと2時間くらいというとき、わたしたちはあるゲームをすることにしました。ゲームの目的は、疲れ切った息子を眠らせることにありました。そのゲームとは「隠れん坊」です。車の中で隠れん坊をしたことがあるでしょうか。どうやったか

を説明しましょう。まず、後ろの席の子供に「隠れん坊しようか」と持ちかけます。息子は大賛成です。そうしてこう言うのです。「じゃ、目をつぶって、『もういいよ』と言うまで目を開けちゃだめだよ。隠れるのに時間がかかるからね。」

こうしてゲーム開始です。前にいるわたしたちは、シートの下にしゃがんで10秒ほどで「もういいよ」と言いました。息子はシートに身を乗り出して、「見つけた」と言ってきます。そこでこう言います。「今度はもっと上手に隠れるからね、もう一度目をつぶっておくれ。」そして、1分ほど過ぎたところで「もういいよ」と言うと、また息子が元気いっぱいシートから身を乗り出し、わたしたちを見つけるのです。最後にこう言いました。「今度はすごくいい場所を見つけたんだけど、ちょっと時間がかかる。目を閉じて。ちゃんと合図するから。」

1分、2分、そして5分が過ぎました。わたしたちは静かに運転を続けました。静寂は何とすばらしいことでしょう。20キロほど運転したところで、わたしたち二人は、この手の込んだゲームの成功を静かに祝いました。そのときです。後部座席から、打ちひしがれた息子のすすり泣く声が聞こえてきたのです。「合図をするって言ったのにしてくれなかったじゃないか。」

「すると言ったのに、してくれなかった。」何と厳しい責め言葉でしょうか。あのとときのことは生涯忘れられません。わたしたち夫婦は、そのようなゲームは二度としてはならないと思ったものです。

教会員は、多くの事柄の実行を決意します。互いに仕え、悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めることに同意します。互いに訪問し合うことを約束します。聖約を交わします。福音を分かち合い、死者のために身代わりの儀式を行うことにも同意します。しかし、かつての車内での出来事のように、わたしたちは時折、自分で同意しておきながら、行わないことがあるのです。

正当化は幾らでもできます。「後でするつもりです」とか「今はもっと大事なことがあるんです」とか「気分が悪い」「ふさわしくない気がする」「狂信的な人にはなりたくない」などです。

実行を先延ばしにしようとする人について考えると、あるステーキ大会で一人の男性から受けた次のような質問を思い出します。「ハワード兄弟、どうしてわたしたちが83パーセント以上のホームティーチングを達成できないかお分かりですか。」わたしは「いいえ、どうしてですか」と尋ね返しました。「ハロウィーンと大みそかは、だれもいつもの月末の訪問をしたがりませんからね。」

気分が優れないので奉仕できないという言葉を耳にすると、かつて訪問したメキシコのステーキを思い出します。ステーキ会長が奥さんから学んだ教訓について話してくれました。ステーキ大会の前の週、彼は幾つかのホームティーチングを予定していたのですが、仕事から帰ったとき、気分が優れませんでした。奥さんに「病気みたいだからホームティーチングには行かないでおこうと思うんだ」と伝えました。奥さんの返事は「病気でも行きなさい」でした。結局、彼は行くことにしました。

以前、こう言う人と話したことがあります。「もう少しやろうと思えばできるんだけど、狂信的な人にはなりたくないからね。」彼の言葉を聞いて、以前に耳にしたある定義を思い出しました。「狂信者とは、状況が同じなら、主も同じことをなされたであろうと思いついて、実行する人のことである。」しかし、ほんとうにすべてを御存じの

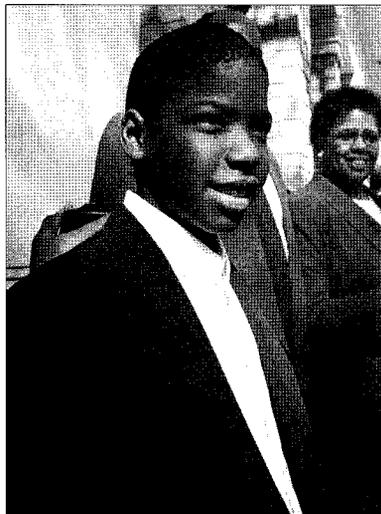
主は狂信者ではありません。また、主がほんとうにするよう望んでおられることを行う人も狂信者ではありません。

自分にはしなければならぬもっと大事なことがあるんだ、と人が言うのを聞くとき、そんなことがあり得るだろうかと思ってしまいます。主と交わした約束を守ることに以上で大切なこととは、一体何なのでしょう。

各地の教会を訪問する度に、わたしはステーク会長に、「今どんな問題を抱えていますか」とか、「いちばん必要と感じるのはどんなことですか」と尋ねます。よく返ってくる答えはこうです。「皆すばらしい人々ですが、さらなる決意と献身の必要な人がいることです。もっと、熱心に御業に携わる必要があるのです。」

教会は多くの必要を抱えています、その一つは、行うと決意したことを確実に実行する人が必要だということです。つまり、仕事に着手し、休まず取り組む人です。寡黙に、辛抱強く、一貫して、決意したことを実行する人です。どれだけ時間がかかろうとも、やり遂げるまでは手を休めない人です。

わたしが英雄視する人物の中に、アブラハムの僕がいます。イサクのために妻を探しに遣わされた人です。その人の名前は明らかにされていません。彼の生涯についても不明ですが、その人格についてはよく分かります。彼はアブラハムの財産のすべてを任されていた。信頼に値する人物で、実際



に信頼されていました。やがて、すべてのうち最も重要な事柄、つまり息子の昇栄にかかわる事柄をアブラハムがこの僕の決断にゆだねる日が訪れました。

アブラハムはイサクに、自分が主と交わした聖約の継承者になってほしいと望んでいました。アブラハムは、「この聖約の祝福は、イサクが神を信じる善良でふさわしい女性と結婚しないかぎり、成就しない」と知っていました。カナン人の女性には、イスラエルの母親となる資格はありませんでした。そこでアブラハムは僕に、息子をカナン人と結婚させない、と約束させました。そして、僕を先祖の国に遣わし、イサクのために妻を探させたのです。

僕はその誓いを受け入れ、旅に出かけました。長い旅でした。きっと数々の試練や苦難に遭遇したことでしょう。ようやく目的地に到着した彼は、そこで多くの若い女性を目にしました。僕は彼女たちのだれがイサクの妻として予任されているか知るために、あるテストを考案しました。こうして信仰を行使し、彼はリベカと出会い、その家族の家に到着し、彼らと親しくなりました。彼らは僕を食事に招きました。砂漠での長旅を終え、飢え渴いていたにもかかわらず、この忠実な僕は言いました。「わたしは用向きを話すまでは食べません。」(創世24:33)

こうして彼は旅の目的とアブラハムとの誓いについて説明しました。次の短い言葉が僕の忠実さと謙遜さを物語っています。「わたしはアブラハムのしもべです。」(創世24:34) 親族は10日間の祝宴を願いましたが、僕は答えました。「主はわたしの道にさいわいを与えられましたから、わたしを引きとめずに、主人のもとに帰らせてください。」(創世24:56)

このような状況では多くの人があるところにとどまったことでしょう。長旅で疲れ、飢え渴いているからということでも少し骨休めすることを正当化したことでしょう。堅物と思われたくないがために、しばらく滞在したかもしれません。

この用向きの大切さを理解していない人なら、嫁探しにそんな遠くまで旅するなんてばかげていると言って、アブラハムにその割り当てを取り消させようとするかもしれません。街中の若い女性の中から主の選ばれた人を探し出すのに必要な信仰を持ち合わせていないかもしれません。しかし、この僕はやり逃げたのです。

彼は自分の召しを尊んで大いなるものとし、主人との約束を達成する方法を知っていました。とても重要な真理をよく理解していました。約束は、単なる美辞麗句ではないということです。約束には永遠の行く末がかかっているのです。

わたしたちは聖約の民です。もし、教会の会員に極立った特徴があるとすれば、それはわたしたちが聖約を交わしているということです。わたしたちは、聖約を守る民としても知られるように努めなければなりません。約束を交わすのは簡単ですが、それを守り通し、履行していくのは並大抵のことではありません。それには、任務を遂行する力と、たゆまぬ努力、確固とした意志が必要です。疑念や落胆を感じる時も、また成否にかかわらず、信仰を守り、最後まで忠実でいることが求められます。それは全霊を込めて主に近づくことでもあります。約束は何であろうと、全力を尽くして実行することでもあります。気分が乗らないときでもです。

かつてわたしはM・ラッセル・バラード長老とともにある葬儀に参列しました。そこで彼が語った弔辞は今でも、わたしの心に残っています。こう言ったのです。「末日聖徒にとつての人生は、その人が燃えるような証を携えて安らかな死を迎えるまでは終わりとは言えない。」「安らかな死」、何とチャレンジに満ちた概念でしょうか。兄弟姉妹、わたしたちは主に心をささげるまでは、また、約束を履行する態度を身に付けるまでは、真の平安を感じるなどできないのです。

わたしたちがそのとおりに行えますように、イエス・キリストの御名によりお祈りします。アーメン。

# 一握りの粉と少しの油

十二使徒定員会会員

ジェフリー・R・ホランド

わたしたち一人一人には何かができます。……正当な理由がある場合、また困っている人がいる場合、わたしたちはお金があれば時間をささげることができます。時間がなくなったら愛をささげることができます。



**新**たに支持された兄弟の方々と奥様方を、中央幹部とその家族の輪に歓迎したいと思います。

アハブ王のひどい悪事に対して、主は預言者エリヤを通して天を閉じられ、イスラエル全土に雨どころか露一滴さえ降りないようにされました。そして、干ばつとそれに続く飢饉は、無数の人々を苦しめますが、エリヤも例外ではありませんでした。

確かに、からすがパンと肉をエリヤに運んでくれました。でも、運んだ食物がそれだけだとしたら、決して満足できる食事ではなかったでしょう。程なくして、彼が隠れていた場所の近くの、飲み水を得ていたケリテ川も干上がり、3年の年月が経過します。

そして、預言者エリヤがアハブ王との最後の対決の準備ができたとき、神は彼にザレパテの町に行くように言わ

れました。一人のやもめに彼の世話をするように命じてあるとおっしゃるのです。

疲れた足取りで町に入ると、エリヤと同じようにやつれた女性が彼を迎えました。恐らく、このどのの渴いた旅人は、申し訳なさそうに頼んだことでしょう。「器に水を少し持ってきて、わたしに飲ませてください。」彼女がその申し出にこたえようと背を向けると、エリヤはそれにさらにこう付け加えました。「手に一口のパンを持ってきてください。」

エリヤが同情すべき状況にあったことは明らかです。それに、やもめの女はそうした申し出にこたえられるように、主から備えられていました。しかし、自分自身弱り果て、打ちひしがれた状態の彼女にとって、エリヤの最後の願いは、幾ら忠実な女性といえども忍耐の限界を超えていたのではないのでしょうか。飢えと疲れと母親としての苦悩の中で、彼女はその見知らぬ人にこう叫びます。「あなたの神、主は生きておられます。わたしにはパンはありません。ただ、かめに一握りの粉と、びんに少しの油があるだけです。今わたしはたきぎ2、3本を拾い〔この記述は、粉が調理にほんのわずかの火力しか必要としないほどの量であったことを物語っています〕、うちへ帰って、わたしと子供のためにそれを調理し、それを食べて死のうとしているのです。」

しかし、エリヤには主の用向きがありました。このやもめとやもめの息子を含めたイスラエルの未来が危険にさ

らされているのです。エリヤの預言者としての義務は、彼の間人としての意志にかかわりなく、彼をさらに大胆にさせます。

「恐れるにはおよばない。」彼は言います。「しかしまず、それでわたしのために小さなパンを、一つ作って持ってきて下さい。その後、あなたと、あなたの子供のために作りなさい。」

『主が雨を地のおもてに降らす日まで、かめの粉は尽きず、びんの油は絶えない』とイスラエルの神、主が言われるからです。』

そして、やもめの女の信仰が控えめに表現されます。わたしは、これらの状況の下での信仰として、これほどの偉大な姿を聖文の中から見いだすことができません。「彼女は行って、エリヤが言ったとおりにした。」記録にはそのように簡単に記してあるだけです。このやもめは、自分の信仰が自分と息子にどのような結果をもたらすかを知らずに、まず最初に小さなパンをエリヤに差し出しました。これは、たとえ十分なパンが残らなかったとしても、少なくとも自分と息子は純粋な愛のうちに死ぬるという信仰の現れでした。幸いこの話は、彼女と息子にとってハッピーエンドで終わっています。』

この女性は、イエスが心から称賛されたもう一人の女性と似ています。わずかな金額ながら自分の有り金すべてであるレプタ二つを宮のさい銭箱に入れた女性です。イエスは、彼女はその日だれよりも多くささげたと言われました。』

残念ながら、この二人の女性の名前は『聖書』には記されていません。でも、もし来世で彼女たちに会う機会があれば、わたしは彼女たちの足もとにひざまずき、「ありがとう」と言うでしょう。すばらしい生き方に、驚くべき模範に、そして、あなたがたの心の中であってそのような「清い心……から出てくる愛」を生み出す敬神の念に感謝しますと。

事実、彼女たちのために、今日、直接何かしてあげられたらと思います。伴侶に先立たれた方々、父親不在の方方、不利益と抑圧を余儀なくされてい

る方々、飢えや凍えに苦しみ、帰るべき家のない方々のために話ができればと願っています。主がいつも愛され、特に差し迫った問題として語られた方々のために話ができればと思います。<sup>4</sup> わたしが話したいのは、貧しい人々についてです。

『モルモン書』には一つのひどく恥ずべき行為が記されています。高慢で思いやりのないゾーラム人の話です。彼らはラミアンプトムという塔の上に登り、自分たちが神から特別待遇を受けていることを宣言したすぐ後に、貧しい人々を会堂から追い払いました。その会堂は、貧しい人々が自分たちの手で建てたものなのです。啓示によると、貧しい人々はその貧しさだけのために追い払われたとあります。生活に必要なものを持ち合わせていない人々の現実の痛みと苦しみを指摘してやまない、わたしたちの心を貫き通すような聖句の中で、『モルモン書』はこう語っています。「彼らは……この世のものに関して貧しく、心が謙遜であった。」<sup>5</sup> 事実、彼らは「この世のものに関して貧しいために心が謙遜になっている」人々でした。<sup>5</sup>

この貧しい人々にゾーラム人が示した傲慢で排他的な態度とはまったく対照的に、アミュレクはイエス・キリストの贖罪について人々の心を揺さぶる説教をしました。キリストの賜物は「無限かつ永遠」のものであり、この世に生を受けるあらゆる男、女、子供に与えられることを教えたアミュレクは、キリストが授けてくださる賜物の一つである憐れみについても証しています。彼は、贖罪の憐れみを受けるためにどこでどのようにして祈ったらよいかを列挙しました。そして「あなたがたの幸いと、あなたがたの周りの人々の幸い」を思って祈るように言っています。<sup>6</sup>

しかし、贖罪に関するこの見事な説教はこれで終わりではありませんでした。アミュレクはこの熱烈な祈りについて非常に率直な言葉でこう述べています。「これですべてであると思っ

人を追い払ったり、病気の人や苦しんでいる人を見舞わなかったり、自分には持ち物がありながら、それを必要としている人々に分け与えなかったりするならば、あなたがたに言うが、もしあなたがたがこれらのことのどれも行いうことがなければ、見よ、あなたがたの祈りはむなしく、何の役にも立たない。あなたがたは信仰を否定する偽善者と同じである。』<sup>7</sup>

これがそれほどまでに貧しい人々へのメッセージであるならば、わたしたちは何をしなければならぬでしょうか。

アミュレクはここで、ベニヤミン王がそれよりも50年前に用いたとまったく同じ神学上の論理を用いています。ゼラヘムラの民にアダムの墮落とイエス・キリストの贖罪について教えた後で、ベニヤミン王は民が文字どおり地に伏してしまうのを目撃しました。民は自分たちが恵みを必要としていること、ベニヤミン王の言葉のように大地のちりよりも劣っていることに気づいたのです。(このゼラヘムラの民とラミアンプトムを用いた民との違いは歴然としています。)

「そして彼らは皆、声を合わせて大声で叫んだ。『おお、憐れんでください。わたしたちが罪の赦しを受けて心が清められるように、キリストの贖いの血の効力を及ぼしてください。』」<sup>8</sup>

この民は容易に主の教えを受け入れ、謙遜で憐れみ深く、だれもが好ましい言葉を口にしました。ベニヤミン王は主の贖罪と罪の赦しについて次のように述べています。

「さて、もしもあなたがたを造られた神、あなたがたが自分の命についても自分の持ち物と能力のすべてについても頼っている神が……求める正当なものを、何でもすべて与えてくださるとすれば、ましてあなたがたは、自分たちの持っているものを互いに分かち合って当然ではないだろうか。」「そしてまた、あなたがたは自分自身でも、助けを必要としている人を助け、乏しい人に自分の持ち物を与えるであろう。」「見よ、わたしたちは皆、物乞いではないだろうか。……同一の御方、

すなわち神に依存してはいないだろうか。』

ベニヤミン王はこう結んでいます。「日々罪の赦しを続けて受けるために、自分の持っている分にに応じて、それぞれ持ち物を貧しい人に分け与えるようにしてほしい。例えば、飢えている人に食べさせ、着る物のない人に着せ、病人を見舞い、各々の入り用に応じて靈的にも物質的にも助けを与えることである。」<sup>9</sup>

わたしたちは、預言者が語り、イスラエルの詩人や祭司たちが示唆したシオンの状態にはまだ到達していないかもしれません。しかし、わたしたちはそれを望み、努力を続けています。キリストが来臨されるまでにそのような社会が完全な形で実現するかどうかはわたしには分かりませんが、主がニーファイ人のもとを訪れられたときは、主の壮大な教えと人々を高めてやまない主の御霊が民を史上最も幸福な状態へと導きました。こうあります。「彼らの中にはまったく争いがなく、論争もなく、皆、互いに公正に振る舞った。また、彼らはすべてのものを共有したので、物持ちも貧しい者も、束縛された者も自由な者もなく、皆自由であり、天の賜物にあずかる者となった。」<sup>10</sup> 思うにこうした祝福された状況で分かっているものは、ほかに一つしかありません。エノクの町です。こうあります。「彼らが心を一つにし、思いを一つにし、義のうちに住んだからである。そして、彼らの中に貧しい者はいなかった。」<sup>11</sup>

預言者ジョセフ・スミスも、わたしたちの可能性について壮大なビジョンを持っていました。それは啓示を通して神から授けられたものです。彼は、ほんとうにわたしたちがしなければならぬのはもっとキリストのようになること、救い主が示したような思いやりを示し、主が愛されたように人々を愛することであると理解していました。聖典にはこうあります。「すべての者はその隣人の益を図るように努め、また神の栄光にひたすら目を向けてすべてのことをなすようにしなければならぬ。」<sup>12</sup>



これはまさに、『モルモン書』の中でヤコブが教えたことでした。こう書かれています。「キリストに望みを抱いてから富を求めるならば、富は得られるであろう。しかし、富を求める目的は、裸でいる者に着せ、飢えている者に食物を与え、束縛されている者を自由にし、病人や苦しんでいる者を救うなど、善を行うことである。」<sup>13</sup>

わたしは皆さんすべてに敬意を表したいと思います。皆さんは多くのことをなし、深い思いやりを示し、「善を行うという意図」の下に働いておられます。惜しみなく持てるものをささげてくださいている方が大勢いらっしゃいます。中には御自分の生活もままならないにもかかわらず、何かしら分かち合ってくださいている方々もおられます。しかし、ベニヤミン王が警告しているように、わたしたちは自分の力以上に速く走ることは求められていません。何事も秩序正しく行うようにすべきです。<sup>14</sup>わたしは皆さんを愛しています。天の御父も、力のかぎり努力していらっしゃる皆さんを愛しておられます。

さらに申し上げますが、人類に蔓延してきている何世紀にもわたる世の不正を、総大会の話が切り崩して進むようなことはないことを、わたしは知っています。しかし、イエス・キリストの福音が、この世が直面してきたすべての社会的、政治的、経済的問題に対して答えを持っていることを知っています。わたしたち一人一人には何かができます。どんなに小さな行いでもかまいません。わたしたちは正直に自分

の一を納めることができますし、わたしたちの状況に合わせて自由意志による断食献金をささげることができます。またほかにも、人を助けるための方法を探することができます。正当な理由がある場合、また困っている人がいる場合、わたしたちはお金がなければ時間をささげることができます。時間がなくなったら愛をささげることができます。わたしたちの持っているパンを人と分け、瓶の油が底を突かないように主に頼るのです。

「このようにして、彼らは裕福な暮らしの中で、着る物のない者や飢えている者、渴いている者、病気の者、栄養の足りない者を追い払うことがなかった。また、彼らは富に執着することもなかった。そのため、老いた者にも若い者にも、束縛された者にも自由な者にも、男にも女にも、また教会員であるなしの区別なく、助けの必要な人々については人を偏り見ることなく、すべての人に物を惜しまなかった。」<sup>15</sup>

アルマ書の最初の章のこの聖句は、ノーブーの人々が示したすばらしい態度と行いをほうふつとさせます。その祝福に満ちた時代のことを、預言者ジョセフはこう述べています。「人にどれだけのものを……施すべきかについて、……わたしたちは何も特別な指示は出さない。……どこにでも助ける必要のある人がいたら、この教会の会員であろうと、ほかの教会の会員であろうと、教会に行っていない人であろうと、飢えている人には食べさせ、裸でいる人には衣服を与え、やもめの生活

の面倒を見、孤児の涙をぬぐい、悩んでいる人を慰めるのである。」<sup>16</sup>

『モルモン書』が何を教えているかを思い起こしてください。物質的に貧しいことは、それだけで大変なことです。しかし、それよりも大きな苦痛は、心の悩みや絶望、夢の破たん、親としての悩み、そして子供の希望がかなえられないこと、これらはほとんど例外なく物質的に貧しい家を襲うのです。

わたしは食べ物で底を突く物語で話を始めました。同じような話で終えたいと思います。ミズーリ州でのひどい敵対行為により、預言者はリバティーの監獄に幽閉され、何千人もの聖徒たちが家を追われました。そのさなか、ドラシラ・ヘンドリクス姉妹と、クルクト・リバーの戦いで教会の敵から撃たれて不自由な体になった夫のジェームズが、子供たちを伴ってイリノイ州クインシーに逃れ、急場しのぎの穴小屋を作り、その忌まわしい年の春をそこで過ごしました。

しかし、2週間とたたないうちにヘンドリクス家の食糧は底を突き、スプーン1杯の砂糖と茶わん1杯の粉を残すのみとなりました。家族全員がまさに飢餓状態を迎えようとしていたのです。ドラシラはその残された粉を練り、できるだけ引き伸ばして、ジェームズと子供たちのために調理しました。そのわずかばかりの食事を全員が終えた後、ドラシラは食器を全部洗い、穴小屋をきれいにして、死が訪れるのを待ちました。

ところが、それから程なくして、荷車の音が聞こえてきました。彼女が立ち上がって見ると、そこには隣に住んでいたルビン・オールレッドが立っていました。ヘンドリクス家はもう食べるものがないのではないかと思い、町に行く途中、穀物をひいて粉にしたものを袋に詰め、ヘンドリクス家に持って来た、とのことでした。

それからしばらくすると、今度はアレクサンダー・ウィリアムズが穀物を二袋肩に担いでやって来ました。忙しく働いていたさなか、彼は御霊のささやきを受けたのです。こう言いました。「ヘンドリクス兄弟の家族が食べる物

がなくて苦しんでいるって御霊が教えるんです。ですから仕事をそのままにして〔走って〕やって来ました。』<sup>17</sup>

わたしたちすべてを慈悲の心をもって祝福し、たくさんの人々に豊かな恵みを下さる主が、もう一つだけ祝福を授けてくださいますように。つまり、わたしたちが悲しんでいる人や悩んでいる人、心を踏みにじられた人、不遇な人、貧しい人の物言わぬ嘆きの声を聞き届けられる人となれますように。どのような人でも、またその人がどこにしようとも、隣り人が苦しんでいるときはいつでも、仕事をやめてでも駆けつけることができますように。貧しい人々の長であられる主イエス・キリストの御名により申し上げます。アーメン。

注

1. 列王上17:1-24参照
2. マルコ12:41-44参照
3. 1テモテ1:5
4. 教義と聖約58:11参照
5. アルマ32:3-4参照, 下線付加
6. アルマ34:17-27参照
7. アルマ34:28
8. モーサヤ4:2
9. モーサヤ4:21, 16, 19, 26
10. 4ニーファイ1:2-3
11. モーセ7:18
12. 教義と聖約82:19
13. 『モルモン書』ヤコブ2:19
14. モーサヤ4:27参照
15. アルマ1:30
16. *Times and Seasons* 『タイムズ・アンド・シーズンズ』1842年3月15日付け, p.732
17. ドラシラ・ドリス・ヘンドリクス, "Historical Sketch of James Hendricks and Drusilla Doris Hendricks" 『ジェームズ・ヘンドリクスとドラシラ・ドリス・ヘンドリクスの歴史寸描』末日聖徒イエス・キリスト教会歴史部文書保存課所蔵, タイプ原稿, pp.14-15

# 先祖の信仰

十二使徒定員会会員

ジョセフ・B・ワースリン

**わたしたちの先祖である父たちの信仰と母たちの自己犠牲、すなわち開拓者であった聖徒たちが示してくれた従順の模範を決して忘れないようにしようではありませんか。**



**愛**する兄弟姉妹と友人の皆さん、この壇上に立ち、また新しく中央幹部の席に着かれた兄弟たちを歓迎できることを、大変光栄に思います。わたしたちはこの由緒あるタバナクルで、さらには世界の各地で、「人の幸いについて互いに語り合うために」<sup>1</sup>、また「キリストの言葉をよく味わう」<sup>2</sup>ために集まっています。

今日、わたしは開拓者であった先祖の信仰についてお話したいと思います。現在の教会とユタ州の目覚ましい発展は、主イエス・キリストに対する先祖たちの信仰に負うところが多くあります。数々の障害にもかかわらず、信じることを断固として守ろうとした意志の強さに畏敬の念を禁じ得ません。

福音の第一の原則は、主イエス・キリストに対する信仰です。主こそ福音

の根源となる原則であり、あらゆる正義の基です。預言者ジョセフ・スミスは「信仰とは、……見えないものの存在を確信することである」<sup>3</sup>と語っています。また聖文では、信仰とは「望んでいる事がらを確信し、まだ見えない事実を確認することである」<sup>4</sup>と定義しています。

今日、わたしたちは救い主に信仰を持っていることを喜んでいますが、わたしたちは、世の人々に対し「キリストの言葉はあなたがたがなすべきことをすべて告げる」<sup>5</sup>と証するものです。主の教会の会員としてまた回復された主の福音の忠実な擁護者としてわたしたちは、神は生きておられ、イエスは真にキリストであり、世の救い主、贖い主であられると心から宣言します。明日は復活祭です。天の御父の長子であるイエス・キリストの使命について深く思いをはせる日です。御自身の復活を含む救い主の贖いを通して、天の御父のすべての子供たちは不死不滅を受け、さらに永遠の命を受ける可能性を得ています。これらの祝福にどれほど感謝すべきでしょう。

わたしたちは聞く「耳のある」<sup>6</sup>すべての人に、主が「地に住む者に下る災いを知っている」ので、わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアを訪れ、彼に天から語り、戒めを与え、<sup>7</sup>いにしへの時代の聖徒たちに与えられたそのままの、完全な福音を回復するようお命じになったことを、喜びをもって宣言いたします。

またわたしたちは「山の頂から」<sup>8</sup>、ゴードン・B・ヒンクレー大管長がま

さしく今日、地上における神の預言者であることを証いたします。末日聖徒は預言者に対してこの信仰を持っているので、使徒ペテロとともに次のように宣言します。「こうしてわたしたちは預言の言葉に対するいっそう確実な知識を持つようになった。あなたがたも、夜が明け、明星がのぼって、あなたがたの心の中を照すまで、この預言の言葉を暗やみに輝くともしびとして、それに目をとめているがよい。」<sup>9</sup> 神の啓示という光は生ける預言者より放射され、闇と化している世界に光明を与えています。

イエス・キリストの福音が回復された当初から、アメリカでは宗教の自由が保証されていたために、教会は繁栄してきました。従順と犠牲という豊かな土壌に深く根付いて、良い実を結んできました。何世代にもわたる忠実な会員たちは堅固な土台を築いてきました。そして、この力の源から「あたかも人手によらずに山から切り出された石が全地に満ちるまで転がり進むように、そこから福音は地の果てまで転がり進みます。」<sup>10</sup> 少年時代に大平原を横断するという経験を、また生涯を通じて多くの逆境を乗り越えたジョセフ・F・スミス大管長は次のように証しています。「神の王国はこの国にあって大きくなり、やがて外国に広まり、全地に根を張る。そして主自らの力と言葉によって植えられた場所にとどまり、決して滅びることも失せることもなく、全能者の目的が果たされるまで、すなわち世の初めより聖なる預言者の口より語られたあらゆる事柄が成就するまで、永続する。」<sup>11</sup>

ヒンクレー大管長も「教会はすばらしく驚嘆すべき方法で発展しています……まことに奇跡的な形で全地に広まりつつあります」と語っています。そしてこの教会が発展する理由の一つは「人々に要求する面を持つ宗教であるという点です。……すなわち会員は多くを期待されており、さらに遵守すべき標準があります。これらが人々をこの教会に引き付ける理由の一つとなっています。価値観が揺らいでいるこの世にあって、教会はその錨となっ

ているのです。」<sup>12</sup>

教会が全世界において目覚ましい勢いで大きくなっている事実から、わたしたちは、預言されているように王国が輝かしい未来に向かって進んでいることを実感できます。しかし楽観的に将来を眺めると同時に、立ち止まって、謙遜なつつましい開拓者であった先祖の信仰を見直す必要があります。実は彼らの信仰こそが、現在の教会の大発展の基となっているのです。

今年2月にノーブーとアイオワ全域の市民は、聖徒の大移動から150年を記念して祭典を催しました。1846年には、ミシシッピ川沿いに築かれたあの繁栄した町から1万人以上の人々が離れました。預言者である指導者たちに信仰を持って、これら初期の会員は「美しい町」を後にして、アメリカ最果ての地である荒野へと足を向けたのです。聖徒たちはその行き先をはっきりとは知りませんでした。どのくらいの距離に行くのかも、どれほどの期間を旅するのも、将来がどうなるかも知りませんでした。しかし聖徒たちは主と主の僕たちに導かれているということを知っていました。その信仰が彼らを支えたのです。彼らは「まだ見えない真実のこと」<sup>13</sup>を待ち望んだのです。いにしへのニーファイのように「前もって自分のなすべきことを知らないまま、御霊に導かれて行った」<sup>14</sup>のです。

1844年6月27日に預言者ジョセフと兄ハイラムの命を奪った暴徒のさらな

る暴走を恐れて、当時十二使徒定員会会長として教会を導いていたブリガム・ヤングは1845年の9月に、翌年の春には聖徒はノーブーを離れると発表しました。ノーブーに住んでいたほとんどの人々はブリガム・ヤングがこの町を捨てなければならないと発表したとき、主が望んでいらっしゃることを自分たちは聞いているのだと全面的に信じました。そして信仰をもって、主の指図に従いました。1845年と1846年の秋から冬の間、会員は懸命に旅の準備をしました。

ニューエル・ナイトが妻のリディアに、ノーブーを離れ、また移住しなければならないと告げたとき、リディアが返した言葉には彼女の力強い信仰が表れています。「反対することは何もありません。わたしたちの住むべき所は神の王国ですから。直ちに出発の準備に取りかかりましょう。」<sup>15</sup>多くの聖徒たちがニューヨークからオハイオへ、さらにミズーリとイリノイへと移住したようにナイト兄弟はすでに数回、その家族を移住させていたのです。神の御心であると知っていることに、献身的に従ったリディア・ナイトのこの行為は、初期の聖徒たちの信仰を如実に表しています。彼らの雄々しい信仰を心に留めながら、次の賛美歌の歌詞を味わうと、さらに深い意味を感じることができます。

いにしへの聖徒の その篤き信仰  
われらを導く 苦しみの時も



その聖き信仰 われらも従わん<sup>16</sup>

暴徒がいつ襲来するか知れないという恐怖が高まり、さらに政府が介入してくるというわさが広まるに及んで、ヤング会長は厳しい寒さのまっただ中に、聖徒に脱出の準備をさせる決意をしました。そして1846年2月4日、ヤング会長は第一陣の開拓者の家族にノーブーを出るよう指示しました。彼らは荷物を満載した荷車隊と家畜を連れてパーリー通りを進んで渡し場へ行きました。そこからいかだでミシシッピ川を渡ってアイオワへ行くのです。このパーリー通りは後に「涙の通り」と呼ばれるようになりました。ミシシッピ川の水面を流れる氷塊が、荷車を乗せた渡し舟とはしけの両側にぶつかって、大きな音を立てる中を渡るのです。しかし数週間後には、気温がさらに下がって水面が氷結してしまったため、荷車は氷の橋の上を渡ることができるようになりました。

今年の3月上旬に、わたしは妻とともにノーブーを訪問しました。ひどく寒い日でした。冷たい風に吹かれながら、ミシシッピ川のはるかかなたの対岸を見詰めて立っていたとき、愛する町を後にした聖徒たちに対する思いが募り、深い感謝の念がわいてきました。一体どのようにして生き延びることができたのだろうか。確実なことは何一つない将来にすべてを託し、すべてをなげうって出立した彼らは何と大きな犠牲を払ったのだろうか。「美しい町」を追われて、再び帰るあてもなく、パーリー通りをがらりと音を立てて荷車で進んだとき、多くの開拓者の目に涙が浮かんだとしても不思議ではありません。

ミシシッピ川を渡った後、開拓者たちは西部のロッキー山脈に向かう前に、シュガー・クリークに一時的なキャンプを張りました。そして歴史家H・H・バンククロフトが言う移民団として「世界の歴史に類を見ない」<sup>17</sup>旅が始まったのです。

1846年2月15日、アイオワのキャンプ地でブリガム・ヤング会長が開拓者団に合流したとき、主は近代の「イス

ラエルの陣営」の組織を始めるように、啓示されました。そして3月1日、先発隊がアイオワを西へ向かって前進を始めました。寒さ、雪、雨、泥、病、飢え、死などの苦難がこれらの頑健な開拓者を襲い、信仰を試しました。しかし彼らはその指導者に従うと固く決心していました。いかなる犠牲を払っても、自分たちが神の御心と信じていることを行うと決意していたのです。彼らの信仰は試されました。特に過酷な状態に遭遇したときに信仰を揺るがせた人々もいましたが、負けることはありませんでした。多くの人々は、ノーブー神殿で執行された神殿の儀式を通して受けた確信に支えられたのです。

多くの姉妹たちが耐えなければならなかったもっと大変なことは、過酷の極限に迫る旅の途中での出産でした。エライザ・R・スノーは「開拓者が旅を進めていくにつれ、母親たちは今までに経験したことのない、ありとあらゆる状況下で子供を出産しました。嵐や吹雪の最中に、テントや荷車の中で出産しました」と記しています。スノー姉妹はさらに続けて、次のように記しています。「出産する場所がないために、地面に立てた棒に毛布を巻きつけて両側の壁とし、その上に木の皮をかぶせて屋根にしました。雨の滴るむき出しの粗末な小屋で出産した人もいと聞いています。そして心優しい姉妹たちが立って、滴る雨を皿で受け…こうして、まさにこの人間社会を始めようとする赤ん坊と母親を降りしきる雨から守ったのです。」<sup>18</sup>

これらの善良な姉妹たちは何と大きな犠牲を払ったことでしょうか。出産の際に自分の命を失った母親もいました。生まれてもすぐに命を落とした新生児も大勢いました。わたしの妻の祖母であるエリザベス・ライターも嵐の中のウィンタークォーターズで、幌付きの荷車の中で生まれました。幸いにも、母子ともに生き延びることができました。命を授けてくれた母親に大いなる愛を込めて、エリザベスは出産の際に幌から漏れる雨が母親に当たらないように姉妹たちががさざしてくれた傘

の話をも、よく聞かせてくれました。

わたしたちの先祖である父たちの信仰と母たちの自己犠牲、すなわち開拓者であった聖徒たちが示してくれた従順の模範を決して忘れないようにしようではありませんか。わたしたちは「キリストのもとに来るようにすべての人を招〔き〕」<sup>19</sup>、「キリストによって完全になる〔よう〕」<sup>20</sup>にする業に携わっています。この御業において雄々しく励む僕になろうと努力するとき、開拓者であったこれらの先祖を忘れないようにしようではありませんか。

今を去る44年ほど前、わたしの父はこの壇上から、わたしたちの受け継ぎに対して感謝する気持ちがどれほど王国での奉仕の業に力と活気を与えるか、ということを話しました。開拓者であった実の祖父母に触れ、次のように言っています。「わたしの先祖であるこれらの人たちの信仰のゆえに、今わたしはここにあり、大いなる山々に囲まれた、この平和な盆地で生活しているのです。とりわけ、末日の預言者たちの声が届くこの場所で生きているのです。ですから、わたしは先祖に大きな恩義を受けていると言わなければなりません。……どんなに感謝しても感謝し切れないほど、恩を受けているのです。……この恩に報いる最も良い方法は、この大いなる大義に向かって奉仕の業に専念することです。」<sup>21</sup>

さて、この王国は世界中に大きく広がり、この美しい山々の懷に抱かれたユタ盆地に住む教会員の割合は、ますます小さくなっています。しかし、今日、世界中の聖徒たちは、近代の情報伝達技術のおかげで、「末日の預言者の声を居ながらにして聞く」ことができます。わたしの父がそうであったと同じように、わたしたちすべてが預言者の声の届く範囲にいるのです。この回復された完全な福音を知る恩恵に浴しているわたしたちは、先駆者となった人々に恩義を受けています。彼らは今日の奇跡とも言える状態にまで、世界中に王国を築き上げるために多くのものをささげてくれました。わたしたちが先祖に対する「この恩に報いる



最も良い方法は、この大いなる大義に向かって奉仕の業に専念することです。」

わたしたちがだれであろうと、その才能、能力、経済力、教育、あるいは経験にかかわらず、すべての人は王国で奉仕することができます。謙遜と祈りと勤勉と信仰とをもって召された業に奉仕するならば、わたしたちを召す御方がその資格を与えてくださいます。恐らく、自分は未熟だと感じるかもしれませんが。主にささげられるものといっても、だれも気がつかないほどわずかしかないため、自信が持てないかもしれません。しかし主はそのような人間的な力の限界をよく御存じです。わたしたちの弱点も御存じです。毎日の生活が大変であることもよく理解していらっしゃいます。わたしたちがこの世的な欲望や情熱の誘惑を受けていることもよく御存じで、深い思いやりを持っていらっしゃいます。使徒パウロはヘブル人への書簡の中で、救い主は「わたしたちの弱さを思いやることのできないようなかたではない」、なぜなら「わたしたちと同じように試練に会われたのである」から、と記しています。<sup>22</sup>

トーマス・S・モンソン副管長は、この偉大な大義のために喜び進んで奉仕することの重要性を、次のように教えています。「御霊に波長を合わせて、主に名を呼ばれたときに、サムエルのようにそれを聞き、『ここにおります』と答えることができるでしょうか。皆さんはどのような召しを受けても、勇気と固い決心をもって奉仕する、不屈の精神と信仰を持っているでしょう

か。それがあれば、主はわたしたちを通して力強い奇跡を起こすことができますようになるのです。』<sup>23</sup>

ジェームズ・E・ファウスト副管長は、主はわたしたちの能力にかかわらず、忠実な働きを受け入れてくださるだけでなく、主の祝福をさらに豊かに受ける資格を与えてくださる、と語りました。それは生活を豊かにし、生活を発展させる祝福です。また「この教会は必ずしも偉大な人々を魅了するわけではなく、むしろ平凡な人々を偉大な人にするのです」とも語りました。

「この教会が、設立当初の小さな状態から今日の力を得るまでに発展したのは、謙遜で忠実な数百万の人々の忠誠心と献身があったからです。彼らは自分の5つのパンと小さな2匹の魚を主の御業にささげました。また自分自身のことはほとんど捨て去り、そうすることによって、『人知ではどうい測り知ることのできない神の平安』(ピリピ4:7)を見いだしたのです。』<sup>24</sup>

主がわたしたちを力づけてくださるので、「わたしたちはすでに多くのことを堪え忍んできており、またすべてのことを堪え忍べるようにと望んでいる」<sup>25</sup>のです。また救い主はわたしたちに「善を行うことに疲れ果ててはならない。あなたがたは一つの偉大な業の基を据えつつあるからである。そして、小さなことから偉大なことが生じるのである」<sup>26</sup>と励ましてくださっています。王国にあって、どのような召しを受けていても、その務めを忠実に果たせますように。「小さなこと」によく注意を払いましょう。それが大きな差を生じるのです。戒めを忠実に守りましょう。戒めを守るといふ神聖な聖約をわたしたちは交わしているからです。これまでの受け継ぎと現在の成長が如実に語っているように、わたしたちは確かに「偉大な業の基を据えつつあ」ります。

能力の限りを尽くして主の御業に献身しようではありませんか。この偉大な大義にあって、忠実に働くことによって先祖の信仰をたたえ、敬うことができますように。「預言者に従う」<sup>27</sup>ことができますように、そうすることに

よって「キリストのもとに来て神の慈しみにあずかる」<sup>28</sup>ことができますように、へりくだってイエス・キリストの御名によりお祈りいたします。アーメン。

注

1. モロナイ6:5
2. 2ニーファイ32:3
3. Lectures on Faith『信仰講話』p.1
4. ヘブル11:1
5. 2ニーファイ32:3
6. マタイ11:15
7. 教義と聖約1:17
8. イザヤ42:11
9. ジョセフ・スミス訳2ペテロ1:19; 欽定訳2ペテロ1:19と比較
10. 教義と聖約65:2
11. Conference Report『大会報告』1902年4月、p.2
12. Deseret News『デゼレトニュース』1996年2月26日付け、p.A-2に引用
13. アルマ32:21
14. 1ニーファイ4:6
15. Church News『チャーチニュース』1996年2月10日付け、p.3に引用
16. 『賛美歌』42番
17. History of Utah『ユタ州史(1890年)』p.217
18. B・H・ロバーツ、A Comprehensive History of the Church『教会歴史詳解』3:45の引用
19. 教義と聖約20:59
20. モロナイ10:32
21. ジョセフ・L・ワースリン、A Heritage of Faith『信仰の遺産』リチャード・ビトナー・ワースリン編、p.47
22. ヘブル4:15-16
23. 「行動する神権者」『聖徒の道』1993年1月号、p.55; サムエル上3:4も参照
24. 「5つのパンと2匹の魚」『聖徒の道』1994年7月号、p.6
25. 信仰箇条1:13
26. 教義と聖約64:33
27. Children's Songbook『子供の歌(英文)』pp.110-111
28. 『モルモン書』ヤコブ1:7

# 「もし命に入りたいと 思うなら、 いましめを守りなさい」

十二使徒定員会会員

ロバート・D・ヘイルズ

わたしは主の戒めを心から愛しています。戒めはわたしたちを導き守り、  
天父のみもとに戻れるようにしてくれます。



**救**い主はおっしゃいました。「もし命に入りたいと思うなら、いましめを守りなさい。」(マタイ19:17)これから兄弟の皆さんに、アビナダイという人物の実際にあった話をしたいと思います。アビナダイは預言者で、邪悪な民と王に悔い改めを説きました。その言葉のゆえに、自らの生命を危険にさらすことになるを知っているながらも、大胆にそして勇敢に教を説きました。

邪悪なノア王は怒りに任せて、祭司たちにアビナダイを殺すよう命じました「この男を連れ出して、殺してしまえ。……この男は気が狂っている」と。

しかし、祭司たちがアビナダイに手をかけようとしたところ、アビナダイは彼らを防いで言いました。「わたしに触れるな。わたしに手をかければ、神があなたがたを打たれるであろう。わたしは、主がわたしを遣わして告げさせようとしたことをまだ伝え終えていない。……わたしは神から受けた命令を果たさなければならぬ。」

ノア王の民はアビナダイに触れることを恐れました。主の御霊がアビナダイとともにあったからです。「彼の顔は非常な輝きを放っていました。そして彼は、「神から受けた力と権能をもって」語りました。アビナダイは、神が自分を遣わして告げさせようとしたメッセージを最後まで伝えると宣言しました。その後でなら、ノア王と民が自分に何をしようとかわらないと言いました(モーサヤ13:1-9参照)。

アビナダイがメッセージを伝え終わると、ノア王は彼にその語った言葉を取り消すように命じました。さもないと、殺すというのです。しかし、アビナダイは拒否しました。

アビナダイの信仰の堅固さは、聖文中の胸を刺すような記述からうかがえます。「アビナダイはこれらの言葉を述べ終えると、倒れて焼け死んだ。まことに、彼は神の命令を拒もうとしなかったために殺され、自分の言葉が真

実であることを死によって確かなものとしたのである。」(モーサヤ17:6-20参照、下線付加)

神権者の兄弟たち、アビナダイはわたしたちすべてにとって何と力強い模範でしょうか。彼は主の命令に勇氣をもって従いました。命を犠牲にしてまでもです。すべての神権時代の預言者たちは、進んで命を危険にさらし、勇敢に神の御心を行い、神の御言葉を宣言してきました。

預言者ジョセフ・スミスは「ほふり場に引かれて行く小羊のように」行きました(教義と聖約135:4)。主の命じられたことを果たすに当たって、決しておじけづいたりはしませんでした。

救い主の模範を考えてみましょう。主は御自身が生きられたように生きる方法を説かれました。主が奇跡を起こし、貧しい人、悩める人を恵まれたときの深い哀れみについて考えてください。主はへりくだり、御父の戒めに従順であることを選ばれました。そして、終わりまで堪え忍び、神聖な使命を果たし、全人類のために贖いの犠牲を払われたのです。

兄弟たち、神の神権を持つ者として、主イエス・キリストと過去から現在に至る預言者たちの模範に倣おうではありませんか。わたしたちは、多くの預言者がそうであったように殉教者として命をささげるようには、求められていません。求められているのは、神の戒めへの従順さであり、主と交わした聖約に対する忠実さなのです。

少しの間、アロン神権者の若い男性に直接お話したいと思います。アロン神権は備えの神権であり、大神権であるメルキゼデク神権に皆さんを備えてくれます。アロン神権を有する者として、皆さんは主の戒めに従うことを学ばなければなりません。両親を敬い、安息日を聖く保ち、主の御名をみだりに唱えず、女性を尊び、清くあり、偽りを口にせず、むさぼることなく、知恵の言葉に従い、正直に自分の一を納め、惜しみなく断食献金を納めてください。これらをはじめとする様々な戒めに従うなら、豊かに祝福されること

でしょう。

若い執事、教師、祭司の皆さん、皆さんは聖餐を準備し、配り、祝福する業に携わるふさわしさを身に付けているでしょうか。これらは神聖な責任です。パンと水は救い主の肉体と血の象徴であり、主の贖いの犠牲を意味しているのです。

少しの間、このことについて考えてみてください。皆さんが毎週携っている聖餐は、イエス・キリストの贖いの記念です。このすばらしい贖いの賜物は無条件に肉体の死を克服してくれる、無限の賜物です。なぜなら、これまで地上に生を受けた人、これから生を受ける人すべてのために備えられているからです。贖いを通してアダムの墮落から贖われ、復活することができます。

しかし、贖いの効力を生活に及ぼし、その完全な祝福を享受し、天父のみもとに帰るには、罪を悔い改め、神の戒めに忠実に従わなければなりません。このように、悔い改めと赦しという贖罪の祝福は贖いの業の重要な要素ですが、それを得られるかどうかは、神の戒めと儀式に従う忠実さにかかっているのです。

聖餐を祝福し、忠実な教会員たちに配るふさわしいアロン神権者たちを、主は心に留め、祝福して下さいます。そして、ふさわしい状態で聖餐にあずかる人々も祝福して下さいます。皆さんが聖餐の儀式に携わるふさわしさを身に付けていれば、適切な時期にメルキゼデク神権を受け、神殿に参入し、

主と聖約を交わすふさわしさも身に付けられるでしょう。

若人の皆さん、宣教師として奉仕する備えをしてください。伝道に出ることは、皆さんに奉獻の律法に従うことを教えてくれます。それは、皆さんの生涯のうちですべての時間と才能と財産を主にささげることのできる唯一の時期かもしれません。その報いとして、主は御霊により皆さんを祝福し、そばにあって、強めて下さいます。

将来自立し、家族を養えるよう、教育を受け、技術を身に付けるために努め励んでください。皆さんを主の道からそれさせようとしない、良い友達を作ってください。皆さん自身も、そばにいただけのほかの人を戒めに従いやすくしてあげられるような友人になってください。

さて、アロン神権ならびにメルキゼデク神権を有する兄弟の皆さんにお話しします。ご承知のように、主の戒めに従うことは生涯を通じて行っていくべき事柄です。主の戒めに従うに当たり、忠実で勇気ある者となろうではありませんか。わたしたちはそうするという聖約を交わしたのですから。

救い主はこう宣言されました。「もし命に入りたいと思うなら、いましめを守りなさい。」(マタイ19:17)「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。」(ヨハネ14:15)

「主はどのように戒めをお与えになるのだろうか」と尋ねる人がいるかもしれませんが、天上の会議において神は、

霊の子供であるわたしたちが戒めを与えられ、それによって現世の生涯を生きることをお定めになりました。天父の最初の霊の子供であるエホバはおっしゃいました。「わたしたちは降って行こう。そして……これらの者〔神の霊の子供たち〕が住む地を造ろう。」

そして、わたしたちはこれによって彼らを試し、何であろうと、主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう。

第一の位を守る者は付け加えられるであろう。」(アブラハム3:24-26)

これらの戒めは、現世でのわたしたちの肉体的・霊的安寧と幸福のために、父なる神によって用意された、愛に満ちた指示なのです。戒めのおかげで、わたしたちの永遠の進歩に関する神の思いと望みを知ることができます。そして、戒めによってわたしたちは、主の御心に対する従順の度合いを試されるのです。

戒めは重荷でも足かせでもありません。主の戒めはすべて、わたしたちの進歩成長のために与えられているのです。預言者ジョセフ・スミスは教えています。「神はわたしたちに幸福を得させようとした。……神は、御自身が意図された人の幸福に至らないような儀式を定めたり、そのような戒めを御自分の民に与えたりはなさらない。」(Teachings of the Prophet Joseph Smith『預言者ジョセフ・スミスの教え』ジョセフ・フィールディング・スミス編、p.256)

わたしは主の戒めを心から愛しています。戒めはわたしたちを導き守り、天父のみもとに戻れるようにしてくれます。もしわたしたちが忠実に戒めに従うなら、永遠の命という祝福が約束されています。永遠の命とは、「神のあらゆる賜物の中で最も大いなるもの」であり(教義と聖約14:7)、昇栄して、天父と御子イエス・キリストとともに永遠にわたって住まうことです。神は心から、わたしたちにみもとに戻ってほしいと願っていらっしゃいます。

しかしながら、多くの約束された祝福を受けるのに、来世まで待つ必要は



ありません。この世でも、従順を通して心の平安と幸福を得、「聖霊における喜び」を享受できることでしょう（ローマ14：17）。

戒めに従うことにより、神との調和がもたらされます。目的において御父と御子と一つになれるのです。神と一つになっているとき、わたしたちは、霊的な光の中を歩んでいます。戒めに勤勉に従うなら、聖霊がわたしたちの内に宿ります。個人の啓示の賜物が与えられます。これは霊的な光となって、わたしたちを守り、かがり火のように正しい道へとわたしたちを導いてくれます。この光は、敵対する者の暗闇を払いのけてくれます。この光は非常に強力であり、わたしたちが罪の深みに陥って、あまりの暗さに霊的な光が届くはずもないと思えるようなときさえ、わたしたちを照らしてくれます。

子供のころ、暗闇を恐れたことを覚えているでしょうか。そして何かに驚くと、きっと家中の明かりやろうそくをつけて回ったことと思います。両親はその晩遅く帰って来ると、こう尋ねたことでしょう。「どうして家中の明かりがついているの？」こうして、親から家計や電気代について説教されたのではないのでしょうか。

しかし、皆さんは、電気をつけたり、ろうそくに火をともしたりすることによって暗闇がなくなり、恐れが消えることを学んだことでしょうか。皆さんが学んだこの簡潔な自然の法則は、霊的な法則でもあります。光と闇は同時に同じ空間を占めることはできないのです。サタンと彼に従う者たちは、福音という霊的な光に耐えることができないので、たちまち退散するのです。サタンは皆さんに何も強要できません。逆に皆さんは、神権を使って、サタンに自分の思いや行いから出て行くよう命じることができます。

戒めに従って生活するとき、わたしたちの顔は福音の光で輝きを放ちます。この霊的な光があれば、わたしたちはもう、敵対する者が設けた見知らぬ暗闇の道をさまよい、落胆し、恐れを抱くことなどありません。福音の光の中を歩むなら、永遠のゴールを見失



うことはないでしょう。

兄弟たち、戒めに従った生活を送るなら、罪の拘束から逃れ、真の幸福を経験することができます。罪に喜びなどありません。預言者アルマが息子に説いたように、「悪事は決して幸福を生じたことがない」のです（アルマ41：10）。

戒めを守るには勇気が必要です。周囲のプレッシャーゆえに戒めを破ってしまうのは、人に対する恐れがあるからです。つまり「神が自分をどう思いになるか」より、「人が自分をどう思うか」の方を恐れているのです。人人がどうして神の御心より他人の意見を気にするのか、わたしにはまったく理解できません。

戒めについて知り、それに従うには、救い主と神の預言者について知り、彼らに従わなければなりません。わたしたちは恵まれて、最近、現代の預言者から「家族—世界への宣言」という重要なメッセージを頂きました（『聖徒の道』1996年1月号、pp.113 - 114参照）。この宣言は、家族や地域社会、国家にあって、家族という単位を強めないなら、どんなことが起きるかについて警告しています。全神権者ならびに全国民は、注意深くこの宣言を研究

する必要があります。

預言者は、神の律法に違背した場合の結果について頻りに警告しなければなりません。世にあって、人受けすることを説いたりはいしません。エズラ・タブト・ベンソン大管長は、「人気は真理を測る物差しではない」と教えています（“Fourteen Fundamentals in Following the Prophet” 1980 Devotional Speeches of the Year 「預言者に従うための14の原則」『1980年、年度講話』p.29）

どうして預言者は人に好まれぬ戒めを宣言し、戒めを拒んだり曲解したり無視したりする世の人々に悔い改めを叫ぶのでしょうか。その理由はとても簡潔です。一度啓示を受けたら、預言者に選択の余地はなく、ただ、神が世に告げるようお与えになった言葉を宣言し、改めて強調するしかないのです。預言者は、それによって払うことになる代価を十分承知のうえで宣言しています。戒めに従わない方を選択した人は、あらゆる手を尽くして、預言者の人格を中傷し、その徳と評判をおとしめようとします。これに対し預言者は、沈黙を保ち、ただほかの頬をも向けてやるのです。世はこれを弱さと思わずかもしれませんが、それは人が持ち得る最も大なる力の現れであり、自分が真実であるを知っている事柄への忠実で揺るぎない確信の現れなのです。また、どんな結果になろうと喜んで受け入れる姿勢を物語っています。

戒めを受け入れるか拒むかは各自の自由です。しかし、だれも自分の好みに合わせて、戒めを変更することはできません。神権指導者には、啓示された原則と戒めを世の評判を得るために変更する権利はありません。ふさわしく生きる決意のできない弱い人々のために神の戒めを受け入れやすいものに変える権能は預言者にもないのです。

かつて、ある教会の指導者は、「教会から宗紀上の処置を受けたかたくなな子供にも適応できるよう、神の戒めの基準を和らげてほしい」と、悩める父親からせがまれました。やがて、自分の子が教会員としての完全な祝福にあ

ずかるのを拒まれ、悲しみに沈んだ父親はその指導者に「それでもクリスチャンですか」と言いました。

指導者はこの両親と子供の悲しみに深い思いやりを示しました。しかし、主の戒めへの忠実さは保ちました。「それでもクリスチャンですか」という責めの言葉に対し、指導者は答えました。「もしわたしがその戒めを変えようとするならば、その瞬間からわたしはキリストの教えに従わない者になってしまうのです。」

背きにも適応できるよう神は戒めを変えるべきであるとの正当化は、霊的な暗闇へとつながっています。そしてこの暗闇を払いのけることができるのは、福音の光だけです。姦淫を犯した女性に対し、キリストは、「姦淫してはいけません」という戒めを和らげたりはなさいませんでした。そうではなく、彼女に「もう罪を犯さないように」と勧告されました（ヨハネ8：11）。主はわたしたちすべてに悔い改めを通じて赦しを約束しておられます。変わらなければならないのは、戒めではなく、わたしたちの方なのです。

愛する神権者の皆さん、わたしたちには片時たりとも忘れてはならないことがあります。戒めを守ると自分たちの交わした聖約、すなわち天父と主と交わした約束は、人生で最も重要な決意でもあるということです。聖文について研究し、思い巡らし、生ける預言者の勧告に耳を傾けましょう。家庭でもそのほかの場所でも御霊に導かれるままに戒めの真実性を説き、証しましょう。戒めに従順であり、現世と来世の両方で約束された祝福にあずかることにより、主への愛を日々の生活に反映させましょう。「もし命に入りたいと思うなら、いましめを守り」ましょう（マタイ19：17）。

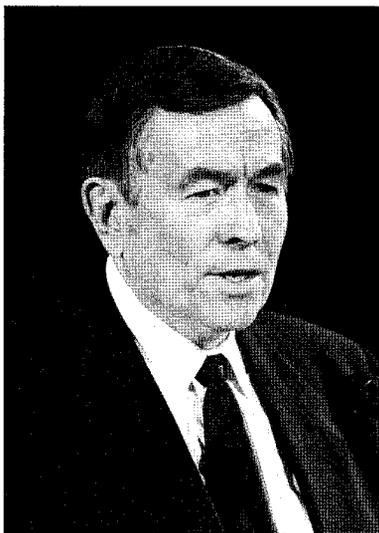
神が生きておられることを証します。イエスはキリストであります。わたしたちが自分は何者であるのかをよく心に留め、それにふさわしい行動をし、自分自身と家族、友人に永遠の恵みをもたらすことができますように。イエス・キリストの御名によって申し上げます。アーメン。

# 霊的な羊飼い

七十人会長会

W・ユージン・ハンセン

**善と悪の間に中立の立場はありません。もし悪魔の領域にいるなら、できるだけ早くそこから出てください。**



**愛**する兄弟の皆さん、わたしは今晩、教会の神権者にお話しするという大管長会からの割り当てにこたえるに当たり、重い責任を感じています。

ここタバナクルでは、神の神権者の特質であり象徴である心を熱くする御霊と愛と兄弟のきずなを感じることができます。また世界中の奉獻された建物に集まっている皆さんも、同じ御霊と兄弟愛を感じていることでしょう。

わたしたちは偉大な時代に生を受けています。それは時満ちる神権時代です（エペソ1：10；教義と聖約27：13参照）。

謙遜な少年の祈りによってこの時代が始まり、御父と御子が預言者ジョセフに現れて、この特別な時代の幕開けを助けるという神聖な使命を授けられました。

神の僕である古代の預言者たちが地上を訪れて、貴重な神権の鍵、すなわ

ち過去の時代に彼らが主から与えられた権能と責任の鍵を回復しました（教義と聖約27章参照）。

この教会は回復されたキリストの教会です。わたしたちの救い主、神の独り子がこの教会の頭であります。主はこの教会を2,000年近く前に設立されました。

大会の神権部会で、いつもわたしの心に残るのは、アロン神権の年代の大勢の若い男性の皆さんです。その多くは父親とともに、またある人は祖父や神権指導者とともに、この場に集っています。若い男性の皆さんは、青年時代に特有の熱意と活気に満ちた特別なスピリットをもたらしてくれます。そこで、少しの時間若人の皆さんにお話をしたいと思います。

最初に、わたしが少年時代に大切な教訓を得た経験を紹介しましょう。それはわたしがまだ若いころ、具体的には10歳か11歳の少年のころでした。わたしはユタ北部の山間で羊の群れをイースト・ガーランドの東へ導いていました。祖父から信頼を受け、夏の間放牧する山へ羊たちを移動させていたのです。わたしは小川のほとりで羊たちに水を飲ませ、少しの間そこで休ませました。

その間に、わたしは先の地形を調べて道筋をチェックしに行きました。溪谷を200メートルほど登ったとき、背筋が凍りつくような音が聞こえました。猛毒を持つガラガラ蛇の出す音は、一度聞いたら忘れることはできません。

わたしは用心しながら音のする方へ近づいて行きました。驚いたことに、

わずか数メートル先に3匹のガラガラ蛇がいたのです。岩の上にとぐろを巻いて、春の日差しを浴びていました。一度に数匹を見ることなどめったにないので、その3匹の蛇に目を奪われながらも、ここを通らなければならない羊たちのことが心配になりました。

間もなく羊たちは起き上がって溪谷を登り始めました。羊が近づいて来ると、蛇は侵入者に気づいたようで、小川の方に向かってわずかにかま首をもたげました。

危険を感じたわたしは、すぐに羊たちを丘の方に向かわせ、蛇の進路から遠ざけようとしてしました。初めは成功したのですが、やがて2頭の羊が群れから離れて行きました。すると、群れ全体がその2頭の年老いた雌の羊に従い始め、もうだれにも止められなくなりました。皆さんは「羊の群れのように従う」という言葉を聞いたことがあるかもしれません。まさにそれが起こったのです。さらに悪いことに、羊たちは蛇のいる場所に向かって進んでいました。

わたしは、羊が本能的に安全な距離を保ってくれるように願いました。しかし群れの何頭かは、まっすぐに蛇に向かって突き進んでいます。もはや不運な羊にとって、平安を乱された蛇の一撃から逃れるすべはありませんでした。

悲しみに沈んだ若い羊飼いは、大切な雌の羊を2頭失ったことを祖父に報告しました。わたしはその日の経験によって、羊飼いを無視する羊がどうなるかははっきりと心に刻みつけたのです。

わたしは羊飼いとしてそこにいました。危険を察知して、羊を守るために最善を尽くしました。しかし、数頭が誤った方向に進み始め、ほかの羊がそれに従ったのです。失われた羊はわずかに2頭でしたが、失われる必要のないものでした。

残念なことに、人生の中でだれもが頻繁に目にするのですが、そのときには気づかない障害や危険を避けるように導いてくれる霊的な羊飼いを無視した人々が、その報いを受けています。

両親や監督、祖父母、スカウト隊長、アドバイザー、真の友人は、しばしば霊的な羊飼いとしての導きを与えてくれます。真の友人を霊的な羊飼いに数えていることに注目してください。また普通の仲間は、羊飼いの中に入っていません。場合によっては、そのような仲間が羊飼いとして良い影響を与えることができますし、実際に与えている例があります。

真の友人は、人々に心からの関心を寄せ、その人が弱っているときに励みや力を与えて、重大な誤ちをしないようにしばしば助けしてくれます。そうすることによって、罪にほとんどいつも付きまとう悲しみや困惑、自尊心の喪失などを防いでくれるのです。しかし残念なことに、実に多くの場合、仲間というものは明らかに悪影響を及ぼしています。

多くの調査やインタビューから見聞きするように、青少年たちは、仲間からの影響やプレッシャーによって不道徳や愚かな行いに走ったと打ち明けています。サタンは、これを知っています。人を欺く専門家です。サタンは十分な経験を積んでいると思います。そして仲間というグループが個人に及ぼす強大な影響力に気づいているのです。

人にはグループに所属したいという

抵抗し難い願望があります。もしだれか一人でも影響を受けて、理由はどうであれ悪い道を選ぶなら、サタンの勝ちです。最も単純で簡単な誘惑は次のようなものです。「だれでもやっているよ」「かっこいいよ」「やってみもしないで、どうして悪いって分かるんだい?」

だまされてはいけません。このような誘いに乗らないでください。標準を高く保ってください。正しいことを行ってください。皆さんは正しい原則を教えられています。それらから離れないでください。

善と悪の間に中立の立場はありません。もし悪魔の領域にいるなら、できるだけ早くそこから出てください。ニーファイのように強くなりましょう。わたしは彼の謙遜な祈りを忘れることができません。「おお、主よ……わたしが罪の兆しに震えおののくようにしてください。」(2ニーファイ4:31)

ある人は自分の間違った行いを自覚しながら、愚かにもこう言ってそれを正当化しようとします。「小さな罪だから、どうってことないよ。」確かにその行いは重大な罪ではないかもしれませんが、その罪以上に危険なのは、今歩いている道です。「小さな過ち」は「より重大な過ち」へと通じる道になると思われるのです。



アメリカの聖職者ハリー・エマソン・フォスディックは、次のように教えています。「人生の悲劇的な罪悪は、一般に、初めから意図されたものではない。わたしたちは最初からそのように貧弱で安っぽい目標を立てたのではない。そうした目的は心になかった。……自分の歩んでいる道に目を向けなさい。棒の一方の端を捨てる人は、他方の端も捨てるのである。始めに道を選ぶときに、その行き着く場所も選んでいるのである。」(Living Under Tension『緊迫した生活』pp.110-111)

さて、若い兄弟の皆さんは、何が正しいか知っています。十分に教えられています。また聖霊を受けています。皆さんへのチャレンジは、強く忠実であることです。心と体を清く神聖に保ってください。早くから正しい道を選んで、そこから離れないでください。天父は皆さんを愛し、信頼し、幸福になってほしいと願い、従うべき「規範」を与えてくださいました(教義と聖約52:14参照)。その「規範」とはイエス・キリストの福音です。

この神権時代の最大の祝福の一つは、導きと指示を与える生ける預言者が存在することです。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、今日(こんにち)の愛する預言者です。大管長は皆さんを愛しています。大管長の次の勧告に聞き従ってください。

「仲間の誘惑があってもきっぱりと断って、皆さんの力と独立心を示してください。その勇気が弱い人々の力となるでしょう。その模範が周囲の人々に決意を促すでしょう。」(『敬虔さと道徳心』『聖徒の道』1987年7月号, p.52)

「皆さんが10代で行うことによって、30代40代でどのような生活をするかを決めることができます。」(『聖徒の道』1996年4月号, p.10に引用)

皆さんが真の幸福をもたらす決断をすることができるように祈っています。

この教会はイエス・キリストの真の教会です。これは主の御業(みわざ)です。すべてをイエス・キリストの御名(みな)により証(あかし)します。アーメン。

# 伝道に出る前に息子に 知ってほしいこと

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

自己を捨てて伝道に打ち込むなら、言葉に尽くせない喜びが待っています。



**愛**する兄弟の皆さん、このように神権者の皆さんの前でお話しする機会を頂き、その責任の大きさを感じています。皆さんの一員に数えられることを誇りに思います。神の神権を持つことは大きな祝福です。これからの話を信仰と祈りを込めて聞いてくださるようお願いいたします。

今晚、すばらしい若い男性の皆さんに10の事柄についてお話したいと思えます。それは伝道に先立ち、わたしの息子や孫の心に留めてほしいことなのです。

1. 皆さんの伝道の召しは主イエス・キリストから与えられます。主や監督、ステーク会長、中央幹部そしてヒンクレー大管長から信頼を受け、伝道の召しという栄誉を授かるのは何とすばらしいことでしょうか。皆さんは生

ける神の僕(しもべ)、教会の大使となります。

この教会の宣教師は、年も若く社会経験も乏しい人がほとんどです。にもかかわらず主はこのように言われています。「神から聖任され、遣わされる者は、最も小さい者であってすべての者の僕であるにもかかわらず、最も大いなる者となるように任命されているのである。」<sup>1</sup>

わたしたちに弱点があり、未熟であっても、聖文の次の言葉を思い起こす必要があります。主の御業(みわざ)に仕えるよう皆さんを召された神は「すべてのものの所有者である。天においても地上においても、すべてのものが彼に従うからである。父の御心(みこころ)によってその子イエス・キリスト(みたま)を通じて送られる、命も光も、御霊も力もそうである。

しかし、だれもすべての罪から清められてきれいにされなければ、すべてのものの所有者ではない。」<sup>2</sup>

2. 皆さんの伝道部長は主の代理人です。公私にかかわらず伝道部長を非難したり、その品位を傷つけたりしてはなりません。伝道部長としての権威を敬い、従順(けんそん)な態度を取り、素直になり、伝道部のルールに従うなら、宣教師として成功するでしょう。例えば最も従いにくいルールの一つに伝道部長から指示された時間に毎朝起きることが挙げられます。多くの若い人たちにとって朝ほど眠りたい時間もほかにはないでしょう。わたしは従順な先輩同僚だったウィリアム・グラント・バンガーター長老に感謝しています。彼は早起きするよう決まっ

目覚し時計の時間を合わせていました。朝、時計が鳴るとよく驚いたものです。冬になると朝はまだ暗く湿っていて、風呂やシャワーに使う温水さえない有様ありさまでした。それでも、彼は喜んでいつもその冷たい水でシャワーを浴びました。一方わたしはといえば彼の後にシャワーを浴びるのかと思うだけで体が震えました。彼の模範に従う以外になかったのですが、歯がガチガチに震えていたことから考えると、喜んでいないところも少々あったと告白しなければなりません。

**3. 熱心な働きは知性に勝ります。**『教義と聖約』にある主の御言葉みことばを思い起こしてください。「それゆえ、わたしは、わたしの御霊みたまの力によってもろもろの国民を打ってえり分けるために、世の弱い者たち、無学で見下されている者たちを呼ぶ。

そして、彼らの腕はわたしの腕となる。わたしは彼らの盾となり、彼らの小盾となろう。わたしは彼らの腰に帯を締めよう。そして、彼らはわたしのために勇敢に戦うであろう。」<sup>3</sup>

エズラ・タフト・ベンソン大管長はこのように語りました。「伝道を成功に導く最大の秘訣ひけつの一つは、働くということです。働く宣教師は御霊を受けすることができます。御霊を受ける宣教師は御霊によって教えます。そして御霊によって教える宣教師は、相手の心の琴線に触れ、自らも喜びを得ることができるのです。時間、能力、関心のすべてを伝道に注ぐのですから、ホームシックも家族への心配もありません。働いて、働いて、働く——これが秘訣です。特に伝道に関しては、これに代わり得るものはありません。」<sup>4</sup>

ある中央幹部が、宣教師の証会あかしかいに出席したときの経験を報告してくれました。一人の若い宣教師が、あまり話す時間もなかったため、こう述べたといいます。「わたしは伝道を楽しんでいます。それしかないと思うからです。してもいないことは楽しめません。」

N・エルドン・タナー副管長が、何年も前に西ヨーロッパ伝道部を管理していたころ、「楽しくなさい」というスローガンを掲げていました。ある

日ドイツで働く宣教師のグループに「皆さん一人一人に、楽しく過ごしていただきたいと思います」と語りました。ところが集会の後、宣教師の一人がタナー長老のもとに来て、こう反論しました。「タナー伝道部長、ここで楽しくなさいなんて宣教師への言葉としてはどうかと思います。長老や姉妹が楽しくできるのは働くときだけですから。」それに対しタナー副管長はこう答えました。「そのとおりです。ですからどうぞ楽しんできてください。」<sup>5</sup>

**4. 自己を忘れて主に仕えてください。**主はこのように言われました。「自分の命を得ている者はそれを失い、わたしのために自分の命を失っている者は、それを得るであろう。」<sup>6</sup>自己を捨てて伝道に打ち込むなら、言葉に尽くせない喜びが待っています。宣教師として大切なメッセージを伝えるうえで、皆さんの服、髪髪の長さ、態度、故郷のガールフレンドが妨げとなつてはなりません。何もすてきな若い男性と美しい若い女性との間に起こる自然な恋愛感情にまで、心を鈍らせてほしいというわけではありません。しかしかりに、離れた地で待っていたはずのガールフレンドから、心変わりした手紙を宣教師が受け取ったとします。実際、そのような手紙は「ディア・ジョンの手紙」と呼ばれ、もらう羽目になった人も中にはいます。そのような人には、数年前にリグランド・リチャーズ長老が与えた適切な勧告に心を留めるようお勧めします。リチャーズ長老の言葉はこうでした。「年ごとに新しい女の子が何人も現れるじゃないですか。彼女たちは今までの女の子に比べても少しも劣りません。」

この不安定な世の中であって、まだ若い皆さんがこれから何をし、だれと結婚するか悩むのも無理はありません。しかし主の専任代理者として召されたからには、皆さんは「終わりの日に神の前に罪のない状態で立てるように、あなたがたの心と、勢力と、思いと、力を尽くして神に仕え」なくてはなりません。

**5. 同僚との間で争ってなりません。**

皆さんの同僚宣教師の中には生涯最良の友となる人もいます。一緒にいたいと思うような同僚に皆さん自身になってください。同僚に対しては利己心を捨ててください。それがだれの落ち度であろうと、主の御霊は争いのある所から退きます。

人によって能力も才能も異なり、まったく同じ人などどこを捜してもいません。またそれぞれが弱点を持ち合わせています。同僚として一致すれば互いの弱さを相手の強さで補い合うチームワークができます。少年のころ、わたしは複数の馬に荷馬車を引かせるすべてを学びました。片方の馬が遅いか立ち止まるようだと、もう一方の馬だけでは荷馬車を引くことはできません。同様に、同僚関係においても互いに負担を分け合わなければなりません。

**6. 身体を常に清潔にし、健康を保ち、住居をいつもきれいにしてください。**健康を保つには適度な食事と睡眠を取ることがとても重要です。もし病気になるれば自分が働けなくなるだけでなく同僚にも負担をかけてしまいます。また身体を清潔に保ち、住居をきれいに整えておくなら御霊を受けやすくなる、ということをお忘れなさい。

主の代理人として、皆さん一人一人の身なりはとても大切です。皆さん自身や教会、伝えるメッセージから受ける印象は、皆さんが清潔できちんとした身なりをずるか否かによっても幾分違ってきます。もしそのような身なりをしていなければ福音を聞く人々は皆さんを家に招待したがりないでしょう。

**7. ともに働く人々を愛し、彼らに仕えることを学んでください。**人々に仕えるときに主が皆さんを愛で満たしてくださいよう毎日祈るべきです。彼らを愛さなければ福音を伝えることは難しくなるでしょう。

あるペルシャ人の孤独な学生がミュンヘンに住んでいました。終戦後のヨーロッパで人生の意味について熱心に知ろうとしていました。そんなある日玄関のドアをたたく音が聞こえ、開けると二人のモルモンの宣教師が立って

いました。彼は宗教にはほとんど関心がありませんでした。その二人に抱いた関心はただ一つ、彼らのなまりでした。4つの言語に精通していた彼ですが、英語はまだでした。

彼は中に入るように勧めはしましたが、宣教師がレッスンを始めようとする時、こう忠告しました。「神がどうであるとか、君たちの宗教の起こりがどうか聞きたいわけじゃない。ほくが聞きたいことは一つだけ。君たちの宗教を信じている人は、相手のために互いに何をしているんですか。」

長老たちが見交わしている間、彼は待っていました。結局、長老の一人が穏やかな口調でこう言ったのです。「わたしたちはお互いに愛しています。」

宣教師の口から出る言葉の中でこの簡潔な言葉ほど霊的に満たされる言葉はなかったでしょう。なぜなら聖霊がすぐに、この宣教師たちは真の主の僕であると証されたからです。程なくして彼はバプテスマを受け、教会に入りました。<sup>8</sup>

8. 聖文、特に『モルモン書』と『新約聖書』を学び、深く考え、教えてください。はっきりと伝えられるよう、真理に精通してください。B・H・ロバーツはこのように記しました。「真理を知らせるには、宣べ伝えなければならない。より明確により完全に伝えることができれば、聖なる御霊が人の心にこの御業の真実性を証されるのに、いっそう好都合である。」<sup>9</sup>自分自身が改宗せずに人々を改宗させることはできません。『モルモン書』は、それに対する皆さんの証があれば、人々を改宗に導く強力な手段となります。

七十人のF・バートン・ハワード長老は、ある姉妹の経験から、『モルモン書』が人を改宗に導く力を持つことについて、力強く証しました。プエルトリコのサン・ファン伝道部に住むセリア・クルズ・アヤラ姉妹の経験談です。彼女は『モルモン書』を友人に渡すと決心し、きれいな包装紙で包み、手渡すために出かけました。

しかし友人の家に行く途中、暴漢に

襲われ、財布と『モルモン書』を盗まれてしまいました。しかしその数日後、次のような手紙が届きました。

「クルズ 様

どうかお救しく下さい。どうかお願いします。あなたを襲ったことをどれほど後悔しているか、ご理解いただけないでしょう。でもこの事件のおかげでわたしの人生は変わりました。これからは変わり続けていくでしょう。この本〔『モルモン書』〕はわたしの人生を救ってくれました。神の人が見た夢について読んでから、わたしの心は揺れ動いています。……盗んだ5ペソはとても使えないのでお返しします。知っていただきたいのは、わたしがあなたから輝きを感じたことです。その輝きのためにあなたに危害を加えることができず、わたしはその場から逃げ出しました。

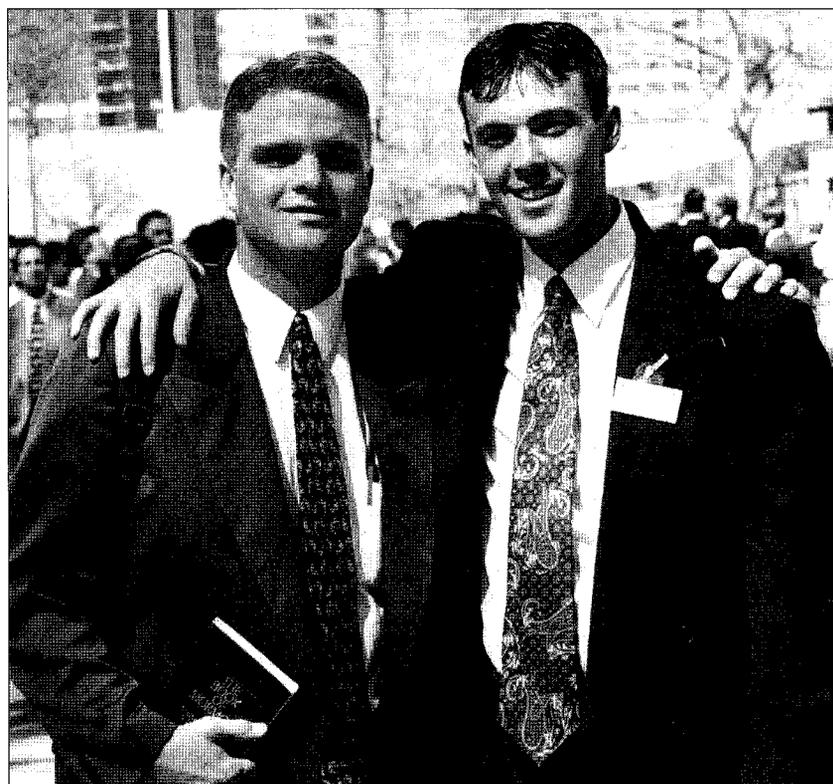
いずれまたお会いすると思いますが、そのときにはわたしだと気づかれなないでしょう。そのころにはあなたの兄弟になっているからです。……わたしの住んでいるこの場所で主を見いだし、あなたの集っている教会に行かなくてはなりません。

あなたが本の中に書いたメッセージを読んで、涙が込み上げてきました。水曜日の夜からというもの、この本を読み続けずにはられません。神が赦してくださるよう、そしてあなたが赦してくださるよう祈り求める毎日です。……最初、包装紙に包まれたプレゼントは金になると思いました。それが今ではこのおかげで、今までさんだ生活をしてきた分、人生をよりいっそう良いものにしたいと思うようになったのです。どうかわたしを赦してください。お願いします。

あなたの影の友より。<sup>10</sup>

『モルモン書』には人々をここまで改宗させる力があります。

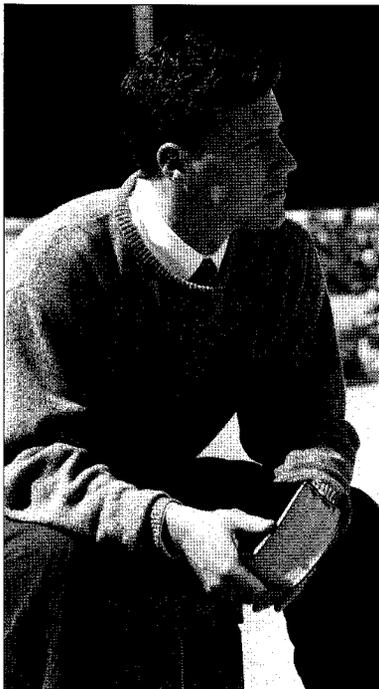
さて、ここで若い皆さんにお勧めしたいことがあります。伝道に出るには奥義を忘れてください。奥義については、ある人のことを思い出します。彼は立ち上がって、こう言いました。「さてこれから、主がまだ啓示する時期ではないとお考えの事柄について、説き明かしましょう。」奥義には推量の域を出ないものが含まれています。それらはまだ啓示されていないものや、わたしたちには理解できない事柄



です。しかし人を改宗に導くのは、主の謙遜な僕が証するときに伴う、御霊によって確認された簡潔で分かりやすい真理なのです。

9. ルシフェルが皆さんの働きを妨害するので、妨害に備えなくてはなりません。驚いてはいけません。ルシフェルは皆さんを陥れようとしています。落胆させることは悪魔が用いる一つのやり口です。勇気を胸に前進してください。時の初めから、福音を説くには幾らか苦痛や悲しみが伴ってきたことに留意してください。それ以外の経験を期待することはできません。ウィルフォード・ウッドラフ大管長は初期の伝道活動の困難について紹介しています。

「初期の伝道で、わたしは南部諸州、つまりアーカンソー州、テネシー州、ケンタッキー州などで働きました。そのころわたしは沼地や川を幾つも歩いて渡り、食事も取らずに100キロ以上も歩く日々でした。当時、わたしたちは一人でも末日聖徒のいる所へ行ければ祝福だと考えていました。一人の教会員と会うため、250キロ近くの道のりを歩きました。しかしそこに着くと、相手はすでに信仰を捨てており、わたしを殺そうとしました。そこで食事抜きでさらに115キロ歩き、やっとのこ



とで腰を下ろして食事を取ったとき一緒にいた相手が、以前ミズーリで聖徒を迫害した暴徒の一味だった人で、食事中いつもわたしを非難し、悪態をつきました。……そのころわたしたちは何キロも歩いたと思いますが、一人の末日聖徒も見いだせませんでした。」<sup>11</sup>

#### 10. 伝道における最も強力な武器は、皆さんの個人的な証です。

わたしはよくブラジルでの初期の伝道経験についてお話してきました。今では50万人以上の会員数を擁するこの国も、当初はポルトガル語に翻訳された『モルモン書』や『教義と聖約』すらなく、あるのは『聖書』、幾つかのパンフレット、それに回復された福音、ジョセフ・スミスの経験、生ける預言者に対する自分たちの証だけでした。改宗者は多いとは言えませんでした。しかしその中には、今や3世代にわたって信仰を保っている人々もいるのです。なぜならほぼ60年前の謙遜な宣教師たちの力強い証に触れたからです。今日では、求道者が皆さんの証を受け入れバプテスマを受けるかどうか、皆さんが責任を問われることはないでしょう。成功するにはバプテスマの具体的な数の割り当てを受ける必要があるとは考えないでください。古いことわざに、1個のりんごにある種の数は数えられても、1粒の種から将来幾つのりんごが採れるかは数えられない、とあります。刈り入れは主によるものです。皆さんの責任は鎌を入れることです。『教義と聖約』にはバプテスマの水に入る人々に何が求められているか、はっきりと記されています。

「神の前にへりくだって、バプテスマを受けたいと願い、打ち砕かれた心と悔いる霊をもって進み出て、自分のすべての罪を心から悔い改めたこと、最後までイエス・キリストに仕える決心をして進んでイエス・キリストの名を受けることを教会員の前に証明し、また自分の罪の赦しを得るようキリストの御霊を受けたことをその行いによってまことに明らかにする人は皆、バプテスマによってキリストの教会に受け入れられる。」<sup>12</sup>

聖なる御霊が皆さんのうえにとどま

り、御霊の力によって聖文に記されている主の御言葉や生ける預言者によって語られる言葉を皆さんが語るなら、神はメッセージを聞く人々の心の中にその言葉が真実であると証してください。

愛する若人の皆さん、伝道はたやすくありません。むしろ非常に困難なときもあります。しかし主ほど大きな報いを与えてくださる御方はほかにいらっしゃいません。献身的な伝道活動は人生で最も実りある経験の一つです。その最も大きな理由は、人々の生活を祝福するために謙遜で従順な僕に主が豊かに注いでくださる天与の力を経験するからです。わたしは無数の人々の生活にその力が注がれ、わたし自身の生活でも体験して、それが真実であることを知っています。

神の神権を持つ皆さんが、いかなる召しにもこたえられる備えとふさわしさを身に付けられますよう、イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。

注

1. 教義と聖約50：26
2. 教義と聖約50：27-28
3. 教義と聖約35：13-14
4. *Mission President's Seminar* 『伝道部長セミナー』1982年8月、『宣教師ガイド』p.35から引用、下線付加
5. *Stories for Mormons* 『モルモンの逸話集』リック・ウォルトン、ファン・オビアット共編、p.73参照
6. マタイ10：39
7. 教義と聖約4：2
8. *Especially for Mormons* 『親愛なるモルモンの人々へ』5：186、ラス・プライスの記事からの引用
9. *New Witnesses for God* 『新しい神の証人』2：vii
10. F・バートン・ハワード "My Life Has Changed" *Church news* 「人生は変わった」『チャーチニュース』1996年1月6日付け、p.16参照
11. *Journal of Discourses* 『説教集』12：12
12. 教義と聖約20：37

# 召しの義務

第一副管長

トーマス・S・モンソン

この業は皆さんやわたしだけのものではありません。主の御業<sup>みわざ</sup>なのです。わたしたちは主の用向きをもって働くときには、主の助けを受ける特権があります。



今晚、何と多くの人々がこの神権部会に集っていることでしょう。使徒パウロは皆さんのことを適切に描いています。「あなたがたは、選ばれた種族、王国の神権者、聖なる国民、神につける民である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである。」<sup>1</sup>

青少年のころ、日曜学校で次の賛美歌をよく歌いました。

「戦い止むまで募らる  
われらは楽しき  
つわもの冠を見よや  
われらそれを受けん  
……

危険は迫るとも  
指導者、主は近し  
主はわれらを守らん

喜び進まん、わが家に」<sup>2</sup>

兄弟の皆さん、わたしたちの住んでいるすばらしい世界に思いをはせ、そして自分を悩ます騒然とした時代について理解するとき、指導者イエスをいつも近くに感じるのはまさに喜びです。現代は浪費の時代です。あまりに多くの資源が浪費されています。また現代は欠乏の時代です。ぜいたくを尽くしている人がいる一方で、飢えに直面している人がいます。食糧、住居、衣服、愛に恵まれない人がいます。癒されない苦しみや無用の病気、早すぎる死が多くの人を襲っています。また現代は戦争の時代です。政治に基づく争いもあれば、経済を理由とする争いもあります。しかし最大の戦いは、人類の救いのための戦いです。

わたしたちの司令官、主イエス・キリストはこう宣言されました。

「人の価値が神の目に大いなるものであることを覚えておきなさい。……

あなたがたはこの民に悔い改めを叫ぶことに生涯力を尽くし、一人でもわたしのもとに導くならば、わたしの父の王国で彼とともに受けるあなたがたの喜びはいかに大きいことか。

さて、あなたがたがわたしのもとに導いてわたしの父の王国に入れるようにした、一人の人とともに受けるあなたがたの喜びが大きいならば、もし多くの人をわたしのもとに導くとすればその喜びはいかに大きいことか。」<sup>3</sup>

イエスはガリラヤの漁師に、網を捨ててついて来るように呼びかけ、こう言われました。「あなたがたを、人間

をとる漁師にしてあげよう。」<sup>4</sup>そして言葉どおりにされました。主は輝かしい福音を宣べ伝えるために愛する使徒たちを全世界に送られました。そして、わたしたち一人一人を「来たりて隊に入れ」<sup>5</sup>と召しておられます。主は戦略を立て、次のように訓戒しておられます。「それゆえ、今や人は皆、自分の義務を学び、任命されている職務をまったく勤勉に遂行するようにしなさい。」<sup>6</sup>わたしは「義務」という高潔な言葉が好きで、大切にしています。

ジョン・テラー大管長は警告しています。「もし最善を尽くして召しを果たさないならば、務めを果たしていれば救えたかもしれない人に対して、あなたは神から責任を問われるだろう。」<sup>7</sup>

別の大管長、ジョージ・アルバート・スミスもこう言いました。「あなたの義務は、まず第一に、主が望んでおられることを学び、それから、神権の力と権能によって、人々の前であなたの召しを尊んで大いなるものとし、人々が喜んであなたに従うようにすることです。」<sup>8</sup>

どうすれば召しを尊んで大いなるもののできるでしょうか。簡単に言えば、召しに伴う奉仕を行うことです。

わたしたちは召しを受け入れ、聖任され、神権を授けられています。

ステイーブン・L・リチャーズ長老は神権者に向かって度々語り、神権に関する彼の考え方を次のように強調しました。「普通、神権は単に『人に託された神の権能』と定義されている。この定義は正しいと思うが、わたしは実際的な目的から、神権を奉仕の観点から定義するのが好きなので、よく神権を『奉仕の完全な計画』と呼んでいる。」<sup>9</sup>

皆さんはこう尋ねるかもしれませんが。「義務という道はどこにあるのでしょうか。」兄弟の皆さん、わたしは心から、この道を示す二つの道標があると信じています。それは「備える義務」と「仕える義務」です。

この二つの道標について説明しましょう。

第1に「備える義務」です。主はこ

う勧告されました。「最良の書物から知恵の言葉を探し求め、研究によって、また信仰によって学問を求めなさい。」<sup>10</sup>

人生の様々な機会や責任に備えることが、今ほど重要視されたことはありません。現代は変化する時代です。激しい競争は人生の一部です。夫、父親、祖父、扶養者、守り手としての役割は、1世代前と大きく異なっています。備えは、「できれば」とか「たぶん」という問題ではありません。急務なのです。古くから言われる「無知の幸せ」など、いつまでも見込みのないことです。備えが実績に先立つのです。

神権を持つわたしたちは皆、今あるいは将来において間違いなく、真理の教師になります。主は次のように助言されました。

「熱心に教えなさい。そうすれば、わたしの恵みがあなたがたに伴うであろう。それは、理論において、原則において、教義において、福音の律法において、あなたがたが理解する必要のある神の王国に関するすべてのことにおいて、あなたがたがさらに完全に教えられるためである。……

それは、わたしが再びあなたがたを遣わすときに、あなたがたが、わたしがあなたがたを召したその召しと、あなたがたを任命したその使命とを尊んで大いなるものとするように、あらゆる点で備えられるためである。」<sup>11</sup>

第2に「仕える義務」です。

1914年2月、ジョセフ・F・スミス、アンソン・H・ランド、チャールズ・W・ベンローズから成る大管長会は、次のように宣言しました。「神権は人に荣誉や威厳を添えるために与えられているのではない。この神聖な権能を委任された人が、召しを受けて奉仕の働きを行うために与えられるのである。」<sup>12</sup>

さて、皆さんの中には、生まれつき内気だとか、自分はその召しを確固として果たすだけの力がないと考えている人もいるでしょう。忘れないでください、この御業は皆さんやわたしだけのものではありません。主の御業なのです。わたしたちは主の用向きをもって働くときには、主の助けを受ける特

権があります。主から召される人は、主によって適格な者とされることを忘れないでください。

主は時々、この真理を人々に理解させるために少しの助けを必要とされます。わたしが教会の伝道管理委員会の委員長を務めていたときのことで、ユタ州プロボの宣教師訓練センターの副所長から電話を受けました。彼の話によれば、スペイン語圏にある伝道部に召されたある長老が、語学の勉強についていけず、「スペイン語などできっこない」と言っているとのことでした。その指導者は「どうしたらよいでしょうか」と聞いてきました。

わたしはしばらく考えてから、こう提案しました。「明日、彼を日本語の勉強で苦勞している宣教師のクラスに連れて行き、彼がどのような反応を示すか知らせてください。」

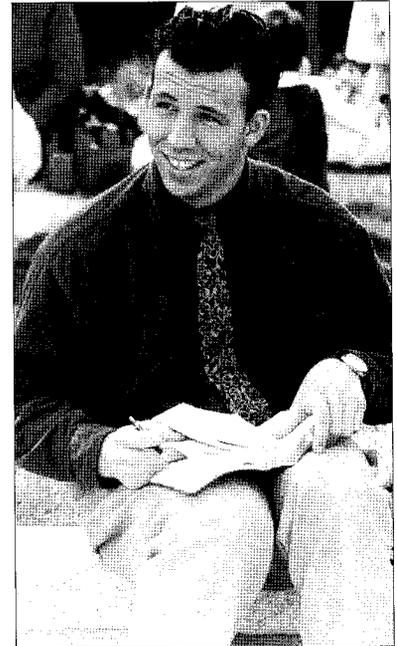
それから24時間もしないうちに次のような報告がありました。「その宣教師は日本語のクラスに半日だけで、わたしに電話をして興奮ぎみに言いました。『わたしをスペイン語のクラスに戻してください。自分に学べるのが分かったんです。』そして言葉どおりになりました。

正規の教室で行われるレッスンは、あまり楽しくないこともあるかもしれませんが、礼拝堂や教室の外で行われます。

皆さんの多くは、アロン神権を受けています。そして宣教師になる備えをしています。青少年の今から、主の御業に仕える喜びを味わうようにしてください。そのような奉仕の例を紹介しましょう。

数年前の感謝祭の後、わたしは、以前に管理していたステーキに住む、夫に先立たれた女性から手紙を受け取りました。彼女は監督の主催した夕食会から帰ったばかりでした。その手紙には、彼女の感じた平安と心にあふれる感謝の気持ちが表れていました。

「親愛なるモンソン長老、わたしは今バウンティフルに住んでいます。前のステーキの会員の皆さんが懐かしいです。今日は、すばらしい経験についてお話ししたいと思います。11月の初



めにすべての老人、そして夫を亡くした女性たちが、すてきな晩餐会への招待を受けました。交通手段の心配は要らないと言われました。ワードの年上の青少年が送り迎えをしてくれるからです。

約束の時間に、とても立派な青少年がベルを鳴らし、わたしともう一人の姉妹をステーキセンターまで送ってくれました。車が着くと別の二人の若い男性が建物まで付き添ってくれました。

中に入ると、テーブルまで案内され、各々の席のわきには若い男性か若い女性がついていました。そして感謝祭のごちそうが出され、その後で選り抜きのプログラムが行われました。

それから若い男性が家まで送ってくれました。ほんとうにすてきな夜でした。青少年から受けた尊敬と愛に、ほとんどの人が喜びと幸せの涙を流しました。

モンソン長老、このように人と接する若人を見るとき、わたしは教会が主の御手にあると感じます。」

ヤコブの手紙の言葉が心に浮かんできました。「父なる神のみまえに清く汚れない信心とは、困っている孤児や、やもめを見舞い、自らは世の汚れに染まらずに、身を清く保つことにほかならない。」<sup>13</sup>

わたしも称賛の言葉を付け加えましょう。孤独な人々に喜びと心の平安をもたらした指導者や若い男性、若い女性のうえに神の祝福がありますように。彼らは自らの経験を通して奉仕の意味を学び、主を身近に感じたのです。

1962年、わたしは教会のカナダ伝道部の管理を終えて帰還したとき、マリオン・G・ロムニー長老から電話を受けました。そして、大管長から教会の成人コーリレーション委員会のメンバーに指名されたことを伝えられました。この委員会の具体的な役割は、新しい概念であるホームティーチングの準備をすることでした。こうしてわたしにとって最も興味深く実りある経験が始まりました。わたしたちの仕事は、各段階を終えるごとに、大管長会と十二使徒評議会から評価を受けました。1963年の春、準備が完了し、わたしたちの多くは新しく組織された委員会、すなわち神権ホームティーチング委員会の一員として召されました。そして教会のステークを回って、このプログラムについて教え、実行を促すように割り当てられました。

デビッド・O・マッケイ大管長は、すべての中央幹部と委員会の代表者を集めて、次のように勧告しました。「ホームティーチングは、天父の子供たちを養い、鼓舞し、助言し、指導するために、最も差し迫った報いの大きいプログラムの一つである。……それは神聖な奉仕の機会であり、天よりの召しである。ホームティーチャーとして天からの靈感をあらゆる家庭に、人人の心の中にもたらす務めは、わたしたちの義務である。」

1987年にエズラ・タフト・ベンソン大管長は、神権部会に集まった兄弟たちにこう助言しています。「ホームティーチングを軽く考えてはなりません。ホームティーチングの召しは、主イエス・キリストが自ら親しく皆さんを召されたかのように受け入れる必要があります。」<sup>14</sup>それから、ベンソン大管長は『教義と聖約』の第20章からよく知られた箇所を引用しました。主はその中で神権者に次のように告げられます。「常に教会員を見守り、

彼らとともにいて彼らを強め……  
教会の中に罪悪がないように……

また、教会員がしばしば会合するように取り計らい、またすべての会員が自分の義務を果たすように取り計らいなさい。<sup>15</sup>

「また各会員の家を訪れて、彼らが声に出して祈り、ひそかにも祈るようになり、また家庭におけるすべての義務を果たすように勧め」なさい。<sup>16</sup>

最近、わたしの孫たちは成績表をもらいました。そしてそれを満足げに両親やわたしたちに見せてくれました。今晚わたしは、すべての神権者にホームティーチングの成績をつけてもらいたいと思います。用意はいいですか。「はい」か「いいえ」で答えてください。

1. あなたはホームティーチャーとして割り当てられていますか。

2. ホームティーチャーは、少なくとも月に1度、あなたの家を訪問しますか。

3. ホームティーチャーは、福音のメッセージを準備して、伝えてくれますか。

4. ホームティーチャーは、学校や伝道で家を離れている子供を含め、家族全員に関心を払っていますか。

5. 先月、ホームティーチャーはあなたの家でどのようなレッスンをしましたか。

6. ホームティーチャーは、訪問したときに家族と一緒に祈りますか。

7. あなたは先月、ホームティーチングに行きましたか。

質問はまだ続けられますが、心の中で反省し、結果の改善を促すには、これで十分だと思います。

中央本部は、神権者の数が非常に少ない地域では、ホームティーチングに変更を加えることを承認しています。同僚となる神権者がほかにいない場合、奥さんを同僚にすることも許されています。しかしこうした例外は、あくまで例外であって、正規のものではありません。わたしたちが勧めるのは、活発なメルキゼデク神権者が次の聖句に従って、教師や祭司、長老見込み会員を同僚として割り当てられることで

す。「あなたがたの中で御霊において強い者がいれば、その人は弱い者を伴って行きなさい。それは、弱い者ができるかぎり柔和に教化されて、彼らも強くなるためである。」<sup>17</sup>これが、一般に機能する神権ホームティーチングです。

もし割り当てを重荷に思ったり、時間を無駄にしていると感じたりする人がいるなら、わたしは皆さんに、当時の東ドイツの忠実なホームティーチャーとその同僚が経験したことを紹介したいと思います。

ヨハン・デンドーファー兄弟は、ドイツで教会に改宗し、第二次大戦後に故国のハンガリーのデブレツェンという町で看守をしていました。彼はどんなに神殿に参入しかたったことでしょうか。霊的な祝福をどんなに受けたかったことでしょうか。再三再四、スイス神殿への旅行を申請しましたが却下され、ほとんど望みを失っていました。そこにホームティーチャーが訪れました。ウォルター・クラウゼ兄弟はドイツ北東部からわざわざハンガリーまでやって来たのです。彼はホームティーチングの同僚にこう言いました。「今週、一緒にホームティーチングに行きませんか。」

同僚は「いつ出発しますか」と尋ねました。

「明日です。」

「いつ戻って来ますか。」

「1週間か、もう少しかかるかもしれませんが。」

こうして二人は、はるばるデンドーファー兄弟を訪れたのです。彼は戦争前からずっとホームティーチングを受けたことがありませんでした。さて、主の僕たちを見たとき、彼は胸がいっぱいになりました。そして、二人と握手もせずじゅうぶんに入ると、秘密の隠し場所から什分の一を取り出しました。それは、教会員になってハンガリーに戻った日からためてきた什分の一でした。彼はホームティーチャーに什分の一を渡してこう言いました。「これで、わたしは主に認められます。主の僕と握手をするのにふさわしくなりました。」

クラウゼ兄弟が、スイス神殿に入る望みについて尋ねると、デンドーファー兄弟は言いました。「無駄です、何度も何度もやってみました。政府はわたしのいちばん大切な宝である教会の書物まで没収してしまいました。」

祝福師であるクラウゼ兄弟は、デンドーファー兄弟に祝福師の祝福を受けました。その祝福の最後で、こう告げました。「スイスに行くことをもう一度政府に申請しなさい。」デンドーファー兄弟は再度、申請書を提出しました。すると許可が下りたのです。デンドーファー兄弟は大喜びでスイス神殿へ行き、そこに1か月滞在しました。その間に自身のエンダウメントを受け、亡くなった奥さんとの結び固めを受け、数百人の先祖のために儀式を行うことができました。そして肉体も霊も再新されて家に戻ったのです。

ヨハン・デンドーファー兄弟に対して、この歴史的で靈感された訪問を行ったホームティーチャーは、どうした

でしょうか。

わたしはこの人生のドラマにかかわった一人一人をよく知っているのです、このことを聞いても少しも驚きません。二人はハンガリーのデブレツェンから東ドイツへ帰る途中、大きな声でこう歌っていたのです。「危険は迫るとも、指導者主は近し、主はわれらを守らん、喜び進まん、わが家に」<sup>18</sup>

神権者の皆さん、すべての人が「備える義務」と「仕える義務」を心に覚えて、主から「良い忠実な僕よ、よくやった」<sup>19</sup>と称賛される者となれますように、イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。

注

1. 欽定訳1ペテロ2：9
2. 『賛美歌』162番
3. 教義と聖約18：10、15-16
4. マタイ4：19
5. 『賛美歌』162番
6. 教義と聖約107：99

7. *Journal of Discourses* 『説教集』20：23
8. *Conference Report* 『大会報告』1942年4月、p.14
9. 『大会報告』1937年4月、p.46
10. 教義と聖約88：118
11. 教義と聖約88：78、80
12. ジェームズ・R・クラーク編、*Messages of the First Presidency of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints* 『末日聖徒イエス・キリスト教会大管長会メッセージ』4：304)
13. ヤコブの手紙1：27
14. 「教会のホームティーチャーへ」『聖徒の道』1987年7月号、pp.53-54に引用
15. 教義と聖約20：53-55
16. 教義と聖約20：51
17. 教義と聖約84：106
18. 『賛美歌』162番
19. マタイ25：21

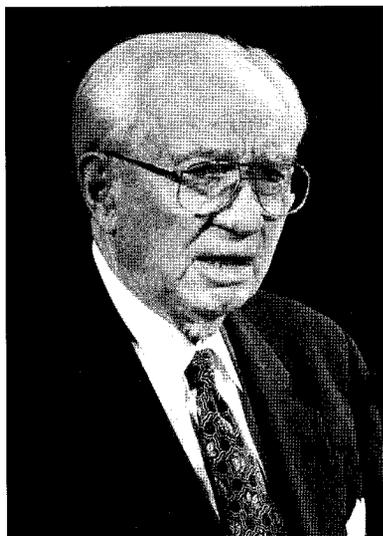


# 「わたしは清く、 汚れがありません」

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

主は……その民に、世の罪から清くあるよう望んでおられます。



すばらしい集会でした。主の御霊みたまがわたしたちとともにありました。これまで聞いたお話を通じて、一人一人が豊かに教訓を得られたことでしょう。

わたしたちは祝福された民です。今晚わたしたちがここにともに集っているように、聖なる神権の職に聖任されている人たちが、年齢を問わず、集っている場所は、世界中のどこを探してもないでしょう。この集いは、偉大な兄弟愛で結ばれた何千、何万、いや何百万という人々の集いなのです。これは実に驚くべき、すばらしいことです。わたしは、わたしたち一人一人が今与えられている機会を大切にしてくださいよう願っています。

ちょうど1週間前の夜のことで、このタバナクルが美しい聡明な若い女

性たちでいっぱいになりました。年次で開かれる教会の若い女性大会が開かれたからです。わたしはそこで要請を受けて、お話をしました。その大会に出席した多くの人々から、とりわけ、少女の皆さんからこう言われました。「男の子たちにもぜひ同じ話をしてほしいと思います。今日の話は、男の子たちも知る必要があるからです。」さて、今晚は、まったく同じことをお話しするつもりはありません。もしその内容について知りたければ、『エンサイン』5月号（日本では『聖徒の道』7月号）に掲載されることになっていますので、それをお読みください。

今晚のお話を始めるに当たって、まず、ジョセフ・F・スミス大管長がまだ青年だったころに見た夢の話を読んでみたいと思います。御存じの方もいらっしゃると思いますが、ジョセフ・F・スミス大管長は教会の6代目の大管長で、1901年から1918年まで17年間、その職にありました。

スミス大管長は、預言者ジョセフ・スミスの兄であったハイラム・スミスの息子でもあります。大管長は、1838年11月13日にミズーリ州ファーウェストで生まれました。聖徒たちがミズーリ州から追放されていたころで、幼い大管長も、やむなくイリノイ州に移住させられました。預言者ジョセフがカーセージの監獄で殺害されたとき、父親のハイラムもともに殺されました。6歳にもならない男の子は、ノーブーにあった母親の家で、窓をノックする音を聞きました。訪ねて来たのは、そ

の日の午後、夫がカーセージで殺害されたことを母親に知らせる早馬の使者でした。まだ幼かったスミス少年にとって、実に冷酷でつらい経験であったことでしょう。

11歳のとき、この父親のいない若者は、牛の引く荷車を操って母親とともに大平原を横切り、この盆地にやって来ました。そして、15歳のときに、ハワイへの伝道に召されました。そこで、まずサンフランシスコまで行き、その屋根板工場で働いて、ハワイ諸島へ渡るための旅費を稼ぎました。

当時のハワイは今のような観光地ではありませんでした。住民も大半は現地のハワイ人でした。大部分の人々が貧しい暮らしをしていたものの、自分の持っているものについては、実に物惜しみしませんでした。彼はやがて現地の言葉が話せるようになり、また人人を愛するようになりました。大管長は終生、ハワイの人々に対する愛を抱き続け、また、ハワイの人々も大管長を愛し続けました。わたしがまずこの話をしたのは、この若き青年がハワイで伝道したときに見た夢の話を背景を知っておいてほしいと思ったからです。では、大管長の言葉から引用してみましよう。

「わたしは〔自分の〕伝道中に、非常に苦しい思いをしたことがある。貧しく、文化の遅れた人々以外に友もなく、孤独感に襲われた時期があった。わたしは、貧しさと知恵と知識のない状態に非常に惨めさを味わい、……人と顔を合せることができなかった。

そうした状態にあるときに、〔ある晩〕わたしは旅をしている夢を見た。遅れないように全力で急いでいた。急ぎながらもわたしは、ハンカチで包んだ何かを手をしていることに気がついた。それが何か分からないまま道を急いでいたが、やがてすばらしい邸宅に着いた。……〔わたしは〕そこが目的地であることを知っていた。急いで中へ入ると、『浴室』という表示が目に入った。そしてわたしは浴室に入ると体を洗った。そして手にしていた包みを開くと、まっ白な衣が出てきた。この地方の人々は衣類をきれいにするこ

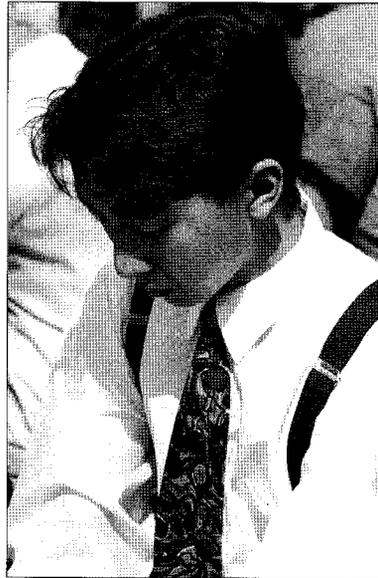
とにあまり注意を払わないため、長い間目にしたことのきれいな衣だった。わたしの衣類は清潔だったが、わたしはそれを身に着けた。そして、大きな入り口のような所に急いだ。ドアをノックして開けると、そこに預言者ジョセフ・スミスが立っていた。彼はしかるような目でわたしを見ると、こう言った。『ジョセフ、遅かった。』しかし、わたしは自信をもって言った。

『はい、でもわたしは清く、汚れがありません。』

彼はわたしの手をつかむと中に引き入れ、ドアを閉じた。彼の手はこの世の人の手と同じように、実感することができた。わたしは預言者ジョセフ・スミスを以前に知っていた。そして中へ入ると、壇上にわたしの父、ブリガム〔・ヤング〕、ヒーバー〔・C・キンボール〕、ウィラード〔・リチャーズ〕、そのほかわたしの知っている立派な人々が座っていた。そこは、この谷のように見えた。そして大群衆が集まっていた。だが壇上にいる人々はすべてわたしの知っている人々だった。わたしの母もそこにいた。そしてひざに幼子を抱いていた。そこに座っていた人々は選ばれて昇栄を受けた人々のようだった。わたしはそれらの人々の名前を思い出せるかぎり呼んだ。……

〔わたしがこの夢を見たとき、〕わたしは遠いハワイの山の中でただ一人、敷き物の上で眠っていたのだが、この示現の中でわたしは預言者に手を押しつけ、彼のほほえみを見た。……

その朝、わたしは目を覚ますと、年齢ではまだ子供だったが、一人前の大人になっていた。〔その示現の後〕世の中に恐れるものはなくなっていた。自分があらゆる点で大人であるという自信を持って、あらゆる男女、子供と面と向かって会うことができるようになっていた。そのとき見た示現、示しと証<sup>あかし</sup>がわたしを現在のわたしにした。わたしに良いところがあるとしたら、主の前に清いとしたら、その示現を契機に身に付けたのである。その経験は、あらゆる試練と困難に遭遇したときにわたしの支えとなった。』（『福音の教義』 pp. 516-517）



この意味深い夢の話の最も大切な点は、ジョセフ・スミスが若きジョセフ・F・スミスを買収した場面にあります。預言者ジョセフは「ジョセフ、遅かった」と言っています。

この言葉に対するジョセフ・F・スミスの答えはこうでした。「はい、でもわたしは清く、汚れがありません。」

この夢の結果、一人の子供が一人の大人へと成長しました。ジョセフ・F・スミスは「わたしは清く、汚れがありません」と言えたがために、どんな人にもどんな状況にも対応できる確信と勇気を得ました。この強さは汚れない良心からもたらされたもので、しかもそれは預言者ジョセフから認められたことで強さが倍加しました。

この話には、今晚この場に集っている大勢の男性の皆さんにも、年齢を問わず、学べるところがあります。

皆さんは疑いや恐れに悩んではいないでしょうか。失意のために、気持ちが落ち込んでいる人はいないでしょうか。人生で前進するために、もっと知恵や強さを必要としている人はいないでしょうか。

わたしは、テニソンのアーサー王物語に登場するギャラハッド卿の言葉を思い出しています。彼はこう言っています。「わたしの強さは十人力。それは心に汚れがないからだ。」（アルフレッド・テニソン、*Sir Galahad* 『ギャラハッド卿』）

清さのあるところでは、何もかも良く見えます。ジョセフ・F・スミスは、その夢の中で、預言者ジョセフの目をしっかりと見て、「わたしは清く、汚れがありません」と言うことができました。今日集っている兄弟の皆さんも、一人一人がそう言い切れるでしょうか。かつてよく耳にしたことわざにこういうものがあります。「清さは神を敬うことに通じる。」

わたしがこのソルトレーク・シティーに住んでいた幼いころ、ほとんどの家では石炭ストーブを使って暖房をしていました。どの煙突を見ても、黒い煙がもくもくと出ていました。冬が終わるころになると、町中の家という家が、内側も外側も、すすや汚れで真っ黒でした。そのため、毎年どうしてもしなければならない年中行事のようなものがありました。それは、どう考えても、それほど楽しい行事ではありませんでした。家族総出で取り組むその行事は、春の大掃除と呼ばれるものでした。長い冬が終わり、暖かくなってくると、1週間ほどが清掃期間に指定されます。普通は、休日を挟んで土曜日が2回含まれる期間が指定されました。この一大イベントの総指揮官は母でした。家中のカーテンを外し、洗濯をしました。それに入念にアイロンをかけます。窓という窓の内側と外側も磨き上げます。あの大きな2階建ての家では、それが実に骨の折れる仕事でした。さらに、壁にはことごとく壁紙がはられており、時期になると父親が壁紙クリーナーの缶を大量に持ち帰ります。このクリーナーというのは、ちょうどパン生地のようなものでしたが、缶を開けると、色はきれいなピンクでした。どこか不思議な香りがしましたが、快適でさわやかな香りでもありました。家族総出で作業に取りかかりました。一人一人がこのパン生地のようなクリーナーを手の中で少しずつ練り上げ、はしごを上って、まず高い天井から始め、後は少しずつ壁をきれいにしながら下りて来るのでした。このクリーナーは、壁紙に付着している汚れを吸収してすぐに真っ黒になりました。この仕事はつらい作業で、大変

疲れもしましたが、終わってみれば、その成果はまるで魔法のように一目瞭然りょうぜんでした。わたしたちは、離れた所に立っては、汚れている部分ときれいになった部分とを比べたものです。きれいになった壁は、驚くほど見栄えが良くなりました。

じゅうたんも全部引きはがし、裏庭まで引きずって行って、1枚ずつ物干し用のロープにかけました。そこでわたしたち男の子は、じゅうたんたきというものを持たされました。これは軽い金属製の棒のようなもので、木製の取っ手が付いていました。これでじゅうたんをたたくとほこりが飛んでいくわけです。わたしたちの仕事はほこりが出なくなるまでたたき続けることでした。皆この作業が大嫌いでした。しかし、作業をことごとく終えて、あらゆる物を元あった場所に戻すと、その成果は歴然としていました。家はきれいになり、気持ちも一新しました。何もかも、見違えるようでした。

わたしたちの中には、自分の生活をこのように磨き上げる必要のある人がいるのではないのでしょうか。イザヤは次のように言っています。

「あなたがたは身を洗って、清くなり、わたしの目の前からあなたがたの悪い行いを除き、悪を行うことをやめ、善を行うことをなら〔え〕……

主は言われる、さあ、われわれは互たがひに論じよう。たとえあなたがたの罪は緋ひのようであっても、雪のように白くなるのだ。紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ。」(イザヤ1：16-18)

「主の器を担う者たちよ、清くありなさい。」(教義と聖約133：5) 主は近代の啓示の中で、わたしたちにこう言われました。肉体も、心も清くあってください。言葉遣いにも清くあってください。服装や態度の面でも清くあってください。

わたしは、特にまだ若い人たちに向かって話をしますが、大人の方々もぜひ耳を傾けてよく聞いていただきたいと思っています。わたしたちは皆、絶えず思い起こしている必要があるからです。わたしたちの肉体は神聖なもの

です。肉体は神の姿形にかたどって創造されました。肉体は実によくできており、神の創造されたものの中でも傑作中の傑作です。例えば、いかなるカメラをもってしても、人間の目の精巧さには及びません。また、いかなるポンプといえども、人間の心臓ほど長期間にわたって機能するものも、あれほどの酷使に耐えるものもありません。目や脳はまさに奇跡です。さらに、音波を捕らえ、それを言語に転換する機能は、ほとんど想像を絶しています。指を見て、そのすばらしい機能について深く考えてみてください。世の賢者たちがこれに匹敵するものを作ろうと努力していますが、完全な意味で成功した人は一人もいません。こうした器官は、体のほかの部分や器官と同様、わたしたちの永遠の御父である神の神聖で無限の能力を表したものであるのです。ですから、そういうことを知りながら、その肉体を傷つけたいと思う人のいることが、わたしには理解できません。しかも、そういうことがわたしたちの周囲で日常茶飯事となっているのです。アルコール性飲料を飲む人や、違法な薬物に手を出す人がいます。これは大きな問題です。ほんのつかの間の気晴らしのつもりでそうしたものを肉体に取り入れた人は、やがて自制心を失い、それが習慣となります。金遣いも荒くなり、薬物のとりこになって、善を行うこともなくなります。

わたしは今、ある若者のことを考えています。その若者は最近、酒酔い運転をして、罪もない犠牲者を殺してしまい、殺人罪で刑に服しています。彼は偉大な可能性を持った若者でした。あのような事件がなければ将来どのような人物になっていたのか予測もつきませんが、しかし今その青年は刑務所の中にいて、自分の置かれている境遇を嘆き、さらにまた、良心の呵責かせきに苦しんでいるのです。天の御父は、わたしたちを愛しておられるがゆえに、アルコールや薬物に潜む邪悪さを絶えず思い起こさせ、決してかわることのないよう警告しておられるのです。

兄弟の皆さん、アルコールから遠ざかってください。ビール・パーティー

のような集まりに決して加わらないでください。違法な薬物に決して手を出してはなりません。皆さんを破滅させるだけです。そうしたものに一度手を染めたら、そのとりこになり、もっと欲しくなって、その欲望を満足させるためにさらに多量の麻薬を買い求めるようになり、やがて金銭的にも泥沼にはまり込んでいってしまうのです。

皆さんは神の神権を有する、特別な人です。神から神聖な権能を授かっている皆さんが、アルコールや法律で禁じられている薬物に手を出すのは、明らかに間違っています。

思いの面でも清くあってください。そうすれば、肉体のコントロールもはるかに容易になるはずですが。昔の言葉にも、「ひととなりはその心に思うそのままであるからだ」(欽定訳箴言23：7)とあります。汚れた思いはやがて汚れた行いへと移行していくのです。

何年も前のことですが、重大な罪を犯してしまったある宣教師を弁護するために、マッケイ大管長のもとへ出かけて行ったことがあります。わたしがマッケイ大管長に「これは一時的な衝動に駆られて犯した罪です」と申し上げたところ、大管長はわたしにこうおっしゃいました。「彼は、罪を犯す前に、すでに心の中にそうしたものを取り入れていたのです。そうした思いがその行いを生み出しました。もし以前から自分の思いをコントロールすることができていたら、そのような衝動に駆られることもなかったはずですが。」

主は自らの指をもって、石版にこう書かれました。「あなたは姦淫かんいんしてはならない。」(出エジプト20：14) わたしは、婚前交渉もこの姦淫の中に含まれると考えています。

もちろん皆さんは様々な面で誘惑を受けています。まるで世の中全体が性的な事柄に取りつかれているのではないかと思うことすらあります。いかにも巧妙に、いかにも魅力的に、皆さんに取りつかうと絶えずねらっています。皆さんは、テレビ、雑誌、本、ビデオ、そして音楽でも、そうした誘惑にさらされています。そのようなもの



大管長会と十二使徒定員会会員たち

に背を向けてください。遠ざかってください。それが「言うは易く行は難し」であることは、百も承知です。しかし、一度実行してしまえば、次はもっと容易に実行することができます。いつか、主の御前に立って「わたしは清く、汚れがありません」と言えたら、それは何とすばらしいことでしょうか。

主はこの時代に一つの戒めを与えられました。それはわたしたち一人一人にも当てはまる戒めです。主はこう言われました。「絶えず徳でああなたの思いを飾るようにしなさい。」そして、それに伴って主は一つの約束を授けられました。「そうするとき、神の前においてあなたの自信は増〔す〕……であろう。」(教義と聖約121:45) わたしは、主の言われたこの言葉は、もしわたしたちが心も体も清ければ、ジョセフ・F・スミスが預言者ジョセフの前に立って「わたしは清く、汚れがありません」と言ったように、いつかわたしたちも主の御前に自信をもって

立ち、同様の言葉を言える時が来るであろう、という意味だと信じています。そのときには、心に自信を感じるとともに、皆さんのふさわしさを認めるほほえみに会えるでしょう。

皆さんは神権を持つ者として、不道德な行いという邪悪なわなに足を踏み入れることはできませんし、踏み入れてはなりません。もちろん皆さんは、若い女性と交際する必要はあります。デートをし、様々な方法で健全な楽しみを享受することもできます。しかし、決して越えてはならない一線があります。それが、個人の清さと罪とを区別する線です。その線がどこにあるかということについては、詳細に説明するまでもないでしょう。皆さんは知っているはずで、何度も何度も繰り返し教えられてきたからです。皆さんの心の中には良心があります。主の側にとどまっています。

言葉遣いの面でも清くあってください。今日、あまりにも汚れたくない言葉遣いがはびこっています。これ

については、若い女性にも話をしました。皆さんにもお話します。そのような言葉遣いをするのは、自分の気持ちを表現するのに「言葉の下水」にまで降りていかなければならないほど、語彙が極端に貧困だということを表しているにすぎません。汚い言葉を使うことは、年齢を問わず、神権を持つ人々にはふさわしくないのです。

さらに神権者である皆さんは、主の御名をみだりに用いることも慎まなければなりません。エホバはイスラエルの民にこう言われました。「あなたは、あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱えるものを、罰しないでは置かないであろう。」(出エジプト20:7)

主の指によって刻まれたこの戒めは、最初に与えられた民と同様に、わたしたちにも適用される戒めです。主は近代の啓示の中で次のように言われています。「上から来るものは神聖であり、それについては注意して、御霊の促しによって語るようにしなければならぬことを覚えておきなさい。」(教義と聖約63:64)

心が汚れていれば、汚れた不敬な言葉を自然と使うようになります。しかし、心が清ければ、言葉遣いの面では前向きで心を高める言葉を用いるようになります。行動面でも、心に幸福をもたらすような行いをするようになります。

服装や態度の面でも清くあってください。四六時中、宣教師のような服装をしているように、と言うつもりはありません。しかし、わたしたちの宣教師の清潔で控えめな服装や身だしなみは、宣教師たちが世界中どこへ派遣されようとも、名誉の象徴として認識されるようになっていることは言っておきたいと思います。わたしたちの生活しているこの時代は、服装の面でも態度の面でも、だらしない時代になってきました。わたしは皆さんが何を着るかということにはそれほど関心がありません。しかし、それが清潔かどうかということに対しては、大いに関心を持っています。ジョセフ・F・スミスの夢を思い出してください。彼は、あ

の邸宅に向かって急いでいるときに、ハンカチに包んだ小さな包みを持っていました。そして入浴を済ませて、その包みを開けたとき、そこには清潔な衣服が入っていたのです。皆さんが聖餐を祝福したり、パスしたりするときには、できるだけ立派な身なりをしてください。自分が清く汚れていないことを、いつも確認してください。

皆さんが態度の面でも清くあるよう、強く願っています。また寛大で、礼儀正しく、正直で、年齢を問わずに高潔な人物になるよう、努めてください。

寛大さがもたらす恩恵は計り知れません。一方、寛大さに欠けると悲劇をもたらすことになります。わたしたちの住む町で車を運転していると、それを毎日のように実感させられます。ほんの少しの時間を割いて、人に道を譲れば、譲ってもらった人もうれしくなりますし、譲ってあげた方も心が和みます。わたしたちが人に対して寛大になり、礼儀正しくしていると、心の中に何か変化が起こります。これは皆、わたしたちが洗練されていくための過程であって、そういうことを続けていくと、わたしたちの人格も磨かれていくのです。

一方、車の運転中にささいなことで怒り、ののしりの言葉を使ったりして



いると、その人自身の人格を損なうだけでなく、そうされた人の心も傷つきます。ほとんど毎日のように起きているささいなことに対して自分の怒りの感情をコントロールできるよう、いわば自己訓練を重ねることは、感情面での清さの一つの表れと言えるでしょう。

次は正直ということについてです。この資質は貴重な宝石のようなもので、これもまた、心や行いが清いことの一つの表れです。保険の調査員によれば、非常に多くの人々が、本来受け取ることでできないはずの補償金を不正直な方法で受け取ろうと画策し、虚偽の申告をして来るそうです。さらに、学校ではカンニングが日常的に行われています。「あなたは盗んではならない。……あなたは隣人の家をむさぼってはならない。」(出エジプト20：15、17) この命令もまた、主の指によって石版に書かれた戒めの中にあるものです。わたしは、この教会の会員の中に、不正直な手段によって他人の財産を奪おうとする詐欺事件に関係した者がいた、などという新聞記事を読む度に、いつも心を痛めています。これは、まさにむさぼりそのものです。

主はこう言われました。「すべてのことがわたしの前に清く行われるようにしなさい。」(教義と聖約42：41) わたしは、この戒めには、いかなる形であれ不正直な行為にかかわってはならないという意味も含まれていると信じています。

兄弟の皆さん、わたしは強く言いすぎたでしょうか。そうでないことを望んでいます。しかし、もしそうだとしたら、それは、主からわたしたちに託された義務について、わたしが心に強く感ずるものがあるからなのだと理解していただきたいと思います。主はその民に、世の罪から清くあるよう望んでおられるのです。

もし今日この話を聞いている人々の中に、今話したような罪に陥っている人がいれば、どうか直ちに悔い改めてください。主に告白してください。また、その罪が重大なものであるなら、監督に告白してください。監督はき

と助けてくれます。悔い改めのあるところには、必ず赦しがあります。主はこう言われました。「見よ、あなたがたの罪は赦されておられ、あなたがたはわたしの前に清い。それゆえ、頭を上げて喜びなさい。」(教義と聖約110：5)

「オリーブの葉」と呼ばれる啓示の中で、主はこうおっしゃっています。

「また、わたしはこの最後の王国における最初の働き人であるあなたがたに、一つの戒めを与える。あなたがたは集まって、自らを組織し、自らを備え、また自らを聖めなさい。まことに、あなたがたの心を清くし、またわたしの前に手と足を清めなさい。それは、わたしがあなたがたを清くするためであり、

また、あなたがたがこの邪悪な時代の血から清められていることを、わたしがあなたがたの父、あなたがたの神、わたしの神に証するためであり、さらにわたしがこの約束、すなわち、わたしがあなたがたに与えたこの大いなる最後の約束を、わたしが望むときに果たすためである。」(教義と聖約88：74-75)

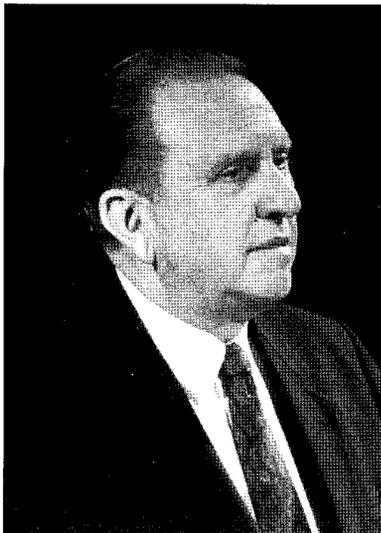
最後に、冒頭にお話しした一人の貧しい若者の夢の話に戻しましょう。この若者は、山の中で一人で眠っているときに、自分がある邸宅に向かって急いでいる夢を見ました。その邸宅の中に入る前に、若者は立ち止まって、自らを清め、清潔な衣服に身を包みました。若者は遅れたことを責められはしましたが、しかし、こう答えました。「はい、でもわたしは清く、汚れがありません。」その答えに預言者ジョセフはほほえみました。若い宣教師であったジョセフ・F・スミス自身が、やがて、その預言者の職、すなわち大管長の職を継承することになったのです。このこと自体がすばらしい証ではないでしょうか。神がわたしたちを祝福してください、わたしたちが清い手と汚れのない心で歩み、神に認められてほほえんでいただくにふさわしい者となれますよう、へりくだり、イエス・キリストの御名によって願います。アーメン。

# 主の道

第一副管長

トーマス・S・モンソン

主について学び、主を信じ、主に従うことにより、主のようになる力が得られます。



**主**のユダヤでの務めが終わりに近づいたころ、「ある律法学者が現れ、イエスを試みようとして言った、『先生、何をしたら永遠の生命が受けられましょうか。』

彼に言われた、『律法にはなんと書いてあるか。あなたはどうか読むか。』

彼は答えて言った、『心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』また、「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」とあります。』

彼に言われた、『あなたの答は正しい。そのとおりに行いなさい。そうすれば、いのちが得られる。』

すると彼は自分の立場を弁護しようと思って、イエスに言った、『では、わたしの隣り人とはだれのことですか。』

イエスが答えて言われた、『ある人がエルサレムからエリコに下って行く途

中、強盗どもが彼を襲い、その着物ははぎ取り、傷を負わせ、半殺しにしたまま、逃げ去った。

するとたまたま、ひとりの祭司がその道を下ってきたが、この人を見ると、向こう側を通って行った。

同様に、レビ人もこの場所にさしかかってきたが、彼を見ると向こう側を通って行った。

ところが、あるサマリア人が旅をしてこの人のところを通りかかり、彼を見て気の毒に思い、

近寄ってきてその傷にオリブ油とぶどう酒とを注いでほうたいをしてやり、自分の家畜に乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。

翌日、デナリ2つを取り出して宿屋の主人に手渡し、『この人を見てやってください。費用がよけいにかかったら、帰りがけに、わたしが支払います』と言った。

この3人のうち、だれが強盗に襲われた人の隣り人になったと思うか。』

彼が言った、『その人に慈悲深い行いをした人です。』そこでイエスは言われた、『あなたも行って同じようにしなさい。』<sup>1</sup>

時代は変わり、歳月は過ぎ去り、わたしたちを取り巻く環境も変わっています。しかし、律法学者への主の勧告はわたしたちにもそのまま当てはまります。あたかもこの復活祭の朝、わたしたちに語られる主の御声を直接耳にしているかのようです。

今日わたしたちは、「主なるあなたの神を愛せよ」という神聖な第一の戒めをどれほど忠実に守っているでしょうか。

主は言われました。「わたしのいましめを心にいだいてこれを守る者は、わたしを愛する者である。」<sup>2</sup>「わたしに従ってきなさい。」<sup>3</sup>「わたしはあなたがたのために模範を示した。」<sup>4</sup>「あなたがたの掲げる光とは、わたしである。すなわち、わたしが行うのをあなたがたが見た、その行いである。」<sup>5</sup>では、実際に主はどのような行いをされたのでしょうか。

主は、馬屋でお生まれになり、かいはおけに寝かされました。こうして遠い昔からの預言を成就されました。羊飼いたちは、急いで主をあがめに訪れました。東方からは博士たちが宝物を携えてやって来ました。こうして時の中間が始まったのです。

ベツレヘムでのこの幼子の誕生により、「一つの大いなるエンダウメント」が世にもたらされました。それはどんな武器にも勝る力であり、カイザルの金貨よりも永続する富です。この幼子こそ、王の王、主の主、約束のメシヤとなる御方、つまりイエス・キリスト、神の御子だったのです。

聖文によると「イエスはますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛され」<sup>6</sup>ました。ヨハネからバプテスマをお受けになり、<sup>7</sup>「よい働きをされながら……巡回されました。」<sup>8</sup>ナインの町では、やもめの息子を蘇生させ、母親にお渡しになりました。<sup>9</sup>ベテスタでは、約束の池に入る望みを失っていた体の不自由な人を哀れられました。主は手を差し伸べて彼を立ち上がらせ、この人の病をお癒しになったのです。<sup>10</sup>

やがて、ゲツセマネの園での非常な苦しみの時が訪れました。主はすべての人の罪を御自身の身に引き受け、偉大な贖いの働きをされました。わたしたちが自分では行えないことを、わたしたちに代わって行われたのです。

続いて、ゴルゴタでの残酷な十字架の時を迎えます。現世での最後の数時間、主は悪人に慰めの言葉を語られました。「あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいるであろう。」<sup>11</sup>さらに主は母マリヤを思い起こし、その深い愛が伝わってくるような、感動的

な言葉を語られました。「イエスは、その母とまな弟子とがそばに立っているのをごらんになって、母にいわれた。『婦人よ、ごらんなさい。これはあなたの子です。』それからこの弟子に言われた、『ごらんなさい。これはあなたの母です。』そのとき以来、この弟子はイエスの母を自分の家に引き取った。』<sup>12</sup>こうして偉大な贖い主なる主は亡くなりました。

今、わたしたち一人一人の耳に、遠い昔に語られた二つの質問が、稲妻のように響き渡ります。「あなたがたはキリストをどう思うか」<sup>13</sup>と「イエスをわたしたちは、どうしたらよいか」<sup>14</sup>という質問です。ここで、次の3つの提案をしたいと思います。

**1. 主について学ぶ。**「わたしに学びなさい」と主は言われました。「わたしは柔和で心のへりくだった者であるから……あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。」<sup>15</sup>

**2. 主を信じる。**箴言の作者はこう勧めています。「心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない。すべての道で主を認めよ、そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」<sup>16</sup>主の御名は天の下にあって、わたしたちを救い得る唯一の名です。

**3. 主に従う。**主は「哀れみ」という言葉を行いで表してくださいました。愛を伝える方法を示し、わたしたちが従うべき道を明らかにされました。無私の奉仕は主の生涯を特徴づけるものでした。

主について学び、主を信じ、主に従うことにより、主のようになる力が得られます。顔の表情が変わり、心が和らぎ、成長が速められ、視野が広がります。生活は、本来あるべき状態に高められます。変化は時として、目に見えないものです。しかし、確実に起きます。

救い主の働きは終始、隣人愛を具現したものでした。けげんそうな律法学者に与えられたこの第2の教えは、「きわめて尊い律法」<sup>17</sup>と呼ばれています。

目が見えない人は癒され、ヤイロの娘は生き返り、ハンセン病の人は癒さ

れました。彼らは皆、イエスにとって隣人でした。井戸のそばにいた女性も隣人でした。完全な御方である主は、罪を告白した罪人の前に立ち、手を差し伸べられました。この場合、彼女が「傷を負った旅人」で、主が「よきサマリヤ人」だったわけです。こうして、主から親切といたわりを受けた人々の数は増えていきました。

では、時と場所を今のわたしたちに移してみましょう。隣人たちは、わたしたちの愛と親切、助けを必要としていないでしょうか。

数年前、ロイター通信社の記事で、アラスカ航空のアンカレジとシアトルを結ぶ乗客150人のノンストップ便の話を読みました。同機は、重傷を負った男の子を救助するため、進路をそらして、遠隔地まで「救急飛行」したのです。2歳になるエルトン・ウィリアムズ君は、アンカレジの南方720キロにあるヤクタートの自宅近くで遊んでいて、ガラスの破片の上に落ち、腕の動脈を切断してしまいました。現場に駆けつけた医師たちは、航空会社に男の子の救助を要請しました。これを受けて、アンカレジ・シアトル便が進路を変更してヤクタートへ向かったのです。

医師たちは、男の子の出血がひどいので、シアトルまで飛んでいたら命がもたないだろうと言いました。そこで飛行機は、病院のある最寄りの都市、ジュノーまでの320キロを飛ぶことにしました。その後、飛行機はシアトルに向かいました。乗客は2時間も遅れたうえ、ほとんどの人が乗り継ぎの飛行機に乗れませんでした。しかし、だれも苦情を訴えません。それどころか全員が本を読んだり、男の子と家族のために募金を始めたりしたのです。

やがて、飛行機がシアトルに着陸しようというところ、「エルトン君、快方に向かう」という無線連絡があった旨を、パイロットから聞き、乗客全員が大喜びしました。この話には、確かに隣人愛が見られます。

ある男性は、「あなたの隣人はどなたですか」と尋ねられました。

こう答えたそうです。「名前は知りま

せんが、お子さんたちはうちの芝生を駆け回り、そこの犬は、夜ごとわたしを起こしてくれますよ。」

しかし、別の男性は、前者とは違った気持ちを込めて、ある夜の日記に静かにこうしたためています。「通りを隔てた、向かいの家は、昨日まで空家だと思っていた。しかし、ドアにかけられた黒い喪中の印が、そこに人が住んでいたことを教えてくれた。」

機会を永遠に逸してしまうことの悲しさを、ある詩人はこうつぶづっています。

「果てしないこの大きな町にも、  
角を曲がったすぐそこに友達がいる。  
日は過ぎ、月は走り去る。  
知らぬ間に1年が過ぎ、  
旧友の顔も今はない。

人生は恐ろしく速く、矢のように過ぎて行く。

昔と変わらずわたしは彼が好きだ。  
彼もそのことを知っているはずだ。  
子供のころ、わたしはよく彼の家に遊びに行った。

彼もよくわたしの家の呼び鈴を鳴らした。

でも今や二人は忙しさに追われ、足取りも重い。

愚かなゲームに疲れ、  
名を立てる努力に疲れた二人。  
明日こそジムを訪ねよう、  
わたしの心にはいつも彼がいることを知らせるために。

しかし明日が来て、またその日が過ぎていく。

二人を隔てる溝はますます広がる。  
曲がり角のすぐそばなのに、まるで遠くの人のようだ。

そこへ1通の電報が舞い込んだ。  
「ジム死す」と。  
これが二人の最後に得たもの。  
曲がり角の向こうのあの友達は、もう二度と戻ってこない。」<sup>18</sup>

何年も前、わたしはポールという名の幼い少年と電話交換手との間の隣人愛を描いた物語に感動を覚えました。二人は一度も顔を合わすことがありませんでした。それは、多くの人が懐か

しく思い出すであろう時代の話ですが、若い世代には無縁の話かもしれません。

ポールはこう物語っています。「わたしはずっと若かったころ、父は近所で真っ先に家に電話を引いた人たちの一人だった。輝く受話器が箱型電話の側面にかけていたのをよく覚えている。わたしは小さかったので電話に手が届かなかったが、よく母が受話器に向かって話すのをうっとりして見ていたものだ。やがてわたしは、そのきれいな装置の中のどこかに、珍しい人物が住んでいるのだと思うようになった。彼女の名前は、『交換手さん』で、彼女は何でも知っているのだ。『交換手さん』はだれの電話番号でも知っていて、正確な時刻まで教えてくれる。

やがてわたしは、いずの上には立てば電話に手が届くことに気づいた。以来、事あるごとに『交換手さん』に電話をかけた。わたしは彼女に『地理を教えてください』と言い、彼女はフィラデルフィアがどこにあるか教えてくれた。算数の勉強も手伝ってくれた。

そんなある日、ペットのカナリア、

『ベティー』が死んでしまった。わたしは『交換手さん』に電話して、この悲しい出来事を伝えた。彼女はわたしの話を聞いた後、大人が子供をなだめるのによく言うような言葉をかけてくれた。しかし、わたしの心は沈んだままだった。『どうして鳥はあんなにきれいな声で歌って、家族みんなを喜ばせてくれるのに、最後にはかごの中で死んじゃうの?』そう尋ねた。

きっと彼女はわたしの深い悲しみを察したのだろう。静かな口調でこう答えてくれた。『ポール、歌を歌える世界がほかにもあるってこと、いつまでも忘れないでね。』それで幾らかわたしの心は明るくなった。

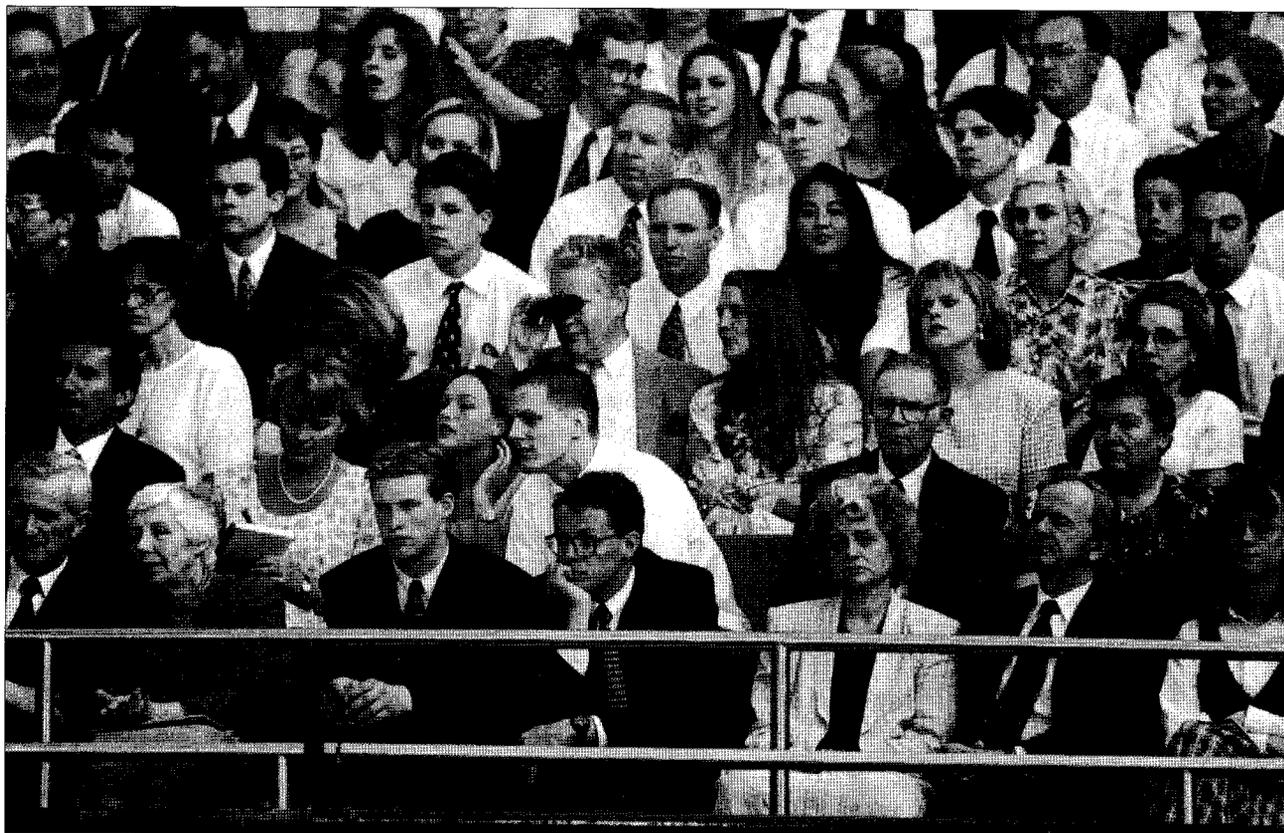
これらはすべてシアトル近くの小さな町での出来事だった。後にわたしたち家族は大陸を横断してボストンに引っ越した。わたしは友達がいなくなり、寂しくてたまらなかった。『交換手さん』が、前の家のあの古い木箱に住んでいる気がしていたのだ。そして、どういうわけか『彼女に電話してみよう』という考えにはならなかった。しかし、子供時代にそのような会話をしていた

記憶は、いつも心に残っていた。疑念や困惑のときには、よく、かつて自分が味わったあの安らかな気持ちを思い起こしたものだ。今や、彼女が幼い少年のために時間を割いてくれていたその忍耐と思いやり、親切に心から感謝するようになっていたのだ。

時は流れ、わたしは西部の大学に行くことになり、わたしの乗った飛行機はシアトルに到着した。『番号案内』に電話してみると、実に驚いたことに、あの懐かしい声を聞くことができた。わたしは彼女に言った。『当時のわたしにとって、あなたがどれほど大切な人だったかお分かりですか。』

すると彼女はこう言ってくれた。『こちらこそ、あなたからの電話がわたしにとってどんなに有意義なものだったことでしょう。わたしには子供がいないから、あなたの電話を待ち焦がれたものなのよ。』わたしは、この何年かの間、自分がどんなによく彼女に思いをはせていたかを告げた。そして、シアトルに来たらまた電話してもいいか、尋ねてみた。

『ぜひ、お願いするわ。』彼女は言っ





た。『「サリーを」と言ってくれればい  
いから。』

わずか3か月後、わたしは再びシア  
トルを訪れた。電話すると、違う声が  
返ってきた。『番号案内です』と。『サ  
リーさんをお願いします』と言うと、  
『ご友人ですか』と尋ねてきた。

『はい、とても古くからの友人です』  
と答えた。

『そうですか、申し上げにくいんで  
すが、サリーは病気のためにここ数年  
間は、パートタイムで働いていたん  
です。そして5週間ほど前に亡くなっ  
たのです。』わたしが電話を切ろうとす  
ると彼女が言った。『ちょっと待っ  
てください。あなた、ポールさんと言  
いましたよね。』

『はい、そうですが』

『実はサリーからあなたへのメッ  
セージを預かっているんです。彼女が  
書いたものです。手もとにあるので読  
みますね。「歌を歌える世界はほかに  
もあるって、わたしが今でも言ってい  
たと、ポールに伝えてください。わた  
しの言いたいこと、彼には分かるはず  
です。』

わたしは礼を言うと、電話を切った。  
わたしにはサリーの言葉の意味がよく  
分かった。』

電話交換手のサリーと、かつての少  
年で今は大人となったポールは、互い

にまさに良いサマリヤ人と言えるで  
しょう。

確かに、歌を歌える世界はほかに  
もありません。主なる救い主は、この真理  
を現実のものとしてわたしたちにもた  
らしてくださいました。悲しむマルタ  
を主はこう慰められました。「わたし  
ははよみがえりであり、命である。わ  
たしを信じる者は、たとえ死んでも生  
きる。

また、生きていて、わたしを信じる  
者は、いつまでも死なない。』<sup>19</sup>

主なる救い主を心から求めるなら、  
わたしたちは確かに主を見いだすで  
しょう。主は、湖のほとりて主を知らな  
かった人々の所へおいでになったよう  
に、名前も分からない見知らぬ人とし  
てわたしたちのところへ来られるかも  
しれません。そして、当時と同じよう  
に、「わたしに従ってきなさい」<sup>20</sup>と言  
われ、主がこの時代に成就しなければ  
ならない務めにわたしたちが取りかか  
れるよう導かれるのです。主は戒めを  
与えられ、賢い者であろうとなかろう  
と、主に従う者には、この世で経験す  
る労苦や葛藤、苦悩のときに御自身を  
現して、ともに歩んでくださいます。  
こうして、わたしたちは主がどのよう  
な御方であるかを自分自身の経験を通  
して学ぶのです。

この復活祭の安息日、わたしたちは、  
この世を去った愛する人々に思いをは  
せませす。幸福な日々大切な思い出が、  
孤独な夜、長い歳月にわたる哀愁の後  
によみがえり、わたしたちの心を主の  
約束に向けさせてくれます。「わたし  
は平安をあなたがたに残して行く。わ  
たしの平安をあなたがたに与える。わ  
たしが与えるのは、世が与えるよう  
なものとは異なる。あなたがたは心を騒  
がせるな、またおじけるな。』<sup>21</sup>「わた  
しの父の家には、すまいがたくさんあ  
る。もしなかったならば、わたしはそ  
う言っておいたであろう。あなたがた  
のために、場所を用意しに行くのだか  
ら。……わたしのおる所にあなたがた  
もおらせるためである。』<sup>22</sup>

主は、心と精神、力と思いを尽くし  
て主なる神を愛し、自分自身を愛する  
ように隣人を愛するように、とお教

えになりました。主は真理の教師です。  
しかし教師以上の御方です。全き生活  
の模範です。しかし模範以上の御方  
です。偉大な医師です。しかし、医師以  
上の御方です。文字どおり、世の救い  
主、神の御子、平和の君、イスラエ  
ルの聖者、よみがえられた主であられ  
ます。主は自らこう宣言されました。  
「見よ、わたしはイエス・キリストで  
あり、世に来ると預言者たちが証した  
者である。……わたしは世の光であり  
命である。』<sup>23</sup>「わたしは最初であり、  
最後である。わたしは生きている者で  
あり、殺された者である。わたしは父  
に対するあなたがたの弁護者である。』<sup>24</sup>  
この復活祭の朝、わたしは主の証人  
として、主が生きておられ、主のおか  
げでわたしたちも生きていることを、  
イエス・キリストの御名により証いた  
します。アーメン。

注

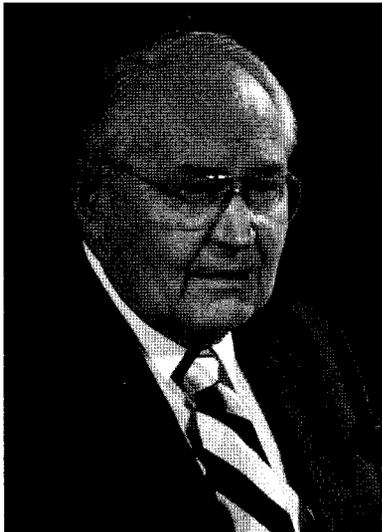
1. ルカ10:25-37
2. ヨハネ14:21
3. ルカ18:22
4. 3ニーファイ18:16
5. 3ニーファイ18:24
6. ルカ2:52
7. マタイ3:13-16参照
8. 使徒10:38
9. ルカ7:11-15参照
10. ヨハネ5:2-9参照
11. ルカ23:43
12. ヨハネ19:26-27
13. マタイ22:42
14. マタイ27:22
15. マタイ11:29
16. 箴言3:5-6
17. ヤコブの手紙2:8
18. チャールズ・ハンソン・タウン  
"Around the Corner" Poems  
That Live Forever「曲がり角の向  
こうに」『不朽の詩』ヘイゼル・フェ  
ルマン選、p.128
19. ヨハネ11:25-26
20. ヨハネ21:22
21. ヨハネ14:27
22. ヨハネ14:2-3
23. 3ニーファイ11:10-11
24. 教義と聖約110:4

# しゅばんさんせいさん 主の晩餐の聖餐

十二使徒定員会会員

L・トム・ペリー

**聖餐によって、わたしたちは繰り返し、通常は毎週、救いの計画とその責務や祝福に対する忠誠を宣言するのです。**



1995年には、第二次世界大戦終結50周年を記念して、多くの式典が催されました。わたしを含め、この恐ろしい戦争にかかわった退役軍人にとって、これらの式典は、感慨深い機会でした。興味深いことに、このような歴史的な出来事が起きてから長い年月が過ぎても、記憶はうせたりしません。例えば、テレビで戦争の記録番組を見ていたとき、突然、古い緑色の小型トランクが頭に浮かんできました。このトランクにまつわる、忘れられない思い出を紹介しましょう。

わたしは伝道地に赴任したとき、非常にすばらしい先輩同僚に恵まれました。わたしたちは、転任の日を迎えるまでほぼ1年間、ともに働く特権にあずかりました。やがて第二次世界大戦が猛威を奮う中、任期を終えようとしていたわたしたちは、自分も間もなく召集されると感じていました。そこで、

帰国したら二人して海軍に入隊し、願わくば任地で再会しようと約束を交わしました。非常に驚いたことに、海軍で迎えた最初の安息日、わたしたちは教会の礼拝行事で顔を合わせました。二人とも約束どおり海軍を志願していたのです。

基礎教練を終えると、二人とも第2師団に配属となり、それから3年間、同僚として軍務を果たす機会に恵まれました。任地となった島での戦闘が一段落すると、礼拝行事用にテントがあてがわれました。材木を入手して、ベンチや説教壇、聖餐のテーブルをこしらえました。聖餐のテーブルの下にはいつも、特別な緑色のトランクを置きました。わたしたちはそれを第2師団が移動する度に、島から島へ持ち運びました。その中身は、木製の皿と木製の聖餐トレイ、聖餐の祈りのカード、聖餐の紙カップの箱でした。戦闘が終わり島が守られると、師団の多くの古参兵は軍務交替で帰国して行きました。わたしたちの教会の指導者も帰りました。そして伝道時代からのわたしの同僚がグループリーダーに召され、わたしは彼の第一補佐になりました。

緑のトランクの中身は、わたしたちが大切にしているすべてのものを象徴していました。毎週主の日に集まる度に、トランクを開けて中身を取り出し、聖餐を準備し、祝福し、パスしました。それは信仰を新たにする霊的高揚の場で、明日への希望を与えてくれました。毎週集まる特別な時間により、日々の試練や苦難が取り除かれたのです。

その島はずっと安全だったのですが、空襲が続くようになりました。間もな

くテントの礼拝堂は、爆弾の破片にやられて穴だらけになりました。頻りに降る熱帯雨のため、穴だらけのテントの中に座るのは気持ちのよいものではありません。そこで集会をもう少しよい施設に移すことにしました。陸軍、海軍、空軍、海兵隊の教会員の努力によって、わたしたちは十分な資材を調達し、島に自分たちの礼拝堂を建てることができました。今や緑のトランクは、会員が集まって礼拝する奉獻された建物のテーブルの下に置かれました。

島での任務が終了すると、わたしたちは船に乗り込み、次の任地へ向かいました。緑のトランクは、後の人たちのために残してきました。その後どうなったかは知りませんが、わたしは緑のトランクをいつも懐かしく思い出すことでしょう。

天父は、神の子供たちが律法への従順を条件に与えられた約束を思い起こす必要があるのを御存じでした。そのような聖約を交わす場合、神は特定の戒めへの従順と引き換えに祝福を与えてくださいます。時の始めから、わたしたちのために計画が備えられました。救いの計画の中心となるのは、わたしたちの救い主イエス・キリストです。全人類のための贖いの犠牲は、この地上における天父の子供たちの歴史上重大な出来事です。神の計画を受け入れる人は、救い主の使命を受け入れ、わたしたちのために定められた計画の律法を守ると聖約します。霊と行いにおいて主を受け入れるなら、救いを勝ち得ることができます。聖文にはこう記されています。「したがって、あなたが行うすべてのことを御子の御名によって行いなさい。また、悔い改めて、いつまでも御子の御名によって神に呼び求めなさい。」(モーセ5:8)

これは少しも驚くに当たりませんが、主は時の始めから、この地上の神の子供たちの心に主の計画が深く刻まれるよう願ってこられました。アダムとエバに与えられた律法の中で、犠牲の律法は時の中間に起こる偉大な出来事を思い起こすために定められました。

「主は彼らに、主なる彼らの神を礼

拝し、主へのささげ物として群れの初子をささげるようにと戒めを与えた。アダムは主の戒めに従順であった。

多くの日の後、主の天使がアダムに現れて言った。『あなたはなぜ主に犠牲をささげるのか。』そこで、アダムは彼に答えた。『わたしには分かりません。ただ、主がわたしに命じられたのです。』

すると、天使は語って言った。『これは、御父の、恵みと真理に満ちている独り子の犠牲のひながたである。』(モーセ5：5-7)

このときから救い主が地上に來られるまで、神権が存在するときはずっと、犠牲がささげられました。それは人の子が地上に來て全人類のために至高の犠牲をささげることの思い出させるものです。

わたしたちの救い主の<sup>あがな</sup>贖いの祝福は、すべての人が不死不滅の特権にあずかることです。主は十字架につけられる前にエルサレムの2階の部屋で、選ばれた十二使徒とともに最後の晩餐<sup>ばんさん</sup>の席に着かれました。マタイによる福音書には、この特別な最後の晩餐で行われたことが記されています。

「一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、『取って食べよ、これはわたしのからだである。』」

また杯を取り、感謝して彼らに与えて言われた、『みな、この杯から飲め。』

これは、罪のゆるしを得させるようにと、多くの人のために流すわたしの契約の血である。

あなたがたに言うておく。わたしの父の国であなたがたと共に、新しく飲むその日まで、わたしは今後決して、ぶどうの実から造ったものを飲むことをしない。』(マタイ26：26-29) ジョセフ・F・スミス大管長は、<sup>せいさん</sup>聖餐の制定について次のように述べています。「この主の晩餐はアダムに与えられた犠牲の律法に代わって救い主が制定されたものである。犠牲の律法はキリストの時代までアダムの子孫の間に続いた。しかしキリストの死をもって成就した。というのはキリスト御自身

が罪のための大きな犠牲だったからである。アダムに与えられた律法に盛り込まれている犠牲は、キリストの犠牲をひながたとしたものであった。』(『福音の教義』p.195)

ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリは、1829年に天の使いから神権を受けたすぐ後に、啓示の中で地上に再び教会を組織する方法と時期を示されました。『教義と聖約』の第20章に、具体的な日付の理由が説明されています。「この終わりの時におけるキリストの教会の起こり。それは、わたしたしの主であり救い主であるイエス・キリストが肉体を取って來られてから1830年であって、第4の月、4月と呼ばれる月の第6日に、神の御心と命令により、わが国の法律にかなって正式に組織、設立された。」(教義と聖約20：1)

ピーター・ホイットマー・ジュニアは、1830年4月6日火曜日に予定された教会組織のために自分の家を提供しました。定められた時間におよそ60人の人々が集まり、イエス・キリストの教会が正式に組織される場に立ち会いました。

集会は簡潔なものでした。24歳のジョセフ・スミスは開会を宣言し、次の5人を順に指名しました。オリバー・カウドリ、ハイラム・スミス、ピーター・ホイットマー・ジュニア、サミュエル・H・スミス、デビッド・ホイットマー。彼らは宗教法人設立に関するニューヨーク州の法律の条件を満たすために、ジョセフと名を連ねました。ひざまずいて厳粛な祈りをささげた後、ジョセフは出席者に、教師および靈的助言者として自分とオリバーを喜んで受け入れるかどうか尋ねました。全員が賛成の挙手をしました。二人は以前にメルキゼデク神権を受けていましたが、ジョセフとオリバーは互いを長老の職に聖任しました。そうすることによって、二人が新しく組織された教会の長老であることを示したのです。次に、主の晩餐である聖餐が行われました。福音の回復により、聖餐の意義と方法が明らかにされました。それらは背教の暗黒時代を通してねじ曲

げられていたのです。教会員は啓示によってこう告げられました。「教会員は、主イエスの記念としてパンとぶどう酒を受けるために、しばしば集まる必要がある。」(教義と聖約20：75)

わたしたちは聖餐を取るときに、イエスをわたしたちの救い主として受け入れ、聖約によって主の戒めを守るという義務を自ら負います。これにより、聖餐を取ることが、バプテスマのときに交わした聖約を新たにすることになります。すなわち聖餐によって、わたしたちは繰り返す、通常は毎週、救いの計画とその責務や祝福に対する忠誠を宣言するのです。

聖餐会に出席するとき、わたしたちはふさわしい状態で聖餐を取るよう自らを備えなければなりません。パウロは次のように勧告しています。

「だれでもまず自分を吟味し、それからパンを食べ杯を飲むべきである。」

主のからだをわきまえないで飲み食いする者は、その飲み食いによって自分にさばきを招くからである。(1コリント11：28-29)

ブリガム・ヤング大管長は、聖餐についてこう述べています。「聖餐を守ることは、人々を聖別するために定められたほかの儀式や戒めと同様に、わたしたちの救いに不可欠である。」(Discourses of Brigham Young『ブリガム・ヤング説教集』p.171)

わたしたちは教会員として、聖餐にあずかる特権を喜び、それによってわたしたちの救い主への信仰とイエス・キリストの教会への忠誠を確かなものにします。さらに主は、聖約を守る人には主の御霊が常にともにあると約束しておられます。デビッド・O・マッケイ大管長は、毎週聖餐にあずかる備えをする責任について次のように話しています。

「兄弟姉妹の皆さん、わたしたちはいつも、聖餐にあずかる聖なる安息日について考えているのでしょうか。その日には互いの前で、また神の前で、一定の事柄を行うことを証し、約束し、自ら責任を負います。それらに注目してください。」



第1に『進んで御子の御名を受ける。』それによってイエスをわたしたちの指導者として、また理想として受け入れます。主はあらゆる世にあって唯一の完全な特質を備えた御方なのです。

第2に『いつも御子を覚える。』日曜日だけでなく、月曜日にも〔平日にも〕、日常の行いにも、また自制においても、御子を覚えます。……

第3に『御子と与えてくださった戒めを守る。』これには什分の一、断食献金、知恵の言葉、親切、赦し、愛などがあります。イエス・キリスト教会の会員の義務は大変ですが、栄光あるものです。なぜなら、これらの原則に従えば、命すなわち永遠の命が与えられるからです。

秩序、敬虔、神聖な約束、すなわち

主の群れに入ること、キリストの福音にある徳を身に付けること、聖約を覚えること、真心から主を愛すること、同胞のために自らを犠牲にしても働くこと、これらは皆、聖餐を取ることと関連のある約束なのです。ともに集って、聖なる聖餐により神との聖約を新たにするのは、すばらしいことです。』(Gospel Ideals『福音の理想』pp.146-147)

古い緑色のトランクは、いつもわたしの心の片隅にあるでしょう。なぜなら、人生で最も困難な時期に、わたしは主の晩餐である聖餐を取ったとき、それに続く日々のために霊的な再生を受けることができたからです。

それから何年もの間、わたしは聖餐会に出席する特権にあずかってきました。平和のときや戦争のとき、喜びの

ときや悲しみのとき、安らぎのときや苦悩のとき、わたしはいかなるときも聖餐を取る際に、主が与えてくださった祝福に思いをはせ、主の律法と福音により近く生活することを聖約しました。

聖餐会に忠実に出席するようにお勧めします。主が約束されたように、ふさわしい状態で聖餐を取るなら、皆さんの心に平安がもたらされるでしょう。これは自分が神の計画に携わっているという確信からもたらされるものです。わたしも約束しますが、皆さんは自分の忠実さに応じて、主がこの世と永遠の世で約束された特別な祝福を受けられるでしょう。これらのことを主なる救い主イエス・キリストの御名により証します。アーメン。

# 真理の道に 踏みとどまる

七十人会長会  
カーロス・E・エイシー

神からの光に目を向けることによって……自分が今、どの位置にいるか分かります。また、そうしなくてはなりません。



**昨**日、わたしたち七十人の仲間入りをした9人の方々を心から歓迎したいと思います。また、これからの歳月、皆さんを支持し続けることを約束するとともに、親睦しんぼくを深めていきたいと思っています。

美しく清らかな復活祭の朝を迎えると、人々はキリストに心を向け、主の贖あがないについて語り、「もっと良い世界を……望む」ようです(エテル12:4)。しかし「聖なるメシヤの功德あまのと憐れみと恵み」についてただ心に思い、口にするだけではそれらをわたしたちの生活に反映させることはできません。それらは揺らぐことなく絶えず良き業に励む者への報いとして与えられるのです(2ニーファイ2:8)。

そこでわたしは、永遠の命に至る真

理の道に踏みとどまるうえで、必須の事柄についてお話ししたいと思います。真理の道に踏みとどまるには、以下の3つの連動する努力が求められます。(1) 目標を再確認し、(2) 現在の靈性を評価し、(3) 必要とされる軌道修正の努力に着手することです。このような一連の努力は、キリストの復活を通してわたしたちの生活を一新させてくれます。またこの努力により、冬の悲しみが春の陽光で溶かされていくこの季節にあって、再出発することができます。

この努力は、使徒パウロの次の勧告にもかなっています。「あなたがたは、はたして信仰があるかどうか、自分を……吟味するがよい。」(2コリント13:5) 健康診断を毎年、歯科検診を2年に1度の割合で受ける人はたくさんいます。また日ごろの食生活に注意を払い、毎日適度な運動や休息を取る人もいます。このようにするのは、寿命を延ばし、充実した人生を送るためです。

しかし、わたしたちは靈的な側面にも十分関心を払っているでしょうか。「靈的な健康診断」を頻繁に実施することにより、神の御前みまへにあって自分が今どのような状態にあるか自己評価し、また永遠の命に至る道歩んでいるか吟味しているでしょうか。アルマはこのように問いかけました。「あなたがたは、罪のない状態で神の御前を歩んできたか。あなたがたは、もし今死ぬように召されたとして、心の中で

自分は十分にへりくだっていると云えるであろうか。」(アルマ5:27) ほかの質問も含め、アルマの問いかけは靈的な意味で「体温と脈拍」を計るのに役立つことでしょう。

## 目標の再確認

思慮分別のある人ならだれでも、現世では幸福を求め、死と復活に続いて「決して終わりのない幸福な状態で神とともに住」むことを最終目標とするはずで(モーサヤ2:41)。預言者ジョセフ・スミスはこう教えています。「幸福を得ることがわたしたちの存在する目的であり、目標である。もし幸福につながる道を歩むなら、そこに到達できることだろう。その道は、徳、高潔、清いこと、そして神のあらゆる戒めを守ることである。」(Teachings of the Prophet Joseph Smith『預言者ジョセフ・スミスの教え』ジョセフ・フィールディング・スミス編, pp.255-256)

「悪事は決して幸福を生じたことがない」ことを覚えておかななくてはなりません。悪事を行いながら幸福を求め人は「神の性質に反し」、「幸福の本質に反する」ものを求めているのです(アルマ41:10-11)。

『聖書』の中で、海の上を歩かれたイエスを見てペテロが自分も渡りたいと願った場面を読むと、永遠の目標に目を向け続けることがいかに大切に分かります。ペテロはキリストを見ていたときには水の上を歩きましたが、視線を主からそらし、恐れや疑いの気持ちを抱いた途端、沈み始めたのです。ペテロのようにイエスと永遠の行く末に目を向け続けるなら、わたしたちも「押し寄せる不信仰という高波の上や疑いという強風の中を意気揚々と歩んで行ける」ことでしょう(フレデリック・W・ファーラー, *The Life of Christ*『キリストの生涯』p.313。マタイ14:24-31も参照)。

この世のものに気を取られて永遠の目的地から視線をそらしたり、またこの世の声に惑わされて道を踏み外したりしてはなりません。そうではなく、

「キリストの栄光と永遠の命とを願う望みが、とこしえに……心の中にとどまる」(モロナイ9：25参照)ようにしなければなりません。最も価値があり、「信仰の目をもって実を期待しながら」近づいて行くべき目標を再確認しなければならないのです(アルマ32：40)。

## 現状を評価する

目標を再確認し、目と心をそこに向けたら、次に自分が今どの位置にいるか評価しなくてはなりません。合衆国史上、とても危機的な時期を迎えたときのことで、議会では歴史に名を残す討論が繰り返され、ダニエル・ウェブスター(1782-1852。アメリカの政治家)はこう述べました。

「大統領に申し上げます。船乗りは不案内な海上で悪天候が何日も続いた場合、嵐が収まり日が差し込むとさかさず現在の緯度を測り、嵐で本来の航路からどれだけそれているか調べるものです。わたしたちも彼らの賢明な行動に倣おうではありませんか。そうすれば、過ぎてしまった事柄に対する議論に終始する前に、少なくともわたしたちが今置かれている立場がはっきり分かるでしょう。」(Conference Report『大会報告』1961年10月、p.78に引用)

かつて船乗りは、六分儀という道具を用いて方角を知りました。この道具によって太陽や星が地平線からどの角



度に位置しているかを測ることで、現在の船の位置が分かるのです。船乗りの中には、この作業や必要な軌道修正を怠ったために深い海の底へと消えていく人々がいました。一方、六分儀を用い、天からの光によって軌道を修正していく賢明な船乗りは、常に安全な港にたどり着くことができました。

人生の嵐は絶えずわたしたちに吹き寄せます。だからこそ、折に触れて自らの霊性を吟味し、嵐の影響で本来の進路からどれだけそれているか見定めなくてはなりません。

1916年にジョセフ・F・スミス大管長はこのように述べました。「この世は嵐の中を漂流しています。……20年前には決して許されなかったにもかかわらず今は容認されている事柄が数多くあります。わたしの青年期には想像もつかなかったような新たな問題が次々と起こり、対応を迫ってきています。」(『大会報告』1916年10月、p.71)

80年を経た今も、伝統的なキリスト教の価値観とこの世の価値観とのずれは続いています。今日では、道德の標準が福音の標準からそれていることが懸念されています。結婚を卑下し、離婚を奨励し、無情な関係を助長する人の話を耳にします。また「様々な教の風に吹きまわされたり、もてあそばれたりする」人も目にします(エペソ4：14)。これらの風潮は、律法を緩め、戒めに対する妥協を求めているのでしょうか。もしそうであれば、それは自分自身や子供たちに、また周囲の人々にどんな影響を及ぼしているのでしょうか。

ある洞察に富んだ人の言葉です。「風呂のお湯が15分に1度ずつ熱くなったとしたら、湯船につかっている人は助けを求めて叫ぶべき時をどのように知り得るだろうか。」(マーシャル・マクルーハン)律法や聖約、主の御心に対する確固とした姿勢や態度を崩すなら、わたしたちが危険な水域へと徐々に押し流され、その中を漂うようになるのは目に見えています。そして周囲の「邪悪」という水の温度上昇に慣らされていくうち、ついにはわたしたち皆が、とりわけ子供たちが、焼け死ん

でしまうのです。

わたしたちは、大衆受けする意見という海におぼれたり、不道德という波にさらわれたりする必要はありませんし、そのようなことがあってはなりません。神はわたしたちとともにおられ、霊の緯度を測れる貴い六分儀に当たるものを幾つか備えてくださいました。

一つ目の六分儀については、ポイド・K・パッカー長老が次のような言葉で話しています。「わたしたちはそれぞれの心の中に、どんな船乗りが持っているものにも勝って実に正確で精密な六分儀を持っています。これも船乗りが用いるのと同様に、天からの光を受けて作用します。心の六分儀を儀式と聖約の言葉という方角に合わせ、位置を確かめるなら、光に導かれます。つまり、どう軌道修正すればよいか、これからどの進路を取ればよいか分かるのです。」(地区代表セミナー、1987年4月3日)

二つ目の六分儀については、アルマが語っています。アルマはわたしたちの思いと心をキリストの御言葉に留め、それから神を仰ぎ見る必要があると言いました。それによって単に正確な緯度を知るにとどまらず「はるかに良い約束の地」、さらには永遠の命へと続く進路を進むことができるのです(アルマ37：44-47参照)。

3つ目の六分儀は愛に満ちた天父から、生ける預言者を通して与えられました。預言者は警告を発し、真理を宣言し、人々に大胆に悔い改めを叫び、すべての人にキリストの福音にさらに従った生活をするよう勧めます。

預言者はこのように警告しています。「主の声もその僕たちの声も聞こうとせず、預言者たちや使徒たちの言葉も心に留めようとしない者たちが、民の中から絶たれる日が来る。」(教義と聖約1：14、下線付加)

個人的な啓示、聖文、生ける預言者の言葉を通して神からもたらされる光に目を向けることによって、わたしたちは永遠の命という最終的なゴールに対し、自分が今どの位置にいるか知ることができます。また、そうしなくてはなりません。

詩篇の作者はこのように語りました。「わたしは、あなたの道を思うとき、足をかえて、……向かいます。」(詩篇119:59) また放蕩息子のたとえ話には次のように記されています。「彼は本心に立ちかえつ〔た。〕」(ルカ15:17)同様に、わたしたちも自分の歩んでいる道を思い、本心に立ち返り、目標である神の方に足を返して向かわなければなりません。

### 進路の修正に着手する

現在の位置を確認し、もし永遠の命への正しい進路から少しでもそれていたり、信仰の本流から少しでもわきに押し流されていたりすると分かったら、直ちに進路を修正しなくてはなりません。

苦痛のただ中で、ある人はこう叫びました。

「どこかにないだろうか、  
『再出発』という名の地が。

そこに行けば、わたしたちの過ちも、心痛も、

利己心が招いた悲哀も、

すべてが着古したコートのように、戸口に脱ぎ捨てられる。

わたしたちは、二度とそれを身にまとわなくてよくなるのだ。」

(ルイザ・フレッチャー “The Land of

Beginning Again” *Best Loved Poems of the American People* 『再出発』という名の地』『アメリカ名詩選』p.101)

「再出発」という名の地は確かに存在します。それはイエス・キリストの福音です。キリストのみもとに来て悔い改める人々は皆、進路を修正し、罪の赦しの道を歩むことができます。しかしそれには信仰と勇気、そして断固とした決意が必要です。

現世の生涯は、豪華客船で巡る快適な船旅ではなく、波風に揺り動かされる苦難と試練の伴う航海です。ジェームズ・A・ミッチェナーはこのように記しています。「人と同様、船というものは風にわずかに逆らいながらも、帆をいっぱい張って進路を保って進むのが理想である。一方、船も人と同様、真後ろから風が吹くと蛇行してしまう。その風が水しぶきを立てて船を押すので舵取りや操縦に関心を払う必要はなく、進路に向かって風が吹くので好都合に思えるのだが、実際は、緊張を緩ませ操縦も緩慢になるので、逆に害を受けてしまうのだ。必要なのは船にわずかに逆らう風である。それによって緊張感が続き、心が高揚し、必要な考えが浮かぶため、船も人と同様に試練に立ち向かうことができる。」(Chesapeake 『チェサピーク湾』p.445。教義と聖約123:16も参照)

だれであろうと、どこに住んでいようと、また何をしようとも試練は訪れます。今は試しの時期だからです。しかし現世で幸福を得、来世でも安全な港に到着したいと望むなら、正しい進路からそれずに踏みとどまらなくてはなりません。正しい進路から少しもそれずに進むのです。出発時に緯度が1度それると、到着するところには目的地から大きく外れてしまいます。

「非常に大きな船も、嵐のときにはごく小さな舵に……助けられ、風と波に対して進路を保つことができます(教義と聖約123:16)。同様に、わたしたちもしっかりと舵を取ることによって、助けを受け、悪の風に立ち向かい、永遠の命というだれもが望む港に向かって進路を保つことができます。そのためにも、ゴールを再確認し、今いる位置を確かめ、必要に応じて進路修正を行うことが大切です。

今わたしたちは、新たな誕生と始まりの季節を迎えています。十字架にかけられたキリストの死を思って流したわたしたちの涙が、全人類の贖いの復活に対する確かな知識によってぬぐい去られる時です。そして「キリストのことを話し、キリストのことを喜び、」**「最善を尽くした後、神の恵みによって救われる」**ことを思い起こす時です(2ニーファイ25:23, 26, 下線付加)。

「立ち上がって行動を起こし」(アルマ60:24)、家族の一員として、教会の会員として、自らをクリスチャンと公言する者として、自分自身を誠実に評価してみてください。生けるキリストは、わたしたちがみもとに来てさらに御自身に似た者となるよう招いておられます。これこそ神聖な贖いの目的であり真髄ではないでしょうか。

神を仰ぎ見て、大いなる決意と断固とした姿勢で永遠の幸福に至るまっすぐな道を歩みましょう。それにより、霊とまことをもって主を礼拝し、主が罪と死に勝利を取められたことをともに祝おうではありませんか。

これらのことをイエス・キリストの御名によってお話しし、お祈ります。アーメン。



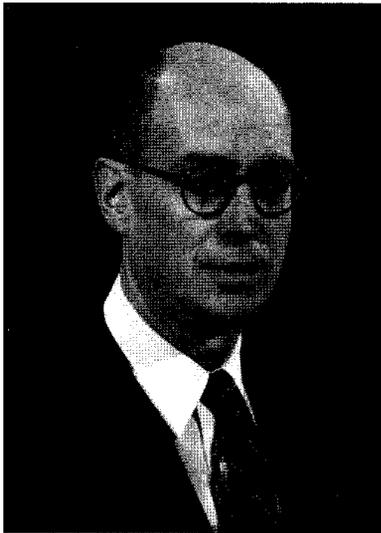
あかし

# 証という受け継ぎ

十二使徒定員会会員

ヘンリー・B・アイリング

真理についての証を家族に受け渡すために忠実に努力すれば……その力は増し加えられ、時を越えて伝えられるでしょう。



昨年秋、わたしたちはヒンクレー大管長から家族に関する宣言を聞いて、心に感動を覚えました。家族に神が何を望んでおられるか知りたかったからです。これで愛と義の中で生活できるでしょう。しかし、深く考えていくと、助けが必要になることが分かります。わたしたちのいないときに家族が導かれ、予測できない霊的な危険に立ち向かえるように、天の力を招くことが必要になるでしょう。

わたしたちの家族は、神が行うように望んでおられることを知るために、また行動へと促される方法でそれを学ぶために、一つの賜物を授かることができます。神はそのような導き手を備えられました。それは聖霊です。わたしたちは、聖霊を伴侶として家族に与えることはできませんが、家族自らそれを得ることはできます。聖霊を絶え

ず伴侶とするには、忠実に生活し、正しい権能を持つ人からバプテスマの儀式と按手を受けなければなりません。しかしバプテスマの前でも、子供も大人も神聖な真理について、聖霊による証を心に受けることができます。彼らは受けた証に忠実に生活しなければなりません、それによって善に導かれ、聖約を受け入れて守れるように助けられるのです。その聖約によって、やがては聖霊を伴侶とすることができるのです。わたしたちは、もしできるなら、何世代も通して伝えられる証という受け継ぎを家族に残すとよいでしょう。

この受け継ぎを築いて伝えるためにできることは、証がどのようにしてわたしたちの心に浸透していくかを理解することから始まります。神聖な真理について証してくださるのは聖霊ですから、家族にとってそうした経験をより確かなものとするために、少なくとも3つの事柄を行うことができます。最初に、神聖な真理を教えることができます。そして、教えたことが真実であると証できます。さらに、証を聞いた人がわたしたちの行いを見て、それが正しいと分かるように行動しなければなりません。そうすれば、わたしたちの話したことや、真理であると証したことについて、聖霊が確認を与えてくださるでしょう。

これは、証という受け継ぎを家族の中で築き、保ち、伝えていく方法です。簡単ではありませんが、普通の人を行っています。皆さんの中の多くの人々と同じように、わたしにもそのような先祖がいます。曾祖父のジョン・ベニオンがその一人です。世の中は変

わったので、彼のしたことをそのまままねることはできませんが、そこから学ぶことはできます。

曾祖父はウェールズ出身の改宗者でした。彼は妻子を連れて、初期の開拓者の一人としてソルトレーク盆地にやってきました。彼の生涯について幾らか知ることができるのは、そのときからほとんど毎日、短い日記をつけていたからです。1855年から1877年までの日記があります。それらは1冊の本にまとめて出版されました。彼の子孫が証という受け継ぎを残したいと思ったからです。わたしの母はその一人です。母のこの世での最後の仕事は、曾祖父の日記を出版用の原稿用紙に書き写すことでした。

曾祖父は短い記録の中で、多くのことは教えてはいません。ブリガム・ヤングが預言者であるとは証していません。彼はこのように記録しているだけです。すなわち、預言者から伝道に召される度に「はい」と答え、ジョーダンリバーを越えて当時マッディー伝道部と呼ばれていた地域まで行き、その後、故郷のウェールズでも伝道しました。さらに、ジョンソン大佐の軍隊を追跡するために馬で深い峡谷に乗り入れるという召しにこたえ、軍隊が谷に侵入したときには家族を南部に連れて行く召しにこたえました。ブリガム・ヤングが埋葬されてからすぐに曾祖父が亡くなったのは、ここでも預言者に従うためだった、という伝説が我が家には残っています。

毎日記録を残したことから明らかのように、曾祖父は自分の日常生活が歴史的なものであることを知っていました。末日にシオンを築く業に携わっていたからです。彼が残したわずかな証は、子供を亡くしたときに記録したようです。その証は試練のさなかに書かれたものなので、わたしにはいっそう力強く感じられます。

これはそのときの記録です。彼の腕の中で娘のエリザベツが息を引き取りました。彼は娘の埋葬と墓の場所について数行書いています。そして翌日の1863年11月4日に、次のように記しました。

「水曜日。馬小屋を直していると、子供たちが周りではしゃぐ。しかし、愛するリズィーは帰らない。わたしは主に助けを祈り求めた。生涯の終わりの日まで主の業に忠実でいられるように、そしてわたしの子供たちを家族の輪に再び迎えるにふさわしくなるように。幼くしてキリストのもとに召された子供たち、アン、モロナイ、エステル・エレン、エリザベツ、イエス・キリストの贖いのゆえに祝福され幸せな子供たち。」

ここにすべての要素があります。彼は真理を教えました。それが真実であると証しました。そして証に忠実に生活し、愛する家族と再び一つになるまで忠実に堪え忍べるよう祈りました。わたしは曾祖父の愛を感じ、自分もその輪に加わりたと思いました。

わたしたちは証という受け継ぎを残すために、別の方法を自ら見つけなければなりません。しかし、教え、証し、真理に従って生活するという過程は同じです。

聖文や生ける預言者、あるいはわたしたちの持つ思慮分別は、それがどこから始まるか教えています。両親として自分自身から始める必要があります。いかなる家族のプログラムも伝統も、両親が自分で持っていない証を受け渡すことはできません。アルマが述べているところから始めて、彼の証と同じ基盤に立っていることを子孫に伝えるようにするのです。『モルモン書』にアルマの言葉が次のように記されています。それはわたしたちが自分のものとして語るべき言葉です。

「そしてこれだけではない。あなたがたは、わたしが自分でこれらのことについて知っていることに気づかないのか。見よ、わたしは、自分が語ってきたこれらのことが真実であることを知っている。あなたがたは、わたしがどのようにしてこれらのことが確かであることを知ったと思うか。」

見よ、わたしはあなたがたに言う。これらのことは、神の聖なる御霊によってわたしに知らされているのである。見よ、わたしは自分でこれらのことを知ることができるように、幾日も

の間、断食をして祈ってきた。そして、これらのことが真実であることを、わたしは今、自分自身で知っている。主なる神が神の聖なる御霊によってこれらのことをわたしに明らかにされたからである。わたしの内にある啓示の霊によって知らされたのである。」(アルマ 5：45-46)

この確信が得られると、家族とともに過ごすほとんどの状況が、証という受け継ぎを築く絶好の機会になります。最善の方法の中には、すでによく知られたものが幾つかあります。そうした共通の状況を作り出し、その中で経験を通して家族が証を得られるようにする方法を挙げてみましょう。

第1に、毎週家族の集いを計画し、証を述べる場にします。イエス・キリストの福音の真理を、子供でも理解できるように、簡単に分かりやすく教えてください。子供はその教えを理解することができるものです。わたしたちがそのような方法で教えるならば、子供は最後に証を述べようとするかもしれません。内気な子供にとって、大勢の前で証するのは簡単にはできないことですが、家庭の中なら安心してできるかもしれません。そして、証をする子供やそれを聞く人々に、聖霊がさらに証されるでしょう。

第2に、家族と一緒に声を出して聖文を読みます。そのための時間と場所を見つけるには、並外れた決意と靈感が必要かもしれません。しかし、聖典から命の言葉を読むときや聞くとき、それらの真理を証される聖霊を招き寄せることができます。救い主はこう言われました。「あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖書は、わたしについてあかしをするものである。」(ヨハネ 5：39)

何年か前にこの説教壇から、マリオン・G・ロムニー副管長が、『モルモン書』を読んだときの経験を話してくれました。彼は2段ベッドの下に座り、上の段に座った息子と交互に、『モルモン書』を読んでいました。彼は息子が風邪を引いたかと思いました。後で分かったのですが、息子はこの書物が

真実であるという証を感じて涙を流していたのです。二人は一緒に読んだので、ともに祝福を受けました。

第3に、家族でともにひざまずいて謙遜な祈りをささげ、一人一人に祈る機会を与えます。祈りが機械的になったり、祈っていない子供がそわそわしたりすることがあるかもしれません。しかし、家族のだれかが信仰をもってほんとうに必要なものを願い求め、皆が聖霊の証を心に感じるとき、それはきわめて貴重な瞬間になるでしょう。わたしは母の教えをあまり思い出せませんが、母の祈りはよく覚えています。わたしは母の愛を感じ、母が天父と救い主を愛し、母の祈りがこたえられることを、御霊を通して確信することができました。母はわたしたちに祝福をもたらし、母の祈りは今もわたしたちの心に生きています。

第4に、自ら断食し、子供たちにも月に1回断食をさせて、主の聖餐を取る会に出席し、ほかの人々の証を聞くようにします。子供たちは自ら証するよう心に感じるかもしれません。食欲に打ち勝つという選が貧しい人々を助ける手段になることを知れば、霊的な祝福は子供たちにとってさらに大きなものになるでしょう。そのためには、断食献金を喜んで、また惜しみなく納めなければなりません。また子供たちがイエス・キリストの真実の教会について御霊の証を受ける可能性を高めるには、まず救い主が貧しい人や困っている人の世話をするために常に弟子たちを組織されることを教え、証することです。

聖なる御霊の確認を受けるために行う事柄は、もっと挙げることができます。例えば、ホームティーチングを受けるときの温かい気持ちや信頼感は、彼らが神の僕であるという確信を子供たちに与えるでしょう。子供が入学するときや家を離れるときに神権の祝福を与えるなら、心からへりくだって御霊のささやきを受ける備えができたときに、御霊がもたらされるでしょう。

証という受け継ぎを築いて伝える最も大切な機会には、前もって計画できないものがあります。悲劇や損失、苦

痛はしばしば予期しないときにやって来ます。思いがけない事態にどう対処するかによって、わたしたちの教えや証が心に深く根付いているかどうか、家族に示されます。ほとんどの人は、わたしたちに降りかかるものが何であれ、それを乗り越えられるように助ける救い主の力について子供たちに教えているでしょう。『モルモン書』には次のように記されています。「また神の御子は、御自分の民を束縛している死の縄目を解くために、御自身に死を受けられる。また神の御子は、肉において御自分の心が隣れみで満たされるように、また御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉において知ることができるように、彼らの弱さを御自分に受けられる。」(アルマ7:12)

悲劇が起こるとき、また起こりそうなき、子供たちはわたしたちの心をのぞき込んで、わたしたちが知っていると言ったことをほんとうに知っているのかどうか知る機会を得るのです。子供たちは、わたしたちが教えたとおりに生活したことを実際に見て、御霊による証を感じ、心に覚え、世代を越えてその話を受け継いでいくのです。

わたしもそのような話を受け継いでいます。わたしの祖母のアイリングは、病院で胃癌の末期だと医者から告げられました。長男であるわたしの父は、車で病院までの送り迎えをしました。父の話によれば、家に帰る途中、祖母はこう言ったそうです。「さあ、ヘンリー、元気を出して。賛美歌を歌いましょう。」二人は「高きに栄えて」(『賛美歌』180番)と「恐れず来たれ、聖徒」(『賛美歌』17番)を歌いました。最後の節の歌い出しはこうでした。「旅を終わらず死すも すべては善し…」

わたしはその場にいませんでしたが、想像できます。二人は、非常に美しい声ではないにしても、大きな声で、涙なしに、信仰をもって歌ったことでしょう。祖母は最後の数か月、長女の家で過ごしました。おばのカミラはわたしに言いました。「おばあちゃんはただ一度だけ、不平を言ったわ。ほんとう

の不平ではないけれどこう言ったの。『痛むわ』って。」

さて、死に直面しても、明るく元気に過ごした人がたくさんいます。しかし、その人が、救い主の力について、復活について、また永遠の命への希望について教え、証するなら、それはさらに意義深いものになります。これは御霊がわたしに告げてくださったことですが、祖母の平安と勇氣は彼女の証が真実であることを示すしるしでした。それによって「すべては善し」となったからです。

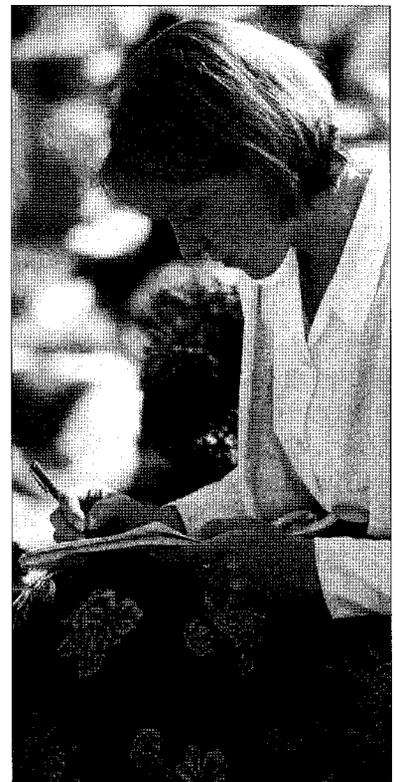
悲しいことに、たとえ真理について教え、証し、その証に忠実に生活しても、それが受け継がれないことがあります。善良ですばらしい両親がすべてのことを行っても、家族が証を拒むことがあるのです。しかしわたしたちには、大きな希望と楽観的な思いを持つ理由があります。その希望をもたらすものは何でしょうか。まず、天父の性質に関するわたしたちの証です。天父はわたしたちの家族を愛しておられ、わたしたちだけでなく、子供たちの天の御父でもあられるからです。また、イエス・キリストの使命についての証です。主は彼らを贖うために、犠牲を払われたからです。そして、神権の鍵の回復についての証です。神と聖約を交わす力が地上に再びもたらされ、神御自身が守られる聖約により家族が永遠に結び固められるからです。

これが絶望しない理由です。証という受け継ぎを家族に伝えるとき、それを受け入れない子供がいるかもしれませんが。子孫にまったく影響を与えないように思えるかもしれませんが。しかし、神は再三再四、それが受け継がれるよう手を差し伸べてくださいます。真理についての証を家族に受け渡すために忠実に努力すれば、わたしたちの思いもつかない方法で、その力は増し加えられ、時を越えて伝えられるでしょう。

その証拠は、だれもが知っている家族の中に見ることができます。わたしは南アメリカの宣教師たちの表情にそれを見ました。何百人もの宣教師がわたしと握手をし、ひとみの奥をのぞき込みました。わたしは圧倒される思い

でした。父祖リーハイとサラリアの子孫が主の御業のために、そこにいました。天父が約束されたことを守られたからです。リーハイは死ぬ間際に、子供たちに教えと証を伝え、祝福を受けようと思いました。彼の子孫は、リーハイやほかの預言者たちの証を拒み、聖文を拒んだときに、ひどい悲劇に見舞われました。しかし、わたしは宣教師たちのひとみや表情から、神が約束を守ってリーハイの聖約の子らに手を差し伸べられたことと、わたしたちの子孫にも手を差し伸べてくださることを確信しました。

天の父なる神が生きておられ、わたしたち一人一人を愛して、知っておられることを証します。イエス・キリストが生きておられ、主の犠牲のゆえに、わたしたちは復活し、清められることを証します。聖霊の力によって真理を知ることができます。神の最も大いなる賜物である永遠の命を得て、家族と一緒に永遠に住むことができます。わたしたちが愛するすべての人々のために真心から、真理の証を家族に受け渡すことができるよう、イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。



# 栄えある イースターの朝に

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

キリストは生きていらっしゃいます。まことに生きていらっしゃいます。栄光に満ちた、驚嘆すべき生ける神の生ける御子です。この喜びの日、空になった墓の奇跡を祝うこのイースターの朝に、わたしたちはこれらのことを厳粛に証します。



兄弟姉妹の皆さん、少しお話しさせていたきたいと思います。まず最初に、この復活祭の朝にタバナクルに集われた皆さんのお顔を拝見できてほんとうにうれしく思っていることをお伝えしたいと思います。実にすばらしい光景です。また、世界各地の3,000以上の集会場に、これよりもさらに多くの方々が集っておられるのは、考えるだけでもすばらしいことです。

残念ながら、今朝このタバナクルに入りたいと思いつながら、それができない方々がたくさんいらっしゃいます。タバナクルの周囲の構内には非常に多くの方がいらっしゃいます。主を礼拝

するために先祖の開拓者によって建設されたこの独特なすばらしい建物には約6,000の快適な座席がしつらえてあります。2時間にわたってこの固い座席に座っておられる皆さんの中には、「快適」という言葉に異議を唱える方がいらっしゃるかもしれません。

わたしは心の中で、このタバナクルに入りたいと思いつながら、それができないでいる方々のことを考えています。1年ほど前にわたしは中央幹部の皆さんに、次のような提案をしました。すなわちもう一つ、この建物の3、4倍の収容力を持つ、より大きな規模の、礼拝施設を建設できるかどうか検討すべき時がやって来たかもしれないということです。

もちろん、成長を続けるこの教会の全会員を収容できるほどの大きなホールの建築が不可能なことは承知しています。コミュニケーション手段はほかにもたくさんあります。衛星放送によって大会の様子が世界中の何百万もの人々にお伝えできるようになっています。

しかし、話者やそのほかの参加者の姿が直接見える席に座ってみたいという人はまだまだ数多くいます。わたしたちが考えているのはスポーツの競技用の施設のような建物ではありません。それは固定式の座席と優れた音響設備のある大きなホールになるでしょう。また、奉献された礼拝用の建物に

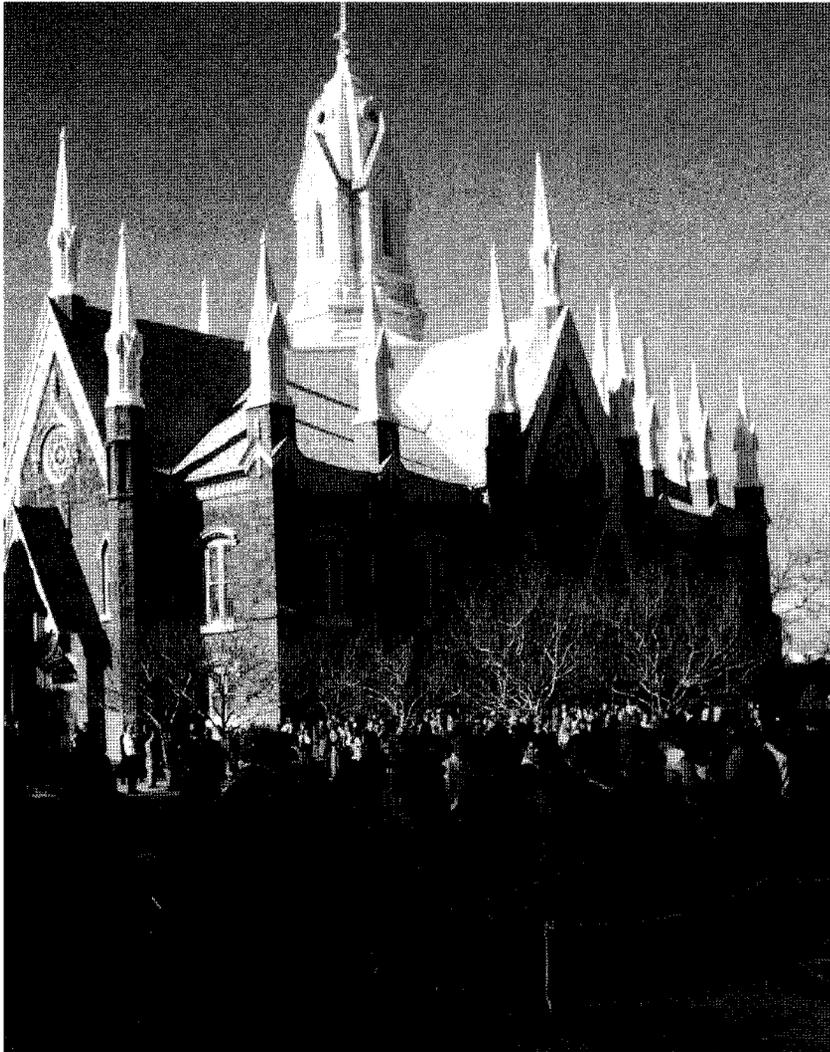
なることでしょう。それがその建物の主目的になるでしょう。必要に応じてあるときはホールの一部だけ、あるいは全体を使うことができる様式にする予定です。宗教行事だけでなく、聖劇やそれに類するような催しの上演など、教会のそのほかの目的のためにも用いるつもりです。さらには、目的がふさわしいものであれば、地域社会の文化的な催しを行う場として提供することも考えています。

建築や工事など技術的な面での検討は、まだ詳細な発表をするまでには至っていませんが、これまでのところ、前向きな進展を見せています。

ここで少し個人的な事柄についてお話しさせていただきたいと思つています。

1年前、この大会の聖会において、皆さんはわたしをこの重大かつ神聖な召しに就く者として支持の挙手をしてくださいました。わたしの心は、皆さんが示してくださる信頼への感謝の思いでいっぱいです。皆さんの優しい言葉そして忠実さ、愛に触れ、へりくだり、圧倒される思つです。少なくともある程度は、この責任の重大さを理解しているつもりです。主の御心をなすことのほかに、わたしの望みはありません。わたしは主の僕であり、主の民に仕えるために召されました。この教会は主の教会であり、わたしたちは主に属するものを管理しているにすぎません。

副管長としてわたしを補佐する、徳と能力を備えた二人の方に心から感謝しています。十二使徒定員会の兄弟たちに感謝しています。主を愛し、主の御心を熱心に求める、これほど献身的で有能な人々をほかに見いだすことはできません。七十人定員会と管理監督会の皆さんにも感謝しています。そして、地域幹部、ステーク会長、監督、定員会を管理する責任にある方々、忠実な伝道部長、神殿長の皆さんにも感謝の意を表したいと思つています。補助組織の皆さん、扶助協会、若い女性、日曜学校、初等協会の組織を管理する立場の皆さんが示してくださる能力、才能、献身に感謝しています。忠実に信仰の道を歩んでいらっしゃる一人一人



アセンブリホールに入場するため、列に並ぶ大会出席者たち。例年この建物は、タバナクルに入れなかった出席者を収容するのに使用されている。

の教会員に感謝しています。わたしたち末日聖徒はこの点において、神の御子、世の贖い主であられる主への愛によって結ばれ、皆一つです。わたしたちは、主の神聖な御名を引き受けている契約の民です。

教会は会員一人一人の信仰と行いの強弱によって強まりも弱まりもします。

わたしはこの1年間様々な所を旅してきました。わたしは自分の力の及ぶかぎり、国の内外を問わず、人々を訪ねて、感謝の言葉を述べ、励ましを与え、信仰を築き、教え、そして人々の証に自分の証を加え、それと同時にその人々から力を頂くつもりです。このことにおいて、助けをしてくださるすべての方々に感謝しています。

わたしは自分にできるかぎり、頑張っ  
て前進し続けるつもりです。愛する  
人々と交わりたいと願っています。最  
近わたしは教会の多くの若人と会っ  
てまいりました。それは非常に心の安  
らぐ経験でした。主を愛し、正しいこ  
とをしようと望み、大いなる徳を基と  
した人生を築きたいと考えているそれ  
らの若い男女の目を見、鼓舞激励され  
ました。彼らは自分自身と、これから  
彼ら自身がその一部となるであろう社  
会の役に立てるよう、それぞれの技術  
を伸ばそうと頑張っています。かつて  
ない多くの若人が宣教師として奉仕し  
ています。彼らは汚れがなく、賢く、有  
能で、幸福な若者たちです。主はその  
教会で学び、奉仕するこの選ばれた  
世代の若人を確かに愛していらっし

やいます。わたしは彼らを愛していま  
す。そして、そのことを彼らに知って  
ほしいと望んでいます。彼らにとって、  
人生は決して容易なものではありません。  
人の生活を食い物にしてまで富を  
肥やそうとする邪悪な企みを持つ人々  
の悪が、これほど人々の心を引きつけ、  
欺く形で横行している時代はかつてな  
かったのではないのでしょうか。悪いも  
のに手を伸ばして、自分の人生を壊さ  
れ、台なしにされ、悲劇的な状況に陥  
っている人々がいます。

お互いに忠実で、しかもその子らを  
愛と信仰のうちに育てている父親と母  
親の皆さんをほめたたえたいと思いま  
す。昨年10月に発表した家族に関する  
声明文は大きな反響を呼びました。  
どうぞ何回も何回も繰り返し読んでく  
ださい。

この御業の全世界での発展はすばら  
しく、驚異的なものです。主が国々の  
扉を開き、人々の心の琴線に触れてく  
ださっています。毎年シオンのステー  
クが100も新設できるほどの人々が教  
会に加わっています。しかしこの成長  
が大きなチャレンジももたらします。  
すでに多くの人々に知られていること  
ですが、現在、合衆国外の教会員数が、  
合衆国内の教会員数を上回っていま  
す。

兄弟姉妹の皆さんが正しい生活をし  
てくださっていることを感謝します。  
主の教会の高い標準になかった生活を  
しようと努力して下さりありがとうございます。  
これは主の教会です。皆  
さんの信仰に感謝しています。皆様の  
心からの支持と挙手の手に、そしてそ  
の祈りに感謝しています。

ここに集われた皆さんがすべて御存  
じのように、わたしたちが召されてい  
る目的はたった一つです。それは天父  
御自身が宣言された御業の進展を助  
け、天父の息子娘たちの不死不滅と永  
遠の命をもたらすことです（モーセ  
1：39参照）。

神が定められたこの遠大な計画の中  
には、一つの重大な鍵があります。そ  
れは、主イエス・キリストによる人類  
の贖いです。それに関して今から少し  
お話したいと思います。

今朝は復活祭の朝です。今日は主の日であり、わたしたちは歴史上最大の勝利、すなわち死への勝利を祝います。

イエスを憎んでいた人たちは、その震える肉体に容赦なく釘を打ち込み、カルバリの丘にその十字架を立てたとき、彼を永遠に葬り去ったと考えました。しかしその御方は神の御子であり、その力は彼らの考えを超えたものでした。イエスの死により復活がもたらされ、永遠の命が確実なものとなりました。ゲツセマネで祈られた主の苦しみを完全に理解できる人はだれもいません。またその後で、二人の盗人たちの間で十字架につけられ、「他人を救ったが、自分自身を救うことができない」（マタイ27：42；マルコ15：31）と、人々に嘲笑された恥辱を完全に理解できる人はだれもいません。

主を愛した人々は、言い表すことのできない悲しみとともに、傷ついたイエスの遺骸をアリマタヤのヨセフの新しい墓に横たえました。主の愛と教えを受けていた弟子たちの生活の中からは、望みが消えうせていました。彼らが主また師として仰いでいた御方は、十字架につけられ、その体は封印された墓の中に横たえられていました。主は生前、彼らに御自分がやがて死ぬことと復活とについて教えられました。しかし彼らには理解することができなかったのです。彼らは絶望し、失意の淵に沈んでいました。墓を封じるために大きな岩が置かれたとき、彼らは涙を流し、困惑したことでしょう。

ユダヤ人の安息日が過ぎ、新しい日がやって来ました。それは、それ以後主の日となった新しい日でした。悲しみの中にマグダラのマリヤとそのほかの女たちが墓にやって来ました。岩は元あった場所にはありません。どうしたのかと彼女らは中をのぞいてみました。驚いたことに墓の中は空です。

混乱と恐れのうちにマリヤはシモン・ペテロと主の愛されたもう一人の弟子のところへと駆けつけ、叫びました。「だれかが、主を墓から取り去りました。どこへ置いたのか、わかりません。」（ヨハネ20：2）

彼らも走って墓へ向かいましたが、

まさかと思っていたことは確かに事実でした。悲しみに打ちひしがれつつ、彼らは「自分の家に帰って行」きました（ヨハネ20：10）。

「しかし、マリヤは墓の外に立って泣いていた。そして泣きながら、身をかがめて墓の中をのぞくと、

白い衣を着たふたりの御使が、イエスの死体のおかれていた場所に、ひとり頭の方に、ひとり足の方に、すわっているのを見た。

すると、彼らはマリヤに、『女よ、なぜ泣いているのか』と言った。マリヤは彼らに言った、『だれかが、わたしの主を取り去りました。そして、どこに置いたのか、わからないのです。』

そう言って、うしろをふり向くと、そこにイエスが立っておられるのを見た。しかし、それがイエスであることに気がつかなかった。

イエスは女に言われた、『女よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか。』マリヤは、その人が園の番人だと思って言った、『もしあなたが、あのかたを移したのであれば、どこへ置いたのか、どうぞ、おっしゃって下さい。わたしがそのかたを引き取ります。』

イエスは彼女に『マリヤよ』と言われた。マリヤはふり返って、イエスにむかってヘブル語で『ラボニ』と言った。それは、先生という意味である。

イエスは彼女に言われた、『わたしにさわってはいけない。わたしは、まだ父のみもとに上っていないのだから。ただ、わたしの兄弟たちの所に行って、『わたしは、わたしの父またあなたがたの父であって、わたしの神またあなたがたの神であられるかたのみもとへ上って行く』と、彼らに伝えなさい。』（ヨハネ20：11-17）

主を心から愛し、主から癒しを受けたことのあるマリヤは、復活された主とまみえた最初の人でした。その後、主は多くの人に御姿を現されましたが、パウロは「500人以上の兄弟たちに、同時に現れた」と宣言しています（1コリント15：6参照）。

このような経過の中で、使徒たちは主が、何を教えようとされていたのか

理解できるようになりました。トマスは主の傷跡に触れ、言いました。「わが主よ、わが神よ。」（ヨハネ20：28）

この記録の真実性を疑える人がいるでしょうか。歴史上、これ以上確かな出来事はほかにありません。復活された主を目にし、主に触れ、主と語ったすべての人々の証が、そこにはあるのです。主は、東西両半球の二つの大陸を訪れ、最終的に天に昇るまで人々に教えられました。人類史上、最も栄えある出来事が二つの神聖な書物により証されています。しかし、信仰のない批判者たちは、それらが単なる物語であると言い張ります。それにこたえてわたしたちは、これらのほかに、この最もすばらしい出来事の実証性についての聖霊の力による証がある、と唱えています。何世紀にもわたり、数え切れない人々が、復活した生ける主が実在の御方であるという確信のために、安らかな生活や富、時にはその命までも犠牲にしてきました。

さらに、この神権時代の預言者の高らかな証が続いています。その預言者は驚くべき顕現の中で、全能の神とその復活された御子にまみえ、その御声を聞きました。筆紙に尽くし難いこの示現は、すべての難、権威、権能、力、また人々の証の中にある心の支えとなる慰めとともに、末日聖徒イエス・キリスト教会の土台となりました。

死ほど万人に共通したものはありません。しかし、不死への確信ほど信仰と希望をもたらす輝かしいものもありません。死に伴う失望、愛する者を失ったときの落胆は、あのイースターの朝の御子の復活に対する確信によってのみ和らげられます。

不死が真実でなければ、人生に何の意味があるでしょう。それがなければ人生は、物質的なものばかりを追いかけた挙げ句、まったく希望がなく見捨てられたも同然の、憂鬱な旅と化してしまいます。

「死よ、おまえの勝利は、どこにあるのか。死よ、おまえのとげは、どこにあるのか。」（1コリント15：55）

死の苦しみは、永遠の命がもたらす平安に飲み込まれたのです。人類史上、

これほど重大な結果をもたらした出来事はありません。

全人類のために成し遂げられた、この贖いのすばらしさについて深く考えた末に、預言者ジョセフ・スミスは、美しく叙述的な言葉で次のように宣言しました。

「山々は喜び呼ばわりなさい。すべての谷よ、声高らかに叫びなさい。すべての海と乾いた地よ、あなたがたの永遠の王の驚異を告げなさい。川よ、小川よ、せせらぎよ、喜びをもって流れ下りなさい。森と、野のすべての木々は、主をほめたたえなさい。硬い岩よ、喜びの涙を流しなさい。太陽と月と夜明けの星は、ともに歌いなさい。神の子らは皆、喜び呼ばわりなさい。永遠の創造物は、とこしえにいつまでも神の御名をたたえなさい。さらにまた、わたしは申します。栄光と、救いと、誉れと、不死不滅と、永遠の命と、また王国と公国と力をわたしたちの耳に宣言する天から聞こえる声は、何と栄えあることでしょう。」(教義と聖約128：23)

たとえ死の冷酷な手に打たれても、そこには悲しみと暗闇のときに光を注

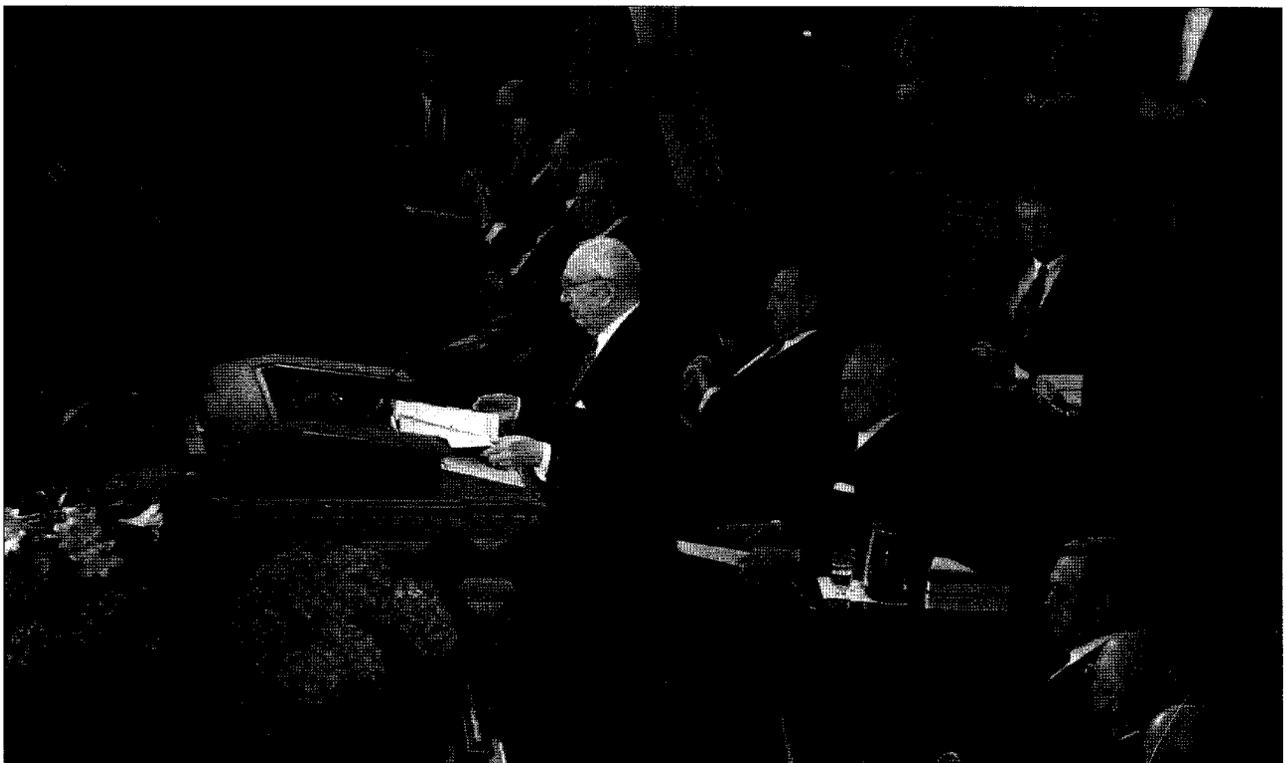
ぐ主イエス・キリスト、神の御子の勝利の姿があります。主はたぐいえない永遠の力で死に打ち勝たれました。キリストは世の贖い主です。わたしたち一人一人のためにその命をささげられました。しかし主は再び命を取り戻し、眠っている者の初穂となられたのです。キリストは王の王として、すべての王の上に君臨しておられます。また、全能者としてすべての統治者の上に君臨しておられます。主はわたしたちの慰めです。霊が肉体を離れるときにわたしたちを取り囲む、この世の夜の闇のとばりに対する真の慰めであります。

栄光の王、汚れのないメシヤ、主インマヌエルであられるイエス・キリストは、いかなる人も及びもつかない御方です。わたしたちはどれほど深い悲しみのときにあっても、あのイースターの朝、天使が語った「もうここにはおられない。かねて言われたとおりに、よみがえられたのである」(マタイ28：6)という言葉の中に希望と平安と確信を見いだすことができます。パウロが語った「アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キ

リストにあってすべての人が生かされるのである」(1コリント15：22)という言葉の中から力を得ることができるのです。

主イエスの愛に　ただ驚く  
恵の深きに　われ惑う  
罪人のため　十字架にて  
流されたる血に　身は震う  
ああ、わがため主は死にたもう  
奇しきみ業  
ああ、奇すしき主のみ業  
(『賛美歌』109番)

この御方はわたしたちの王、教師、生けるキリストであり、御父の右手に立たれる御方です。キリストは生きていらっしゃいます。真実、生きていらっしゃいます。栄光に満ちた、驚嘆すべき生ける神の生ける御子です。この喜びの日、空になった墓の奇跡を祝うこのイースターの朝に、わたしたちはこれらのことを厳粛に証します。死人の中からよみがえられた御方すなわち主イエス・キリストの御名によって、アーメン。



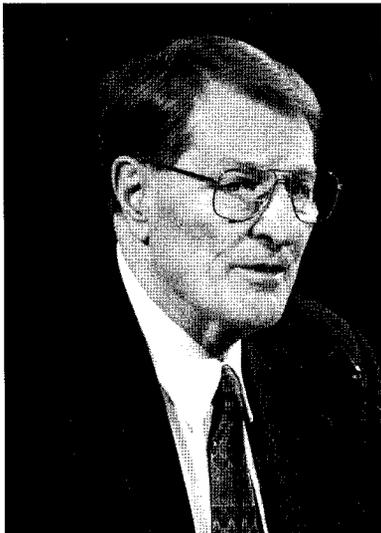
総大会の部会で司会をするゴードン・B・ヒンクレー大管長

# 子供のようになる

十二使徒定員会会員

ニール・A・マックスウェル

「信仰が試されてからでなければ」<sup>あかし</sup>完全な証は得られません(エテル12:6)。そしてしばしば幼い子供がわたしたちを導いてくれるのです(イザヤ11:6参照)。



**新**しく支持された七十人の方々を心から歓迎し、これから何年にもわたって同じ業に携わる皆さんに友の交わりをお約束します。

兄弟姉妹の皆さん、最初に、世俗主義という現代のシナイの荒れ野を通り抜けるときのチャレンジを幾つか挙げ、それから靈感された子供たちが与えてくれる助けに焦点を当てたいと思います。

わたしたちは皆、放任主義のもたらす多くの苦々しい結果を目にしています。ある洞察力の鋭い人がこう述べています。「神への信仰なしに道徳的に生活しようという試みがもたらしたものは、わたしたちが思い描くような正義や徳性ではなく、無秩序と混乱であった。

何か重大な間違いが世俗主義にはあった。これはまったく皮肉なことであ

る。世俗主義がついには自らを一種の宗教へと変えていったからである。…

……今はその変換は完了し、政府がその宗教の教会となった。」(ピーター・マリ「Secularism's Blind Faith」*Harper's Magazine* 「世俗主義の盲目の信仰」『ハーバース・マガジン』1995年9月号, p.20)

神が義とされたことを世の中が正しいとすることに置き換えようとするほど、人類の問題を効果的に解決することはできなくなります。C・S・ルイスがたとえたように、洪水のときに消火器を持って走り回る人のようです。例えば、暴力と犯罪の被害者が増加しているのに、犯罪者の権利に多くの関心が寄せられています。ポルノグラフィーにおぼれる人が増えるとともに、検閲への激しい抗議が起こっています。非嫡出子の増加が家族を破壊し、政府の予算を圧迫していますが、それでもなお、純潔や貞節があざけられています。このような傾向は、不協和音のように不快で有害な結果を生み出します。ローマが焼け落ちるときに、遊びほうけていたネロでさえ、わずかな曲を作っていました。兄弟姉妹の皆さん、わたしはきっぱりと言いますが、このまま放置するなら、自由放任を唱えた人は、最後に、自分の招いた恐ろしい結果にがくぜんとすることでしょう。

皮肉なことに、人はかたくなになれなければならないほど、悪い行いを優しい言葉で表すようになります。これは世俗主義による沈静化の一つです。例えば不必

要な墮胎は「妊娠中絶」よりも「柔らかな表現」として「生殖機能の保健処置」と呼ばれています(ジョージ・マッケナ「On Abortion: A Lincolnian Position」*Atlantic Monthly* 「墮胎について—リンカーニアン立場」『月刊アトランティック』1995年9月, pp.52, 54)。「私生児」はさらに受け入れやすいように「非嫡出子」あるいは「婚外子」になりました(ベン・J・ワッテンバーグ, *Values Matter Most* 『最も価値あるもの』 p.173)。

教会員は福千年まで毒麦と小麦の状態に置かれるでしょう。中には小麦のふりをして毒麦がいて、もはや信じていない教会の教義について会員たちにしきりに説教しようとします。また自分ではもはや献金していない教会基金の使い道について批判します。あるいは、もはや支持していない教会の幹部に恩着せがましく助言しようとします。人に批判的で自分に寛大な彼らは、教会を去っても、教会への批判はやめません(*Ensign* 『エンサイン』1980年11月号, p.14参照)。「大きく広々とした建物」の城壁の上の群衆のように、鉄の棒につかまって忍耐強く進む人々を指さしてあざけることに夢中になっています(1ニーファイ8:26-28, 33)。彼らが絶えず没頭しているのを見て、ある人はこう思います。「あんなに大きな建物の中にいるのだから、もっとほかにできることはないのかしら。ボーリング場でも造るとか。」彼らのあざけりと大騒ぎは、自分の立場に対する疑いを覆い隠す手段かもしれません。いずれにしても、疎んじられるのを承知でブリガム・ヤングが述べたように、この「民は人々の嘲笑から逃れることはできない」のです(*Discourses of Brigham Young* 『ブリガム・ヤング説教集』ジョン・A・ウィッツォー編, p.434)。

ですから、兄弟姉妹の皆さん、たとえ預言されているとおりの善いことに対して実際に怒る人がいても(2ニーファイ28:20参照)、静かに善を行い続けなければなりません。同じように、信仰を持つ人は、横柄な批判に対して柔和さと明快な態度で応じなければな

りません。たとえ憤慨した人々に取り巻かれても、わたしたちは彼らに、特に落胆した人々に、手を差し伸べなければなりません（教義と聖約81：5参照）。もしわたしたちが民としての欠点を指摘されたときには、改善するよう努めようではありませんか。

さらに、キリストの弟子である喜びは、それに伴う重荷よりもはるかに大きなものです。わたしたちは、シナイの荒れ野を旅するとき、回復というバウンティフルのようなオアシスで養いを得ます。このオアシスに対する第一印象の幾つかは、永続するものというより、子供じみたものになっていくかもしれません。回復の喜びに浸ると、わたしたちはそれに心を奪われます。ポケットは福音の実でいっぱいになり、歓喜に満たされます。言葉で言い表すことはできません。喜びのあまり、オアシス全体を見るだけで個々の木を見落とす人や、わき上がる生ける水、すなわち回復された福音全体を見るだけで個々の教えを見落とす人がいても、驚くには当たりません。また、初めて福音の光を見いだすとき、思わずそれを誇張してしまう人がいるかもしれません。わたしたちはそうした例を数え切れないほど見てきました。わたしたちは「感じていることの万分の一も言い表せない」のです（アルマ26：16）。

これらのオアシスに加えて、主はわたしたちの旅のために、家族や隣人、主の僕を含め、さらに多くの「十分な備え」をしてくださいました。（*Teachings of the Prophet Joseph Smith*『預言者ジョセフ・スミスの教え』ジョセフ・フィールディング・スミス編、p.220）。これらの人々は、わたしたちを強め、教化し、教え、慰め、霊的に鼓舞してくれます。わたしたちは「愛によって結び合わされ」ているのです（コロサイ2：2）。ですから、こうした人との交わりにより、わたしたちはさらに決意を新たにします。

12年ほど前に、わたしは二人の末日聖徒の医者でブラジル出身の会員でない医学生とともにテニスをしました。

それ以来何の消息もなかったのですが、先月ブラジルのクリティーバで、あの医学生だったバレンティム・ゴンサルベスが再びわたしの横に立ちました。今度はテニスコートではなく、地区大会でわたしの通訳をしたのです。彼の天性の徳と人々の善い働きのおかげで、眼科医のバレンティムは今、会員であるばかりか、クリティーバのステーク会長を務めています。バレンティムと奥さんは、神殿で結び固めを受け、3人のかわいい子供に恵まれています。それはすばらしい再会であり、主の御手の働きに対するわたしの感謝の念はさらに深まりました（教義と聖約59：21参照）。

靈感を受けた子供たちは、しばしば荒れ野の中で道を示してくれます。それができる理由は、ベニヤミン王の投げかけた質問の答えにあります。「なぜならば、仕えたこともなく、見も知らぬ他人で、心の思いと志を異にしている主人を、どのようにして人は知ることができようか。」（モーサヤ5：13）

子供たちはよく「心の思いと志」を主に向けています。そのような子供は、年がいかなくても、信仰にあふれています。教会の正規の召しを受けるには若すぎますが、「善い両親」（1ニーファイ1：1）に恵まれた場合は特に、模範を示す者として召されているのです。

聖典にあるように「御言葉が、これまで何度も幼い子供に与えられて」きました（アルマ32：23）。例えば、復活されたイエスから教えを受けたニーファイ人の子供たちは、主が民に明らかにされたことよりも「大いなること」を大人や両親に教えました（3ニーファイ26：14）。

わたしは恵まれて、今はアリゾナに住むパーカー兄弟姉妹と数人の養子のお子さんとの結び固めを行いました。何年前に、3歳になったばかりのネイトが言いました。「ママ、もう一人、女の子がこの家に来るよ。髪の毛と目が黒くて、遠くに住んでいる子だよ。」

賢明な母親は尋ねました。「どうして分かるの？」

「イエス様が言ったんだ。2階から

ね。」

「うちには2階はないのよ」と母親は言いましたが、すぐに子供の言葉の重要性に気づきました。苦勞と祈りを重ねた末に、1995年秋にパーカー家族はソルトレーク神殿の結び固めの部屋で、カザフ共和国生まれの黒髪でひとみの黒い女の子と、この世から永遠にわたって結び固められました。靈感を受けた子供たちは、両親に「大いなる驚くべきこと」を告げるのです（3ニーファイ26：14）。

マイケル・バラムとローリー・バラム夫妻の息子ベンジャミンは、脊椎破裂という病気で、ベンジャミンは両親や多くの人々に祝福をもたらしてきました。また霊的な感受性が強く、いつも愛と平安を周囲に与えています。17度も手術を受けたので、快活なベンジャミンは病院や医師について何でも知っています。あるとき、閉口した付き添い人が大声で怒りだしました。ベンジャミンのせいではなく、ストレスのためでしょう。そのとき、3歳のベンジャミンは、子供のように「愛にあふれた者」となりなさい（モーサヤ3：19）というベニヤミン王の言葉を実践しました。幼いベンジャミンは手を伸ばし、いらだつ付き添い人に優しく触れて言いました。「大好き。」同じことが先ごろイスラエル病院でもあり





ました。ベンジャミンは、必要とはいえ痛みの激しい治療を受けていたときに、医師を安心させるために同じ言葉を口にしたのです。兄弟姉妹の皆さん、わたしたちが事あるごとに、子供たちは霊的に優れていると感じるのは当然のことです。

ジョセフ・クラーク、ジャニス・クラーク夫妻は、二人の息子ジェイコブとアンドリューに恵まれました。5年前、父親のジョセフは突然発作を起こし、手足が動かなくなりました。二人の息子さんはしばしば、動かない父親の腕の中であやされたことでしょう。ジョセフは声が出せなくなっても、いつもほえんでいたそうです。診断によれば、治る見込みはありませんでした。しかし、ジョセフと気高い姉妹と二人の息子さんは、家族や親戚に支えられて、5年間、立派に闘ってきました。彼らは神のなさることを信頼していたので、ヨブのように「神に向かって愚かなことを」言いませんでした（ヨブ1：22）。

絶えず困難な問題があったにもかかわらず、ジョセフとジャニスはベニヤミン王の言葉のように、二人に負わさ

れることに「喜んで従」ったのです（モーサヤ3：19）。最近ジョセフは亡くなりましたが、彼が息を引き取ったその日に、父親の愛にあふれた性格をよく知っていた9歳のジェイコブは言いました。「ママ、パパは天国でたくさんさんの友達に囲まれているね。」数日後にコンピューターの宿題で困っていた7歳のアンドリューは、後で母親に言いました。「パパのことを考えたらね、助けてくれたんだ。」

ブラジルの4歳の女の子マヤラ・フェルナンダ・ドス・サントスは、白血病で酸素吸入を受けていますが、最近ブラジルのクリティーバでクラウディオ・コスタ長老とわたしから祝福を受けました。祝福の後、心の優しいマヤラは、心配する母親の頬から涙をぬぐってほほえみしました。マヤラは生まれながらに賢く、主に喜んで仕える両親を含め「慰めの要る者を慰める」方法を知っていました（モーサヤ18：9）。

クレイグ・ズウィック長老とわたしは、ブラジルのフォルタレザで貴重な経験をしました。わたしたちは白血病で死の床にある7歳の少年に祝福を与える機会に恵まれたのです。少年はジ

ェレド・アンモンといい、この名前から両親や家族のことがしのばれます。伝道部長とステーク会長が一緒でしたので、ベッドのそばにわたしたち4人が立つのがやっとで、14歳になる信仰の篤い姉がジェレドを腕に抱き抱えました。腹部が大きく膨れていました。ステーク会長が酸素マスクを持ち上げて、祝福を受けたいかどうか尋ねると、ジェレドは「はい、お願いします」と言いました。彼に祝福を与え、幕のかなたで働くように召すのは、まさに特権でした。御霊が強く注がれ、涙があふれました。それからもう一度マスクを持ち上げて、ほかにできることがないか尋ねました。ジェレドは穏やかに言いました。「『神の子です』（『賛美歌』189番）を歌ってください。」わたしたちは泣きながら、従順なジェレド・アンモンの最後の願いにこたえました。それから2時間後に彼は世を去りました。

翌日、飛行場へ行く前に、礼拝堂での告別式に参列しました。彼のすばらしい両親は信仰に満ちた人で、取り乱すことなく、敬虔な態度で御心に「喜んで従〔って〕」いました（モーサヤ3：19）。ジェレドを抱いていた姉は、伝道に行く予定です。彼女は幕のこちらで仕え、ジェレドは幕の向こうで仕えるのです。

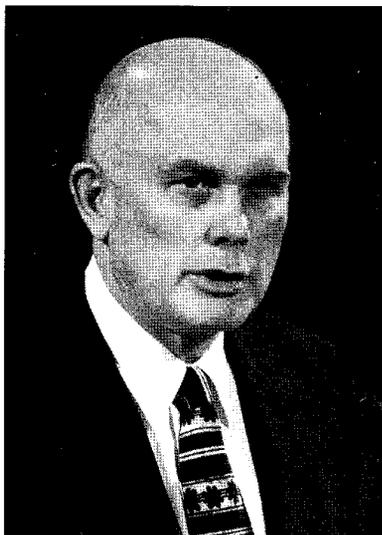
兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは「子供のように」なりなさいと告げられています（モーサヤ3：19）。そのような徳によって、わたしたちはシナイの荒野を越えるときに支えられ、苦難のときに、「静まって、〔主〕こそ神であることを知る」のです（詩編46：10）。従順によって、静まる必要があります。奉獻の過程は言葉では表せないからです。「信仰が試されてからでなければ、完全な証は得られません（エテル12：6）。そしてしばしば幼い子供がわたしたちを導いてくれるのです（イザヤ11：6参照）。

わたしはこの御業が真実であることを喜んで証します。また、ヒンクレイ大管長のすばらしい導きを受けている、このすべての驚くべき業が真実であることを、イエス・キリストの御業により証します。アーメン。

# ジョセフ—— 人として預言者として

十二使徒定員会会員  
ダリン・H・オークス

ジョセフには、手本として預言者となる方法を学ぶことのできる人物がい  
ませんでした。……天使たちと、彼に与えられた独自の霊の賜物によって  
学んだのです。



この美しい復活祭の日曜日、わたしは預言者ジョセフ・スミス  
を話題に選び、彼の生涯の中で、比較的  
知られていないながらも預言者として  
の召しを証明する事柄を強調すること  
にしました。

ジョセフ・スミスをはじめとする人  
人の手になる文章を集めて編さんした  
『教会歴史』(History of the Church)と  
初めて出会ったのは、わたしがブリガ  
ム・ヤング大学の学生のころでした。  
そして法律学校を卒業後、全7巻を精  
読しました。また、イリノイ州にある  
記録の原本を個人的に研究しました。  
イリノイは、預言者ジョセフがその生  
涯の最後の5年間を過ごした所です。

このような方法で知ったジョセフの

人間像は、想像していたものと随分違  
っていました。教会で育った少年時代、  
わたしは預言者ジョセフを年老いて威  
厳のある、近寄り難い人物と想像して  
いました。しかし、読書や研究を通し  
て知ったジョセフ・スミスは、若くて  
感情豊かで、活動的な人物でした。聖  
徒たちがしばしば「ジョセフ兄弟」と  
呼んだほど愛され、親しみやすい開拓  
者でもありました。この研究のおかげ  
で、わたしは彼が確かに預言者として  
召されたという証を強めることができ  
ました。何とすばらしい人物でしょう。  
同時に、わたしの目には、限りある生  
命を持つがゆえ、罪、過ち、そして苦  
痛や艱難にさらされる一人の人間とし  
ての彼の姿も見えてきたのです。

預言者ジョセフの務め全体を通じ、  
特徴的なのは、比較的年が若かったこ  
とと、わずかな学校教育しか受けてい  
なかったこと、そして知識の習得と成  
熟が信じられないほど速く達成された  
ことです。14歳で最初の示現を受け、  
天使モロナイが初めて訪れたのは17歳  
のときでした。21歳で金版を授かり、  
わずか23歳のときに『モルモン書』の  
翻訳を(通算して60日足らずで)終え  
ています。『教義と聖約』の啓示の大  
半は、預言者が25歳以下のときに受け  
たものです。大管長会が組織されたの  
が26歳のときで、カートランド神殿が  
奉獻されたときは30歳でした。ミズー  
リ州での拘禁から逃れ、ノーブーに集  
合しつつあった聖徒たちを再び指揮す

るようになったのは、33歳を過ぎたば  
かりのころでした。そして38歳半で殉  
教したのです。

ジョセフ・スミスは、人並み以上に  
この世の艱難を味わった人でした。7  
歳かそこらで、激痛を伴う手術を経験  
しています。麻酔なしで脚部から骨片  
を削り取る手術でした。その後3年間  
の大半を松葉杖を使って生活しまし  
た。また、家が貧しかったので、ほと  
んど学校教育を受けられず、少年のと  
きから家計を助けるために長時間の労  
働を余儀なくされました。ジョセフと  
愛するエマの間に生まれた子供のうち、  
最初の3人は出生時に死亡しまし  
た。後に生まれた子供の一人も出生時  
に亡くなり、ほかの一人は幼児期に亡  
くなっています。ジョセフとエマの9  
人の子の中で、成年に達したのはわ  
ずか4人でした。養子の双子の一人も  
乳児期に死亡しています。

ジョセフは何度も身体的な暴力を受  
けました。虚偽の告発にもしばしば悩  
まされました。経済的にはほぼ慢性的  
に困窮に瀕していました。神聖な召し  
の重責を果たす努力の最中であって  
も、家族を養うために、時には農夫と  
して、また時には商人として働かな  
ければなりません。この働きは、  
預言者の召しを果たすときに彼を支え  
てくれたすばらしい霊の賜物の助けな  
しで成し遂げなければなりません。そ  
れは、主が「世俗の働きについ  
ては、あなたは力を持たないであろう。  
これはあなたの召しではないからであ  
る」(教義と聖約24:9)と教えられ  
たとおりでした。

最初の示現を受けた後の10代の自分  
について、ジョセフはこう書き残して  
います。「わたしは、……しばしば多  
くの愚かな誤りを犯し、若者としての  
弱さと人間性の至らなさを示した。遺  
憾ながら、このために神の目にかなわ  
ない様々な誘惑に誘い込まれた。」彼  
はこの行いには「何か大きな罪、すな  
わち憎むべき罪」は含まれていないこ  
とを急いで付け加えています。それは  
「このような罪を犯す性質など、決し  
て〔ジョセフ〕にはなかった」からで  
す(ジョセフ・スミス—歴史1:28)。

ジョセフが自分の欠点に関して率直だったことは、最初に記して世に出版した啓示の一つが、主から彼の受けた打ちのめされるような叱責の言葉だったという事実からも明らかです。22歳のジョセフがマーティン・ハリスの懇願に負けて『モルモン書』の翻訳原稿を貸したために、最初の116ページを紛失してしまったのです。主は「見よ、あなたは何としばしば神の戒めと律法に背き、人々の説き伏せに乗ってきたことか」（教義と聖約3：6）と言明されています。主はジョセフに、悔い改めなければ預言者としての役割を剥奪するまで言われました。同じく預言者によって出版された後の4つの啓示は、ジョセフに「悔い改めてわたしの前をさらにまっすぐに歩」むように命じ（教義と聖約5：21）、彼が「罪を犯し」た（教義と聖約64：7。90：1も参照）ことに言及して、戒めを守らなかったことを叱責しています（教義と聖約93：47参照）。

預言者ジョセフには、手本として主の民の預言者そして指導者となる方法を学べる人物がいませんでした。天使たちと、彼に与えられた独自の霊の賜物によって学んだのです。彼が頼らなければならなかった同僚たちにも、手本になる人物はいませんでした。彼らは悩みながらともに学んでいきましたが、預言者の進歩の速さには目を見張るものがありました。

ジョセフが聖徒たちに人間の不完全さについて警告したときも、自分を彼らの上に置くことはありませんでした。聖徒たちはそんな彼を愛したのです。彼は、ノーブーに到着したばかりの聖徒の団に向かい、聖徒たちには、すべてがことごとくうまく運ばないときに不満を抱く傾向があることを警告しています。ジョセフを知る人はこう書き残しています。「ジョセフは言った。『わたしはただの人であって、わたしに完全を期待することはできない。もし、わたしに完全であるように期待するのなら、わたしも彼らに完全であることを期待すべきであろう。逆に、彼らがわたしの欠点について忍耐してくれるなら、わたしも同じように

彼らの欠点を忍耐しようと思う。』」（*The Papers of Joseph Smith* 『ジョセフ・スミス文書』日誌、1832-1842年、ディーン・C・ジェシー編、2：489）

ジョセフは「生来の陽気な気質」（ジョセフ・スミス-歴史1：28）の持ち主で、友人との交流を楽しみました。「人々とよく遊び」、「いつも陽気で楽しかった」と、ある知人は述懐しています（レーチェル・リッジウェイ・グラント“*Joseph Smith, the Prophet*” *Young Woman's Journal* 「預言者—ジョセフ・スミス」『ヤング・ウーマンズ・ジャーナル』16：〔1905年12月〕551）。ジョセフは小さい子供が好きで、よく子供たちと戯れたものでした。それは、ほかの教会の牧師たちの仰々しい態度に慣れた人々にはあきれられるほどでした。このような温かみのある人間的な資質のため、中にはジョセフの預言者としての役割を否定する人々もいましたが、彼を知る多くの人々はそれゆえに彼を愛したのです。「聖徒たちの彼への愛は、筆舌に尽くせないほどだった」（メアリー・アリス・キャンノン・ランバート『ヤング・ウーマンズ・ジャーナル』16：554）とジョセフの知人が記したように、愛に満ちた称賛の言葉が数え切れないほど多く記録に残されています。

人懐っこく、親しみやすい振る舞いをする人物である一方、預言者ジョセフ・スミスは責任を果たすことには断固とした態度で臨みました。大管長会と十二使徒評議会の勧告を拒否した男性に対する宗紀上の処置を審議する会で、ジョセフはこのように明言しています。「聖徒たちは、わたしが皆と親しく楽しく陽気に接するからといって、周りの状況に無頓着だと考えないでいただきたい。教会にあっては、どんなたぐいの罪も許容されることはできない。なぜなら、わたしが教会を率いているかぎり、正しく率いるべく断固決心しているからである。」（『教会歴史』5：411）また、別なときにはこのように書き残しています。「わたしはキリストと純潔の徳を愛し、

清廉潔白な行動と清い道を愛する。そして偽善者と聖約を破る者を忌み嫌う。」（*Personal Writings of Joseph Smith* 『ジョセフ・スミス私書集』〔1984〕ディーン・C・ジェシー編、p.246）

ジョセフ・スミスはその一生を未開地で過ごしました。そこは、男たちが自然を相手に腕力で勝負を挑まなければならない場所でした。そして時には、互いに勝負しなければならないこともありました。ジョセフは立派な体格に恵まれ、強く、活動的な男性で、力試しの棒引きのような、勝敗を競うスポーツを好みました（『教会歴史』5：302参照）。教会の記録保管所にはジョセフが友人や知人としたレスリングの試合に関する回想録が数多く残されています。ある安息日、彼はブリガム・ヤングとともに、ノーブーから馬車で1日かかるイリノイ州ラムスで聖徒たちに説教をしました。月曜日にラムスをたつ前に、ジョセフは「ラムスの乱暴者」と言われていた男性とレスリングの試合をし、彼を投げ飛ばしています（ウイラード・リチャーズ、*Joseph Smith Journal* 『ジョセフ・スミス日誌』1843年3月13日付け、末日聖徒イエス・キリスト教会記録保管所蔵、ジョセフ・スミス・コレクション参照）。現在の大会スケジュールの中に、地元のホテルが訪問中の幹部をこのようにして試す機会がないことをうれしく思います。

未開地の多くの指導者と同じく、ジョセフ・スミスは身体的な対立にひるむことのない、ライオンのような勇気の持ち主でした。かつて彼は二人の男に誘拐され、撃鉄を起こした銃を頭に突きつけられて、少しでも動いたら撃つと何度も脅されたことがありました。しばらくこの脅しに耐えていた預言者でしたが、やがてこう言い返しました。「撃つなら撃つがいい。生きるのが嫌になるほど多くの迫害や抑圧に耐えているのだ。だから、口先だけでなく、撃つてすべてを終わらせたらうだ。」（*Journal of Discourses* 『説教集』2：167。『教会歴史』5：440も参照）

預言者ジョセフ・スミスは生涯、激

しい敵対行為や迫害を経験しましたが、その最中であっても、天よりの召しから逃れようと心を揺るがしたことは一度もありませんでした。ノーブーで人々を前に説教したとき、彼はこのように明言しています。

「わたしに課せられた荷は非常に重い。迫害者たちは息つく暇も与えないほどに攻撃してくる。わたしはこの責任を果たす中、心は熱しているが肉体は弱いことを知っている。わたしは、この神権時代に神の偉大な業と王国の土台を築き、散らされたイスラエルに関して示された神の御心みこころ あかしを証するよう天父によって召されたのだが、ほかの人々や昔の預言者たちと同じように、感情の影響を受けやすい者である。」(『教会歴史』5:516)

殉教する1か月ほど前のある説教で、ジョセフはこのように宣言しています。「わたしは自分が完全だと言ったことは一度もない。しかし、わたしが説いた啓示には、一語たりとも誤りはない。」(The Words of Joseph Smith

『ジョセフ・スミス語録』アンドリュー・F・イハット、リンドン・W・クック編、p.369)

ジョセフ・スミス市長と市議会がノーブーにできたばかりの反対派の新聞社を閉鎖したことは、反モルモンへの敵対心をあおり、直接殉教に結びつくことになりました。B・H・ロバーツ長老を含むモルモン歴史家たちは、この行為を残念ながら違法であると認めていました。しかし、独自の研究を続けていた若き法学教授時代のわたしは、1844年当時のイリノイ州法にこの行為を合法とするものを発見し、喜んだものです。このような市や州政府の行為に対して出版の自由を保障するアメリカ合衆国憲法の改正案は、1868年まで採択されておらず、実際連邦法として施行されたのは1931年になってからなのです(ダリン・H・オークス“The Suppression of the Nauvoo Expositor” *Utah Law Review* 「ノーブーエクスポジター新聞への抑圧」『ユタ法律評論』9:862参照)。先人

の行為は、当時の法律や戒めや状況に照らして判断されるべきであって、我々の時代のそれを基に判断してはならないのです。

シカゴ大学の学生のころ、歴史家のマービン・S・ヒルとわたしは、ジョセフ・スミスならびにハイラム・スミス殺害の罪で5人の男がイリノイ州で裁判にかけられたというあまり知られていない事実に興味をそそられました。わたしたちはそれから10年以上も、その裁判やそれにかかわった人々について、どんなささいな情報でも収集しようと、全国の図書館や古文書保管所をくまなく当たりました。ジョセフ・スミス個人を知っていたイリノイの市民たち、その中でも彼を憎んで殺人を謀議した人々や、逆に、暗殺の罪に問われた男たちの裁判をジョセフ・スミスへの愛ゆえに命がけて傍聴に訪れた人々の行動や言葉を研究したのです。こうしてわたしたちの発見した裁判記録の原本と長期間にわたった裁判の証言の中には、殺害された人々の不



教会本部ビルから見たテンプルスクウェア。前景左がソルトレーク神殿で、参入者入り口が右下に見える。神殿の後方左にあるのがアッセンブリーホール。上部中央のドーム型の建物がタバナクル。



名誉な行いを反映するものは一つもありませんでした(ダリン・H・オックス, マービン・S・ヒル, *Carthage Conspiracy* 『カーセージの陰謀』参照)。イリノイ州の裁判記録が手に入った段階で、それまで手がつけられていなかったもう一つの研究分野、すなわちジョセフ・スミスの経済活動の研究への道が開かれました。当時シカゴの法律学校の学生だったジョセフ・I・ベントリーとわたしは、ジョセフ・スミスの携わった商業活動を示す多くの資料を発見しました。それに関する研究発表の解説にも書きましたが、当時アメリカでは全国的な経済パニックと恐慌が終わったばかりでした。イリノイのような開拓途上の州の経済状況は破綻を来していました。同時代にイリノイに生きたエブraham・リンカーンの伝記作家たちが、そろってその10年間の彼の財政的な困難について書き記しているほどです。当時の商業活動は困難を極め、債務不履行が多発して、裁判ざたは日常茶飯事でした。ジョセフの敵対者たちは、おもに教会のために行った様々な土地譲渡行為を詐欺として起訴しました。10年近くもの長きにわたり、次々と裁判が開かれ、詳細にわたって起訴事実の審査が行われました。そして1852年、聖徒たちがイリノイを脱出して何年もたってから(したがってこのころには、預言者に味方する政治的その他の理由はまったくなかった)、連邦裁判官が預言者側

に詐欺その他の道徳的不正がまったくなかったという判決を下して、ようやくこの裁判の幕が閉じたのです(ダリン・H・オックス, ジョセフ・I・ベントリー “Joseph Smith and Legal Process: In the Wake of the Steamboat” *BYU Law Review* 「ジョセフ・スミスと訴訟—蒸気船の航跡をたどって」『ブリガム・ヤング大学法律評論』p.735参照)。この判決はさておき、この裁判の何百ページもの様々な申し立てと証拠を調査した者として、わたし自身もここに預言者がどの告発にも無実であったことを証言します。

100年以上もの歳月が過ぎた今、初期のイリノイ不動産法について知識のある弁護士の立場で当時の訴訟を振り返ってみると、ジョセフやほかの教会指導者、会員たちが今話したような問題に適切な法的助言を得られなかったために、大いに不利益を被ったことがよく分かります。ブリガム・ヤングが弁護士に好意を持っていなかったことは有名ですが、不適切な法的助言しか得られなかったことがその原因だったのかもしれない。1846年に「イリノイの全弁護士よりは、6連発銃の方がよほどよい」(『教会歴史』7:386)と言ったという彼の言葉を思い出す度に、苦笑を禁じ得ません。

ジョセフを最もよく知り、教会の指導の立場にあって彼に最も近かった人たちは、彼を預言者として愛し、支持しました。兄ハイラムはジョセフとともに死ぬことを選びました。殺害されたとき一緒にいたジョン・テラーは、こう語っています。「わたしは神と天使と人々の前で証する。彼は善良で高潔な徳高い人物であり、……私的にも公的にも人格に一点のやましきもなく、神の僕として生き、死んでいった。」(『The Gospel Kingdom』『福音の王国』p.355。教義と聖約135:3も参照)ブリガム・ヤングはこう明言しています。「この地上に生を受けている人の中でわたし以上に[ジョセフ]のことを知っている人はいない。わたしは声を大にしてこう言う。イエス・キリストを除いて彼ほど立派な人物は存在しなかったし、これからも存在するこ

とはないであろう。」(『説教集』9:332)

ほかの信仰深い末日聖徒と同様、わたしも預言者ジョセフ・スミスの証とその使命の上に自分の人生を築いてきました。膨大な資料を読み、独自の研究を重ねた後も、彼の預言者としての召しや、主が彼を通して実現された福音と神権の回復について、わたしの証が揺らいだことは一度もありませんでした。わたしはここに、有名な1842年のウェントワース書簡にあるジョセフ・スミスの証を厳かに支持します。

「……真理の旗は立てられた。いかなる汚れた者の手も、この御業の発展を止めることはできない。迫害は威を振るい、暴徒は連合し、軍隊が集合し、中傷の風が吹き荒れるかもしれない。しかし神の真理は大胆かつ気高く、悠然と出で立ち、あらゆる大陸を貫き、あらゆる地方に至り、あらゆる国々に広まり、あらゆる者の耳に達し、神の目的は成し遂げられるであろう。かくして、大いなるエホバは、御業は成ったと告げられることであろう。」(『Times and Seasons』『タイムズ・アンド・シーズンズ』1842年3月1日号, 709; *Encyclopedia of Mormonism* 『モルモニズム百科事典』ダニエル・H・ラドロー編, 4:1754に引用)。イエス・キリストの御名によって申し上げます。アーメン。

#### 注

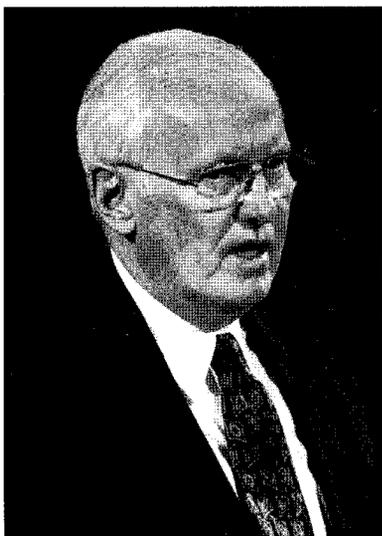
1. 文中の資料以外にも、以下の著書を参照。リチャード・L・ブッシュマン, *Joseph Smith and the Beginnings of Mormonism* 『ジョセフ・スミスとモルモニズムの発祥』; トルーマン・G・マドセン, *Joseph Smith the Prophet* 『預言者ジョセフ・スミス』; *Joseph Smith* 『ジョセフ・スミス』『モルモニズム百科事典』ダニエル・H・ラドロー編, 3:1331-1339に収録; デビッド・ハーバート・ドナルド, *Lincoln* 『リンカーン』p.54; リチャード・カイジェル, *The Frontier Years of Abe Lincoln* 『エブ・リンカーンの辺境時代』pp.175-176。

# 改心と決意

七十人

W・マック・ローレンス

皆さんがもし今、真の改宗と決意からもたらされる祝福を享受していないのであれば、心にこのような変化を生じるために必要なステップを踏んでくださるよう、心からお勧めします。



**兄**弟姉妹、ようこそいらっしゃいました。神の生ける預言者の臨席するすばらしい大会を通じて、預言者をはじめ主に召された人々から、靈感あふれる勧告と証、教えを受けられることは何と大きな特権でしょうか。これらの方々の言葉は「主の心」「主の思い」「主の声」であり、聖文に記されているように「救いを得させる神の力」（教義と聖約68：4）であることを証します。

このことを考えるとき、昔、十二使徒定員会のマリオン・G・ロムニー長老が、大会を閉じるに当たって語った次のような言葉が思い出されます。「今大会では多くの真理と教えを聞くことができました。それらに従えば神のみもとに帰ることができます。」（Conference Report『大会報告』1954年4月、pp.132 - 133）ロムニー長老

は、そう宣言しました。

今大会のような集まりで、神の御言葉を聞くだけでは不十分であることに留意していただきたいと思います。神の御言葉を生活に反映させ、約束された祝福を受けるには、それに従わなければなりません。事実、主はこう宣言されました。「あなたがたは、神の口から出る一つ一つの言葉に従って生きなければならないからである。」（教義と聖約84：44、下線付加）

この度の大会で神の御言葉を聞いた今、わたしたちにはそれに従って生活する責任があります。前回の大会を閉じるに当たって、ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう言いました。「この大会で学んだことを生活の中に取り入れるなら、わたしはもっと善い人間になれると思います。そして皆さんにも、このすばらしい大会で聞いたことを生活の中で実践するなら、さらにすばらしい人間になることができると申し上げたいと思います。」（『信仰と証があやなす織物』『聖徒の道』1996年1月号、p.99）

この勧告に従うことによって、キリストとその福音への改心を深めることができます。またそうすることで、聖約と戒めを守り、教会での務めにいそしもうとする決意がいつそう強められます。思うにこれこそが、今の責任を含め、長年教会で指導者の召しを頂いて、わたしが目にしてきたおもなチャレンジの一つを解決する手立てではないでしょうか。

ステーキ会長に今の最大のチャレンジあるいは憂慮していることについて

尋ねると、異口同音にこういう言葉が返ってきます。「聖徒たちに決意を深め、真の改心をして、戒めを忠実に守り、召しを十分に果たす人になってもらうことです。」わたしはこれまで、このチャレンジについて祈りを込めて何度も熟考してきました。確かに末日聖徒は、神の御言葉を聞く機会には恵まれています。しかし、残念ながら神の御言葉に従いそれを生かしていくことは先送りにしがちです。

「心と、勢力と、思いと、力を尽くして」（教義と聖約4：2）主に仕え、「主の命令を熱心に守」りたいという願いや証をわたしたちにもたすのは一体何なのでしょう（1ニーファイ4：34）。

わたしは、この件について思い巡らし祈っていたとき、この問題は改心と決意の欠如に端を発しているという結論に達しました。つまりキリストと福音、教会への改心、さらには、人に仕え人を強めるために受けた、個人の召しと聖約への決意の欠如です。この点についてペテロへのキリストの言葉を考えてみましょう。「あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。」（ルカ22：32）このように決意は改心した人が迎える自然の結果であり、事実なのです。

約束された祝福を生活の中で完全に享受し、召しをいっそう効果的に果たすためには、真に改心しなければなりません。もしほんとうに心から改心していれば、だれでも全力を尽くして聖約や戒めを守り、責任を果たし、キリストに従うことでしょう。

真に改心したキリストに従う者、つまり弟子または聖徒と呼ばれるに値する人は、教会で奉仕する姿勢についても、聖約と戒めを守ることについても決してうわべだけの自己満足に終わることはないはずです。そのような人は主の訓戒に心から従い「自分の義務を学び……まったく勤勉に遂行する」（教義と聖約107：99）ことでしょう。

改心するとはどういう意味でしょうか。ハロルド・B・リー大管長はこう言っています。「改心には、什分の一の領収書や、……神殿推薦状を持った

名前だけの会員であること以上の意味がなければなりません。」真に改心した人とは「単にうわべだけでなく内面の弱点を改善する絶ゆまぬ努力をする人です。」(Church News『チャーチニュース』1974年5月25日付け, p.2)

真に改心し、確固とした決意をしている人は、教会での奉仕の務めを果たすに当たって、「適当にこなしていく」といった態度をとりません。改心したホームティーチャーは、担当家族をちょっとだけ訪問し、定員会の指導者にホームティーチング「完了」と報告することに満足したりはしません。改心した初等協会の教師は、「適当にレッスンを教える」だけでは満足せず、御霊によって教え、自分に託された感受性豊かな子供たちの生活にすばらしい変化をもたらしたいと願うことでしよう。

真に改心した末日聖徒は、果たすよう期待されている割り当てをこなすために神殿に行くのではなく、亡くなった先祖、またはまったく見知らぬ人、つまり自分自身で儀式を受けられない人々の身代わりとして、神聖な救いの儀式を執り行いたいという心からの願いによって神殿に参入します。また統

計や報告上の目的で、割り当てを果たすために人に奉仕するのではなく、キリストと天父への愛と献身の精神で奉仕します。

この点については、ある指導者訓練集会で語られたヒンクレー大管長の勧告について考えてみましょう。「統計上の実績よりもはるかに大事な達成すべき事柄があります。わたしたちは人人の霊性を高めることに心を砕くべきであり、それが何より大切なのです。わたしたちには統計上の実績を上げることをいちばんに考える傾向があります。実績向上を図ろうとして、プレッシャーの伴う割り当てを課する傾向があるのです。しかし主の御業にあつてはプレッシャーよりももっと大切な動機づけがあります。それは真の改心から生じる動機づけです。末日聖徒の心に、強い熱意つまりこの御業の真実性に対する確固とした証があるとき、彼ら〔彼らとはもちろん、すべての男性と女性です〕は教会での務めを進んで果たすことでしよう。聖餐会に進んで出席するでしょう。神権会にも出席するでしょう。また正直に什分の一とその他の献金を納めるでしょう。ホームティーチングを行うでしょう。状況

が許すかぎり頻繁に神殿に参入するでしょう。人々に福音を分かち合いたいという強い願いが心に生じるでしょう。ほかの兄弟姉妹を強く励ますようになるでしょう。〔言い換えれば、彼らはさらに決意を深めるのです〕このように改心こそが人に変化をもたらします。」(1984年4月6日、地区代表セミナー、下線付加)

兄弟姉妹、皆さんがもし今、真の改心と決意からもたらされる祝福を享受していないのであれば、心にこのような変化を生じるために必要なステップを踏んでくださるよう、心からお勧めします。恐らくわたしのこの願いは預言者アルマが民に語ったときの気持ちと、同じなのではないでしょうか。アルマの言葉です。「さて見よ、教会の同胞よ、わたしはあなたがたに尋ねる。あなたがたは霊的に神から生まれているか。あなたがたの顔に神の面影を受けているか。あなたがたは心の中に、この大きな変化を経験したか。」(アルマ5:14)

この「心の中の大きな変化」こそが改心なのです。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は言いました。「人は、主の僕の証にへりくだって耳を傾け従うとき、主の御霊によって心を貫かれ真の改心をする。」(Church History and Modern Revelation『教会歴史と近代の啓示』1:40)

わたしが最初にお話ししたことをここで改めて強調したいと思います。今大会やそのほかの集会で語られる神の御言葉をただ聞くだけでは不十分です。それを効果的なものとし、約束された祝福を享受するには、それに従わなければなりません。スミス大管長が述べたように「主の僕の証に耳を傾け従わなければならない」のです。

わたしはへりくだって、皆さん一人一人に、現在の自分の改心と決意の度合いを吟味してみるようお勧めします。現在受けている召しに対し、自分がどれだけ効果的に働いているか、自問してみてください。どれだけ完全に戒めを守り、預言者をはじめ、ステーク会長や監督など、神に召されたほかの指導者たちの勧告に従っているか考



タバナクル合唱団の団員たち。今回彼らは日曜日の二つの部会で歌声を披露した。日曜日の最後の説教で、ヒンクレー大管長は「この合唱団は教会の大切な宝の一つです」と語った。

えてみてください。皆さんはなすべきことを人に言われて気づく方ですか、それとも率先して取り組み、成し遂げる決意をしているのでしょうか。

アルマの質問を振り返ってみましょう。「あなたがたは霊的に神から生まれているか。」アルマが民への教を閉じるに当たり、自分自身の改心にまつわる証を述べていることは注目に値します。「見よ、わたしは、自分が語ってきたこれらのことが真実であることを知っている。あなたがたは、わたしがどのようにしてこれらのことが確かであるのを知ったと思うか。

見よ、わたしはあなたがたに言う。これらのことは、神の聖なる御霊によってわたしに知らされているのである。見よ、わたしは自分でこれらのことを知ることができるように、幾日もの間、断食をして祈ってきた。そして、これらのことが真実であることを、わたしは今、自分自身で知っている。主なる神が神の聖なる御霊によってこれらのことをわたしに明らかにされたからである。わたしの内にある啓示の霊によって知らされたのである。」(アルマ5:45-46、下線付加)

これと同じ啓示の霊、すなわち改心の霊は、断食と祈り、従順、聖文の研究を通して熱心に求めるすべての人に注がれます(アルマ17:2-3参照)。

今大会を機に、イエス・キリストの福音への改心と決意を、さらに完全なものにしようという望みを新たにすることができそうです。使徒ヤコブの次の訓戒に従えますように。「御言葉を行う人になりなさい。……ただ聞くだけの者となつてはいけません。」(ヤコブの手紙1:22)

わたしは心からイエス・キリストを信じています。聖文に記されたキリストの教を理解し、それに従うことができますように。これは主の聖なる教会です。預言者ジョセフ・スミスを通して、主はこの最後の神権時代に、完全な福音を回復されました。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は真の生ける預言者です。これらの証をイエス・キリストの御名によって申し上げます。アーメン。

# 誘惑

七十人

ルロン・G・クレーブ

**誘惑は、まるで金属を引きつける磁力のようなものです。皆さんが背を向けるなら、その力は効力を失います。**



**兄** 弟姉妹の皆さん、天父を愛し、愛し合う聖徒たちとともに働けるのは、すばらしい経験です。わたしたちは、聖徒たちが人生の試練に直面したときの勇氣とチャレンジを目の当たりにしてきました。

この数年間、時折幹部の兄弟たちの要請を受けて、悔い改めた教会員たちが神殿の祝福を回復するための面接を行ってきました。悔い改めたこのすばらしい人たちの祝福を回復させることは、いつでも霊的に感動させられる経験です。そんな何人かの人たちに、「一体あなたの人生にどんなことがあって、一時的に教会員の資格を失うことになったのですか」と質問してみました。目にいっぱい涙をためて、彼らは一様にこう答えました。「祈りや、定期的に教会に集うことや、教会での奉仕、福音の勉強など、福音の基本的な原則に従わなかったからです。やが

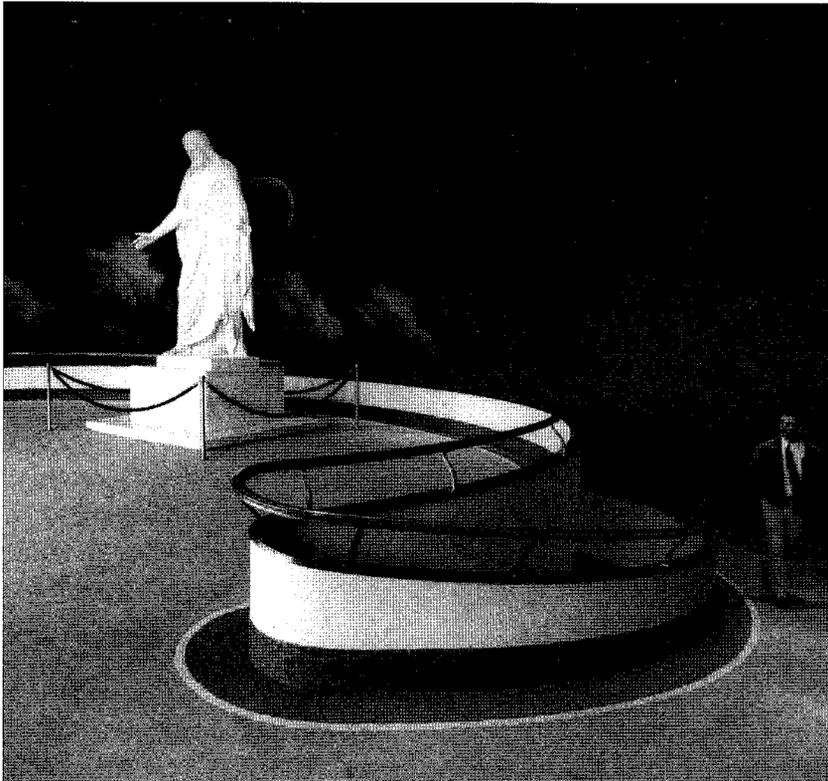
て、わたしは誘惑に負け、聖霊の導きを失ってしまったのです。」わたしにとって、このような悔い改めた人たちと会い、ともに赦しの奇跡と、聖徒たちや聖霊と再び結ばれる喜びを分かち合えることは、いつも特別な経験になっています。

誘惑はわたしたちの地上の経験に必要なものです。主は預言者ジョセフ・スミスを通して誘惑の必要性についてこう説明されました。「悪魔が人の子らを誘惑するのは必要である。そうでなければ、人の子らは自ら選択し行動する者とはなれない。苦いことを経験しなければ、甘いことを知ることができないからである。」(教義と聖約29:39)

『モルモン書』の中で、ニーファイは誘惑に負けるとどのようになるか、こう説明しています。「悪魔の誘惑〔は〕……人の子らの目をくらまし、心をかたくなにし、広い道に踏み込ませて、彼らが滅び失われるように仕向ける。」(1ニーファイ12:17)

目をくらすとは、自分の行動の結果を自覚しなかったり、無視することです。心をかたくなにするとは、教えに目を閉じ、受け入れようとしないことです。広い道に踏み込まれるというのは、この世の快楽に心を奪われ、生活の中で聖なる御霊の影響を失うことです。

ブリガム・ヤングはこう言っています。「多くの人は、悪魔が人の肉体と霊の両方を支配する力を持っていると考えている。はっきりしておく。人が悪霊に負けて肉体が内にある霊を支配しないかぎり、悪魔には人を征服す



る力はない。……霊は肉体の影響を受け、肉体は霊に影響されるからである。」(Discourses of Brigham Young『ブリガム・ヤング説教集』ジョン・A・ウィットナー編, pp.69-70)

誘惑は、まるで金属を引きつける磁力のようなものです。皆さんがそれに背を向けるなら、その力は効力を失います。同じように、わたしたちも誘惑に背を向けなければなりません。そうすれば、誘惑はその力を失います。

わたしたちの心は、一日中休まず活発に活動しています。思いがどの思考経路をたどるかを選ぶのは、わたしたちです。心にこの世的な思いが入り込むのを許せば、義にかなわない行動を取ってしまいます。人生の高速道路を進んでいく間に、わたしたちの肉体の感覚は、心をそそのかし誘惑する広告やポスター、雑誌、ビデオ、映画などに絶え間なく攻撃されていて、もし気を許せば、末日聖徒にふさわしくないイメージを心に焼きつけてしまうのです。

もしよこしまな思いが浮かんだら、立ち止まり、理性を働かせ、心をコントロールしてください！ 心の目に

「出口」と書かれた特大の表示が見えるようにしてください。直ちに思いを変えてください。その思考経路を断ち切ってください。

皆さんの中に義にかなわない感情や欲望がふくれ上がると、聖霊はノーの信号を出してください。聖霊に耳を傾けてください。立ち止まり、考え、心の中に「進入禁止」の標識を思い浮かべてください。義にかなわない感情や邪悪な空想につながるそんな思いをすぐに変えるか、消してしまってください。心と肉体に悪い習慣として残る場合があるからです。

義にかなわない行いを選ぶように、あるいはそんな思いを抱くように誘惑されたときは、その道の行き着く先を眺めて、その行為の避けられない結果を考えてみてください。立ち止まり、考え、「停止」の標識を思い浮かべてください。心にブレーキをかけてください。すぐに何か違うもの、心を高めものに考えを切り換えてください。

誘惑を克服するには、思いをコントロールする必要があります。悪い思いを心の出口から追い出してください。不義な思いという進入禁止の道に入ら

ないでください。末日聖徒としてふさわしくない行為につながる思いを抑えてください。誘惑に負ける必要はありません。目が見るもの、耳が聞くもの、口が話すもの、そして手が触れるものを選んでください。

誘惑に負けることが肉体と霊の双方にとって抜き難い習慣になる場合があります。この習慣に勝てなくなって、とりこになることがあり、とりこになると自由と内面の平安が失われてしまいます。

誘惑の勝利に身をゆだねるとき、彼らは勧告、すなわち聖霊の勧告、預言者の勧告、健全な教義の勧告、聖約に伴う勧告、そして彼らを最も愛する人たちの勧告に背いているのです。そして人の友情や愛、聖霊の導きから自らを切り離してしまいます。

誘惑は、わたしたちに危険の可能性を警告する情け深い方法であるとも言えます。注意標識の役割を果たしてくれるからです。誘惑は待ち受ける危険をあらかじめ警告してくれます。誘惑は、誤った思いや行為から離れるように注意を喚起してくれることもあります。

この地上での経験を積み永遠の存在者として、わたしたちは誘惑から逃れられません。誘惑は、正しいことを行おうとする内面の努力があることを意味しています。絶えず官能なこと、この世的なことを考えている人は、内なる霊的成長を経験できません。官能的な思いが霊的成長を妨げるからです。

ジョージ・Q・キャノン副管長はこう言っています。「彼ら〔人〕が誘惑にさらされなければ、自分の力も弱さも、神の力も知り得ない。もしサタンに人類を誘惑する力がなかったなら、人は善も悪も知ることのできない状態にとどまる。幸福も不幸も知ることはない。彼らの力はすべて休止状態に陥る。なぜなら、成長を促すものがないからである。永遠の父である神のようになるために人を備えてくれる経験がないのである。」(Gospel Truth『福音の真理』ジェレルド・L・ニューキリスト編, 1:109)

福音の原則に従えば、生活の中からこの世的な誘惑は減ります。義にかなう選択をする度に自分の霊的な力が増します。義にかなう選択の積み重ねが、内なる霊の強さと神のような人格を築いてくれるのです。誘惑がないところに教育も人格の向上もあり得ないので、誘惑はいつか来るものと考えるべきです。

この世の悪の力が増強している現実を知ると恐ろしい気がします。そこでわたしたちは次のように自問します。「わたしたちに何ができるだろうか。」悪の力から逃れる道はあるのでしょうか。あります。

教会員は次の方法によって誘惑を克服することができます。(1) イエス・キリストの福音の指導原則や教義に従順になり、(2) 預言者をはじめとする指導者たちの勧告に従い、(3) 聖霊の力を常に感じられるような生活を送ることです。

福音の原則と聖約を守れるように心を訓練してください。個人と家族の祈りという高速道路を走り、預言者の教えと聖文を学ぶという通りを歩き、教会での奉仕という道路を外れないようにしてください。誤った道を日々進んで離れ、永遠の命に続く義にかなった道を行くようにしましょう。誘惑に対する最強の防御は、イエス・キリストに対する活気あるいきいきとした証<sup>あかし</sup>です。わたしたちはその証によって天父と結ばれています。誘惑の克服に対して最高の模範を示して下さったのは、救い主御自身です。「独り子は数数の誘惑に遭われたが、それらを少しも心に留められなかった。」(教義と聖約20:22)

兄弟姉妹の皆さん、この業が真実であることをわたしは知っています。今日預言者がこの地上にいることを知っています。イエスがキリストであり、神が天に生きておられることを知っています。わたしたちが従順に義にかなって天父に近づくとき、天父もわたしたちに近づいてくださいます。神はわたしたちを祝福し、完成させ、守ってください。イエス・キリストの御名により、アーメン。

# どのようにして受けたか、 また聞いたかを 思い起こす

中央初等協会第二副会長  
スーザン・L・ワーナー

まいた種がなかなか実を結ばないこともありますが、いつかはそのような子供たちも……御霊<sup>みたま</sup>に関することを思い出してくれます。



**愛**する兄弟姉妹の皆さんを前にしますと、子供のころ家族と一緒にネバダの砂漠を車で走り抜け、総大会に出席したのを思い出します。そのころの車にはクーラーが付いていませんでしたので、涼しい夜のうちに車を走らせたものでした。車の前には、ラジエーターが過熱した場合の用心のために、キャンプ用の水袋がくり付いてありました。まだ夜も明け切らぬ暗闇<sup>くらやみ</sup>の中、この建物の外に並んで、シオンの賛美歌を歌いながら大きなドアが開くの待ちました。視界を遮る大きな柱や、帽子をかぶった婦人の後ろの席にならないように人知れず願った

ものです。まだ小さかったわたしにはよく見えませんでした。預言者がタバナクルに入って来て、全員が一斉に立ち上がる時の特別な気持ちは覚えています。このような敬虔<sup>けいけん</sup>な思いや霊的な気持ちは、この建物に入る度に、また総大会で指導者の方々の話を聞く度によみがえってきます。そして、これまでに受けた教え、耳にした話を思い出します。また、自分の確信していることや、以前に感じたことを思い出します。

だけれども、このような霊的な気持ちに包まれたことがあるはず。幼いときの霊的な気持ちを覚えている人もいます。主の真の教会を見いだしたときの温かい気持ちを覚えている人もいます。またほとんどの人が、父母や兄妹の愛を通して霊的な気持ちを感じてきたはず。同胞<sup>ぼらから</sup>である聖徒たちとともに神の王国で働くときに感じる愛や一体感を思い起こす人もいます。教会に出席し、福音<sup>あかし</sup>を学び、証を分かち合った後の安息日の夕べに感じる霊的な再生を思い出す人もいます。また試練や悲しみのときに熱烈な思いを込めて心からの祈りをささげ、聖霊から慰めを受けたことを思い起こす人もいます。心からの悔い改めに伴う悲しみと喜び、救<sup>ゆる</sup>され清められたという思いがよみがえってくる人もいます。救

い主がわたしたちを愛するがゆえに与えてくださった贖いという賜物への深い感謝の気持ちを思い出す人もいます。

霊的な気持ちを思い出すとき、わたしたちの心は天父と御子イエス・キリストに向けられ、自分が本来あるべき姿を知ることができます。また、現代の預言者が最近全世界の人々に宣言した以下の真理を思い出すことができます。「人は皆、天の両親の大切な息子、娘です。したがって、人は皆、神の属性と神になる可能性とを備えています。」（『家族——世界への宣言』『聖徒の道』1996年1月号、p.114）霊的な気持ちを思い出すことにより、わたしたちは自分が何者なのかを再認識するのです。

そう考えると、聖文のあちこちに「記憶にとどめ、覚えておきなさい」という教えや勧告、また戒めが記されているのも不思議ではありません。このように何度も同じことが繰り返し勧められているのは、過去に経験した霊的な気持ちを思い出すことと、現在の信仰の度合いとの間に大切なつながりがあるからです。主は使徒ヨハネを通じて、「だから、あなたが、どのようにして受けたか、また聞いたかを思い起こすように（黙示3：3）」というメッセージを与えてくださいました。

サタンは、わたしたちが霊的な経験をなかなか思い起こさないよう望んでいます。また自分が何者であるかを教えてくれた御霊のささやきを軽んじ、忘れるよう望んでいます。サタンの悪計の一つは、神の子らに自分が何者であるかについて誤った考えを吹き込み、うそを信じ込ませることなのです。

ある小学校の校長から聞いた話によると、今は子供たちでさえ神聖なものを汚すような言葉や行いを見たり聞いたりしているとのこと。テレビ番組やビデオ、流行歌などに触れるにつけ、子供たちは様々な害悪にさらされ、善悪を識別する感覚を鈍らされ、罪を普通に何でもないことのように思い込まされているのです。

わたしたちと同じように子供たちも、人生には崇高な目的などなく、自分の

ことだけを考えて生活するのは当然で好ましいことだという考えを、巧妙にそして絶え間なく吹き込まれています。このような影響の下では子供たちは、自分を愛してくださっている天父の存在、肉体は聖い宮であること、また従順であるときに幸せな良い気持ちを感じることを理解しないままで大人になってしまう可能性があります。

これらの影響力に家族として抵抗するには、預言者の勧告に従い、愛の精神を持ち、ともに聖文を学び、祈りをささげ、互いの経験や証を分かち合うために家庭の夕べを定期的に開くことが大切です。

わたしたちが子供や青少年をよく教えられるよう、教会の指導者は『若人のために』（34285 300）という小冊子や、「わたしの福音の標準」リストを備えてくれました。このリストは『わたしの達成の日』（35317 300）という小冊子の裏表紙に記されています。家族でこれらのことについて話し合い、気持ちを分かち合い、ともに学ぶなら、教義に関する知識と霊的な思いで満ちた貯水池を、大人も子供も含め家族全員の内に築き、繰り返し思い起こせるでしょう。

『モルモン書』の中でエノスは自分の思い起こしたことを次のように記録しています。「わたしは森で獣を狩ろうとして出かけた。かつてわたしは、父が永遠の命と聖徒たちの喜びについて語るのを度々聞いていたのだが、その父の言葉が、そのときになってわたしの心に深くしみ込んできた。」（エノス1：3）エノスには、思い起こすことのできる感動と教義という蓄えが与えられていたのです。そして父親について、感謝を込めてこう言っています。「父は……主の薫陶と訓戒によって教えてくれた。……神の御名がほめられたえられるように。」（エノス1：1）

問題のある若者の更生に力を尽くしているある著名な専門家によれば、いったん道を踏み外した若者のうち、容易にそして完全に立ち直ることができるのは、標準や霊性という基盤の築かれている人たちだそうです。こういう

若者は霊的な思い出によって力づけられます。彼らにとって悔い改めは、懐かしい故郷に帰るようなものなのです。

子供たちは純真で素直で、何でも進んで学び取ろうとする熱意を備えてこの世に生まれてきます。ですから、愛の精神をもって簡単に分かりやすい福音の真理を教え、御霊を感じる機会を提供し、そのときの霊的な気持ちに自分で気づいてそれを心にとどめられるように助けるのは、わたしたちに授けられたすばらしい特権であり神聖な責任なのです。天父は父祖アダムにこう語られました。「さて、わたしはあなたに戒めを与える。あなたの子供たちに次のことを率直に教えなさい。」（モ一七6：58）

我が家では、朝早く聖文の勉強会を開くよう努めてきました。しかし息子が嫌がるのをなだめずかして起こすのによく苦労しました。やっと起きて来ても、頭をテーブルの上に伏せてしまうのでした。何年後に、伝道中の息子から届いた手紙にはこう書いてありました。「聖文について教えてくれてありがとうございます。伝えておきたいことがあります。あのころいつも頭を伏せて眠っているようなふりをしていたけど、実は目をつぶったまま聞いていたんです。」

両親や教師の皆さん、子供たちに霊的に豊かな思い出をたくさん作ってあげようとする努力は決して無駄にはなりません。時には、まいた種がなかなか実を結ばないこともあります。いつかはそのような子供たちも、受けたり聞いたりした御霊に関する事柄を思い出してくれます。そのような望みを持つなら、慰めが得られるでしょう。いつかきっと、昔学んだことや感じたことを思い出してくれるでしょう。自分は天父の子供であり、天父が神聖な目的をもって地上に送ってくださったことを思い起こしてくれるでしょう。

毎週、全世界の末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は、ともに集い自分が何者であるかを思い起こします。初等協会の子供たちは各国のいろいろな言葉で「神の子です」を歌います。世

界各地で若い女性は「わたしたちは天父の娘です。天父はわたしたちを愛し……て【おられ】ます」と繰り返します。若い男性は、ふさわしいアロン神権者としてその務めを果たし仕えるときに、自分が神の子であることを思い起こします。そしてわたしたちも皆、聖餐にあずかり進んで御子の御名を受け、いつも御子を覚えることを証明するとき、同様に思い起こすのです。

息子の一人が友達と一緒に登校していたころのことです。わたしは、「いってらっしゃい」と言って手を振った後、大声でこう付け加えました。「自分が何者なのか忘れないでね。」すると、息子の友達が歩きながら「君のお母さんはどうしていつもあんなふうに言うの。何のことを言ってるの」と尋ねるのが聞こえてきました。息子はす

ぐに『『いい子にしてなさい』って意味だよ』と答えていました。息子の言うとおりです。わたしたちは、善い行いを通して自分が何者であるかを思い起こし、自分が何者であるかを思い起こすときに、善い行いができるようになるのです。

わたしたちは、何事においても神の戒めを守ること（1ニーファイ15：25参照）、聖文を努めて丁寧に調べることを忘れないようにしなければなりません（モーサヤ1：7参照）。また、親から教わった言葉（アルマ57：21参照）、預言者と使徒の勧告（ユダ1：17参照）、神に背くことの恐ろしさ（2ニーファイ9：39参照）を忘れてはなりません。神は御自分の御名を信じるすべての人に憐れみをかけられること（アルマ32：22参照）、イエス

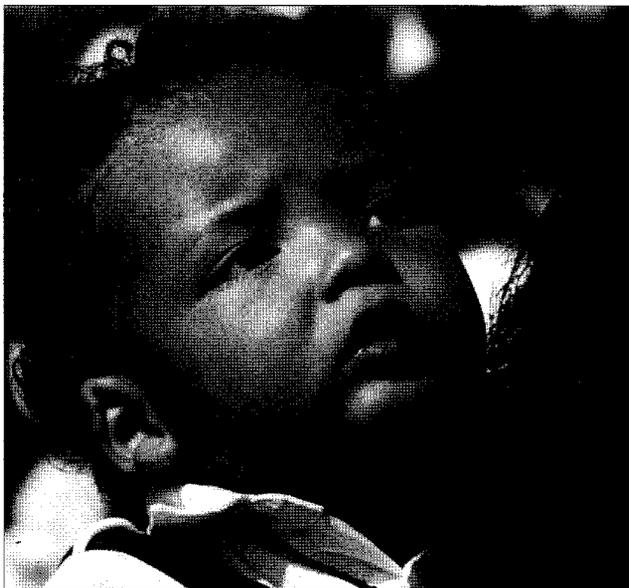
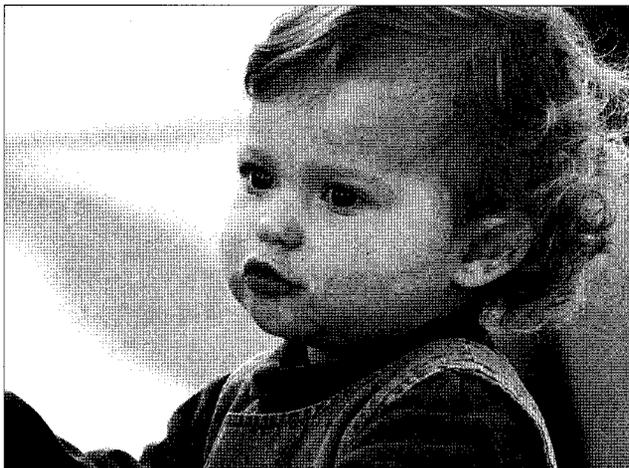
がわたしたちを贖うために来られたこと（ヒラマン5：9参照）も覚えておく必要があります。

わたしは世界中の子供たちとともに声を合わせ、証を込めて以下の初等協会の歌を歌い、わたしたちが受け、聞いたこと、知り、感じたことを思い起こしたいと思います。

「イエス様の作られた教会です  
神の子供として教え学ぶ  
救い主を信じて御名を貴び  
光に従い人に真理知らす」

（「イエス・キリストの教会」『聖徒の道』1990年2月号、こどものページp.35）

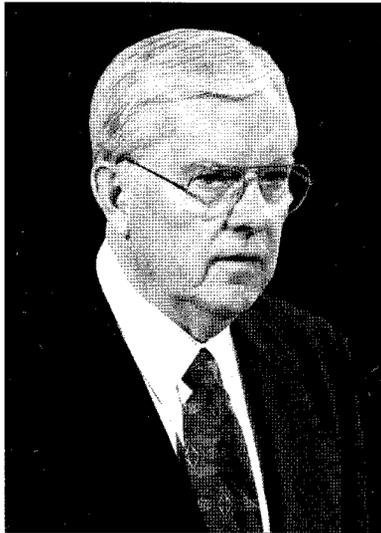
イエス・キリストの御名によりお話しします。アーメン。



# 主の食卓に着く

十二使徒定員会会員  
M・ラッセル・バラード

神は預言者を通して、人類を苦しめる霊的な飢えを主の食卓からの豊かな恵みで癒すと約束されました。



兄弟姉妹の皆さん、再びすばらしい大会でした。わたしは皆さんにお話しするという特権を前にして、主の御霊がともにあるよう祈っています。

2月にバラード姉妹とわたしは、南アフリカのヨハネスブルクで開かれた複合ステーキ大会に出席しました。そして、会員たちの信仰と特別なスピリットに感動しました。

アフリカ大陸を訪れると、以前に受けた東アフリカや西アフリカでの責任を思い出します。わたしは1985年に世界中の教会員が行った特別な断食について再び考えました。それによって約600万ドルが、干ばつに襲われたエチオピアの人々を苦しみや飢えから救うために用意されました。グレン・L・ベイス兄弟とわたしは、教会員の惜しめない献金の成果をこの目で見ました。わたしたちは大管長会から割り当

てを受け、人々の必要を調査してこの特別な基金の最も良い使い道を提案するためにアフリカへ向かったのです。

わたしたちは不毛の国の難民キャンプを訪れました。土地は見たこともないほど荒れ果てていました。赤十字センターや仮設病院には、ひん死の病人たちが横たわっていました。そのひどい苦しみに、わたしたちの心は張り裂けそうでした。簡易ベッドに横たわった病気の母親が子供たちに食べさせ、あやそうとしていました。多くの子供は目がくぼみ、手足はひどい飢えのために小枝のように細くなっていました。これはわたしの人生で最もつらい経験の一つでした。わたしがそこで目にした食糧や栄養への切なる願いほど、わたしの心を深く打ったものはありませんでした。

兄弟姉妹の皆さん、エチオピアの人人は食糧不足で肉体的に飢えています。はるかに多くの世の人々が霊的に飢えています。悲しいことに、ほとんどの人はどこで真の霊的養いが得られるか知りません。あちこちをさまよう、哀れな難民です。真の霊的な光と知識を求め人は、聖霊の力によらなければそれを見つけることはできません。御霊は人に光を与え、人生の永遠の目的について理解を与えます。御霊によって、教会員はイエス・キリストの回復された福音が真実であると知ります。ですから、わたしたちは天父のすべての子供たちに、主の食卓に着いてキリストの御言葉を味わうように勧め、霊的な知識を分かち合わなければなりません。

『モルモン書』の偉大な預言者ヤコ

ブはこう記しています。「イスラエルの聖者のみもとに来て、腐ることも朽ちることもないものを食べて、豊かなものによってあなた自身を喜ばせなさい。」後にニーファイは同胞たちにこう勧めています。「キリストの言葉をよく味わ [いなさい。] 見よ、キリストの言葉はあなたがたがなすべきことをすべて告げるからである。」<sup>2</sup>

神の選ばれた預言者ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は、最近次のように語りました。

「この教会の会員は男性も女性も、少年も少女も、一人一人が大切な存在です。わたしたちの大きな責任は、一人一人の会員が『覚えられ、神の善い言葉で養われ』るようにすることです。また一人一人が主の御業と道の中で、成長と自己表現と訓練の機会を得る…ようにすることです。……

この御業は人に関心を向けています。一人一人が神の息子であり、娘なのです。教会が達成してきたことを説明するときに、わたしたちは数字を挙げて話をしますが、わたしたちの働きはすべて個人の成長に焦点を当てたものでなければなりません。」<sup>3</sup>

末日聖徒イエス・キリスト教会が、「人の不死不滅と永遠の命をもたらす」業を助けるという神聖な使命を果たすには、すべての会員が福音という食物に対する欲求を引き起こす必要があります。わたしたちは満たされる前に、「義に飢えかわ」なければなりません。<sup>5</sup>霊的な強さを人に与えたいと願う前に、自分自身の内にその強さを養わなければなりません。福音の真理、特に主イエス・キリストの神聖な生涯と使命に対する個人の証は、永遠の命に不可欠です。救い主はこう言われました。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。」<sup>6</sup>言い換えれば、永遠の命は、天父と聖なる御子に対するわたしたち自身の個人的な知識にかかっているのです。単に御二方を知るだけでは十分ではありません。わたしたちは自らをつなぎ止める錨となるような霊的な経験をしなければなりません。

ん。そうした経験は、飢えた人が食物を求めると、激しく一心に求めることによってもたらされます。

もう一度ピンクレー大管長の言葉から引用しましょう。

「強く確かな証<sup>あかし</sup>を得ることは、教会員一人一人に許された特権であり、機会です。主はこう言われました。『神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教<sup>おしえ</sup>が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。』(ヨハネ7:17)

人のために働き、学び、祈るなら、この御業<sup>みわざ</sup>への信仰に導かれ、やがては真理の知識に導かれることでしょう。これが個人的に求めるべきものであることは、過去においても、将来においても常に変わることがありません。』<sup>7</sup>

わたしたちは、人々に霊的な養いを与えることを願う前に、自分自身を強化しなければなりません。キリストの善い言葉で自らを養い、主の食卓に着いてそれを味わい、証を強くするので。そうして初めて、わたしたちはバランスの取れた伝道活動に宣教師とともに加わって、家族から始めて人々を霊的な食卓に招くという責務を負うのです。主は愛する使徒ペテロにこう言われました。「あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。』<sup>8</sup>また救い主はペテロにこう尋ねておられます。『ヨハネの子シモンよ、わたしを愛するか。』ペテロは『わたしを愛するか』とイエスが3度も言われたので、心をいためてイエスに言った。『主よ、あなたはすべてをご存じです。わたしがあなたを愛していることは、おわかりになっています。』イエスは彼に言われた、『わたしの羊を養いなさい。』<sup>9</sup>

ペテロに与えられた救い主の戒めに従う人は、自分にゆだねられた人々の霊的成長と進歩に注意を向けるでしょう。主の羊を養うには、一人一人が周囲の人にもっと関心を持つ必要があります。福音のごちそうを味わうように人々に勧める責任は、宣教師の肩だけにかかっているわけではありません。この重大な責任は、教会員一人一人にあ

ります。なぜなら、「警告を受けた人は皆、その隣人に警告しなければならない」からです。<sup>10</sup>

現代の生ける預言者は、天父の子供たちへの熱く力強い愛を求めています。そして、周囲の霊的な飢えに目を向け、わたしたちの豊かな恵みを進んで分かち合うよう求めています。地上のいかなる力も、一人の義にかなった男性や女性、少年少女に勝る働きはできません。

家庭と家族は、個人の信仰と証を養いはぐくむうえで重要な役割を果たします。家族は社会の基本単位です。すなわち、一人一人が信仰と強い証を築く最高の場所は、愛に満ちて義にかなった家庭の中なのです。天父と御子イエス・キリストに対する愛は、家庭の中で福音を教え実践するときに、大いに高まります。永遠の命の真の原則が老若<sup>ろうにやく</sup>を問わず人の心に植え付けられるのは、聖文を読んで話し合うときであり、朝晩祈りをささげるときであり、日常生活の中で神への敬虔<sup>けいけん</sup>な思いと従順さを示すときなのです。いちばんおいしい食事は家庭料理であるように、福音の教えを学ぶいちばん良い場所は家庭です。強固で忠実な家族は、強固で忠実な教会員を生み出す最良の器です。最近、大管長会と十二使徒定員会が発表した家族に関する世界への宣言は、家族が神によって定められたものであることを明確にしています。この宣言は、家族の崩壊によって古代や現代の預言者たちが預言した災いが個人や地域社会、国家に降りかかると警告しています。

家族は、個人の霊的成長の基盤を築き、養う場所です。そして教会は、その家族を支え強化する足場です。教会は福音の原則を教える点で家族に次ぐものですが、多くの霊的成長と学習の場を提供しています。例えば、入念に計画された聖餐<sup>せいさん</sup>会は天父とその御子、救い主イエス・キリストについて学び、礼拝する霊的な宴<sup>うたげ</sup>です。監督の皆さん、もし聖餐会が霊的な栄養を与えるごちそうに欠けているなら、ワード評議会、特に姉妹たちから、聖餐会を毎週もっと敬虔で霊的なものにする方



法について、提案を受けてください。評議会の助け<sup>いけい</sup>を借りて、礼拝堂が神と御子への畏敬の念をもって集う特別な場所であることを会員に教えましょう。礼拝行事では、聖なる御霊<sup>みたま</sup>の静かで安らかな導きがともにあって、霊的な高まりと養いがわたしたちの生活の中に流れ込むようにしましょう。

教える場所が家庭であれ、教会であれ、わたしたちは福音の永遠の目的を明確に捕らえていなければなりません。少し前のことですが、わたしは福音のもたらす信仰と霊的な力を経験しました。癌と闘っている18歳の姉妹から祝福を頼まれたときのことで。彼女はこう言いました。「バラード兄弟、わたしは死を恐れていません。もちろん生きていたいですが、まだ人生でやりたいことがあるからです。でもイエスはわたしの救い主<sup>あがな</sup>、贖い主です。この数年の間に、いちばん親しい友になりました。わたしはイエスを信頼し、その代理人であるあなたを信頼しています。主が望まれることが何であれ、備えはできています。」

わたしたちは奇跡を願いましたが、彼女の求めたように、すべてを天父にゆだねました。それから間もなく、彼女は家族の見守る中、主の安らぎのうちに亡くなりました。

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは啓示された原則と靈感された教義を家庭の中で、また教会の集会の中で教える

ければなりません。すべての両親と教師は、証が新たにされて人生と永遠の命に対する理解が深められるように、御霊の力によって福音を教えるため、十分な準備をしなければなりません。

大管長会と十二使徒定員会は、指導者の人々に、神権定員会や補助組織、ステーク、ワードの評議会で家庭と家族の重要性を常に強調するよう求めています。家庭は、定期的に聖文を研究し、祈りをささげて、家族全員が万事において救い主に従うように努める場所です。

指導者はまた、教会のすべての成人会員が神殿の儀式を受けるにふさわしくなるために努力すべきであることを強調する必要があります。会員たちは自分の先祖を探求し、彼らのために聖なる神殿の儀式を行うのです。

両親と指導者は、若い男性がメルキ

ゼデク神権を授かり、神殿の儀式を受け、伝道に出る備えができるように、可能なあらゆることを行う必要があります。同様に、若い女性は、神聖な聖約を交わしてそれを守り、神殿で儀式を受けるために備える必要があります。主の宮で神聖な聖約を交わして守ることは、主の食卓の最高のごちそうです。この世におけるイエス・キリストの福音の究極の霊的食事であり、永遠の報いをもたらすものです。神殿の儀式の資格を備え、聖約を守り、主の宮で定期的に奉仕する人について、生ける預言者はすばらしいビジョンを明らかにしました。

ヒンクレー大管長はこう語っています。「だれもがより善い人となれます。わたしたちの間に、不貞はなくなります。離婚も完全になくなるでしょう。多くの心の痛みや苦悩を避けることが

できます。家庭には、これまで以上に平安と愛と幸せがもたらされます。涙する妻と子供たちが少なくなります。わたしたちの間には、これまで以上に相手に対する感謝と尊敬の念が生まれます。そして、主はわたしたちのことを喜ばれ、もっと祝福してくださることでしょう。」<sup>11</sup>

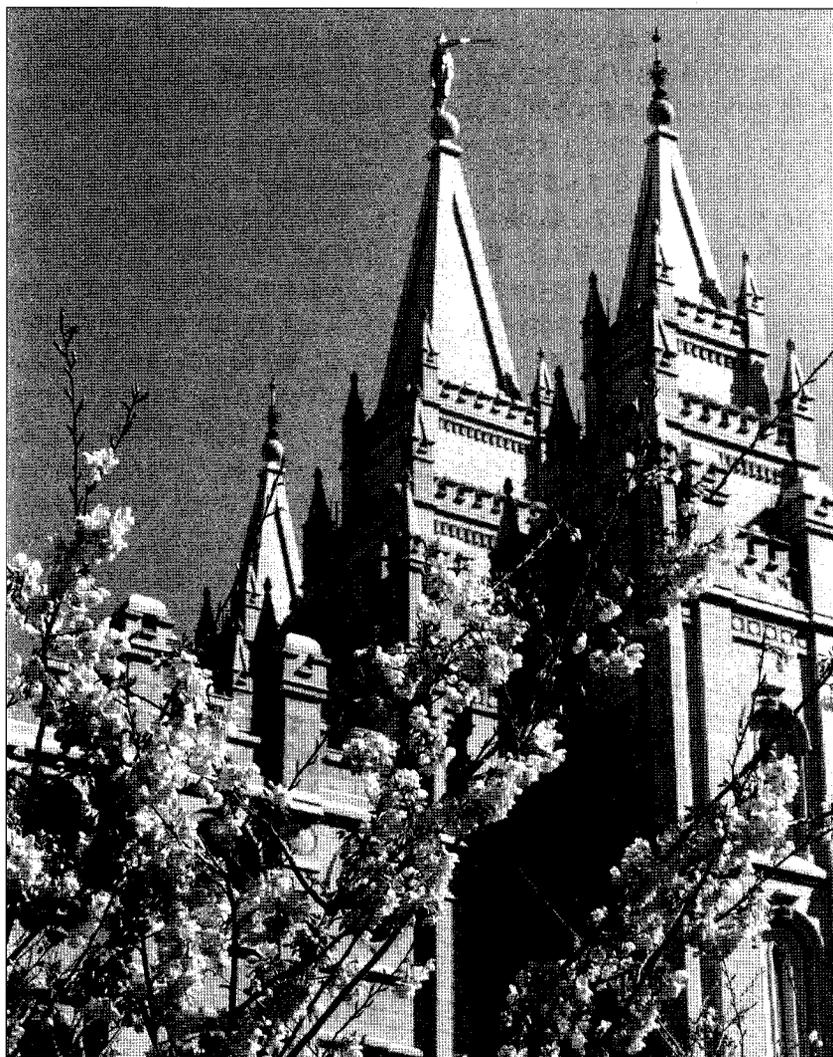
神は預言者を通して、人類を苦しめる霊的な飢えを主の食卓からの豊かな恵みで癒すと約束されました。わたしたちに求められていることは、キリストのみもとに来て、家族を通して、また教会からの助けにより、すべての天父の子供たちが現世の大切な旅で霊的な成功を収められるように、できるかぎりのことを行うことなのです。

主はこう言われました。「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはそこにはいって彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう。」<sup>12</sup>

イエスがキリストであることを証します。主は生きておられ、福音の喜ばしい食卓に着くようすべての人を招いておられます。ジョセフ・スミスはこの末の日にイエス・キリストの福音を回復した預言者です。愛する兄弟姉妹の皆さんが祝福されて、霊的な事柄を求める気持ちが高まるよう、イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

注

1. 2ニーファイ9：51
2. 2ニーファイ32：3
3. 「人のための御業」『聖徒の道』1995年7月号、p.60
4. モーセ1：39
5. マタイ5：6
6. ヨハネ17：3
7. 「人のための御業」『聖徒の道』1995年7月号、p.60
8. ルカ22：32
9. ヨハネ21：17
10. 教義と聖約88：81
11. 「伝道と神殿、そして管理の職」『聖徒の道』1996年1月号、p.60
12. 黙示3：20



# 「主よ、あなたの すべての教会員を…… 思い起こしてください」

大管長  
ゴードン・B・ヒンクレー

これは贖い主の御業です。喜びのおとずれの福音です。わたしたちが幸せと喜びを得るためのものです。



すばらしい大会でした。主の御霊がわたしたちとともにありました。わたしたちは数多くの知恵と靈感された言葉を聞いてきました。そして、この神聖な御業への証は強められました。大勢の方が、福音の原則にもっと忠実に従おうと心の中で決意されたことと思います。

多くの方々の話を通して、わたしたちは確かに祝福を受けてきました。祈りもわたしたちを奮起させるものであり、音楽もすばらしいものでした。わたしたちは献身的な音楽家の働きにより、非常に大きな祝福を受けています。彼らは大会の霊的な雰囲気をとて高

めてくれています。どの聖歌隊、どのコーラスもすばらしいでございました。

特に、今日も歌ってくださったこのタバナクル合唱団についてお話ししたいと思います。わたしは、ウィルフォード・W・ウッドラフとその副管長であったジョージ・Q・キャンノン、ジョセフ・F・スミスが101年前の、1895年2月11日付けで書いた1通の手紙を読んだことがあります。それは当時のタバナクル合唱団にあてて書かれたものです。ご紹介しましょう。

「この合唱団が、国の内外でこれまでに得てきた名声を保つだけでなく、全地において『神の芸術』の最高の具現者となり、また、高潔な感情、歌唱、ハーモニーを通して音楽家や詩人に靈感を与え、教会のすべての合唱団と音楽組織にとっての尊敬すべき先導者、模範、指導者となり、その光が輝きをそのままに世を照らし、人々がその音楽に魅せられるようになることを望んでいます。」

この手紙はさらにこう続けています。「この合唱団はシオンの御業を助ける大きな力です。また、そうでなければなりません。音楽というすばらしい領域で卓越した存在となることにより、この合唱団は今真理に耳を傾けようとしぬ数多くの人々の耳を開き、彼らの石のような心を和らげ、神聖なものへの愛を人々の心に吹き込むことが

できるのです。このようにして、偏見を一掃し、無理解を取り除き、いまだにわたしたちを誤解している多くの人々に貴い天の光を注ぐのです。」(Messages of the First Presidency of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints『末日聖徒イエス・キリスト教会大管長会メッセージ』ジェームズ・R・クラーク編、3:267-268)

これが1世紀以上にわたってこの合唱団に課せられてきた責任です。年月とともに構成員は変わってきましたが、そのコーラスの質は高まる一方です。この合唱団は教会の大切な宝の一つです。またアメリカにとっても大切な宝の一つだと思えます。全世界的に見ても傑出した合唱団だと思えます。タバナクル合唱団が、国の内外で高尚で感動的な音楽を伝えるという、その偉大な使命を果たし続けるように願っています。わたしは全教会員に代わって、献身的で才能豊かな音楽家たちによって構成されるこの合唱団の役員、指揮者、オルガニスト、団員の皆さんに感謝の気持ちをお伝えします。皆さんは御自分の時間を惜しみなくささげていらっしゃる。

ここで思い切ってお話ししたいことがあります。1か月前にわたしはマイク・ウォレス氏からインタビューの申し出を受けました。彼はCBSテレビの『60ミニッツ』という番組のシニアリポーターで、敏腕で名を知られています。同番組はアメリカ全国に放送され、毎週2,000万人以上の視聴者が見ているといひます。

もしわたしが出演するとなれば、この教会を批判したり、誹謗する人々にも出演の依頼があるだろうということは承知していました。また、その番組がわたしたちにとってすべて肯定的な内容になるという期待はできないとも思っていました。

しかし一方で、わたしたちの文化やメッセージの肯定的な部分を多くの人々に知っていただく良い機会になると考えました。そして、ただ何もしないでうずくまっているよりは、これを好機と捕らえ、たとえ激しい風を受けても前向きに進んでみようとの結論を下



したのです。それは非常に興味深い体験でした。番組のスタッフが何時間にもわたって、目と目を合わせての一对一のインタビュー、問答形式、公式談話などいろいろな設定で、その模様を収録しました。彼らは教会に批判的な人々だけでなく、ほかに活発な教会員たちにもインタビューしました。これらすべてが15分ほどの内容にまとめられたようです。

どのような結果になるかは分かりません。この地域では今晚その放送が行われますので、結果が分かると思いま

す。良い結果が出ればうれしく思います。もしそうでなければ、もうこれからは二度とそのようなわなに自分の足を踏み入れるようなことはしません。ソルトレーク・シティーの地域では午後6時に、そのほかの多くの地域では、地元時間の午後7時に放映されます。

預言者の言葉によれば、カートランド神殿の奉獻の祈りは、啓示によって授けられた祈りですが、その中で預言者は主に次のように請い求めました。「おお、主よ、あなたのすべての教会員を……思い起こしてください。それ

によって、あなたが人手によらずに設けられた王国が、大きな山となって全地に満ちますように。

また、あなたの教会が暗黒の荒野から出て来て、月のように美しく、太陽のように輝き、旗を立てた軍勢のように恐ろしいものとなり〔ますように。〕(教義と聖約109：72-73)

わたしたちはこのすばらしい祈りに対する答えを目の当たりにしています。国の内外で、教会のほんとうの姿に対する認識がますます高まっています。しかし、それでも教会を中傷したり、教会に反対したり、背教してこの御業に敵対的な声を上げている人々が少なからずいます。そのような人々はいつの時代にもいました。彼らはその人生の中でこの教会に対する批判を口にしますが、程なく忘れ去られてしまいます。主の御業を行おうと努力するかがり、このような批判はこれからも絶えずついてまわると思います。しかし、心の正直な人は、何が善で何が悪かを看破することでしょう。わたしたちは、永遠の真理で飾った旗を掲げる軍勢が行進するように、前進していきます。わたしたちには、真理と善のために戦うという大義があります。わたしたちは「十字架負い進み行〔く〕」(『賛美歌』155番)キリストの軍勢の兵士です。

この御業においては、どこへ行っても、大変な活力を目にします。この御業が組織されている所には、必ず情熱があります。これは贖い<sup>あがな</sup>の御業です。福音、すなわち喜びのおとずれです。わたしたちが幸せと喜びを得るためのものです。

兄弟姉妹の皆さん。福音にいつそう忠実な生活をし、これまで以上に熱心に仕え、恐れることなく、情熱をもって真理を守ろうという決意を強めて、帰途に就こうではありませんか。わたしは主の僕として、皆さんに祝福を残します。皆さんが信仰をもって歩むときに幸福を得られますように、わたしたちすべてが愛し仕える御方すなわちイエス・キリストの御名によって、へりくだりお祈りいたします。アーメン。

# 生ける預言者を 支持する

中央若い女性会長

ジャネット・ヘイルズ・ベッカム

支持するとは、信じていることに対して何かを行うことです。



**若**い女性の皆さんが、若い女性の  
年次大会に集っていることを思  
うとき、いつも胸がわくわくします。  
こよいはその興奮がささやきに変わ  
りました。神の預言者が若い女性の皆  
さんへの特別なメッセージを伝えてく  
ださると、聖霊がわたしにささやいて  
くださっているのです。

この大会のテーマは、「生ける預言者  
を支持することにより、証人として立  
つ」です。「支持する」という言葉に  
ついて考えるとき、こう自問してみ  
てください。「生ける預言者を支持す  
ること、預言者がいるという証あかしを持つ  
こととは違うのだろうか。」支持する  
とは、信じていることに対して何かを  
行うことです。支持するとき、預言者  
についてのわたしたちの証が行動に変  
わるのです。

わたしが生ける預言者を信じ始めた  
のは初等協会のころでした。それが大  
人になるまで続きました。預言者の実  
在についての証はありました。でも、  
預言者を支持するということについて  
は、あまり考えたことがありませんで  
した。

1994年10月の総大会で、デビッド・  
B・ヘイト長老はこう話しました。  
「わたしたちが教会の大管長を挙手  
によって支持するとき、それは大管長が  
神権のすべての鍵かぎを持つ方であることを  
神の御前で認めるだけでなく、預言  
者を通して与えられる指示や勧告に従  
うという聖約を神と交わすことも意味  
します。それは神聖な聖約です。」(デ  
ビッド・B・ヘイト「聖会」『聖徒の  
道』1995年1月号, pp.16-17)

わたしはこのヘイト長老の言葉につ  
いてよく思い巡らしてみました。そし  
て、手を挙げて神とともに預言者を支  
持する、という神聖な聖約を交わす  
ときに、自分がどのような約束をする  
のだろうかと考えました。

そして次の年の4月、教会員はゴ  
ードン・B・ヒンクレ大管長を預言  
者、聖見者、啓示者、末日聖徒イエ  
ス・キリスト教会の大管長として、ト  
ーマス・S・モンソン、ジェームズ・  
E・ファウスト副管長とともに支持  
しました。そのときわたしは、若い女性  
の皆さんが歴史上初めて単独のグル  
ープとして支持を求められるのを目  
の当たりにしたのですが、こう自分  
に問いかけました。「若い女性の人  
たちは支持するという意味を理解して  
いるのだ

ろうか。」

ヒンクレ大管長はその大会でこう  
語りました。「この支持の挙手は、単  
に手を挙げるという形式的な行為で  
はありません。指導者として選ばれた  
人々を支え、援助するという決意の表  
明です。」(『人のための御業』『聖徒の道』  
1995年7月号, p.58) 支持をするとき、  
それはわたしたちの行動にも影響を  
与えます。ヒンクレ大管長は教義と聖  
約第107章22節を引用しています。そ  
こでは「3人の管理大祭司」である大  
管長が「教会員の信頼と信仰と祈り  
によって支持」されるとあります。

わたしは今日のテーマについてよく  
若い女性の皆さんと話し合います。そ  
して、「いつでも、どのようなこと  
についても、どのような所にも……  
神の証人になる」とはどういう意味か  
と尋ねます(モーサヤ18:9。『成長  
するわたし』p.6も参照)。わたしは、  
これは信じていることを態度で示すこ  
とだと思っています。確かに、主の生  
ける預言者を、特に、支持することの  
意味をわきまえたうえで支持する  
とき、わたしたちは神の証人として立  
っていることとなります。そして、預  
言者の教えと勧告に従って生活して  
いくのです。また、この神聖な聖約を  
交わすとき、わたしたちはほんとう  
の意味で証人となります。

わたしは子供のころ、預言者がいて  
真理を告げてくれることを信じていま  
した。でも、預言者がわたし個人に語  
りかけてくれていることは理解でき  
ませんでした。結婚してまだ子供が小  
さいころ、主人は2年間空軍で働いま  
した。わたしたちはニューヨーク州の  
ロングアイランドにある軍の住宅に住  
んでいました。そして、小さな子供の  
面倒を見ながら、世界中から来た隣  
人たちと話をする機会がありました。そ  
してある日、一人の隣人と自分たち  
の信じていることについて話をし  
ていたとき、その隣人が末日聖徒  
イエス・キリスト教会の特徴について  
尋ねてきました。

わたしは簡単に回復について説明し、  
イエス・キリストの回復された教会  
には生ける預言者がいることを話し

た。すると彼女は大変な興味を示し、預言者が何と言っているか知りたと言いました。そこで『教義と聖約』や現代の啓示について話すと、彼女は「今はどんなことを言っているの」と尋ねました。わたしは総大会のことや毎月発行されている機関誌に預言者のメッセージが掲載されていることを話しました。すると、彼女はますます興味を示しました。わたしはその月の号のメッセージをまだ読んでいなかったの、恥ずかしい思いをしました。彼女は最後にこう言いました。「生ける預言者がいるのに、その預言者が何て言ってるか分からないのね。」あのとこのわたしは、支持することのほんとうの意味を態度で示していなかったのです。

支持するという言葉について考える方法をもう一つ提案しましょう。パイオリンを弾くときのことで、調弦がきちんとできていると、一つの弦の音がほかの弦の音と共鳴しますね。調子の合った弦は単に奏でられた音を「支持する」だけでなく、その音を拡大して伝える役割も果たすのです。

わたしたち一人一人が預言者の声に耳を傾け、そのメッセージにこたえる

とき、もし波長が合っていれば、わたしたちは自然にそのメッセージを人に伝えることになります。人々はわたしたちの行いを見て、預言者のメッセージを感じるのです。このように、預言者のメッセージはこよいだけで終わることはありません。ほんの始まりにすぎないのです。そのことを考えるとわくわくしてきませんか。わたしたちは預言者のメッセージをわたしたち個人の生活の中だけでなく、家庭の中や隣人との間で、また学校で、善に向かわせる力とすることができます。

預言者がわたしたちに語る時、それは天の御父が語られるのと同じです。教義と聖約第1章38節にはこうあります。「わたし自身の声によろうと、わたしの僕たち<sup>しもべ</sup>の声によろうと、それは同じである。」

通信衛星をはじめとする近代的な科学技術の時代に住むわたしたちは幸運です。預言者の姿を見、声を聞き、そのメッセージを何度も繰り返し読めるからです。この祝福は遠い国に住む大勢の若い女性にまだ達していません。ですから、こよいここに集って、若い女性へのヒンクレ大管長のメッセージを開けるのは神聖なことなのです。

今晚、ゴードン・B・ヒンクレ大管長のメッセージはわたしたち一人一人に向けられたものです。若い女性、母親、そして指導者であるわたしたちも、大管長とモンソン、ファウスト両副管長に一つのメッセージをお伝えしたいと思います。わたしたちは皆さんを支持しています。わたしたちは支持することの意味を知っています。わたしたちに与えてくださる指示と勧告に従いたいと思います。わたしたちは皆さんを信頼と信仰と祈りをもって支持します。来週の総大会でわたしたちは若い女性として、また指導者として、手を挙げて生ける預言者を支持しますが、それが神聖な聖約であることを知っています。そして、預言者の皆さんの勧告と指示に従うときに「神聖な聖約を交わし、神殿の儀式を受け、昇栄の祝福にあずかる」(『成長するわたし』p.6) 備えがよくなるようになります。

わたしたちが行いによって聖約の民であることを示し、生ける預言者を支持することができますように。イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。



# 耳を傾けて聞く

中央若い女性第一副会長  
バージニア・H・ピアス

メッセージを何度も読み返してください。主は預言者を通して、皆さんの祈りにこたえていらっしゃるのではないのでしょうか。



**わ**たしは母親です。すべての母親と同じように、子供から多くの教訓を学んでいます。わたしの個人的なおしゃべりをお許しいただけるなら、そうした教訓の一つをお話したいと思います。

わたしたちにはゴルフの大好きな息子と義理の息子がおります。ですから、2、3年前に世界的に有名なプロゴルファーと一緒にゴルフの講習会に出席する機会があったとき、彼らがどんなに喜んだかご想像になれるでしょう。

夏の終わりのある午後、息子たちはゴルフクラブでいっぱいのかばんを互いにおつけ合いながら、突然わたしたちの居間に入って来ました。

その日のハイライトとなった場面を説明しながら、ジェームズが言いました。「プロはゆっくりと一人一人のそばに来て、各自のスイングを見て、忠告してくれたんだ。ほくのところへ来

ると、こう言ったんだ。『基本的には、君のスイングはとてもいいよ。じゃあ今度は、後ろへスイングするときに、もう少し右へ大きく振ってから、勢いよく左へ振ってごらん。そうだ。そういうふうに練習してごらん。そして、もしだれかが違うことを言ったら、わたしにスイングを褒められたんだと言ってやりなさい。』そして、彼は次の人のところへ行き、ほくは練習を続けたんだ。」

「それでうまくできたの。」わたしたちは尋ねました。「まだだよ。でも、必ずうまくなるよ。」彼は自信ありげに答えました。

息子たちが部屋を出て、裏のドアから裏庭へ出て、さらに練習をし始めると、わたしはちょっとばかりうらやましくなりました。

あのようににだれか信頼できる人がいたら、どんなにすばらしいことでしょう。わたしの生活を見て、「基本的に、あなたは立派に行っています。でも、わずかにこの点だけ行えば、見違えるようになりますよ」と言ってくれる専門家がいてくれたら。

皆さんの中には、夜更けに友達と一緒にパーティーへ行き、互いの欠点を言い合ったことのある人がいるでしょう。それは、あまりお勧めできるものではありません。そんな経験をすれば、ただ嫌な気持ちになるだけです。そうではなく、ほんとうの専門家から忠告を受けたいのです。

すると突然、アイデアが浮かんできました。総大会です。そのような集会やそこで語られるメッセージをわたしが楽しみにしているのもっともなこ

とです。そこにこそ、わたしの専門家がいるのです。預言者です。この方々はまず基本的にわたしの生活を評価し、そして大きく変化できるよう、今後なすべきことや、やめるべきことについて勧告してくれるのです。預言者は経験があるだけでなく、聖霊を通して天父から直接、わたしに教えてください。しかも、わたし自身に当てはまり、必要を満たしてくれるのです。主とその代弁者である預言者、そして聖霊という一致された御三方よりも信頼できる方がほかにいるのでしょうか。

何というすばらしい過程でしょう。中央若い女性会長会として、わたしたちは一人一人の若い女性と指導者にヒンクレー大管長の言葉に耳を傾け、各自に当てはまるメッセージを見つけていただきたいと思います。そして、そのメッセージを実行に移し、必ず後に起きる良い変化を経験していただきたいと思います。

ある若い女性はこのように書いています。「ヒンクレー大管長はある説教の中で、ヨシユア記第1章9節を引用しました。『強く、また雄々しくあれ。あなたがどこへ行くにも、あなたの神、主が共におられるゆえ、恐れてはならない、おののいてはならない。』時々、わたしは友達から別人になるよう求められることがあります。そうはなりたくありません。自分自身のままでいたいのです。怖いのは友達を失うことなのです。失いたくはないのです。預言者がこの聖句を読んだとき、わたしの感じていることを知っているかのようなでした。だれかがわたしの祈りにこたえてくれたように思いました。これからはいつ友達との問題が起きても、わたしはどう行動すべきか、そしてどう考えるべきか分かります。わたしの心の中には決して、決して忘れることができない大管長の言葉が浮かんでくるからです。」

預言者の勧告を復習してみましょう。

1. ヒンクレー大管長の言葉に耳を傾け、読んでください。次のように言うことは簡単です。「とても良いお話でした。彼はわたしの好きな話者の一人です。」そして、家へ帰ります。し



かし今までどおりの自分であり、抱える問題もそのままです。ヒンクレイ大管長は、今晚、最後にお話します。また、大管長やほかの中央幹部の方々も来週の週末にお話します。よく注意して聞いてください。メッセージを何度も読み返してください。主は預言者を通して、皆さんの祈りにこたえていらっしゃるのではないのでしょうか。主は預言者を通して、皆さんが愛されていて、正しい道を歩んでいること、すなわち基本的には皆さんが送る生活はすばらしい、というメッセージを送っていらっしゃるのではないのでしょうか。主は預言者を通して、練習するよう教えたり、実践するよう警告したりしていらっしゃるのではないのでしょうか。

2. 次に、聖霊の助けにより、個人的なメッセージ、すなわち自分の生活の中でどこを少し直せばよいのか見つけてください。先ほどわたしが読んだ手紙を書いた若い女性のように、まさに自分自身のために言われたように感じる言葉や考えに出会うことでしょう。その解釈はあなただけのものです。これが個人に与えられる啓示の過程で

す。簡単なことです。でも無視してはなりません。

3. メッセージを行動に移してください。実践するのです。「そして、御言みことばを行う人になりなさい。……ただ聞くだけの者となつてはいけません。」(ヤコブの手紙1:22) これこそ啓示の目的です。もしわたしたちが聞いても何も行わないなら、何度主がわたしたちに語られようと、意味がありません。

あるローレルの姉妹は、伝道に関するヒンクレイ大管長の言葉に対して、自分の思いを述べたいと書いています。彼女自身にとってのメッセージは、友達に対してさらに良い模範を示すことで、宣教師になるというものでした。最初のうちは、難しく思いましたが、彼女はあきらめませんでした。そしてついに、彼女は自分の癖を直すことができました。

彼女はこのように書いています。「わたしたちは学校から早く帰り、皆で友達の家へ行き、ビデオを見ました。皆は、17歳未満の青少年の場合保護者の同伴を必要とする成人映画を見たがり、それほど悪いことではないと言いました。わたしはいつもいい子でいる

ことに嫌げが差していたので、皆と一緒に見ようと思いました。すると、幸運にも一人の男の子が反対し、見たくないと言いました。わたしはほっとしました。でも、今度は、13歳未満の子供の場合保護者の同伴を必要とする映画を見ることになり、それは恐らく前の映画と大して変わらないものでした。皆を説得してやめさせようと思えるかぎり努力しましたが、うまくいきませんでした。わたしは家へ帰るべきでしたが、そうしませんでした。わたしは後悔しました。その晩、祈りの中で、友達に対してさらに良い模範となるよう主に約束しました。それ以来わたしは、それまで使っていたよくない言葉を使うのをやめました。また、学校をさぼるのをやめました。すると、何人かの友達もさぼるのをやめるようになりました。もっと良い映画を見るように提案し、友達がわたしの見たくない映画を選ぶときは、帰ることにしています。」

あきらめてはいけません。うまくいくまで努力を続けてください。主の御心みこころを行おうとするときには、主の助けを受ける資格があるのです。助けを祈り求め、努力を続けてください。

4. 自分の生活や気持ちの変化に注意を払ってください。神の御心に添った生活を送ると、神に選ばれた預言者たちが述べたように、よい気持ちができるようになります。

ヒンクレイ大管長はわたしたちに「もう少し改善するために、もう少し努力する決意ができますように」(『なすべき業あり』『聖徒の道』1995年7月号, p.95)と言いました。わたしたちがこの勧告に従えますように、また、正しい生活を送るために専門家から励ましや指導を受けたいという熱意をもって預言者のメッセージに従えますように、お祈りします。ある16歳の若い女性はこのように述べています。「ヒンクレイ大管長の言葉をすべて心から信じています。大管長は神の真の預言者です。」

彼女の言葉をそのまま借りて、わたしもイエス・キリストの御名あかしにより、証いたします。アーメン。

# 試練に 楽観的に取り組む

ユタ州プロボオークヒルズステーク、  
オークヒルズ第9ワード所属  
アン・マリー・ローズ

人生の多くの良い事柄について、前向きで楽観的になろうと決心することを学びました。



**生**ける預言者であるゴードン・B・ヒンクレー大管長を支持するとは、その勧告の言葉に耳を傾け、その勧告に従うことであると思います。

昨年秋の総大会でヒンクレー大管長は、大勢のヨーロッパの聖徒たちが「熱意と喜びをもって」（『この道を歩み続け、信仰を保つ』『聖徒の道』1996年1月号、p.77）その試練に立ち向かっていった話をしました。そして、わたしたちもそれに倣うよう勧告しました。

それはわたしにとって耳の痛いアドバイスでした。そのときのわたしは元気がなく、意気消沈し、自己憐憫に浸っていたのです。

春から夏にかけての数か月間、わたしはバレーボールの代表チームに入るために特訓を続けました。ランニング、ウェイトトレーニング、そして終わることのない技術練習をこなしました。すべての時間を特訓に費やしました。そして、努力のかいあって、代表チームのメンバーになることができました。「これでやっと夢がかなう。」そう思っていました。

夢が壊れ始めたのはそれからでした。わたしより上手な人が何人か出てきたために、わたしはほとんどベンチに座ってチームメートを応援することとなったのです。もっとプレーしたいという思いに駆られ、挫折感と闘っていました。

人生はどうしてこう不公平なのだろう、と思いました。やがて、わたしの態度が悪かったために、チームの女の子たちとうまくいかなくなり、自分自身に対しても嫌げが差すようになりました。

天父はわたしにこれだけ努力させて、やっとここまでたどり着かせておきながら、どうして最後にこんなにかかりする目に遭わされるのだろう。わたしは様々な選択について考えては苦悶し、導きを求めて祈った末、ついにチームを辞める決心をしました。バレーボールから離れて、学業や自分の人生に立ち返る必要があると思ったのです。

それでもやはり、落胆や憤りの気持

ちは消えませんでした。ちょうどそんなとき、総大会が開かれたのです。この時期はわたしが1年でいちばん好きな時期です。家中に御霊があふれ、どの部屋にも大会の放送が流れます。

ヒンクレー大管長は、すべての物事を永遠の視野で見なければならぬと勧告しました。それはわたしに必要な勧告でした。そしてわたしは「この上なく楽天的な精神」（『この道を歩み続け、信仰を保つ』『聖徒の道』1996年1月号、p.77）と熱意を持つことによって、あのバレーボールの経験を忘れる決心ができました。友達、勉強、家族など人生の多くの良い事柄についても前向きで楽観的になろうと決心できました。勝敗は考えず、ただ楽しむためにバレーボールができるようになりました。それまでわたしを圧倒していた葛藤も急に消え去り、自分のことがもっと好きになりました。聖文ももっと読むようになり、もっと祈るようになりました。ほかの人のことももっと好きになり、御霊が再びわたしの生活に戻ってくるのを感じました。

自己憐憫を捨て去るよう教えてくれた生ける預言者に感謝しています。大管長はアルマ書第26章35節を引用しましたが、そこにはこう説かれています。「世界が始まって以来、わたしたちほど喜んでよい、立派な理由を持っている者はいない。」今わたしは、自分には感謝できることがたくさんあり、喜んでよい理由がたくさんあることが分かります。イエス・キリストの御名によってお話ししました。アーメン。



# 祈りは こたえられました

ユタ州スプリングビルステーク、  
スプリングビル第7ワード所属  
カーステン・ボイヤー

毎晩寝る前に聖文を読むようになりました。そして、深く考え、祈り……  
ました。……祈りがこたえられたことをはっきりと知りました。



わたしがまだ幼いころ、母の部屋に入ると、母が本を読みながら泣いていたことがありました。それまで母がそんなふう泣いているのを見たことがなかったので、何を讀んでいるのか尋ねました。母は、神の預言者スペンサー・W・キンボールという人についての本だと答えました。そして、彼が生涯行った多くのすばらしいことについて話してくれました。そのとき以来、預言者というのは、わたしにとっても信頼し愛することのできる人だと思ふようになりました。母がそう感じているのだからきっとそうだと、思ったのです。ですから、若い女性の指導者からゴードン・B・ヒンクレー大管長の話の中にメッセージを見つける

ように言われたとき、きっと自分に当てはまるメッセージが見つかること確信しました。

預言者の話を聞いたり読んだりして見つけた自分自身へのメッセージは、「もっと聖文を讀み、聖句について深く考え、祈る必要がある」ということでした。

こうして、毎晩寝る前に聖文を讀むようになりました。そして、深く考え、祈り、聖文が真実かどうか天父に尋ねました。祈り終えてベッドに入ると、温かい気持ちに包まれ、深い感動を覚えました。祈りがこたえられたことをはっきりと知りました。それからの1週間、自分が以前にも増して幸福で親切になれたような気がしました。学校でも前より良い生徒になりました。勉強時間を増やし、習ったことを覚えるよう努めました。いつもは母と口げんかをしていましたが、その週は忍耐強

く母の考えを聞き、理解しようとしませんでした。確かにそれはたやすいことではありませんでした。しかし、それまでよりずっと自分に対して良い気持ちを感じられました。また、聖文の勉強を続ける時間を見つけられるように、主が助けてくださっていることにも気づきました。

わたしの証は強められました。自分がこれまでよりふさわしくなれた、とも感じました。これも、寝る前に聖文を讀んだおかげだと思います。

わたしは生涯ずっとこの気持ちを持ち続けていきたいと思っています。これらの多くの祝福をいつも受けていたいと思っています。これらの祝福はすべて、ヒンクレー大管長の言葉に耳を傾けることから得られました。聖文を讀むことで得られたこのようなすばらしい変化をこれからも身に受け、イエスと天父に少しでも近づくことができたらと思っています。

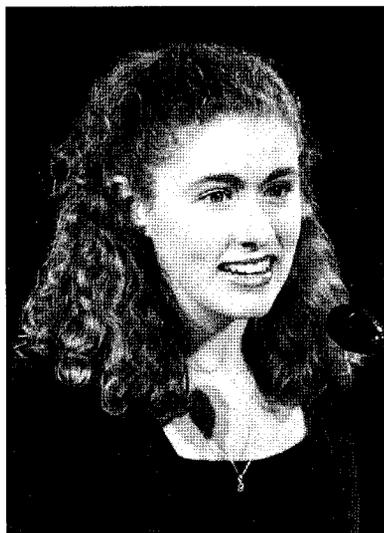
世界中の若い女性の皆さん、皆さん一人一人にお勧めします。預言者に耳を傾け、自分の改善すべき点を見つけてください。こうして預言者の勧告に従うとき、皆さんは数々の祝福を受けられるでしょう。必ずうまくいきます。確かに、実行するだけの価値があります。ささげる以上に多くを受けられるからです。わたしたちは常に天父に負債を負っています。預言者の言葉に耳を傾けると、確かに、天父と御子イエス・キリストに近づくことができます。イエス・キリストの御名によりお話ししました。アーメン。



# 主は預言者を 与えてくださいました

ユタ州ミッドベール東ステーク、  
ミッドベール東第3ワード所属  
アン・プレスコット

天父はわたしを愛し、わたしに最も良いものを得させたいと望んでいらっしゃる。そして、預言者を与えてくださいました。預言者は、いつの日か天父のみもとへ帰るためになすべきことを教えてくれるのです。



つれて、わたしたちにとってもつらい時期になるだろうと感じていました。その4か月前、父が、母とわたしを残して亡くなったのです。ちょうどそのころ、わたしたちは、ステーキ大会にヒンクレー大管長が前触れもなく訪問してくださるという幸運に恵まれました。大管長は証と愛をわたしたちに語り、こう言いました。「気分がめいているなら、上を向いて、しっかりと自分の足で立ち、クリスマスの歌を歌って、前向きになりましょう。」この短い言葉は、わたしにとってほんとうに大きな意味がありました。人生のこのつらい時期にあっても、わたしが最善を尽くすなら何もかもうまくいく、と悟ったのです。ヒンクレー大管

わたしは前回の総大会で、何とか時間を作って説教を聞きに行き、その中から何かを得ようと努力しました。ゴードン・B・ヒンクレー大管長の説教を聞きながら、大管長の靈性にとっても感動しました。大管長がわたしたちくらいの年齢だったときに正しい選びをし、それによって自分の信じることに忠実でいられた、と話したことについてよく考えてみました。また、大管長の勧告を聞きながら、彼がわたしたちや自分の召しに対して抱いている愛と献身を感じました。笑ったり冗談を言ったりする様子からは、主に仕える喜びがうかがえました。

12月、そしてクリスマスが近づくに

長の言葉は、わたしの心痛を取り去ってはくれませんでした。まずわたし自身が元気になって、母が幸せになれるよう力を尽くさなければいけないんだ、と教えてくれました。

大会の後、全員が起立して、「感謝を神にささげん」(『賛美歌』11番)を歌いました。そのとき、建物に愛の精神と力が満ちるのを感じました。教会を出てわたしたちの車が信号で止まると、驚いたことにヒンクレー大管長を乗せた車の横になりました。興奮して手を振るわたしたちにこたえて、大管長も手を振ってくれました。彼の愛が伝わってきました。触れたり、話をしたりしたわけではありませんが、大管長から感じた愛は力強く、忘れられないものとなりました。

わたしにとって末日の預言者がどんなに大切な存在であるかを、皆さんにお伝えしたいと思います。大管長はまさに天父の御声です。わたしたちは聖文からだけではなく、ヒンクレー大管長が総大会や礼拝集会、また今晚のような集会で語る教えからも祈りの答えを得られます。天父はわたしを愛しておられ、わたしに最も良いものを得させたいと望んでいらっしゃる。そして、預言者を与えてくださいました。預言者は、いつの日か天父のみもとへ帰るためになすべきことを教えてくれるのです。イエス・キリストの御名によってお話ししました。アーメン。



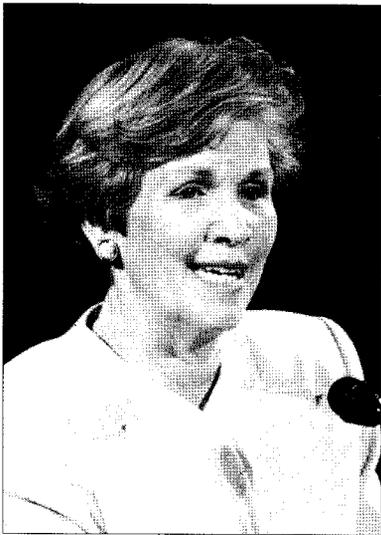
中央若い女性集会終了後、話者の責任を果たした姉妹たちに賛辞を述べるゴードン・B・ヒンクレー大管長。

# 現代に必要な永遠の錨

いかり

中央若い女性第二副会長  
ボニー・D・パーキン

預言者を見るよりも大切なことがあります。それは、預言者の持つわたしたちへのメッセージを理解することです。そして、そのメッセージを生活に応用することこそが、預言者の召しの神聖さについての証を得る確実な方法なのです。



こよい、わたしたちは、預言者であるゴードン・B・ヒンクレー大管長の出席を頂いております。これは大管長のわたしたちへの愛の表れです。わたしたちは大管長から力を受けて、大管長の召しが神からの召しであるとの証を得ることができます。生ける預言者についての個人的な証は、永遠に向けての貴重な財産であるばかりでなく、今日の真理の錨でもあるのです。わたしたちの預言者についてのこの証は、教会にあっては非常に重要なものであり、わたしたちが大いに強調するものです。また、わたしたちがよく話題にし、証会でよく耳にし、友人に尋ねられてその証が定かでない不安になるものです。でも、その証を得ることはわたしたちだけに与えられた責任です。それをお与えになれるのは

聖霊だけだからです。

皆さんはヒンクレー大管長が生ける預言者であるとの証がありますか。では、この貴重な贈り物を得るための方法を見つけるお手伝いをいたしましょう。

若い女性のころ、わたしはある冬の日にソルトレークの町を訪れました。そして教会執務ビルの前に車を止めてパーキングメーターに5セント玉を入れると、ビルから一人の男の人が出て来ました。黒っぽいオーバーコートを着て毛の帽子をかぶっています。でも、彼の身に着けていたものはそれだけではありませんでした。わたしは、その人から発散される御霊に心を動かされました。わたしはその人から目をそらすことができませんでした。階段を下り始めたその人を見て、ふいにわたしはデビッド・O・マッケイ大管長だと気づきました。大管長はわたしのそばを通るとき何もおっしゃいませんでした。優しくほほえみ、帽子のつばに手をかけたただけでした。でも、御霊が文字どおりわたしの全身を満たしました。神の預言者に会ったという実感を得たのです。

だれもが預言者と顔を合わせる機会が得られるとは限りません。幸いなことに、それは必ずしも必要なことではありません。わたしたちは皆、わたしが遠い昔にあの階段の所で受けたと同じ証を受けることができます。預言者を見るよりも大切なことがあります。それは、預言者の持つわたしたちへのメッセージを理解することです。

そして、そのメッセージを生活に応用することこそが、預言者の召しの神聖さについての証を得る確実な方法なのです。

ニューメキシコ州ファーマントンに住むダイアナ・レイシー姉妹という指導者は、「成長するわたし」のプログラムを自分のワードの若い女性にとってどうしたらもっと楽しく有意義なものにできるだろうかと思悩んでいました。先が見えなかったのです。でも、総大会でヒンクレー大管長のカレブとヨシュアの話聞いて、彼女ははっとしました。ほかの10人とともにカナンの地に派遣されたカレブとヨシュアが、カナンの土地と人について報告をする話です。帰還後、ほかの10人は皆否定的な報告しかしませんでした。カレブとヨシュアは否定的なことの奥にある肯定的な部分に着目して報告しました。残念ながら今の世の中と同じように、当時の民も疑い深い人の方を信じました。結果は、カレブとヨシュアだけが命を長らえて約束の地に入れたのです。ヒンクレー大管長はこう付け加えています。

「わたしたちの周りには、この御業の将来に無関心な人、冷淡な人、限界を口にする人、恐れを表す人が非常に多くいます。……〔彼らに〕未来へのビジョンは開けません。

古代の人は言っています。『ビジョンがなければ、民は滅びる。』（欽定訳箴言29：18）（『聖徒の道』1996年1月号、p.76）

レイシー姉妹は預言に満ちたこのメッセージに心を動かされ、「成長するわたし」はそのビジョンを具体化したものだと感じました。こう述べています。「わたしは変わりました。そして、その結果は驚くべきものでした。……自分の態度を変え、「成長するわたし」への取り組み方を変えると、若い女性の姉妹たちの態度が変わってきました。……ヒンクレー大管長の話を書く精神がわたしの生活に祝福をもたらしたのです。」

レイシー姉妹の証が預言者に従うことによって強められたことがお分かりいただけると思います。彼女はピアス

姉妹がお話しした4つのステップを用いました。まずヒンクレイ大管長のお話を聞き、言葉を読みました。次に自分へのメッセージはどれかを見つけました。それから、そのメッセージを行動に移しました。そして最後に、自分の生活や思いに変化が起きたのに気づきました。

キンボール大管長と同じワードで育った一人の若い女性がいます。彼女はキンボール大管長が神から召されたことについて熱烈な証を持っていました。しかし、彼女の伝道中にキンボール大管長は亡くなりました。彼女は、自分の知らない預言者について証することにわだかまりを覚えました。しかしある晩、新たに支持されたベンソン大管長のために祈っていると、すぐに御霊が温かく胸に満ちるのを覚えました。こうして彼女は新たな証を得たのです。「主はわたしが何を知らなければ

ならないかを御存じでした。」彼女はそう語ります。「主はわたしがこの証を人々の改宗に向けて分かち合うことを知っておられたのです。」姉妹の皆さん、皆さんにもこのことが起こります。

ヒンクレイ大管長は、だれもが直接の証を受ける権利があると言いました。（『集いの時』『聖徒の道』1996年1月号、p.4参照）この証を求めのはちょっと怖いですね。答えが受けられるかどうか心配だからです。それに、答えを受けたらそのとおりに生活しなければならぬからです。

でも考えてみてください。生ける預言者の証は皆さんに何をもたらしてくれるのでしょうか。日々の悩みにどんな助けを与えてくれるのでしょうか。生活をどのように変え、人生にどんな祝福をもたらしてくれるのでしょうか。

その質問に答えられるのは皆さんと

聖霊だけです。ヒンクレイ大管長についてまだ証が得られなければ、ほかの人の証に頼りながら自分自身の証を得るようにしましょう。大管長のために祈り、大管長の言葉を研究し、自分に当てはまるメッセージを見つけ、それを実行に移して達成感を得るのです。

実行していただけますか。今、大管長の言葉を聞いて、皆さんの人生へのメッセージを見つけてくださいませんか。そうしてくださることを希望し、祈っています。証をします。わたしたちは今、生ける預言者に導かれています。こよい、わたしたち一人一人が、神が預言者を通してこの教会を導いておられ、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長が現代の生ける預言者であるとの証を求めながら、あるいは再確認しながらこの場を去ることができそうです。イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。



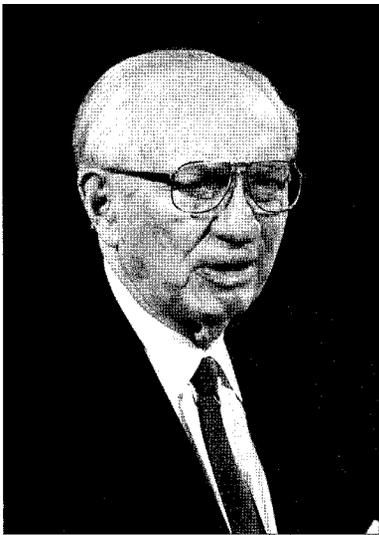
中央若い女性集会に参加した4人の姉妹たち。左から、パネッサ・サティニーニ、アン・プレスコット、カースチン・ポイヤー、アン・マリー・ローズ（敬称略）。同大会はソルトレーク・タバナクルで5月30日に開かれた。

# 誠意を尽くし、 忠誠を守る

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

教会に対して真実であってください。教会にしっかりとしがみついて離れないでください。そうすれば、皆さんかたとえ嵐の中を海に放り出されても、海に沈むことはありません。



すばらしい光景です。この偉大なタバナクルが輝くばかりに美しい若い女性で埋め尽くされています。世界各地の教会堂で何万という若い女性がわたしたちと一緒に集っていると思います。今晚、このように大勢の女性たちが集まるために、心配りをしてくださった方々に感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。すばらしい集会でした。音楽、開会の祈り、そしてお話、すべてが心の高まりと靈感を与えてくれました。今晚ここで耳にしたことをしっかりと記憶し、勧告されたことを実行するならば、皆さんはもっと幸せになることができます。

これからお話する間、主の御霊がわたしを導いてくださるようにお祈り

します。この機会にわたしの気持ちを皆さんにお伝えしたいと思います。この大会に集まっている12歳から18歳の若い女性の皆さん、天父と、あなたがたを知っているすべての人が、大きな期待を寄せています。あなたがたはこの偉大な世代の一員であって、様々なチャレンジが待ち受けている世の中で立派に生きていくための準備をしています。

皆さんは毎日のように難しい選択を迫られていると思います。あなたがたが抱えている問題は決して目新しいものではありませんが、昔よりも厳しくなっています。皆さんが出遭う誘惑は魅力的でしかも心を動かされるものが多いでしょう。真理の敵は、皆さんを何とかして傷つけよう、信仰を失わせよう、何とかだまして楽しいけれども死に至らせる道に誘い込もうとしています。それは皆さんがこの教会の将来を築くことを真理の敵は知っているからです。

次のような賛美歌があります。わたしは教会の若人が歌うこの曲が好きです。

「シオンの若者、真理を守り  
攻め来る敵に会い、ひるまず逃げず  
ああ  
われら受けし信仰持ち、殉教者の持つ  
真理を信じ  
戒め守らん、手に心に霊にも」  
〔賛美歌〕163番

わたしは今晚皆さんに、信仰に対して真実であること、自分と周囲の人々に真実であること、両親と、家族から受け継いでいるものに真実であること、教会と、天父と、御子、主イエス・キリストに対して真実であることについてお話ししたいと思います。

最初に、自分に対して真実であることについてお話ししましょう。信仰簡条第13節で、わたしたちは正直、真実であるべきことを信じています。

わたしたちは真実であることの価値を信じています。自分に真実であることはとても大切です。すべての人は良心と呼ばれるものを授かっています。善と悪の違いを知っています。何が善くて何が悪いかについて特に指導を受ける必要はありません。すでに知っているからです。悪いことをするとき、それが悪いことだと分かっているために必ず後悔する気持ちがわいてきます。正しいことをするときも、それが正しいことをはっきりと知っているため、幸せな気持ちを感じます。どのようなときでも、どのような場所にあってもわたしたちは正しい選択ができます。自分に対して真実であるとは、常に正しいことを選んで模範的な生活を送るという意味であることがお分かりいただけるでしょう。

自分に真実であるということは、正直であるということです。学校であっても正直であるということです。だましたり、うそをついたりすることはできません。ここで、皆さんが命にかかわるような手術を受けなければならぬと仮定してみましょう。カンニングをして大学の医学部を卒業した外科医から手術をしてもらいたいと思いますか。もちろん、嫌ですね。わたしたちは将来の仕事に役立つように学校へ行って勉強し、準備をします。勉強する機会を得ている人は、そこから自分にとって役に立つものをつかまなければなりません。主はわたしたち教会員に対して、学問をして学びなさいとおっしゃっています。霊的な知識とこの世の知識の両方を追求するように教える聖文を持つ宗教は、わたしたちの

教会以外にないと思います。

進学する機会があればそれを求めてください。それは将来きっと役に立ちます。人生での競争はますます激しくなっています。専門家の話によると、普通の人は男女とも、人生で新しい仕事に出会う機会が5回あるそうです。世の中は変化しています。したがってわたしたちは、変化する世の中に取り残されない自分を作っておくことがとても大切です。この変化する世の中には良い面もあります。人類の歴史を通じて現在ほど、女性に多くの機会が与えられている時代はありません。皆さんの第一の目標は幸せな結婚をして、主の宮で結び固めを受け、立派な家族を築くことだと思います。これらの理想を実現するために、教育があればもっと良い準備ができます。

毎日の生活で正直であってください。末日聖徒である皆さんは万引きや盗みをすることはできません。昔から、正直は最良の方策だと言われています。石の板に主が指でお書きになった言葉はこれです。「あなたは盗んではならない。……あなたはむさぼってはならない。」(出エジプト20：15, 17)

道徳にかなった生活をするという意味でも、自分に対して真実でなければなりません。教会員であるわたしたちは異性とふしだらな交際をすることはできません。主はこれを戒めとして与えられました。「絶えず徳でああなたの思いを飾るようにしなさい。」(教義と聖約121：45) 主はふしだらなことを考えるだけでもいけなとおっしゃっています。どうしてでしょう。悪いことを考えると悪い行いをしてしまうからです。主は続けて、徳をもって思いを飾るなら、わたしたちは自信をもって神の御前に立てると言われました。このことを考えてください。聖霊がいつも皆さんの隣にいてくださり、わたしたちの支配は永遠の支配となる、と主は言われました(教義と聖約121：45-46参照)。何と壮大な約束でしょう。この祝福は道徳にかなった生活をする人だけに与えられます。

わたしたちは自分自身を不道徳な罪



で汚すわけにはいきません。特に皆さんのような若い人はいつも誘惑にさらされています。テレビであり、雑誌であり、書物でさえも、こうした誘惑をはらんでいることがあります。簡単に入手に入るビデオもそうです。これらのものに近づかないでください。皆さんが傷つくだけです。道徳的な律法について言えば、皆さんは自分がどうしなければならぬかを知っているはずです。もし周りからプレッシャーを受けるような状態に入り込んでしまったら、そうした自分を責めなければなりません。立ち止まるのが遅すぎると、引き返せなくなります。皆さんはそこ

で立ち止まる決心をしたことを永遠に感謝するはずで。

理想とする自分に真実であってください。この理想とするあなたはすばらしく良いあなたなのです。シェイクスピアはこう言っています。「おのれに誠実なれ、ということだ。さすればかならず、夜が昼につぐごとくにじゃな、他人に対しても誠実ならざるを得ん。」(『ハムレット』第1幕第3場、筑摩書房『シェイクスピア全集』三神勲訳、6：228)

皆さんの年ごろの女性で自尊心が持てずに苦しんでいる人が大勢います。どのような形であれ不道徳な行いをす

ると、大人になるどころか、自分の価値を下げてしまうのです。これは恐らく、皆さんが考えているのと逆だと思います。自分自身に対して真実であれば、自分を尊敬する気持ちが高まるのです。皆さんは神の娘であることを自覚してください。自分の良いところを見つけてください。周りには皆さんのことを良く思わない人もいるかもしれませんが、それはその人たちが皆さんを知らないだけです。皆さんに落ち度があるわけではありません。神の娘として堂々と歩いてください。

有害な薬物に手を出してはいけません。これは法律で禁じられています。触っても、試してもいけません。皆さん一人一人をお願いします。これは毒物ですから近づかないでください。皆さんは若いのです。すばらしい将来が待っています。皆さんの人生には輝ける約束が与えられています。ほとんどの人はいつか結婚して、子供をもうけたいと考えていることでしょう。法律を破って有害な薬物に手を出すと、皆さんだけでなく、皆さんの子供にまでも悲惨な障害が出る場合があります。率直に言いましょ。これらのものを

もてあそんでいると、必ず後悔する時が来ます。有害な薬物に近づかないように自分に厳しくしてください。そのようにした自分を喜びとする時が必ず来ます。

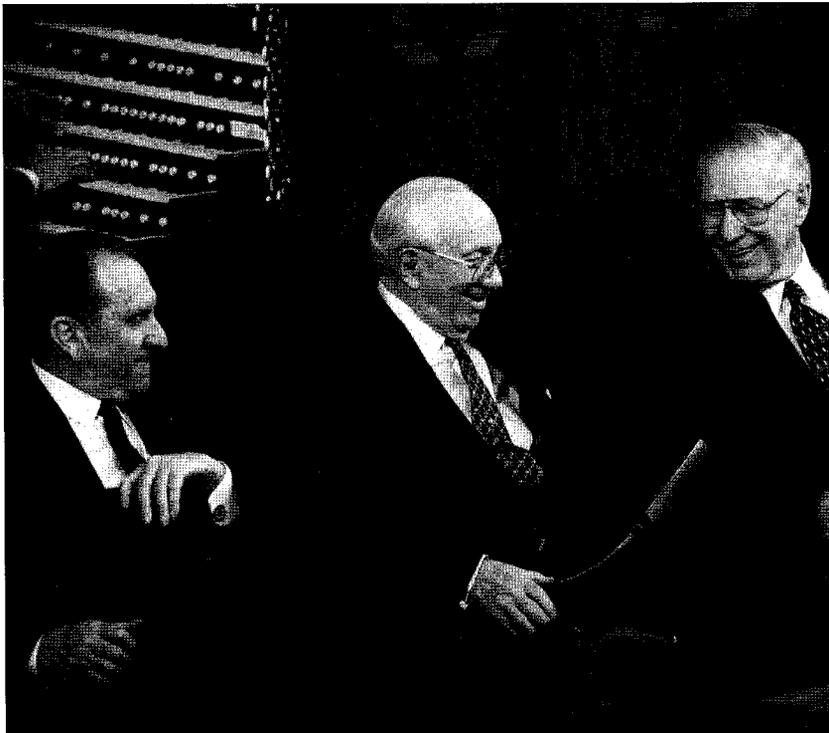
自分に対して真実であってください。友達や同僚に誠実であってください。彼らの持っている良いものを探し、それを尊重し励ましてください。友達のうわさ話をしたり、傷つけるような言葉を吐いたりしてはいけません。そのような言葉は必ず自分に返って来るからです。「あなたは隣人について、偽証してはならない」(出エジプト20:16)とエホバは命じていらっしゃいます。

助け合ってください。助けを必要としない人はいません。励ましも必要です。わたしたちにはいつも変わらずそばにいてくれる友達が必要です。皆さん一人一人がそのような友達になってください。

わたしは最近、障害を持った女の子についての話を読みました。ジェニーというその子はいつも一人でした。ジェニーはそれほど魅力的な女の子ではありませんでした。ある日、ジェニー

はクラスの人たちに言いました。「わたし、友達が欲しいの。お弁当と一緒に食べてくれる人が欲しいの。だれか友達になってくれないかしら。」一人の少女が立ち上がり、「いいわよ。わたしがなってあげるわ」と言うと、別の少女も同じように言いました。こうして二人はジェニーと一緒に弁当を食べるようになりました。二人はジェニーを励まし、助けました。二人は、障害を持っているために閉じ込められていた暗い世界から、ジェニーを新しい生活に引っ張り出したのです。また、この二人は友達に思いやりを示している間に、自分たちの生活にもそれまでにはなかった新しい喜びを見いだしたのです(ピクター・W・ハリス“ The Miracle of Jenni” New Era 「ジェニーの奇跡」『ニューエラ』1996年3月号, pp.12-14参照)。

両親と、皆さんが家族から受け継いでいるものに真実であってください。残念なことですが、自分の子供に愛情のかけらも示さないような親がいます。けれどもそうしたケースはごくまれです。皆さんの母親と父親ほど、皆さんの幸せと将来に関心を持っている人はいないでしょう。皆さんの親は1世代前の人です。もちろんそのとおりですが、彼らも皆さんと同じ世代の時があったのです。皆さんの問題は皆さんの親がかつて経験した問題と基本的には変わりません。時々皆さんを縛りつけるようなことを言うとしたら、それは行く手に危険が待ち構えていることを知っているからです。親の話に耳を傾けてください。親が皆さんにしてほしいと思うことを、皆さんは必ずしも気に入らないかもしれませんが、しかし親に従えば、皆さんはもっと幸福になります。皆さんの母親は最良の友です。これを決して忘れないでください。彼女は皆さんに命を与えました。皆さんを気遣い、いたわり、病気のときは看病し、そして皆さんが必要とするすべてに心を配ってきました。今すぐに、お母さんと話してください。心を開いて二人だけで話してみてください。お母さんは皆さんの話を決して他人に漏らしたりはしません。母親は愛する者



を守るというすばらしい知恵を持っていることが分かるでしょう。

皆さんの多くは教会の開拓者の子孫です。開拓者は大変な苦勞をしました。自分たちの信仰を守るために大きな代償を払いました。先祖の人たちと先祖が愛した教会にいつも真実であってください。この教会は真実です。今晚、わたしから聞いたこの言葉を忘れないでください。ほかの教会もたくさんの良いことをしますが、この教会はイエス・キリストの御名を持つ主イエス・キリストの「まことの生ける教会」です(教義と聖約1:30参照)。教会に対して真実であってください。教会にしっかりとしがみついて離れないでください。そうすれば、皆さんがたとえ嵐の中を海に放り出されても、海に沈むことはありません。教会は皆さんの生活を導く光となり、皆さんの未来を築く土台となるでしょう。この教会は決して正しい道から外れないことをわたしは厳粛に証します。わたしたちの教会は神の御手の中にありますから、たとえ教会の指導者が間違った方向へ導こうとしても、神がそういう人々を取り除いてくださいます。主は主の御業を回復されました。これは最後の回復であって、「決して再び滅ぼされることも、ほかの民に渡されることもない」のです(教義と聖約138:44;ダニエル2:44-45も参照)。

セミナーの年齢に達している人は、全員セミナーに出席していると思います。セミナーは、皆さんが幸せになるための教養を学ぶ所です。また、皆さんと同じ信仰を持つ仲間と交わるすばらしい機会です。

教会の指導者に助言と指示を求めてください。わたしたちが望むのはただ一つです。それは、皆さんが幸せになり、皆さんの人生がチャレンジとチャレンジを克服した満足であふれたものとなり、皆さんを滅ぼそうと待ち構えている悪の落とし穴を避けて生活し、やがては真理のかがり火を高く掲げ、それを皆さんの次の世代に渡すような人になってほしいということです。

この福音の真理は永遠です。物の考え方や、習慣、文化は時とともに変わ

ります。これらすべては変化しますが、福音の原則はこれまでまったく変わりませんでしたし、これからも決して変わることはありません。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員である皆さんはほんとうに幸運な人です。教会にはかけがえのないすばらしい友達がいます。有能で信仰の篤い教師がいます。奉仕する機会があります。一例を挙げてみましょう。死者のためにバプテスマを受ける以上の奉仕がほかにあるでしょうか。皆さんは主の聖なる宮へ行って、皆さんの奉仕がないと進歩できない世界にいる人たちのために、バプテスマを受ける機会が与えられています。亡くなったある人は、地上にいる間大きな力と影響力を持った女性だったかもしれません。けれども、バプテスマの儀式を受けないと、彼女は永遠の進歩が止まってしまうのです。皆さんは彼女を自由にする機会を与えられているのです。これほど無私のすばらしい奉仕がほかにあるでしょうか。皆さんは少しの努力で、不死不滅と永遠の命の道を前進できるように扉の鍵を開ける人になれるのです。世界のどこを探しても、皆さんにこの機会を与えてくれる組織はほかありません。神殿は最も無私の奉仕をする手段を、わたしたちに与えています。死者のためにバプテスマを受けても、この世では何の感謝の言葉を受けることもないでしょう。けれども、まったく知らない他人のために、大切なことをしたという満足感が得られません。教会に対して真実であってください。

わたしたちの永遠の父と、天父の愛する御子、主イエス・キリストに対して真実であってください。

自分が何かを決して忘れないでください。皆さんはほんとうに間違いなく天父の子供です。天父は皆さんの永遠の父親です。そして皆さんを愛していらっしゃいます。皆さんは祈りによって天父のみもとへ行くことができます。天父は皆さんを招いていらっしゃいます。皆さんはそれを知っています。皆さんはそれを知っています。皆さんはすばらしいことです。天父はあらゆるもののうち最も偉大な御方であり、宇

宙の創造主であり、統治者です。そのような御方が皆さんの祈りを聞いてくださるのです。

天父は御自分の息子と娘が幸福になることを望んでいらっしゃいます。罪は決して幸福を生じることはありません。天父の御心に背いていながら幸福になることはできません。不従順が幸福をもたらすことはありません。幸福になる方法は天父の計画の中にあります。そして天父の愛する御子、主イエス・キリストに従うことによってそれは見いだせます。

さて、それに関連したことをお話ししましょう。ある習慣についてです。実際にそれは習慣になっているのですが、若い女性を含む、中学や高校の若人の会話で、神の御名をみだりに口にすることを習慣です。エホバは石の板にこう記されました。「あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱えるものを、罰しないでは置かないであろう。」(出エジプト20:7)

わたしが小学校1年生か2年生のころの経験をお話しします。ある日、学校から帰って、教科書をテーブルの上に投げ出し、1日の授業から解放されたことを言い表すのに主の御名を意味もなく口にしていきました。

それが母の耳に入りました。母はショックを受けました。わたしの手を引っ張って風呂場へ連れて行きました。そしてタオルと石けんを手にとると、口を開けるように命じ、石けんでわたしの口の中を洗い始めたのです。泣きながら抵抗しましたが、許してくれません。随分時間がたったように思えるころ終わると、母はこう言いました。「二度とそんな言葉を口にしてはいけません。」

石けんの味はひどいものでしたが、母から怒られたことはもっとこたえました。決して忘れることのできない経験でした。それ以来、わたしは主の名をみだりに口にすることは無いと思います。

数年前に、スペンサー・W・キンボール大管長が手術を受けた時のことです。手術が終わって、車いすで集中

治療室に運ばれました。車いすを押し  
ていた人がつまづいたときに、主の御  
名を口にしているのろいの言葉を吐きまし  
た。キンボール大管長はほとんど意識  
のない状態でしたが、弱々しい声でこ  
う言いました。「すみません。すみま  
せん。あなたがのしった名前はわた  
しの主のお名前なのです。」

一瞬凍りつくような沈黙が流れまし  
た。そしてその青年は小さな声で「申  
し訳ありません」と言ったのです。主  
の御名をみだりに口にすることをわび  
ました (Teachings of Spencer W.  
Kimball 『スペンサー・W・キンボ  
ールの教え』 p.198参照)。

言葉についてお話ししておきたいの  
ですが、若い女性である皆さんは、ど  
のような形であっても汚い、薄っぺら  
な話し方をしないように願います。  
至る所でこのような話し方をする  
人が増えていますが、どうしてあの一  
言一語を使う必要があるのでしょうか。  
低俗な言葉を使わないと自分の考  
えを表せないことを宣伝するだけで  
す。どうかやめてください。汚い言葉  
や主の御名を汚す言葉を使わないで  
ください。

永遠の御父と御父が愛する御子に対  
して真実であってください。たとえだ  
れも助けられない状態に陥っても、主  
が必ずそこにいて助けてくださいま  
す。「すべて重荷を負うて苦勞してい  
る者は、わたしのものにきなさい。あ  
なたがたを休ませてあげよう」(マ  
タイ11:28)と主は言われました。す  
べての人は重荷を負っています。その  
重荷を主に助けていただきましょう。  
「わたしのくびきを負 [いなさい。] …  
…わたしのくびきは負いやしく、わた  
しの荷は軽いからである」(マタイ  
11:29-30)とも主は言われたから  
です。主はいつでも、どのような重荷  
でも背負おうと、わたしたち一人一人  
を助けるために待っていていらっしゃ  
います。主はわたしたちを心から愛して  
いらっしゃるのです、ゲツセマネで血の汗  
を流された後、邪悪な人々に捕らえら  
れるままにされ、ゴルゴタまで十字架  
を背負って歩かされて、十字架に釘で  
打ち付けられたときの想像を絶する苦

痛を受け、十字架にかけられ、そして  
わたしたち一人一人のために亡くなら  
れたのです。

主は、この世に生まれてまったく罪  
を犯さなかった唯一の完全な御方  
です。主は人類の救い主であり、贖い  
主です。主の犠牲のおかげで、主の贖  
罪によって、すべての人はよみがえり  
のときに復活し、それから是不死不滅と  
永遠の命の道を前進するというすば  
らしい機会を得ているのです。

主はわたしたちをみもとへ来るよう  
に招いて、こう言われました。「求め  
よ、そうすれば、与えられるであら  
う。捜せ、そうすれば、見いだすであ  
らう。門をたたけ、そうすれば、あ  
けてもらえるであろう。」(マタイ7:7)

主の御名によって御父に祈ってくだ  
さい。ほんとうのところ、だれも一  
人では何もできないのです。わたした  
ちには助けが必要です。その助けは祈  
りの答えとして与えられるものでな  
ければなりません。

わたしは若い女性の皆さんが祈って  
いることを知っています。これはとて  
もすばらしいことです。わたしは皆  
さんが福音に従って生活しようと努  
力していることを知っています。正直  
で清い生活をしようとしていること  
、ほかの人に奉仕と親切と愛を表す  
生活をしようとしていることを知っ  
ています。繰り返して申し上げます。  
皆さんがわたしたちのために祈りを  
してくださっていることをわたしは  
知っています。わたしたちも皆さん  
のために祈りしていることを知って  
ください。

皆さんはとて大切な人です。この  
御業は皆さん次第でもっと強められ  
ます。皆さんが道徳的な罪を犯したり  
、何かほかの罪を犯したりするとその  
ために教会は弱くなるのです。皆  
さんが真実であり、忠実であるなら  
ば、教会はもっとも強くになります。  
教会は皆さん一人一人にかかっている  
のです。

さて、最後にもう一つだけ付け加  
えておきます。道徳的な罪を犯して  
しまっても、すべてを失ったとは考  
えないでください。主が皆さんに手  
を差し伸べて助けてくださいます。  
ほかにも教

会には喜んで助けてくれる人が大勢  
います。まず、すべての罪から離れ  
てください。皆さんが置かれている  
状況について祈り、できれば両親に  
話し、そして監督に話してください。  
監督は皆さんの話に耳を傾け、秘  
密を守ってくれます。皆さんを助  
けてくれます。わたしたちはいつ  
でも皆さんを助けようと待っています。

悔い改めは福音の第一の原則の一  
つです。神は赦しをお与えになり  
ます。ですから希望があるのです。  
皆さんの人生はこれからです。過  
去の人生が罪によって傷つけられ  
たとしても、これからの人生を幸  
せでいっぱいにすることができます。  
問題を抱えている人々に救いの手  
を差し伸べ、助けるのが、主の御  
業であり、福音の目的なのです。

預言者イザヤは次のように宣言  
しています。

「あなたがたは身を洗って、清くな  
り、わたしの目の前からあなたがた  
の悪い行いを除き、悪を行うことを  
やめ……

主は言われる、さあ、われわれは互  
に論じよう。たとえあなたがたの罪  
は緋のようであっても、雪のように  
白くなるのだ。紅のように赤くても  
、羊の毛のようになるのだ。」(イ  
ザヤ1:16, 18)

今が、まさに今がその時です。過  
去のすべての罪を悔い改めて、赦  
しを求め、背筋を少し伸ばしたら  
、自信と信仰をもって前進するの  
です。

最後には、生活のすべての場面で  
大いに楽しみ、喜んでください。人  
生は楽しむべきものであって、た  
だ耐えていくものではありません。

皆さんに祝福を与えます。わたした  
ちが皆さんを愛していることをど  
うか知ってください。わたしたち  
が皆さんを信頼していることを知  
ってください。福音に従って生活  
し、信仰に対して真実であり、教  
会にしっかりとしがみついて離れ  
ず、両親を敬い、主を愛し、神の  
子供らしく歩んでください。以上  
を皆さんが実行し、深い幸福を味  
わってください。心からの愛と  
ともに、イエス・キリストの御名  
によりお祈りします。アーメン。

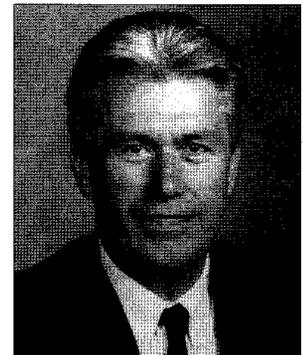
# 総大会で召された新しい七十人



ダラス・N・  
アーチボルド長老



メリル・J・  
ベイトマン長老



ディーター・F・  
ウークトドルフ長老

**第**166回年次総大会、4月6日土曜日午後の部会で、七十人定員会会員に召された12人の神権者が支持を受けた。

メリル・J・ベイトマン長老の七十人第一定員会会員への召しは、ブリガム・ヤング大学学長への就任と同時に昨年11月に発表されていたが、この度の大会で支持を受けた。そのほか第一定員会に召された長老は、これまで七十人第二定員会で働いてきたダラス・N・アーチボルド長老ならびにディーター・F・ウークトドルフ長老である。さらにブルース・C・ハーフェン長老も七十人第一定員会に召された。

土曜日に新たに支持された七十人第二定員会の会員は、L・エドワード・ブラウン長老、シェルドン・F・チャイルド長老、クエンティン・L・クック長老、ウィリアム・ロルフ・カー長老、デニス・E・シモンズ長老、ジェラルド・L・テラー長老、フランシスコ・J・ビーナス長老、リチャード・B・ワースリン長老である。(ハーフェン長老やそのほか新しく召され

た幹部に関しては次の略歴紹介を参照。)

ベイトマン長老(59歳)は、1992年6月に七十人第二定員会会員に召され、1994年4月に管理監督に召された。1995年11月に七十人第一定員会会員に召され、ブリガム・ヤング大学の学長に指名された。就任は1996年1月である。

アーチボルド長老(57歳)は1992年6月に七十人第二定員会会員に召され、現在ブラジル地域会長会会長を務めている。ウークトドルフ長老(55歳)は1994年4月より七十人第二定員会会員として働いていて、現在はヨーロッパ西地域会長会の第二副会長を務めている。□





七十人

ブルース・C・ヘーフエン長老

**家**族関係，児童学，教育に関する学者として全国的に有名なブルース・C・ヘーフエン長老は，今の世は教会の声を聞く必要がある，と確信しています。

ユタ大学で法学博士号を取得し，ブリガム・ヤング大学のJ・ルーベン・クラーク法律学校で学部長を務めたヘーフエン長老は，過去25年間，家族法と教育について教え，また執筆してきました。長老はこのように述べています。「今日，家族生活ごんいちに関する福音の見解が，世界中の法廷や教室，家庭で非常に強く求められています。」

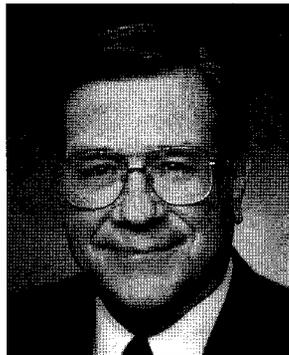
ヘーフエン長老の信念は，宗教家，教育者，経営者としての豊富な経験を通じて培われました。これまで監督会やステーク会長会で働き，地区代表を務めました。1973年にはブリガム・ヤング大学付属の法律学校設立に貢献し，最初の教授会の一員となりました。1978年から1985年まで，リックス・カレッジの学長を務めました。その間も各学期ごとにクラスを教えました。1989年にブリガム・ヤング大学の副総長となり，大学の管理者として第二の地位に就き，霊的・教育的な使命を重視するようになった最近のブリガム・ヤング大学の方針を定めるうえで中心的な役割を果たしました。

この間，常に教育者であり研究者であった長老は，両方の分野で宗教的な知識と経験をいっそう生かしてきました。例えば，贖罪しよぐわいの実生活への応用というようなテーマについて研究してきたのです。

1940年10月30日に生まれたヘーフ

ン長老（55歳）は，ユタ州セントジョージで育ちました。1960年にディキシー・カレッジを卒業した後，西ドイツ伝道部で伝道し，その後ブリガム・ヤング大学へ通いました。宗教のクラスに出席していたとき，マリー・カーチナーというクラスメートと知り合いました。二人は1964年6月2日にセントジョージ神殿で結婚し，現在，7人の子供と10人の孫がいます（一人は死去）。

ヘーフエン長老はこのように述べています。「おもに二つのテーマが，わたしの職業と教会での奉仕の両方に通じる態度を形成してきました。一つは家族関係，特に子供の教育と結婚です。もう一つは救い主の使命と贖罪です。最近，教会が家族と個人がキリストのもとへ来るように強調していることを考えると，この二つのテーマを追求していこうという決意は，新しい召しを通して，さらに強まっていくことでしょう。」□



七十人

L・エドワード・ブラウン長老

**L**・エドワード・ブラウン長老は1937年6月18日にアイダホ州プレストンで生まれました。長老は，14歳のある日の夕方に，家族で住んでいたアイダホ州ドゥーボイスで父親と一緒に貨車に石炭を積み込んでいました。父親は手を休め，エドワードの方を向いてこう言いました。「帰らなくては，という気がするんだ。」家に戻るとすぐに，父親はスーツに着替えて待ちました。しばらくすると電話が鳴り，母親が悲惨な交通事故に巻き込ま

れていたことを知らされたのです。

「その晩新聞配達をしながら，雪の中でひざまずき，母の命が助かるように天父に懇願したのを覚えています」と，ブラウン長老は当時を思い起こして語ります。母親は障害が残ったものの，一命は取り留めました。そのときからというもの，天父に助けを求めることは，生活の一部となりました。

後年，成長して，当時北部極東伝道部の一部であった韓国で伝道中，天父への愛はさらに深まりました。1960年8月3日，ローガン神殿でキャロル・ユワーと結婚しました。その後夫妻は5人の子供とともに韓国へ戻りました。34歳になったエドワードはそこで伝道部長として働いたのです。帰国後に生まれた子供を含めて，夫妻は8人の子供に恵まれました。

福音を教えることは，ブラウン長老の経歴の中心となりました。ユタ州立大学を卒業後，教会教育部に就職し，カンザス大学で修士号と博士号を取得しました。教会教育部で33年間働き，初めはセミナー教師およびインスティテュートディレクターを，その後はアイダホ州東部の地域ディレクターを務めました。「愛する青少年たちが聖文を熱心に学ぶ姿が見られる時代に教師として働けることを感謝しています。」

アイダホ州ポカテロに住んでいたころ，ブラウン長老はアラメダ第一ワードの監督，およびアイダホ・ポカテロ大学ステークのステーク会長を務めました。また公民として，ポカテロ市長，市会議員，およびアイダホ州下院議員を3期務めました。

1995年，ブラウン長老は北アメリカ北西地域の地域幹部に召されました。長老はこう説明しています。「その召しによって受けた訓練に感謝しています。救い主を愛しています。主はわたしたちの希望であり，世界中の人々の希望なのです。」□

\*



七十人

シェルドン・F・チャイルド長老

**シ**ェルドン・チャイルド長老は熱心に働くことの価値を年若くして学びました。1938年5月8日に生まれた彼は、幼少時代をユタ州のグレートソルトトレイク湖近くの小さな町シラキュース近郊に家族が所有する、20エーカーの農場を手伝いながら過ごしたのです。シェルドンが8歳のとき、両親から子牛を1頭育てるように言われました。その子牛を売ったとき、シェルドンは什分の一のお金を細心の注意を払って数え、監督に持って行きました。しかしもう一度数え直すと、実際に払うべき金額よりも多くを持って来ていることに気づきました。しかし、とにかくその金額を払うことにしました。その当時から、主に関する事柄には決して物惜しみをすることがありませんでした。そして生涯を通してその姿勢は変わっていません。

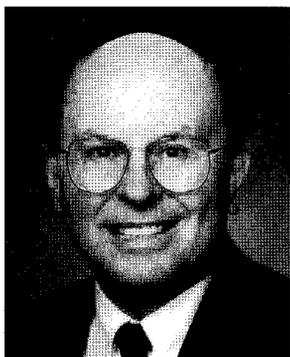
シェルドンはユタ州立大学とユタ大学に在籍し、1957年にジョン・ハークとソルトトレイク神殿で結婚しました。そして兄のビルとともにR. C. ウィリーという店で働きました。当時は店員が二人だけの店でしたが、数年後にビルとシェルドンは7店舗を抱える家具チェーン店を経営するに至りました。

事業で忙しい日々を送っていても、チャイルド兄弟は教会の召しを優先させてきました。シラキュース第二ワードでは長老定員会会長として、そして後には監督して働きました。その後ユタ州シラキュースステーキのステーキ会長を務めました。この期間に夫妻は、教会での様々な経験を積むと同時に、

地域の奉仕活動にも従事しました。また、6人の子供を育てることに力を尽くしました。チャイルド長老は、最大の喜びは家族によってもたらされると語っています。

これまでの教会での奉仕で強く印象に残っていることの一つは、ニューヨーク州ニューヨーク伝道部の部長に召されたことです。ユタに戻ってからは、職場に近くなるようにソルトトレイク・シティーに移り住み、ユタに戻って間もなく、ユタ北部地域の地域幹部としての召しを受けました。

最近、七十人第二定員会に召され、チャイルド長老はこのように述べました。「わたしは主を愛し、イエス・キリストの福音に強い証<sup>あかし</sup>があります。主がわたしに望まれていることを行いたいと思っています。」□



七十人

クエンティン・L・クック長老

**思**い出すかぎり、自分が福音を信じていなかったときなどありませんでした」とクエンティン・L・クック長老は語ります。仕事仲間から「決意と先見の人」と称せられるクック長老は「棒の一方の端をつかんだら、他方の端もつかんだことになる」と信じています。人生の早い時期に福音という鉄の棒をしっかりとつかんだ彼は、それ以来、証<sup>あかし</sup>によって人生の様々な決断をしてきました。

クエンティンは1940年9月8日、ユタ州ローガンでバーニス・クック、J・バーノン・クック夫妻の3人の子供の一人として生まれました。「両親は二人ともわたしの人生に良い影響を与

えてくれました。母からは完全な模範を通して、また父からはかけがえのないアドバイスを通して影響を受けてきました」とクック長老は語ります。

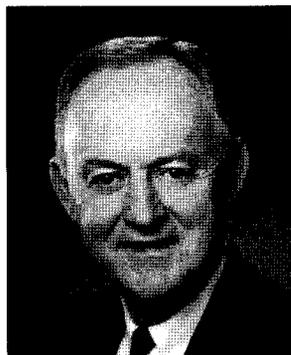
クエンティンが15歳のとき、医学学校に進むか伝道に出るかで迷っていた兄の力になろうとして、二人でよく話し合いました。「わたしたちは論じ合いました。伝道に出るのは単なる善い行いにすぎないのだろうか、それとも福音は真実なだからほんとうになすべきことなのだろうか、と。結局兄は伝道に出る決心をしました。そしてその結論に至るまでの思考過程は、わたしの人生で大きな転機となりました。」

1960年から1962年にかけて、クエンティンはイギリスでの伝道を終えました。長老は伝道の経験が「その後の人生の基礎となりました」と語っています。やがて1962年11月30日、高校時代からの最愛の人メアリー・ギャディーとローガン神殿で結婚しました。1963年にユタ州立大学を卒業し、1966年にスタンフォード法律学校を卒業しました。

カリフォルニア州ヒルズバラに在住し、3人の子供たち、キャスリン、ラリー、ジョセフを持つクック夫妻は家族、教会、仕事、地域社会のそれぞれの面で忙しい毎日を送っています。仕事では、企業弁護士として27年間、またカリフォルニア・ヘルスケア・システムの会長として3年間情熱を傾けてきました。地域社会への貢献としては、市民弁護士として14年間にわたりボランティアで働きました。教会にあっては、サンフランシスコステークの会長を15年間務め、さらに北アメリカ西部地区の地区代表、後に地域幹部の召しを熱心に果たしてきました。

「自分には常に証があった、と感じています。」クック長老は語ります。「わたしの人生において、棒の片方の端をつかむことは、もう一方の端をつかむという決意をも意味していました。」クック長老は人生の早い時期にイエス・キリストの福音をしっかりとつかんだおかげで、これまでに多くの良き業を成し遂げてきました。そして、これからも七十人第二定員会においてい

っそう奉仕に邁進しようという決意を固めています。□



七十人

ウィリアム・ロルフ・カー長老

**新**たに七十人第二定員会の一員として召されたウィリアム・ロルフ・カー長老は、ごく自然に奉仕に携わってきた人です。教会や地域社会への奉仕は、そういった奉仕に非常に熱心だった両親から学んだものだと言います。また自分の子供たちにも、奉仕への望みを受け継いでほしいと願っています。

「わたしはもともと熱中しやすい人間です」と語るカー長老も、新たに受けた召しの大きさとチャレンジを思うと「圧倒されてしまう」と言います。「わたしが幹部の兄弟たちに対して抱いている尊敬の念に圧倒されています。また、これからほんとうに多くを学ばなければならないことも承知しています。」

これまでユタ州立大学、ウェーバー州立単科大学（現在は総合大学）、ユタ大学、ディクシー単科大学（学長を務めた）、およびブリガム・ヤング大学で教育職、および管理職に就いていました。1993年に伝道部長に召されたときはユタ州の高等教育理事を務めていました。7月までテキサス州ダラス伝道部の部長の任にありました。

1935年6月29日、ユタ州トリモントンで生まれたロルフ・カーは農場で育ちました。ユタ州立大学で農学の学位を取った彼は一生農業に従事するつもりでしたが、軍役を終えた後、ユタ州立大学の学生活動コーディネーターと

しての仕事を勧められ、それを選びました。後に結婚・家族関係学で修士号を、教育学で博士号を取得しました。

イギリス伝道部で伝道した後、ユタ州立大学でジャーナル・レイボールドと出会い、二人は1960年9月15日、ローガン神殿で結婚しました。現在6人の子供がいます。

カー長老はこれまでステーキ会長として、また監督会や中央日曜学校管理会の一員として召しを果たしてきました。1960年代に2年間、末日聖徒学生協会の設立を援助する仕事に携わったこともあります。

これまでの人生で受けてきた数々の奉仕の機会を振り返って、カー長老はこう語ります。「わたしに救い主の愛と、福音に対する揺らぐことのない証<sup>あかし</sup>をもたらしてくれた数々の経験に感謝しています。これからわたしにできることがあるとすれば、これらの経験はその基盤となるでしょう。」□



七十人

デニス・E・シモンズ長老

**七**十人第二定員会会員に召されたデニス・E・シモンズ長老は、次のように述べました。「主はあらゆる重要な機会をわたしに与えくださいました。福音を通して受けた訓練と証<sup>あかし</sup>が、あらゆる専門職、意味ある活動、そして人生における良きことすべてに影響を与えてくれたのです。」

1934年6月27日、ユタ州ビーバーダムの自宅で生まれたシモンズ長老は、1953年10月15日にキャロリン・ソープとローガン神殿で結婚しました。ユタ州立大学で音楽教育の学士号を取得

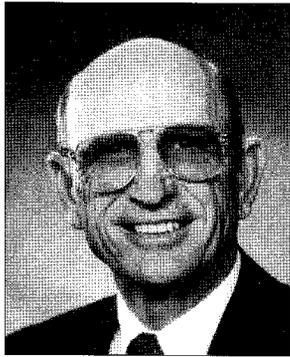
した後、カリフォルニア州リバーモア近郊の空軍基地で合衆国空軍の体育教官として2年間働きました。その後ユタ州トリモントンで2年間、学校で教え、そして家族とともにネバダ州ラスベガスに移り、シモンズ長老はネバダ州核実験施設で契約業者として働きました。1965年に家族とともにワシントンD.C.に移り、シモンズ長老はジョージ・ワシントン大学で法律学位を取得、ネバダ州上院議員の秘書を務めました。

弁護士として働くためにラスベガスに戻るとすぐに、シモンズ長老は監督に召されました。1977年にはステーキ会長に召され、同時に、所属するワードでは福音の教義クラスを教え、バレーボールのコーチも務めました。1986年にシモンズ夫妻はワシントンD.C.に戻り、シモンズ長老は新たに組織されたワシントンD.C.北伝道部の初代部長を務めました。シモンズ長老はこのように語りました。「わたしたちの伝道の経験は人生の中で最も素晴らしい経験でした。」

シモンズ長老は音楽を楽しみ、青少年やステーキの聖歌隊を幾つも指導してきました。夫妻には6人の子供と8人の孫がいます。

七十人に召されたときは、シモンズ長老は地域幹部の任にありました。シモンズ長老は次のように述べています。「イエスがキリストであると知っています。主はわたしたちを知り、気にかけてくださっています。ヒンクレー大管長が、神から召された地上における主の代理人であることを、確かに証します。」□

\*



七十人  
ジェラルド・L・テラー長老

✕ キシコの新ワワにある末日聖徒の入植者の集落コロニア・デュブランで育ったジェラルド・L・テラー長老は、このように述べています。「農業や牧畜に携わっていたわたしたちは、主に頼る必要があったのです。灌漑用の深い井戸がなかったので、人工湖が頼りでした。雨が降らないと、水がありません。家族やワードの人々が断食し、その結果すばらしい祝福を受けたことが何度もありました。」

テラー長老の曾祖父は、ブリガム・ヤングに従い、荷車でソルトレーク盆地へ行きました。また祖父はメキシコにコロニア・ファレスを作ることに協力しました。テラー長老は1937年3月22日、コロニア・デュブランで生まれ、大学へ行ったときと伝道へ出たとき以外は、生涯そこで暮らしてきました。母親は彼が3歳のときに亡くなり、後に父親は、夫に先立たれて9人の子供を育てている女性と再婚し、合計15人の子供を育てました。テラー長老はこのように述べています。「わたしは祝福されて二人の母親がいました。また、たくさんの兄弟姉妹の信頼と信仰と愛によって励まされました。」

テラー長老はブリガム・ヤング大学を休学してアルゼンチンへ伝道に出ました。そして、牧畜学で学位を修めてブリガム・ヤング大学を卒業する数か月前に、後に夫人となるシャロン・ウィリスに会いました。1963年7月5日にマントイ神殿で結婚し、現在6人の子供と4人の孫がいます。肉牛の牧畜とりんご栽培で生計を立ててきま

した。

教会では、支部長、ステーキ伝道部長、ステーキ幹部書記、ステーキ会長を経験しました。1986年、チリのサンティアゴ南伝道部を管理するよう召されました。メキシコへ戻ると、監督、そして後に地区代表に召されました。七十人に召される前は地域幹部を務めていました。

テラー長老はこのように述べています。「わたしは受け継ぎに感謝しています。コロニーの人々は、犠牲と従順がどういうものかをわたしに示してくれ、心から支持してくれました。教会はわたしの人生のすべてです。福音に感謝しています。」□



七十人  
フランシスコ・J・ビーナス長老

七十人第二定員会会員に召されたフランシスコ・J・ビーナス長老は、奉仕こそ天父を知り、神の子供たちを愛することの核心であると、次のように述べています。

「わたしと妻が人生で学んだすべての重要な事柄は、奉仕を通して得られたものです。実際、わたしたちの証の主要な部分は主への奉仕を通して得られました。」

ビーナス長老は、ほかの人の必要を満たすときにそのような証を分かち合う多くの機会を与えてくれた福音に感謝しています。彼は地域幹部、地区代表3回、ステーキ会長、監督、アルゼンチン伝道部の部長を務めました。

フランシスコは1946年12月28日にスペインのセピリアで生まれました。1993年からはスペインの教会教育部部

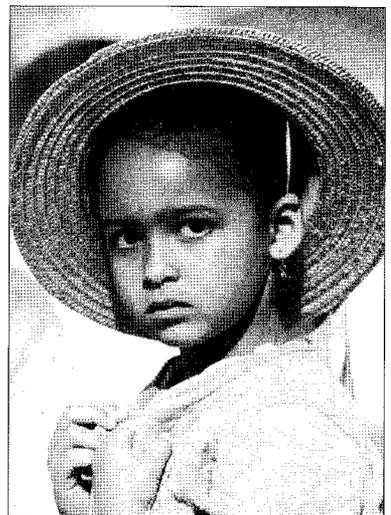
長を務めています。1948年に両親がウルグアイに移住していたビーナス長老にとって、その仕事はいわば里帰りのようなものでした。移住した両親は2年後、まだウルグアイのモンテビデオに落ち着く前に、当時専任宣教師で現在は十二使徒定員会会員のリチャード・G・スコット長老からバプテスマを受けました。

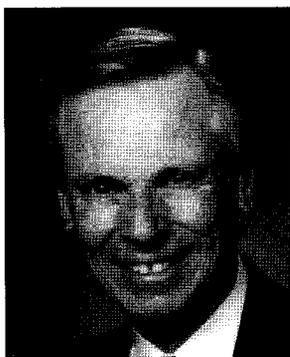
モンテビデオで成長する間、バスケットボールが好きになり、その後、監督を務めながら、全国プロ・バスケットリーグで活躍しました。体育学を専攻し、しばらくバスケットボールのコーチを務めました。

モンテビデオのインスティテュート指導主事として教会教育部で働く前は、バイヤー社の生産価格主任を務め、次にウルグアイの教会財務部で働きました。その後、ウルグアイの教会教育部地区指導主事になりました。

1966年12月30日、モンテビデオでクリスティーナ・ガミナラと結婚し、1974年にソルトレーク神殿で結び固められました。仕事や教会の責任で多くの時間を取られることがあるので、ビーナス長老と姉妹は3人の子供たちとできるかぎり家族の時間を取るよう特別な努力をしています。

長老はこのように述べています。「これまでの召しはすべて、この新しい責任を果たすために備えるのに役立ってきました。しかし、特に中央幹部の力と教えに感謝しています。彼らは神の人です。」□





七十人

リチャード・B・ワースリン長老

リチャード・B・ワースリン長老は、これまで30年近くにわたって人々の行動や意識の調査に当たってきました。そして、世の中の問題の解決策はイエス・キリストの福音にあるという確信を強めてきました。

「コンサルティング業とビジネスのための市場動向調査を通して、大勢の人が様々な事柄に混乱や絶望、落胆を感じている、ということがよく分かります。」ワースリン・ワールドワイド社の会長兼専務取締役であるワースリン長老は、そう語ります。「人々に真

の平安をもたらす唯一の方法は、福音の原則を受け入れて実践することです。」

十二使徒定員会会員のジョセフ・B・ワースリン長老の弟であるワースリン長老はこれまで二つのステーキの会長会で働き、高等評議員や監督の召しを受け、最近では地区代表として責任を果たしてきました。

長老は1931年3月15日、ソルトレーク・シティで生まれ、1951年から1953年にかけてスイスとオーストリアで伝道しました。その後合衆国軍で軍務に就いた後、ユタ大学で経済学学士号を取得後、経済学と統計学の修士号を取得しました。後にカリフォルニア大学パークレー校で経済学博士号を取得しました。

1956年11月23日、ワースリン長老はジェラリー・メイ・チャンドラーとソルトレーク神殿で結婚しました。長老は、自分と8人の子供たちに対するワースリン姉妹の献身的な働きによって、家族は大きな祝福を受けてきたと語っています。

1969年、リチャード・ワースリンは

ロサンゼルスで自分のリサーチ会社を設立しました。それ以前の彼は、その実績を当時のカリフォルニア州知事、ロナルド・レーガンに認められ、1972年の再選をかけたの州知事選において世論調査スタッフになるよう依頼されたこともありました。その後も1980年と1984年の大統領選の選挙運動の戦略を立てるよう依頼されました。ワースリン家族は、家族とまったく一緒に過ごしたり、好きな野外活動やスキー、乗馬などを楽しんだりすることを願い、14年間のワシントンD.C.での生活にピリオドを打って、1995年ユタに戻って来ました。

ワースリン長老は、これから自分の証を分かち合える機会がさらに増えるのを楽しみにしています。彼は、若いころスイスで伝道していたとき、イエス・キリストの福音の真理がそれに従って生きる人々の心に平安と喜びをもたらす様子を目にしました。「そのような経験をする、福音を分かち合うのは容易になります。福音は今日の人々に何よりも必要とされている、真の喜びと平安のメッセージなのです。」□

## 成長を続ける 教会員数

年度	教会員数(人)
1991	8,120,000
1992	8,406,895
1993	8,696,224
1994	9,024,569
1995	9,340,898

教会の会員数は1995年も増加の一途をたどった。昨年度末の末日聖徒の数は934万898人であり、1991年12月に発表された会員数812万人からさらに増加した。総大会で発表

された統計記録によると、バプテスマを受けた人のうち30万4,330人が改宗者であり、それ以外は8歳になる記録上の子供のバプテスマ数である。□



# ニュース番組「60ミニッツ」で 預言者が見せた機知と知恵

4月7日、ニュース番組「60ミニッツ」(本誌1996年4月号のローカルページ, pp.1-3参照)が全米で放映された。日曜日の夕べにしては珍しく大勢の末日聖徒がテレビの前に釘付けとなった。CBS放送の人気番組で採り上げたテーマが「モルモン」、それもゴードン・B・ヒンクレー大管長の特集であったことからすれば、当然のことと言えよう。

ニュース番組「60ミニッツ」のうちの14分30秒を、ベテラン・ジャーナリスト、マイク・ウォレス氏は預言者との会見、末日聖徒の実業家ビル・マリオット兄弟、合衆国上院議員オリン・ハッチ兄弟、プロフットボール選手のスティーブ・ヤング兄弟などとの談話に費やした。さらにウォレス氏はブリガム・ヤング大学の学生たちとモルモンの信条と価値観について話し合っている。

インタビューは教会の肯定的な面を中心に展開され、意見を異にする人々の紹介はわずかにとどめられた。

ウォレス氏は冒頭、教会を紹介するに当たって次のように述べた。「モルモンの教えは宗教というよりも、むしろ生活そのものと言えるでしょう。道徳的に退廃した時代にあって、彼らは高潔という美德を信じています。」

したたかなインタビューで有名なウ

ォレス氏は、ヒンクレー大管長との会見のほとんどを、家族の永遠性、知恵の言葉、道徳、教会の財政と発展、宣教師活動、神権と教会の管理体制に関する質問に当たった。

ヒンクレー大管長はこれらの質問に簡潔かつ率直に、時にはユーモアを交えて応対した。ウォレス氏は辛らつとも思えるような質問をする際も、預言者と教会に敬意を払っていた。ヒンクレー大管長はいすから身を乗り出して、先の総大会で自ら語ったように「目と目を合わせて」ウォレス氏の質問に答えた。

ウォレス氏は会見の最後に、天にお

ける家族の永続性について預言者と話し合っている。「わたしたちはそれを確信しています」とヒンクレー大管長が語ると、

「そう言われても、信じない人は大勢いますよ」とウォレス氏は応酬した。

「しかし、あなたも確信できます」と預言者は答えた。

「わたしも考えたことはありますが、まだ納得できません」とウォレス氏。

「もう少し時間をかけてみていただけますか」とヒンクレー大管長がユーモアを交えて話すと、周囲の人々に笑みが戻った。(Church News 『チャーチニュース』1996年4月13日付け)



テンプルスクウェア内の訪問者センターでマイク・ウォレス氏を案内するゴードン・B・ヒンクレー大管長

## 新伝道部長の紹介

今年6月で任期を終える5人の伝道部長に代わり、大管長会は新たに4人の伝道部長を発表した。

任期を終えるのは、リチャード・M・オースティン伝道部長(仙台伝道部)、熊沢幸雄伝道部長(東京北伝道

部)、グレン・N・ロウ伝道部長(東京南伝道部)、恩田豊伝道部長(岡山伝道部)、カール・T・ポープ伝道部長(沖縄伝道部)である。

なお、福岡伝道部と沖縄伝道部は、7月1日をもって合併され、「福岡伝道部」という名称の下に本部が福岡に置かれる。□



仙台伝道部  
吉野伝道部長ご夫妻

**吉**野和洋伝道部長（47歳）。召しを受けたときは、東京西ステーク国立ワードに所属し、高等評議員、神殿の結び固めの儀式執行者を務めていた。

これまで、副伝道部長、副ステーク会長、高等評議員、監督、支部長、大祭司グループリーダー、長老定員会会長などを歴任している。地域教会教育部長。熊本大学法学部卒業。宮崎県で山本恒夫、吉野富喜子夫妻の間に生まれた。

原田真理子姉妹と結婚し、二人の子供に恵まれている。召しを受けたとき、真理子姉妹はステーク扶助協会副会長の任にあった。これまでステーク若い女性会長、扶助協会会長、初等協会会長、日曜学校教師などの責任を果たしてきた。日本中央伝道部で専任宣教師として伝道。原田太郎、原田（吉田）徳子夫妻の間に生まれた。□



東京南伝道部  
ランドル伝道部長ご夫妻

**ス**ティーブン・K・ランドル伝道部長（46歳）。召しを受けたときは、ユタ州ケイズビル・クレストウッドステーク、オークウッズワードに所属し、ステーク宣教師のトレーナー、教師定員会アドバイザーの任にあった。

これまでステーク副会長、高等評議員、監督、日曜学校教師、宣教師トレーナーなどを歴任している。日本伝道部で専任宣教師として伝道。マウンテン・ウエスト・オーディオ株式会社代表取締役。ウェーバー州立大学で心理学と動物学の学士号を取得している。ユタ州オグデンで、アルマ・ケント・ランドル、ジェラルディン・フランシス・ランドル夫妻の間に生まれた。

キャスリン・アトウォーター姉妹と結婚し、5人の子供に恵まれている。キャスリン姉妹は召しを受けたとき教会歴史美術館ガイド、宣教師トレーナーの任にあった。これまでステーク若い女性会長、扶助協会副会長、初等協会副会長、若い女性副会長、扶助協会教師などを務めてきた。ウェーバー州立大学で学んだ。モンタナ州グラスゴーで、バート・アトウォーター、ルース・イレイン・ヘイ・アトウォーター夫妻の間に生まれた。□



東京北伝道部  
ハスラム伝道部長ご夫妻

**ラ**リー・O・ハスラム伝道部長（62歳）。召しを受けたときは、ユタ州ローガン・カチェステーク、ノースウッドワードに所属していた。

これまで、ステーク会長、高等評議員、ステーク若い男性会長、監督、副

監督、若い男性会長、長老定員会会長などを歴任している。日本伝道部で専任宣教師として伝道。高等学校理事。ユタ州立大学で歴史学と政治学の学士号、歴史学と教育学の修士号を取得し、アイダホ州立大学とアリゾナ州立大学で学校経営の学位と資格を取得している。ユタ州リューストンでジョセフ・カー・ハスラム、ゼッタ・マラー・ハスラム夫妻の間に生まれた。

プリシラ・ウェイド姉妹と結婚し、4人の子供に恵まれている。プリシラ姉妹は家庭訪問管理会員の任にあった。これまで扶助協会会長および教師、初等協会会長および副会長、日曜学校と若い女性の教師、カプスカウト指導者、音楽委員長などを歴任している。ユタ州立大学で初等教育学および幼児発達学の学士号を取得。ユタ州モンローでエリス・メイコック・ウェイド、バーニス・ウォッシュバーン・ウェイド夫妻の間に生まれた。□



岡山伝道部  
シャムウェイ伝道部長ご夫妻

**ル**ーマン・D・シャムウェイ伝道部長（61歳）。召しを受けたときは、カリフォルニア州サンフランシスコ西ステーク、南サンフランシスコワードに所属し、副伝道部長を務めていた。

これまで副ステーク会長、高等評議員、監督、大祭司グループリーダー、日曜学校教師、オルガニストなどを歴任している。日本伝道部ならびに北部極東伝道部専任宣教師として伝道。カリフォルニア州仮釈放審査委員会会員。ストックトン・カレッジの医科大学予科を卒業後、ユタ大学で政治学の学士号を取得。さらに、カリフォルニ

ア大学付属のヘースティングズ・カレッジ法科大学で法学博士号を取得した。アリゾナ州フェニックスで、ウォーレス・ローラル・シャムウェイ、ジナ・オーエンズ・シャムウェイ夫妻の間に生まれた。

ルアナ・ショウ姉妹と結婚し、6人の子供に恵まれている。ルアナ姉妹は扶助協会教師の任にあった。これまでセミナー教師、スカウト進歩委員会委員長、託児教師、扶助協会教師、ローレル指導者などを務めてきた。プリ

ガム・ヤング大学で英語学の学士号を取得。ユタ州ローガンで、アルビン・ジェブセン・ショウ、ハンナ・レオーネ・ホルト・ショウ夫妻の間に生まれた。□

## 家族の証

# 結婚して20年目の改宗

——祈りと断食を繰り返す妻の姿に——

我孫子ステーキ松戸ワード 加藤靖郎

20年前に妻が教会員になると言い出したことを思い出します。わたしはこれに驚き、怒り狂って思いとどまらせようと思いました。なぜこのような新興宗教に心を……と思い悩みました。そして親族からも批判的な意見が寄せられたものです。

当時のわたしは、遠洋漁船に漁網とか漁労機械などを販売する仕事の関係で、日曜祭日もない朝駆け夜駆けの多忙な日々を送っていました。企業は、そして産業は永遠なりと信じ、前進あるのみの毎日でした。営業所長をしていたわたしは、対外的にも、社内的にも、酒、たばこ、コーヒー、そしてマージャンのつきあいは対人関係を円滑にする不可欠なありがたい具と考えていました。

## 無信仰を是としての生活

忙殺される毎日のわたしの最大の楽しみは、日曜日に家族そろってのショッピング、ドライブなどでした。小学校一年生の娘、玲子と幼稚園児の息子、研介はかわいかったですし、妻の立ってくれるお抹茶、そしてコーヒーの香りもたまらなく好きでした。

これら平凡な楽しみを取り上げてし

まう宗教は、悪魔ではないかと思ったものです。わたしの心境はまったく穏やかでなく、妻がバプテスマを受けてからしばらくは口も利かなかったことを思い出します。独立独歩、唯我独尊とうぬぼれ、無信仰を是として生きていたわたしですが、今思えばこのころから迷いながらの求道の旅が始まっていたような気がします。

頑固ではあるがあきらめも早いわたしは、日曜日は家族の教会への送迎を常とし、家庭菜園をこよなく愛する面もありました。妻がバプテスマを受けてから3年後には、娘と息子も仙台市上杉の教会でバプテスマを受けました。このときには、わたしも礼拝堂の壇上に座って子供たちの将来を見守っていました。わたしの思いは、子供たちがこの教会の教えをよく守って生活していくことができるのであれば、健康で幸福な人生が得られるであろうという安堵感でした。

子供たちはわたしの転勤に伴い、小学校を3回、中学校を2回、高校は娘が釧路から名古屋へ、息子は名古屋からデビスハイスクールへ1年間の留学を経て札幌へと、異常なほど転校を繰り返しました。そして大学は、わたしが札幌勤務であった関係からか、二

人とも北海道大学に落ち着きました。が、この間、わたしの単身赴任で母子家庭とすることもありました。子供たちが非行に走ることもなく、無事に成長してくれたのは、この教会の真実の教えがあったからであり、妻の熱心な祈りがあったからだと思います。

## 重大な転機を迎えての決断

さてわたしは札幌勤務の後も仙台勤務、東京本社勤務と単身赴任を続けたわけですが、2年前に28年間勤務したこの会社を退職し、退社仲間5人で神田に会社を設立しました。妻にもパート事務員として多くの協力をしてもらっていましたが、1年後の資金事情は厳しく、社員に対する給料の支払いにも事欠き、彼女に引退してもらわざるを得ない状況となりました。

ついには退職金も使い果たし、素っ裸に近い状態となっていました。妻には退職金で何のプレゼントもしていませんでした。まことにまことに申し訳なく、このとき、わたしに決意、決断を促したのは、妻が長いこと忍耐強く、しかも柔和に待ち続けてくれていたバプテスマでした。

かなり前ですが、わたしが教会員になるように陰で祈りと断食を繰り返す妻の姿を見て、わたしが50歳になったらバプテスマを受けるから、と慰め事を言ったことがあります。

「人が、なすべき善を知りながら行わなければ、それは彼にとって罪である」(ヤコブの手紙4:17)とありますが、人が過去の悪しき習慣を捨て、新たな善なる道を生きようと決断するには何か重大な転機が必要なのだろうと思います。わたしはバプテスマを受けてから明らかに変わりつつある自分を見詰めています。

## 求心力を持った心の核

以前は多くの浮かれた心が混在して葛藤を繰り返す自分でした。落ち着きもなく、その場の状況により、ご都合主義で使い分けていた節があります。そして今、求心力を持った心の核が現れて、浮いた心をコントロールし始めています。わたしの心はイライラしなくなり、平和になりつつあります。

「いったい、人間の思いは、その内にある人間の霊以外に、だれが知っているのか。それと同じように神の思いも、神の御霊<sup>みたま</sup>以外には、知るものはない。」(1コリント2:11)

わたしの子供たちをはぐくみ、家族を一つに導いてくださった教会に感謝の気持ちでいっぱいです。(かとう・やすろう)



加藤ご家族

# 神殿での祝福に励まされて

—— 祈り続けた夫の改宗 ——

我孫子<sup>あひこ</sup>ステーキ松戸ワード 加藤くに子

「信仰と希望と愛」(1コリント13:13)を持つことの大切さについて聖典の中に記されていますが、今その希望を持つことの大切さをひしひしと感じております。改宗して19年間、主人の改宗の希望を持ち続け、祈り続けてやっと得られたこの奇跡的な祝福に心より感謝しています。特に主人の改宗には、神殿とのかかわりが大きな導き、きっかけとなりました。

## 儀式執行者への召し

昨年1月末、帰宅しますと娘夫婦が東京神殿長の菊地良彦長老より電話があったことを伝えてくれました。さらに「きっとお母さんの忘れ物のために、おそれ多くも神殿長が、自らお電話をくださったに違いない」と付け加えてくれました。

しかし、それは儀式執行者への召しでした。あまりにも尊い召しに感激して、涙があふれ、菊地神殿長の按手の前に、謙遜に素直に、ただただ感謝いたしました。儀式に関することはもちろんのこと、まるでわたしの心を御存じかのように、毎日望み祈っていたことすべてを祝福してくださいました。その中に、主人が必ず教会員となり、聖壇にひざまずいて結び固めを受けることができるという祝福の言葉がありました。

それから約6か月後、主人はバプテスマを受けました。52歳の主人にとっては大変な決断だったと思います。主人の勇気と、主に対する謙遜さを立派に思います。

## 19年前のパプテスマ

思えば19年前のお正月、宣教師が我

が家を訪問され、『モルモン書』を置いて行かれたのがわたしの入信の発端でした。

2週間後に取りにいらっしゃることになってしまったのに、1か月たっても2か月たってもいらっしゃらず、春になり、高価そうな本でしたので、心配して教会にお返しに行きました。そのときには、訪問してくださった宣教師はおられず、別の宣教師が対応してくださったのですが、全部読むまで返さなくてもいいとおっしゃるので、また持ち帰ることになりました。

そうしている間に、ちよくちよく宣教師が訪問してくださるようになり、レッスンが始まりました。根気よく祈ることにより『モルモン書』には神の御言葉が書かれていて、したがってこの教会が真の教会であるという証を得て、あの訪問から9か月後にわたし一人、バプテスマを受けました。思えば、その日以来、毎日毎日が主人の改宗に向けて主が準備してくださった日々と言えましょう。

## 毎週、断食と祈りを

わたしたち夫婦には、当時6歳の息子と7歳の娘がいて、彼らが8歳になったときに、わたしは当然バプテスマ

を受けさせたいと願っていました。しかし主人の反対で思うようにならず、子供たちとともに毎日朝晩、また食事の度ごとに心からお祈りしました。さらにわたしは、毎週断食と祈りを繰り返して、約2年後、やっと許可を得られて子供たちは二人そろってバプテスマを受けました。

その後もわたしは引き続き、主人の改宗のために毎週断食と祈りを10年以上続けました。両親そろってモルモンの家庭の中で子供たちを育てたかったからです。でも、わたし一人でも子供を育てるうえで福音は大きな力になってくれました。また、子供たちに対する主の助けにはとてもうれしいものがありました。

例えば、わたしたち家族は、主人の転勤でほとんど2年ごとに引っ越し、子供たちは転校を繰り返してまいりましたが、そのときのいちばんの心配は友人関係でした。学校から笑顔で帰っ

てくるまで心配で心配で、洗濯をしても祈り、掃除をしても祈り、祈りっぱなしでした。先に書きました断食に加えてです。週に2度も3度も断食をした時期もありましたが、おかげさまで、主の温かなご加護により、息子、娘ともに良き友人に恵まれ、すべてに恵まれて無事大学生になり、娘は神殿結婚し、近々二人目の孫が生まれます。

主人の改宗に当たっての神殿長、ステーク会長、監督の力強く確かな助け、忍耐強く霊的な宣教師のレッスン、そのほか書き切れないほどの多くの会員の皆様の模範に心より感謝いたします。

### 神殿で奉仕できる喜び

今わたしは東京神殿で毎日働かせていただいております。思えば、昔、主人が教会員でないがゆえに神殿に入れ

ず、入れずとも、仙台の地にいたときも、北海道の地にいたときも、実家の名古屋へ帰るときには必ず神殿に立ち寄り、小さな子供たちとともに東京神殿の姿を眺め、壁に手を触れては心を聖め、参入の夢を込めて去ったことを思い出します。

今その神殿に毎日いることができます。主の目と心が常にある神殿で主人とともに働き続けること、これが今後のわたしの希望です。

主の力は偉大であり、何でも御存じであり、すべてがわたしたちのためになるよう整え、昇栄に向けて導いてくださいますことを心より証申し上げます。その愛する主のために少しでもお役に立ちたく生涯、神殿にて働きたいと思うのです。(かとう・くにこ ワード若い女性会長)

## 「いかなる成功も 家庭の失敗を償うことはできない」

—— 家族の信仰に励まされての改宗 ——

富山地方部<sup>くれは</sup>呉羽支部 伊藤福男

わたしと末日聖徒イエス・キリスト教会との出会いは、27年前に妻と知り合ったときです。彼女は熱心な教会員で、交際中にこの教会についていろいろ話してくれました。

子供のころから親しいカトリックの家族の影響や、大学がミッション系であったことから、わたしも宇宙の存在、人間の存在、善悪の判断などを支配する偉大な御方の存在(創造主、神)を認めてはいました。しかし「現代の預言者ジョセフ・スミスが神様とまみえ、キリストの教会を回復した」とか、また「生ける預言者が今も神様から啓示を受けて、わたしたちを導いてくだ

さる」というカトリックやプロテスタントの一般的なキリスト教の概念では考えられない教義に、一種の特異な感じを受けたというのがこの教会に対する印象でした。

彼女との交際を通じて、モルモンの生活態度や社会生活の規範には共感を覚えるものもあり、信仰の自由を守ればいい家庭が持てるだろうと思い、3年の交際を経て結婚しました。

### 妻の信仰の模範

結婚後の22年間を振り返ってみると、わたしの転勤で福岡6年、大阪4

年、仙台10年、大阪3年と各地を移動し、この間4人の子供に恵まれました。妻はどこへ行っても、まず教会の所在を確認し、子供たちを連れて教会に集っていました。子供が幼いころは自転車の前に一人、後ろに一人、背中に一人を背負って教会へ集っていたのが思い出されます。

当初の信仰の自由を守るという約束があったとはいえ、彼女が日曜日ごとに子供たちを連れて教会に行くことに抵抗を感じることも度々ありました。しかし、彼女の信仰を見ていると、なぜか助けてやりたいという気持ちになり、寒い日や天気の良い日は、車で送り迎えしたことも度々ありました。日曜日に、一人静かに家で過ごすのもいいものですが、ほんとうのところ寂しく感じることもありました。

家族を教会へ送って行ったり、たまに彼女の勧めで教会に集ったりしている間に、教会員のご家族に親しくしていただくようになり、彼らの良い模範に接する機会も多くなりました。また幾度となく宣教師のレッスンを受ける機会を持ちましたが、仕事が営業であ

ったことから取引先とのつきあいも酒席が多く、教会の戒めである「知恵の言葉」のために会社生活と両立できないという理由で、改宗には至りませんでした。今から思えばほんとうの真理追及の姿勢がなかったため、当然といえば当然ですが……。

## かけがえのない父親の役割

結婚21年目の1993年5月に大腸癌<sup>がん</sup>の手術のため入院し、約2か月間会社を休むことになりました。そのとき妻と4人の子供たちが各々メッセージを書き込んだ『モルモン書』を新しくプレゼントしてくれました。しかし、正直言って入院中はいろいろな不安からのストレスで読めませんでした。

手術後の経過が良好で、約1か月で退院しました。自宅療養中によく考えてみると、これまで「自分でなければ」との思いが強く、徹底して仕事に打ち込んできましたが、残念ながら会社という組織は、自分がいなくても代替がきくことに気づかされました。また、プレゼントされた『モルモン書』に妻や子供たちが書いてくれたメッセージから、家庭での父親はだれかが代わりをできるような存在ではないことを知りました。父親は家庭の頭として心身ともに健康であること、また家庭についてもっと真剣に考えるべきであるとの結論を得ました。

教会の指導者の言葉の中に「いかなる成功も家庭の失敗を償うことはできない」とあります。まさにこれは真実です。また、聖典から改めて祈りの大切さ、家族の一致について考えさせられました。これらのことがあってから宣教師のレッスンも楽しくなり、祈りには必ず神様の答えがあるという確信を持つようになりました。

## 家族に見守られての改宗

今までは「知恵の言葉」が会社生活に相反するという理由で、本心で祈り、神様に問うたことはありませんでした。しかし、ヤコブの手紙第1章5節やモロナイ書第10章3節から4節の聖

句どおり、今度は何度お祈りしても『モルモン書』が真実であり「ジョセフ・スミスが神様と御子イエス・キリストにまみえ教会を回復し、現代においても生ける預言者がわたしたちを導いてくださり、この教会がイエス・キリストの真の教会である」との答えとともに温かい心のぬくもりを感じ、いつも同じ感動を覚えました。

しかし、「知恵の言葉」が神様の戒めであることが分かっていながら、なかなか守ることができませんでした。それでもバプテスマの10日前に宣教師たちとともに祈り、また彼らの断食と祈りによって克服することができました。まさに神様がわたしたちの祈りにこたえてくださいました。

1994年4月24日に大阪堺ステーキ<sup>かわち</sup>河内長野ワードでバプテスマ会を開いていただき、三男誠彦<sup>まことひこ</sup>の司会、妻の賛美歌の指揮、次男栄亮<sup>しげあき</sup>によるバプテスマ、長男宗孝<sup>むねたか</sup>による按手礼<sup>あんしゅらい</sup>で家族に見守られて改宗することができました。

## 親子の結び固め

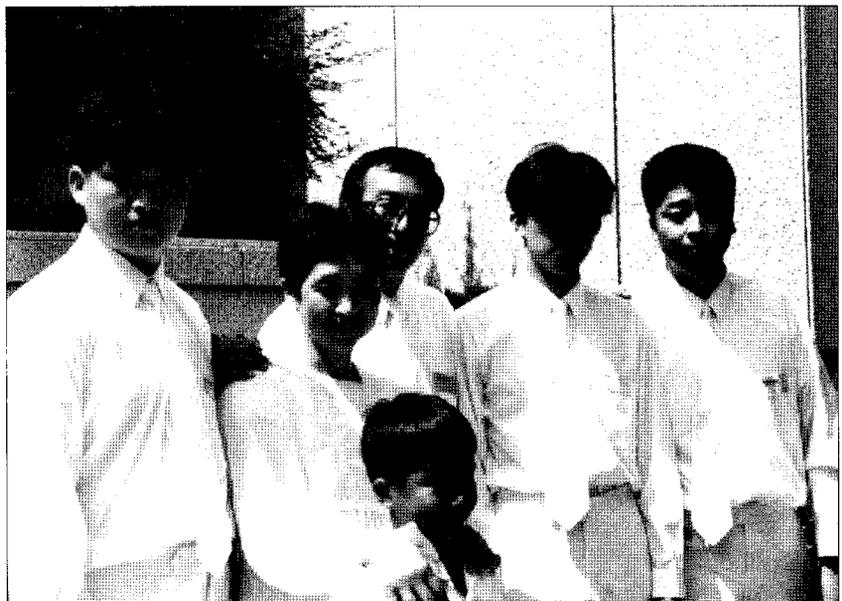
今、振り返ってみると妻と出会ってから20年間、この期間を長い短いといろいろ見方はありますが、わたしにと

っては神様があらかじめ準備のために備えてくださった期間だと思います。ニーファイ第一書第3章7節の聖句は真実です。妻と4人の子供たちが福音を伝えてくれたことに感謝すると同時に、良い影響を与えてくださった多くの宣教師やご家族、兄弟姉妹に感謝申し上げます。

1994年5月には、モルモンの家族として長男宗孝を伝道に送り出すことができ、バプテスマを受けて1年後の1995年8月16日には東京神殿で夫婦の結び固め、また仙台伝道部の伝道部長さんの特別なご配慮で、伝道中の長男も参加して親子の結び固めも無事にすることができました。

わたしにとっては、末日聖徒としての生活がスタートしたばかりです。これから神様とともに歩むことにより、このすばらしい福音をわたしたち家族の模範を通して伝えていくことができるように努力し、最後まで堪え忍びたいと思います。

昨年10月には富山へ転勤となり、単身赴任をすることになり家族と離れています。同じ信仰の下に以前にも増して家族のきずなを強く感じている今日このごろです。(いとう・ふくお支部書記補助)



伊藤ご家族

# 伝道の奇跡

——一人でもわたしのもとに導くなら——

東京東ステーキ鎌ヶ谷ワード 岡本由起

わたしが伝道に出て3か月ほどしてから、京都で一人のお母さんに出会いました。ボランティアで子供のための英会話クラスを教えていたとき、そこに出席していた当時4歳の娘さんがきっかけでした。娘さんはとてもかわいらしく、わたしと同僚は家に遊びに行くようになり、やがてとても親しくなりました。

しばらくして、お母さんの方から「英語だけでなくイエス様についても娘に教えてあげてください」と頼まれ、それからレッスンは始まり、お母さんも一緒に参加するようになりました。レッスンが進むにつれてお母さんの方が福音に関心を持ち始め、お祈りもするようになり、そして御霊の導きにより、『モルモン書』が真実であることがはっきりと分かるようになりました。またジョセフ・スミスが神様にお会いしたことについても特別な経験により証を得るようになりました。

ところがこの家庭には一つの問題があって、お母さんはそのことについていつも心を悩ませていました。娘さんがぜんそくだったからです。何か月かに1度は入院しなければならないほどひどいものでしたので、お母さんは娘さんの病気が少しでも良くなるようにいつも祈っていました。ところが12月になってから娘さんの病状は悪化し、また入院することになったのです。

お母さんの要請でわたしたち姉妹宣教師は長老たちと一緒に病院へ行き、長老たちが娘さんに癒しの祝福を施しました。そのとき、部屋中に御霊が満ちて、それからすばらしい奇跡が起きたのです。それまでせきがひどくて眠られなかった娘さんがその日からぐっすり眠られるようになったのです。そして点滴が取れ、間もなく退院できました。

お医者さんは「いつもはこんなに早く良くならないのに、今回はどうしたことだろう」と、とても驚いていまし

た。その奇跡を目の当たりにしたお母さんは、「この教会だ！ この福音は真実だ！」と強く確信するようになり、それから2か月後にバプテスマを受けました。

## 「彼女の選んだ教会なら間違いはない」

祝福はそれだけにとどまりませんでした。お母さんの日ごろ親しくしていた友達が自分も教会に入りたいと申し出て来たのです。その友達は、昔からそのお母さんのことを尊敬していて、何か困ったことがあるといつも相談し、その生き方を手本にしていたのです。

「彼女の選んだ教会なら間違いはない。この教会に入ってわたしも幸福になりたい」と思い、わたしたちのレッスンを受けるようになり、それからしばらくしてバプテスマを受けました。続いてご主人、息子さん、娘さんがバプテスマを受けました。それだけではなく、彼女は宣教師とよく連絡を取り、宣教師の教えている求道者を助け励まし続けました。

一人の男性が、彼女の強い証によって心を動かされてバプテスマを受け、二人の女性は、彼女とワードの兄弟姉妹たちの強い助けと励ましによってバプテスマを受けました。

会員伝道の最もすばらしい点は、専任宣教師と違って転任がないことだと思います。求道者や友達と時間をかけてゆっくり交わることができます。もう一つは、どのようなところでも身近に模範を示すことができる点だと思います。

現在はモラルが低下し、まじめであることが時々ばかにされるようなこともあります。また物質的に恵まれていても、心が飢え渴いている人がたくさんいます。わたしたちは、家族の愛、正しく生きること、互いに救い合うこ

とを通して、一人一人が周りの人に良い模範を示すことが大切ではないかと思えます。

教義と聖約第18章15節にあるように「あなたがたはこの民に悔い改めを叫ぶことに生涯力を尽くし、一人でもわたしのもとに導くならば、わたしの父の王国で彼とともに受けるあなたがたの喜びはいかに大きいことか」との聖句が、ほんとうであると証いたします。

この教会は真実です。この福音によってわたしたちは幸せになり、人生の目的がさらによく分かるようになります。わたしたちの信仰に努力が伴うときに神様の祝福がたくさん得られることを証します。(おかもと・ゆき ワード初等協会教師)



## 役員の変動

1996年4月12日から1996年5月13日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の変動(敬称略)

- 仙台伝道部盛岡地方部  
新地方部長：高屋敷忠助
- 札幌西ステーキ苫小牧支部  
新支部長：阿部賢一
- 仙台ステーキ石巻支部  
新支部長：紙谷 豊
- 東京東ステーキ小岩ワード  
新監督：関口啓之
- 東京東ステーキ千葉ワード  
新監督：鈴木清和
- 横浜ステーキ横須賀支部  
新支部長：浄泉正則
- 名古屋ステーキ瀬戸支部  
新支部長：大野 誠
- 神戸ステーキ北六甲支部  
新支部長：長沼雅仁
- 岡山ステーキ福山支部  
新支部長：赤木英夫
- 福岡伝道部鹿児島地方部宮崎支部  
新支部長：幸村秀敏

# JMTC (日本宣教師訓練センター)



前列左から1-9, 中列左から10-18, 後列左から19-27

## 5月に 召された 専任宣教師 第200期生 27人

### 〈名前〉

1. 國近真理
2. 青木裕美子
3. 長安京子
4. 中山純子
5. 鍾水美代子
6. 松本美里
7. 謝花りいな
8. 天羽和代
9. 高橋裕子
10. 雪本たすく
11. 岡本忠司
12. 佐藤浩
13. 布川敬子
14. 大嶋純子
15. 野口美香
16. 栗原宏之
17. 新野信
18. 名嘉真讓二
19. 林優作
20. 中島光
21. 長根正幸
22. 大畑隆文
23. 山口潤
24. 大河原吉明
25. 大田原義幸
26. 高橋芳隆
27. 大内学

### 〈出身地〉

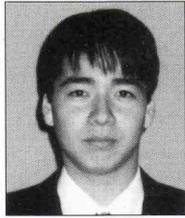
- 広島S / 安古市B  
 我孫子S / つくばW  
 横浜S / 横浜中央W  
 東京北S / 坂戸B  
 札幌M / 釧路D / 北見B  
 名古屋M / 石川D / 金沢B  
 横浜S / 上大岡W  
 神戸S / 尼崎W  
 札幌西S / 手稲第一W  
 大阪堺S / 堺W  
 東京西S / 八王子第二W  
 札幌S / 岩見沢B  
 東京東S / 千葉W  
 神戸S / 北六甲B  
 名古屋S / 岡崎W  
 町田S / 町田第一W  
 東京東S / 長生W  
 沖縄那覇S / 那覇東W  
 岡山M / 山口D / 山口B  
 名古屋西S / 高畑W  
 東京西S / 府中W  
 町田S / 湘南W  
 東京北S / 川越W  
 高崎S / 高崎東W  
 札幌S / 厚別W  
 札幌S / 白石W  
 我孫子S / つくばW

### 〈伝道地〉

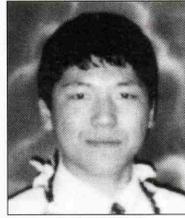
- 東京南伝道部  
 神戸伝道部  
 岡山伝道部  
 沖縄伝道部  
 東京南伝道部  
 札幌伝道部  
 札幌伝道部  
 東京北伝道部  
 岡山伝道部  
 札幌伝道部  
 神戸伝道部  
 東京南伝道部  
 仙台伝道部  
 名古屋伝道部  
 岡山伝道部  
 神戸伝道部  
 福岡伝道部  
 岡山伝道部  
 仙台伝道部  
 東京北伝道部  
 神戸伝道部  
 札幌伝道部  
 岡山伝道部  
 岡山伝道部  
 岡山伝道部  
 神戸伝道部  
 福岡伝道部

S : ステーク, M : 伝道部,  
 D : 地方部, W : ワード, B : 支部

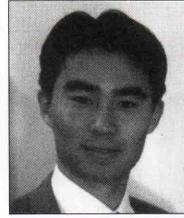
# 海外に召された日本人宣教師



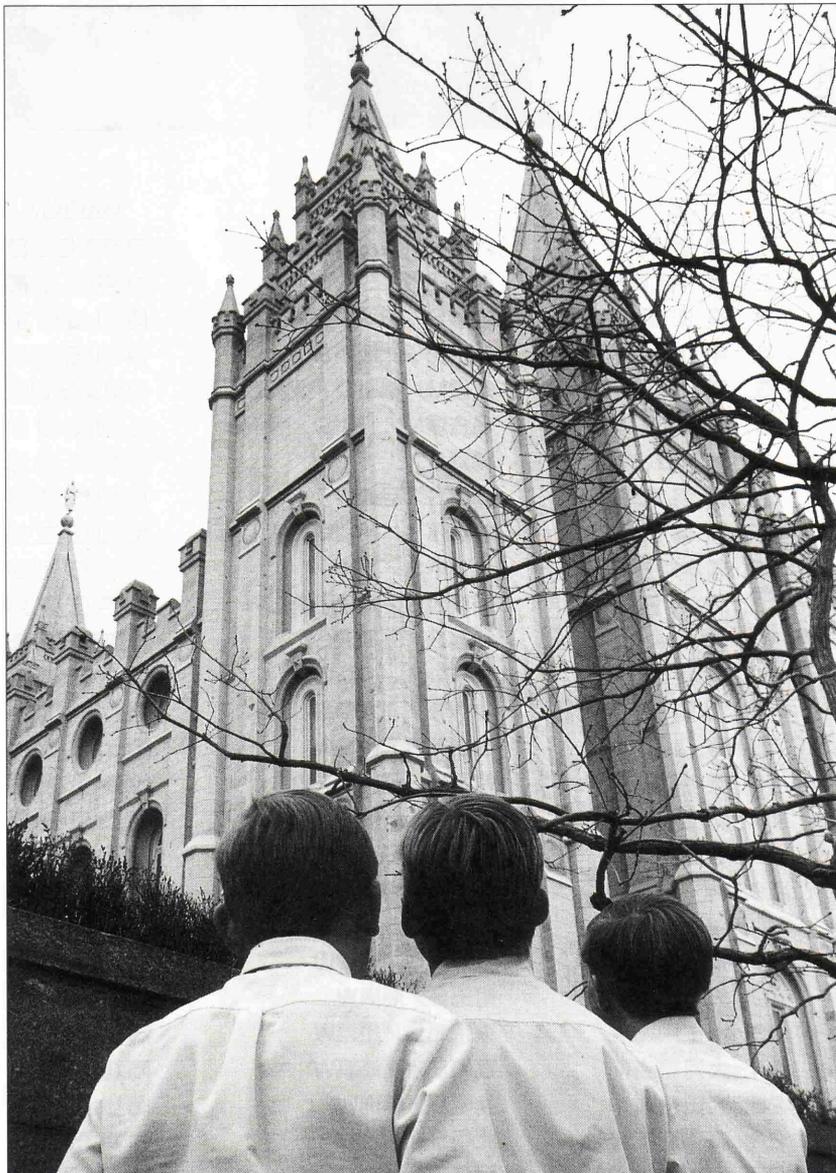
たくじ  
**三浦琢仁**  
ハワイ・  
ホノルル伝道部  
1996年5月  
東京東S／鎌ヶ谷W



だいまんひさあき  
**大門久晃**  
カリフォルニア・  
サクラメント伝道部  
1996年5月  
神戸S／姫路W



けんいち  
**谷口賢一**  
ワシントン・  
シアトル伝道部  
1996年7月  
福岡S／北九州W



## 皆さんの原稿を 募集しています

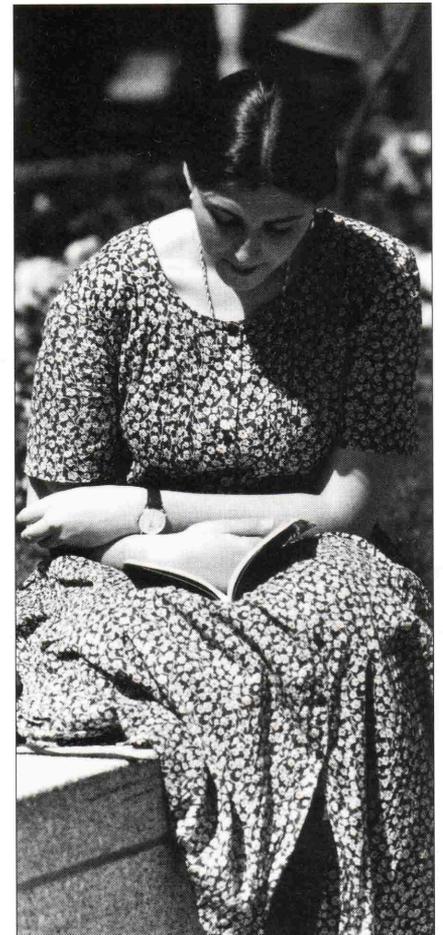
◎ご投稿の際には連絡先（住所、電話番号）、教会での責任（役職名）、所属ユニット名を記入し、写真を同封のうえお送りください。原稿は一部手直しさせていただくことがあります。また、掲載までに時間がかかる場合もありますので、ご了承ください。

◎お願い——海外に召される日本人宣教師たちを紹介いたします。伝道の召しを受け取り次第、編集室に写真を添えてお知らせください。（氏名〔フリガナ〕、伝道部名、召された月を明記）

◎あて先：〒106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会 『聖徒の道』編集室

TEL. 03 (3440) 2666

FAX. 03 (3440) 3275



# 末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

## 大管長会



第一副管長  
トーマス・S・モンソン



大管長  
ゴードン・B・ヒンクレイ



第二副管長  
ジェームズ・E・ファウスト

## 十二使徒定員会



ボイド・K・パッカー



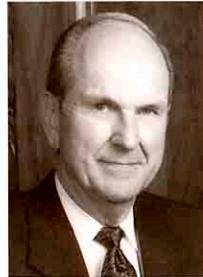
L・トム・ペリー



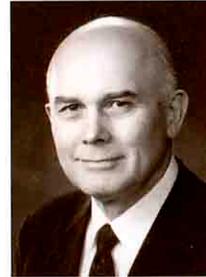
デビッド・B・ヘイト



ニール・A・マックスウェル



ラッセル・M・ネルソン



ダリン・H・オークス



M・ラッセル・バラード



ジョセフ・B・ワースリン



リチャード・G・スコット



ロバート・D・ヘイルズ



ジェフリー・R・ホランド



ヘンリー・B・アイリング

## 七十人会長会



カーロス・E・  
エイシャー



L・アルディン・  
ポーター



ジョー・J・  
クリステンセン



モンティ・J・  
ブラフ



W・ユージン・  
ハンセン



ジャック・H・  
ゴースリンド



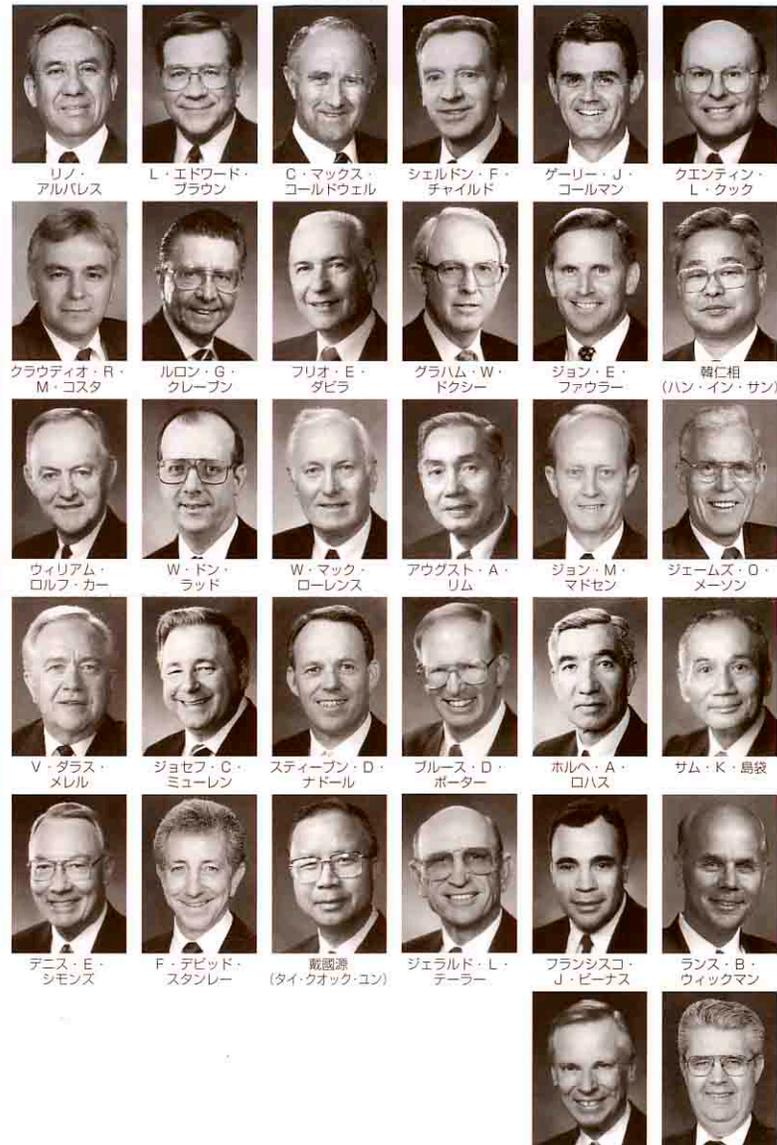
ハロルド・G・  
ヒラム

七十人第一定員会



アンヘル・アブレア    カロス・H・アマーゾー    ニール・L・アンダーセン    グラス・N・アーチボルト    ベン・B・バンクス    メリル・J・ペイトマン    ウィリアム・R・ブラッドフォード  
 F・エツィオ・ブッシュ    ジョン・K・カーマック    D・トッド・クリストファーソン    J・リチャード・クラーク    スペンサー・J・コンディー    ジーン・R・クック    ロバート・K・デレンバック  
 ジョン・B・ディクソン    チャールズ・ディディエ    ローレン・C・ダン    ボーン・J・フェザーストン    ジョン・H・グローバーク    ブルース・C・ヘーフェン    F・メルビン・ハモンド  
 F・バートン・ハワード    ジェイ・E・ジェンセン    マーリン・K・ジェンセン    ケネス・ジョンソン    L・ライオネル・ケンドリック    菊地良彦    クリー・L・コップフォード  
 ディーン・L・ラーセン    リン・A・ミケルセン    アレクサンダー・B・モリソン    デニス・B・ノイエムハンダー    グレン・L・ペイス    ジェームズ・M・パラモア    アンドリュー・W・ピーターソン  
 レックス・D・ピネガー    ヒュー・W・ピノック    ロナルド・E・ポールマン    セシル・D・サミュエルソン・ジュニア    デビッド・E・ソレンセン  
 アール・C・ティンギー    ディーター・F・ウークトドルフ    ロバート・E・ウエルズ    W・クレイク・ズウィック

七十人第二定員会



リノ・アルバレス    L・エドワード・ブラウン    C・マックス・コールドウェル    シェルドン・F・チャイルド    ゲーリー・J・コールマン    クエンティン・L・クック  
 クラウディオ・R・M・コスタ    ルロン・G・クレーブ    フリオ・E・ダビラ    グラハム・W・ドクシー    ジョン・E・ファウラー    韓仁相 (ハン・イン・サン)  
 ウィリアム・ロルフ・カー    W・ドン・ラッド    W・マック・ローレンス    アウグスト・A・リム    ジョン・M・マドセン    ジェームズ・O・メーソン  
 V・ダラス・メレル    ジョセフ・C・ミュレン    スティーブン・D・ナドール    ブルース・D・ポーター    ホルヘ・A・ロハス    サム・K・島袋  
 デニス・E・シモンズ    F・デビッド・スタンレー    戴國謙 (タイ・クオック・ユン)    ジェラルド・L・テラー    フランシスコ・J・ヒーナス    ランス・B・ウィックマン  
 リチャード・B・ワースリン    ローウェル・D・ウッド

管理監督会



第一副監督    管理監督    第二副監督  
 リチャード・C・エッジリー    H・デビッド・バートン    キース・B・マクマリン

(1996年4月6日現在)



園の墓 スティーブン・モンロー・ハート画

「見よ、彼らは独り子を十字架につける。しかし、独り子は三日間墓に横たえられた後、御自分の翼にある癒しいひによって死者の中からよみがえられる。そして、独り子の名を信じる者は皆、神の王国に救われる。」(2ニーファイ25：13)



「**末**日聖徒イエス・キリスト教会によつて建てられた神殿はすべて、あかし教会員の証を表すものです。その証とは、わたしたちの永遠の父なる神が生きておられ、あらゆる世代にわたる神の息子、娘たちを祝福するための計画を立てられ……神の愛する、キリストであられるイエスは世の救い主、あがな贖い主であり、主の贖いの犠牲により、福音を受け入れ実践する人々に永遠の命をもたらす計画の実現が可能になったということです。」—ゴードン・B・ヒンクレー  
大管長

